

授 業 概 要

平成28年度

群馬医療福祉大学 リハビリテーション学部

〒371-0023 群馬県前橋市本町2-12-1

TEL 027-210-1294

FAX 027-260-1294

目 次

理学療法専攻

1. 授業計画 (シラバス)

1) 基礎科目

人間哲学	7
道德教育	8
教育原理	9
生涯学習概論	10
心理学	11
国際文化論	12
美術技法	13
物理学	15
法学	16
経済学	17
情報処理	18
マスメディア論	20
医療英語Ⅰ	21
医療英語Ⅱ	22
韓国語Ⅰ	23
韓国語Ⅱ	24
中国語Ⅰ	25
中国語Ⅱ	26
スポーツ体育	27
スポーツ及びレクリエーション実技	28
レクリエーション活動援助法	30
障害者スポーツ	32
基礎演習Ⅰ	33
基礎演習Ⅱ	34
専門演習Ⅰ	35
専門演習Ⅱ	36
ボランティア活動Ⅰ	37
ボランティア活動Ⅱ	38

2) 専門基礎科目

解剖学Ⅰ	41
解剖学Ⅱ	42
解剖学実習	43
体表解剖・触診演習	44
生理学Ⅰ	45
生理学Ⅱ	46
生理学実習	47
運動生理学演習	48
運動学Ⅰ	49
運動学Ⅱ	50
臨床運動学実習	51
人間発達学	52
病理学概論	53
臨床心理学	54
一般臨床医学	55
リハビリテーション医学	56
内科・老年医学Ⅰ	57
内科・老年医学Ⅱ	58

整形外科学Ⅰ	59
整形外科学Ⅱ	60
神経内科学Ⅰ	61
神経内科学Ⅱ	62
精神医学	63
小児科学	64
リハビリテーション入門	65
保健医療福祉論	66
公衆衛生学	67
3) 専門科目	
理学療法概論	71
理学療法セミナーⅠ	72
理学療法セミナーⅡ	73
理学療法評価学Ⅰ	74
理学療法評価学Ⅱ	75
理学療法評価学実習Ⅰ	76
理学療法評価学実習Ⅱ	77
運動療法学Ⅰ	78
運動療法学Ⅱ	79
運動療法学Ⅲ	80
運動療法学実習Ⅰ	81
運動療法学実習Ⅱ	82
運動療法学実習Ⅲ	83
物理療法学	84
物理療法学実習	85
義肢装具学	86
義肢装具学実習	87
理学療法技術論Ⅰ	88
理学療法技術論Ⅱ	89
理学療法技術論Ⅲ	90
理学療法技術論実習Ⅰ	91
理学療法技術論実習Ⅱ	92
理学療法技術論実習Ⅲ	93
基礎理学療法学特論	94
中枢神経障害理学療法学特論	95
内部障害理学療法学特論	96
スポーツ理学療法特論	97
地域理学療法学Ⅰ	98
地域理学療法学Ⅱ	99
地域理学療法学実習	100
地域理学療法学特論	102
臨床実習指導Ⅰ	103
臨床実習指導Ⅱ	104
評価実習	105
総合臨床実習Ⅰ	106
総合臨床実習Ⅱ	107
卒業研究	108

目 次

作業療法専攻

1. 授業計画（シラバス）

1) 基礎科目

人間哲学	117
道德教育	118
教育原理	119
生涯学習概論	120
心理学	121
国際文化論	122
美術技法	123
物理学	125
法学	126
経済学	127
情報処理	128
マスメディア論	130
医療英語Ⅰ	131
医療英語Ⅱ	132
韓国語Ⅰ	133
韓国語Ⅱ	134
中国語Ⅰ	135
中国語Ⅱ	136
スポーツ体育	137
スポーツ及びレクリエーション実技	138
レクリエーション活動援助法	140
障害者スポーツ	142
基礎演習Ⅰ	143
基礎演習Ⅱ	144
専門演習Ⅰ	145
専門演習Ⅱ	146
ボランティア活動Ⅰ	147
ボランティア活動Ⅱ	148

2) 専門基礎科目

解剖学Ⅰ	151
解剖学Ⅱ	152
解剖学実習	153
生理学Ⅰ	154
生理学Ⅱ	155
生理学実習	156
運動学Ⅰ	157
運動学Ⅱ	158
運動学実習	159
人間発達学	160
病理学概論	161
臨床心理学	162
一般臨床医学	163
リハビリテーション医学	164
内科・老年医学Ⅰ	165
内科・老年医学Ⅱ	166
整形外科Ⅰ	167
整形外科Ⅱ	168

神経内科学Ⅰ	169
神経内科学Ⅱ	170
精神医学	171
小児科学	172
リハビリテーション入門	173
保健医療福祉論	174
公衆衛生学	175
3) 専門科目	
作業療法入門	179
作業療法入門実習	180
作業療法管理論	181
ひとと作業	182
ひとと作業活動Ⅰ	183
ひとと作業活動Ⅱ	185
作業療法研究法	187
作業療法セミナーⅠ	188
作業療法セミナーⅡ	189
作業療法評価法Ⅰ	190
作業療法評価法Ⅱ	191
作業療法評価法Ⅲ	192
作業療法評価法特論Ⅰ	193
作業療法評価法特論Ⅱ	194
身体機能作業療法学Ⅰ	195
身体機能作業療法学Ⅱ	196
精神機能作業療法学Ⅰ	197
精神機能作業療法学Ⅱ	198
発達過程作業療法学Ⅰ	199
発達過程作業療法学Ⅱ	200
高齢期作業療法学Ⅰ	201
高齢期作業療法学Ⅱ	202
ひとと暮らしⅠ	203
ひとと暮らしⅡ	204
義肢装具学	205
作業療法治療学Ⅰ	206
作業療法治療学Ⅱ	207
作業療法治療学Ⅲ	208
作業療法技術論Ⅰ	209
作業療法技術論Ⅱ	210
作業療法技術論Ⅲ	211
作業療法特論Ⅰ	212
作業療法特論Ⅱ	213
作業療法特論Ⅲ	214
作業療法特論Ⅳ	215
地域作業療法入門Ⅰ	216
地域作業療法入門Ⅱ	217
地域作業療法実習Ⅰ	218
地域作業療法実習Ⅱ	219
臨床評価実習指導	220
臨床評価実習Ⅰ	221
臨床評価実習Ⅱ	222
臨床総合実習指導	223
臨床総合実習Ⅰ	224
臨床総合実習Ⅱ	225

授業概要の目的とその活用について

「授業概要」とは、皆さんが授業を選択する前に、それぞれの授業科目がどのような目標と内容で、またどのような計画によって行われるかをあらかじめお知らせするものです。具体的には「授業到達目標」、「授業概要」、「授業計画」、「教科書・参考書」、「成績評価の方法と基準」、「履修上の注意」などが記載されており、スムーズに科目選択ができるようになっています。この「授業概要」とは別に「シラバス」がダウンロード（PDF）できるようになっています。「シラバス」は専攻ディプロマポリシーと授業の到達目標との関係やより詳細な授業計画、成績評価などが記載されています。こちらは、一回一回の授業の予習復習に役立つ目的で作成されています。

リハビリテーション学部では理学療法士・作業療法士養成施設指定規則に則り、カリキュラム編成されています。そのため必修科目が大半を占めています。つまり、各授業がそのまま国家試験に直結していると言えるでしょう。したがって、国家試験の過去問題や予想問題など、各授業内において国家試験対策を意識した内容も多く含まれます。本授業概要、シラバスを予習・復習に積極的に活用し、全員が国家試験に合格できることを強く望みます。

理学療法専攻

群馬医療福祉大学リハビリテーション学部リハビリテーション学科理学療法専攻 教育課程

◎必修科目 △選択科目 □自由科目

授業科目の名称	配当年次	単位数	1年		2年		3年		4年		備考		
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
人間哲学	1	2		◎									
道徳教育	1	2	△										
教育原理	1	2		△									
生涯学習概論	1	2		△									
心理学	1	2	△										
国際文化論	1	2	△										
美術技法	1	2		△									
物理学	1	2		△									
法学	1	2	△										
経済学	1	2		△									
情報処理	1	2		△									
マスメディア論	1	2		△									
医療英語 I	1	2		◎									
医療英語 II	1	2		△									
韓国語 I	1	2		△									
韓国語 II	1	2		△									
中国語 I	1	2		△									
中国語 II	1	2		△									
スポーツ体育	1~4	2				△							
スポーツレクリエーション実技	1	2		△									
レクリエーション活動援助法	1	2		△									
障害者スポーツ	1	2		△									
基礎演習 I	1	1		◎									
基礎演習 II	2	1			◎								
専門演習 I	3	1				◎							
専門演習 II	4	1					◎						
ボランティア活動 I	1	1		◎									
ボランティア活動 II	2	1			◎								
小計	—	10	40	10	2	1	1						
基礎科目	必修科目10単位のほか、選択科目から4単元以上履修												
	専門基礎科目	解剖学 I	1	2		◎							
		解剖学 II	1	2		◎							
		解剖学実習	1	1		◎							
		体表解剖・触診演習	2	1			◎						
		生理学 I	1	2		◎							
		生理学 II	1	2		◎							
		生理学実習	1	1		◎							
		運動生理学演習	2	1			◎						
		運動学 I	1	2		◎							
		運動学 II	1	2		◎							
		臨床運動学実習	2	1			◎						
		人間発達学	1	1		◎							
		病理学概論	2	2			◎						
		臨床心理学	1	2		◎							
		一般臨床医学	1	2		◎							
		リハビリテーション医学	1	2		◎							
内科・老年医学 I		2	2			◎							
内科・老年医学 II	2	2			◎								
整形外科 I	2	2			◎								
整形外科 II	2	2			◎								
神経内科学 I	2	2			◎								
神経内科学 II	2	2			◎								
精神医学	2	2			◎								
小児科学	2	2			◎								
リハビリテーション入門	1	1		◎									
保健医療福祉論	1	1	△										
公衆衛生学	1	1		◎									
小計	—	44	1	23	21	0	0						

授業科目の名称	配当年次	単位数	1年		2年		3年		4年		備考
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎理学療法学	理学療法概論	1	2		◎						
	理学療法セミナー I	3	1					◎			
	理学療法セミナー II	4	1							◎	
理学療法評価学	理学療法評価学 I	2	2			◎					
	理学療法評価学 II	2	2				◎				
	理学療法評価学実習 I	2	1				◎				
	理学療法評価学実習 II	2	1					◎			
理学療法治療学	運動療法学 I	2	2			◎					
	運動療法学 II	2	2				◎				
	運動療法学 III	3	2					◎			
	運動療法学実習 I	2	1				◎				
	運動療法学実習 II	2	1					◎			
	運動療法学実習 III	3	1						◎		
	物理療法学	2	2				◎				
	物理療法学実習	2	1					◎			
	義肢装具学	2	2					◎			
	義肢装具学実習	3	1						◎		
	理学療法技術論 I	3	2						◎		
	理学療法技術論 II	3	2						◎		
	理学療法技術論 III	3	2							◎	
	理学療法技術論実習 I	3	1							◎	
	理学療法技術論実習 II	3	1							◎	
	理学療法技術論実習 III	3	1								◎
	基礎理学療法学特論	3	1								□
中枢神経障害理学療法学特論	3	1								□	
内部障害理学療法学特論	3	1								□	
スポーツ理学療法学特論	3	1								□	
地域理学療法学	地域理学療法学 I	3	2					◎			
	地域理学療法学 II	3	2						◎		
	地域理学療法学実習	3	2							◎	
地域理学療法学特論	3	1								□	
臨床実習	臨床実習指導 I	3	2						◎		
	臨床実習指導 II	4	2							◎	
	評価実習	3	4							◎	
	総合臨床実習 I	4	8								◎
	総合臨床実習 II	4	8								◎
	卒業研究	4	2								◎
計	—	66	0	5	2	17	26	21			
合計	—	120	41	5	35	40	27	22			

卒業要件
 基礎教養科目の必修科目 10 単位、選択科目から 4 単元以上、専門基礎科目の必修科目 44 単位、専門科目の必修科目 66 単位を修得し、124 単元以上修得すること。
 (履修科目の登録の上限:50 単位(年間))

群馬医療福祉大学リハビリテーション学部理学療法専攻 カリキュラムマップ

理学療法専攻ディプロマポリシー（理学療法専攻のカリキュラムを履修することにより修得できる能力）

- 「知識・理解」(1) 理学療法士として活躍するための必要な基礎的知識・技術を習得している (2) 人間性や倫理感を裏付ける幅広い教養を身につけている
- 「思考・判断」(3) 対象となる人の身体的・心理的・社会的な健康状態を科学的に評価し、情報の統合と的確な判断を示すことができる
- 「技能・表現」(4) 基本的な医療行為を対象者にも自らにも安全に実施することができる (5) 他者の声に耳を傾け、自分の考えを口頭表現や文章表現によって伝えることができる
- 「関心・意欲・態度」(6) 科学の進歩及び社会の医療ニーズの変化や国際化に対応して、生涯を通して自らを高めることができる
- (7) 地域や組織の中で医療人としての高い倫理観と責任感を持ち、他者と協力して仕事や研究を進める意欲を持つことができる

教育内容	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎分野 科学的思考の基礎 人間と生活	○人間哲学 △道徳教育 △心理学 △国際文化論 △法学 △医療英語 I △韓国語 I △中国語 I △障害者スポーツ △基礎演習 I ○ボランティア活動 I △美術技法 △情報処理△スポーツレクリエーション実技 △レクリエーション活動援助法	△教育原理 △生涯学習概論 △物理学 △経済学 △マスメディア論 △医療英語 II △韓国語 II △中国語 II	○基礎演習 II ○ボランティア活動 II					○専門演習 II
専門基礎分野 人体の構造と機能 及び心身の発達	○解剖学 I ○生理学 I ○運動学 I	○解剖学 II ○生理学 II ○生化学 ○運動学 II ○人間発達学	○体表解剖・触診演習 ○臨床運動学実習	○運動生理学演習				
専門基礎分野 疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	○一般臨床医学	○臨床心理学 ○リハビリテーション医学	○病理学概論 ○内科・老年医学 I ○整形外科学 I ○神経内科学 I ○精神医学	○内科・老年医学 II ○整形外科学 II ○神経内科学 II ○小児科学				
専門基礎分野 保健医療福祉とリハビリ テーションの理念	○リハビリテーション入門 △保健医療福祉論	○公衆衛生学						卒業研究
専門基礎分野 基礎理学療法学	○理学療法概論				○理学療法セミナー I		○理学療法セミナー II	○理学療法セミナー II
専門基礎分野 理学療法評価学			○理学療法評価学 I ○理学療法評価学実習 I	○理学療法評価学 II ○理学療法評価学実習 II				
専門基礎分野 理学療法治療学			○運動療法学 I ○運動療法学実習 I	○運動療法学 II ○運動療法学実習 II ○物理療法学 ○義肢装具学 ○物理療法学実習	○運動療法学実習 III ○義肢装具学実習 ○理学療法技術論 I ○理学療法技術論 II ○理学療法技術論実習 II ○理学療法技術論実習 III ○理学療法技術論実習 I ○理学療法技術論実習 III			○運動療法学実習 III ○基礎理学療法学特論 ○中枢神経管理理学療法学特論 ○内部障害管理理学療法学特論 ○スポーツ理学療法学特論
専門基礎分野 地域理学療法学					○地域理学療法学 I ○地域理学療法学 II			○地域理学療法学実習 ○地域理学療法学特論
専門基礎分野 臨床実習					○臨床実習指導 I		○臨床実習指導 II	○臨床実習 I ○総合臨床実習 II

○必修科目 △選択科目 □自由科目

1) 基礎科目

科目名	人間哲学	担当教員 (単位認定者)	鈴木 利定	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目			
	カリキュラム上の位置づけ		基礎科目		
キーワード	人間哲学				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

「人間とは何か」我々はこれまで幾度となくこの問いかけを繰り返してきた。中国の思想家たちは、この問いにどのように解答しているのか。そしてそれぞれの解答に対して自分自身はどう思うのかを自らとらえてみる学問をねらいとしている。

〔達成目標〕

- ①人間とは何か、中国の思想家たちの解答に対し、自分自身はどう思うのかを問う。
- ②孔子と老子・荘子の思想を比較し、学ぶ。

■授業の概要

孔子は人間にいかによく生きべきかという問いについて、人間によるべき新しい「道」をどのように考えたか。仁と礼について、特に最近では礼儀をわきまえないという声もある。つまり「形式的な礼など無用だ。真心さえ持っていればそれでよいのでは虚礼廃止だ。」ということもあるが、孔子の説いた礼をもとに現代における礼のあり方を学ぶ。プラトンと同じく孔子は、理想国家を説くことにより政治のあり方を説いた。孔子の説いた政治道徳の現代にあてはまることを学ぶ。老子・荘子は孔子と並ぶ中国の代表的な思想家である。両者は全く相反する傾向すら持っている。この両者の思想を比較し、学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	善く生きるとは
第3回	哲学の語源、世界4大聖人(思想の源)
第4回	プラトン、アリストテレス
第5回	ギリシャの愛(3つ) 仁
第6回	政とは如何なるべきか。志学より従心までの心持。
第7回	教育論
第8回	大学の道
第9回	家を斉へて国を治むるを釈く
第10回	人生いかに生きるか「後世への最大遺物」を通して
第11回	道に対する知者
第12回	世界の四聖人
第13回	孔子の弟子「顔回」
第14回	四端の心
第15回	人生に宗教は必要

■受講生に関わる情報および受講のルール

成績評価は、筆記試験・レポート・出席状況を監視、一度も休みのない者については、成績としては十分な評価を与える。出欠席は重視する。理由なくして欠席、遅刻の多い者(二回以上の者)は成績評価を受ける資格を失う。欠席の虚偽申告(代返等)をした者は単位を認めない。講義中のノート筆記は必ず行い、質問に対して的確な解答ができるよう努める。私語は厳禁。注意を促し、場合によっては退出を命ずる。再試は1回のみ。

■授業時間外学習にかかわる情報

テキストの予習・復習をすること。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

評価配分:成績評価は、筆記試験・レポート・出席状況を鑑み、一度も休みのない者については、成績評価としては十分な評価を与える。

■教科書

鈴木利定著「儒教哲学の研究-修正版」(明治書院) 咸有一徳(中央法規)

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	道徳教育	担当教員 (単位認定者)	岡野 康幸	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	人間力を育てる学び				

■授業の目的・到達目標

人が社会にあって、人としてどうあるべきなのかを学び、実践できる力を身につける。 自己の考えを表現できる言語力・話力・能力をみがき、思考力・判断力を身につける。

■授業の概要

人間としての在り方・生き方について学び、積極的に社会に参加できる力を養う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション(講義内容・方法、授業時の留意事項、評価)・咸有一徳とは
第2回	事象の論説・事実把握・検証・論述すること(題材「ハチドリの一としづく」)
第3回	「徳」「仁」の字源から咸有一徳を解釈する
第4回	論語に見る「徳」「仁」の解釈。孔子の時代
第5回	小学校・中学校・高等学校学習指導要領に示された「道徳」の解説
第6回	小学校・中学校・高等学校学習指導要領に示された「道徳」の解説
第7回	「真心」の解説(中国における儒学関係古典の解釈)・「心」の字源
第8回	「至誠」「尽くす」の解説・「儒教」とは・知行合一(五常・五倫)の解説
第9回	豊かな人間性の涵養と、人格の向上について(交際・礼儀作法・エチケット)
第10回	家庭生活の基本マナー(儒学における関係古典文献より考察)
第11回	福祉界が望むマナー(人間として大切であることを説く中国古典、先達のことばから考察)
第12回	学校生活での品位あるマナー(人間として大切であることを説く中国古典、先達のことばから考察)
第13回	学校生活での品位あるマナー(人間として大切であることを説く中国古典、先達のことばから考察)
第14回	時事問題の考察・発表・解説(人としての在り方・生き方を考える)
第15回	時事問題の考察・発表・解説(人としての在り方・生き方を考える)

■受講生に関わる情報および受講のルール

意欲的な学習態度であること。
日常生活において学びを実践すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

ニュース・新聞等より、社会現象、とくに人間としての在り方・生き方に関する事象について感心を持ってとらえ、どうあるべきかということに考えを巡らすこと。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

提出物と定期試験によって評価。それぞれが60%を超えていること。

■教科書

咸有一徳

■参考書

授業において紹介。

科目名	教育原理	担当教員 (単位認定者)	江原 京子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目			
	カリキュラム上の位置づけ		基礎科目		
キーワード	教育思想の変遷、学校の歴史、義務教育の意義、「わかる」と「できる」、非言語・言語コミュニケーション				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

学習指導要領の「総則」に示される、これからの日本の学校教育の理念、具体化の方向の趣旨に沿い、我が国が歩んできた教育の歴史的背景を理解し、これからの日本の教師はどうあるべきかを学び、必要な資質や能力、態度の基礎・基本を養う。

〔到達目標〕

- 1 教育思想の変遷に基づき、歴史的背景から教育の本質を捉えることができる。
- 2 学校の歴史・義務教育の意義が理解できる。
- 3 教育現場の実態を理解し、教育活動の展開の実際を身につける。

■授業の概要

- 1 教育における人間観を哲学者のカントや比較動物学者のポルトマンから言及し、教育思想の展開を、村井実のモデル(①手細工モデル、②農耕モデル、③生産モデル)を用い、社会的背景を交えながら考察し、学校の歴史や義務教育史にも触れる。
- 2 子どもと授業の関係を、「わかる」「できる」「考える」といったそれぞれの違った視点から捉える。さらに、教育現場における言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションの教育的意義について考え、学校における教育的効果について考える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション(授業概要、評価方法等) - 授業の冒頭に示す【視点】を意識し授業に臨む。 教育における人間観 - 「人間は教育によってのみ人間になる」その功罪、野生児に学ぶ
第2回	教育思想の変遷 ① 手細工モデルと農耕モデルの特徴と問題点
第3回	教育思想の変遷 ② 生産モデルの特徴と問題点
第4回	学校の歴史 ① 学校とは何か・学校の定義、下構型・上構型の学校システム
第5回	学校の歴史 ② 就学の形態: 複線型、分岐型、単線型
第6回	義務教育の意義 ① 義務教育の歴史からその成立に至った意義について4つの視点からみる
第7回	義務教育の意義 ② 日本の義務教育制度の変遷、教育課程
第8回	生産モデル体制(閉鎖性)の諸問題
第9回	人間モデルによる体制(開放性)
第10回	「わかる」「できる」 ① 「わかっている」とはどういうことか - 事例を通して考える -
第11回	「わかる」「できる」 ② 「わかっている」が出来ていないというのはどういうことか - 事例を通して考える -
第12回	非言語コミュニケーション ① 人は気持ちをどう伝え合うのか - 近言語的、非言語 -
第13回	非言語コミュニケーション ② 人は気持ちをどう伝え合うのか - 空間の行動、人工物、物理的環境 -
第14回	言語コミュニケーション 言語を通してのコミュニケーションの役割
第15回	発問と質問 / まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 1 遅刻・欠席は授業時間前に必ず届け出ること。6回以上欠席した場合は定期試験の受験資格を喪失する。
- 2 授業中に課したミニレポートを必ず提出すること。
- 3 予習復習を必ず行い、疑問点を確認しておくこと。
- 4 私語を慎み、誠意ある態度での受講を求める。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業の要約もしくは課題をミニレポートとしてまとめ、指定した日時までに提出すること。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

授業中に課したミニレポート 30%、試験またはレポートを 70%として総合的に評価する。

■教科書

柴田義松著 『新教育原理』 有斐閣双書、2005年

■参考書

講義の中で適宜紹介する。

科目名	生涯学習概論	担当教員 (単位認定者)	篠原 章	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	秘められた宝 だれでも どこでも いつでも				

■授業の目的・到達目標

生涯学習の基本理念と内容を理解し、わが国の歴史的展開と現状や世界の流れを知るとともに、生涯学習における学び方を身に付け、学習者への支援方法を効果的に活かせる力を養う。

■授業の概要

生涯学習における日本と世界の基本的考え方や理念、特にユネスコとOECDの相違、生涯学習の今後の展望を学ぶ。また現在の家庭・学校・社会の諸課題を踏まえ、生涯学習時代に期待される人間像について考察する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション
第2回	国際社会における議論
第3回	日本での議論・政策
第4回	生涯学習の理念と理論(その1)
第5回	生涯学習の理念と理論(その2)
第6回	生涯学習の内容と形態
第7回	学校教育と生涯学習
第8回	外国の生涯学習(その1)
第9回	外国の生涯学習(その2)
第10回	生涯学習の先駆け(その1)
第11回	生涯学習の先駆け(その2)
第12回	社会教育制度
第13回	生涯学習支援の動向と課題
第14回	まちづくりと生涯学習
第15回	グローバリゼーションと生涯学習

■受講生に関わる情報および受講のルール

板書・口述内容は、定期試験に重要なので整理すること。
小論文、レポートは必ず提出すること。
5回を超えて欠席すると定期試験の受験資格を失う。

■授業時間外学習にかかわる情報

予習に重点を置き学習すること。「学び方を学ぶ」ということを意識して学習すること。

■オフィスアワー

講師室で授業後30分。

■評価方法

定期試験・小論文・レポートを総合的に評価する。(目安)定期試験 70%、小論文・レポート 30%。

■教科書

「テキスト生涯学習 新訂版」学文社

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	心理学	担当教員 (単位認定者)	橋本 広信	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目	社会福祉主事任用資格指定科目		
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	感覚、知覚、認知、欲求、学習、記憶、発達、パーソナリティ、無意識、心理検査、知能検査				

■授業の目的・到達目標

広範囲にわたる心理学の研究や知識を概観し、人の心理や行動、人間関係の理解に関する基礎知識を学んでいく。心理学は臨床心理学など、応用的心理学の基礎となる科目であり、精神医学などその他の科目とも連動する内容となっている。他の心理学の理解のためにも、積極的に学習に臨んでほしい。

■授業の概要

心の成立を支える機能や、心に関連する現象などについて幅広く学び、人間を心理学的な観点から捉える基本的知識を得る。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、心理学の歴史
第2回	行動の基本様式
第3回	発達 ～遺伝と環境～
第4回	感覚と知覚①
第5回	感覚と知覚と認知②
第6回	学習
第7回	記憶
第8回	思考・言語①
第9回	思考・言語②
第10回	動機づけ・情動
第11回	個人差と知能
第12回	性格と質問紙法人格検査
第13回	投影法人格検査
第14回	無意識の発見 ～フロイトと防衛機制～
第15回	生涯発達とライフサイクル: エリクソンの心理社会的発達理論

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・選択科目ではあるが、国家試験に関連する基礎知識を学ぶので、履修することが望ましい。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用等）は退席を命じます。その場合は欠席扱いとします。
- ・評価にある通り、5回程度小レポートや感想文を課します。それぞれ評価の対象になりますので、必ず提出してください。

■授業時間外学習にかかわる情報

シラバスで指示する内容について取り組むこと。

■オフィスアワー

基本的に授業後の休憩時間としますので、声をかけてください。個別に質問がある場合はメールで。
hashimoto@shoken-gakuen.ac.jp

■評価方法

- ・総合評価は、以下の通りの割合で、評価。総合得点 60～69点:C 70～79点:B 80～89点:A 90点以上:S
- ・期末試験 70%、小レポート・感想文等提出物 30% (30 ÷ 提出回 (予定5回) = 1 提出物得点 (1回6点) 満点)
- ※提出課題がない場合もありうるが、その場合は試験 100%となる。

■教科書

心理学(第5版)(2015) 鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃 東京大学出版会

■参考書

適宜指示。

科目名	国際文化論	担当教員 (単位認定者)	久山 宗彦	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	人づくり、対話と独語（ひとりごと）、平和				

■授業の目的・到達目標

国際文化論（intercultural studies）では、国際的な相互依存関係の中で生きていく私たちが、自立した個人として生き生きと活躍していくためには、自国の文化に根差した自己の確立や、異なる文化を持った人たちをも受け入れ、かれらと繋がっていきける能力や態度を身につけていくことを主眼としている。

■授業の概要

世界の諸事情と日本との関係を知り、自らの歩む道について考える。更に、日本と世界（諸外国）の関係がどのように発展したらよいかについても考察する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	「国際文化論が目指すのは国際平和である。」～特に難民問題と日本の関わりを巡って～
第2回	和の文化（1）～その構造について～
第3回	和の文化（2）～神の文化との比較～
第4回	マルティン・ブーバー（Martin Buber）の「関係」の哲学（1）
第5回	マルティン・ブーバー（Martin Buber）の「関係」の哲学（2）～医療世界への応用～
第6回	日本外交の原点に位置する聖徳太子
第7回	ヨーロッパ文明とEU
第8回	日本と中東（1）
第9回	日本と中東（2）
第10回	湾岸戦争後のイラクの弱者に対する救援活動
第11回	ダブリン（Dublin）のホスピスの発祥の地、聖母ホスピスを訪ねて
第12回	「平和」実現への第一歩とは（1）
第13回	「平和」実現への第一歩とは（2）～平和憲法の共有～
第14回	国際文化論として考えるリハビリテーション
第15回	個性と異文化との格闘、異文化理解、そして外国語

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・授業レジュメは原則として毎回配布する。
- ・授業には積極的な態度で臨むように。

■授業時間外学習にかかわる情報

世界の国々と関わる日本のニュースにも、いつも感心を持っていただきたい。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

最終レポート試験（80%）、授業時等のレポート（20%）。

■教科書

教科書は使用しない。授業時に授業レジュメや参考資料を配布する。

■参考書

授業時に随時紹介する。久山宗彦著「神の文化と和の文化」（北樹出版）もそのうちの一つである。

科目名	美術技法	担当教員 (単位認定者)	本田 真芳	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	理学療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	発想、鑑賞、版画、製版				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

表現及び鑑賞の活動を通して感性を働かせながらつくりだす喜びを味わう。造形的な創造活動の能力を培い、豊かな情操を養う。

〔達成目標〕

- ①美しいものや、優れたものに接して感動できる豊かな人間性を高める。
- ②発想や構想の能力を高める。
- ③日常での着実な研究心と探究心を培う。
- ④日々の生活の中で何かを表す意識を持った時、それが表現の原点であることを身につける。

■授業の概要

図画工作としての基礎基本、バランスの取れた指導計画などを学ぶ。また、版画の歴史、流れを学び、版画の種類（ドライポイント・エッチング）等の実技制作を行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション、美術技法を考える
第2回	発想、表現、鑑賞について
第3回	美術の概念
第4回	新しい造形と教育
第5回	版画の歴史について考える
第6回	版画の種類について学ぶ①
第7回	版画の種類について学ぶ②
第8回	基本技法①
第9回	基本技法②
第10回	製版の準備①
第11回	製版の準備②
第12回	製版の準備③
第13回	製版の実践・刷り
第14回	製版の実践・刷り
第15回	製版の実践・刷り

■受講生に関わる情報および受講のルール

シラバスを確認し、積極的に授業に取り組むこと。

時には服が汚れないためのエプロン、軍手が必要なこともあります。授業中の私語は十分つつしむこと。

工作室などで決められた座席を守ること。

■授業時間外学習にかかわる情報

作業内容を十分に理解し、授業に臨むこと。

■オフィスアワー

授業後

■評価方法

課題作品 70% 試験（レポート） 30%

■教科書

長谷喜久一：図画工作。建帛社

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	美術技法	担当教員 (単位認定者)	本田 真芳	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	理学療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	発想、鑑賞、版画、製版				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

表現及び鑑賞の活動を通して感性を働かせながらつくりだす喜びを味わう。造形的な創造活動の能力を培い、豊かな情操を養う。

〔達成目標〕

- ①美しいものや、優れたものに接して感動できる豊かな人間性を高める。
- ②発想や構想の能力を高める。
- ③日常での着実な研究心と探究心を培う。
- ④日々の生活の中で何かを表す意識を持った時、それが表現の原点であることを身につける。

■授業の概要

図画工作としての基礎基本、バランスの取れた指導計画などを学ぶ。また、版画の歴史、流れを学び、版画の種類（ドライポイント・エッチング）等の実技制作を行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	基本技法③メゾチント
第17回	基本技法④ルーレット
第18回	基本技法⑤エッチング
第19回	基本技法⑥ソフトグラウンド
第20回	基本技法⑦アクアチント
第21回	その他の技法
第22回	その他の技法
第23回	凸版を刷る
第24回	作者の署名と番号などの約束
第25回	製版の準備
第26回	製作の実践・刷り
第27回	製作の実践・刷り
第28回	製作の実践・刷り
第29回	鑑賞
第30回	版の保存とまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

シラバスを確認し、積極的に授業に取り組むこと。
時には服が汚れないためのエプロン、軍手が必要なこともあります。授業中の私語は十分つつしむこと。
工作室などで決められた座席を守ること。

■授業時間外学習にかかわる情報

作業内容を十分に理解し、授業に臨むこと。

■オフィスアワー

授業後

■評価方法

課題作品 70% 試験（レポート） 30%

■教科書

長谷喜久一：図画工作。建帛社

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	物理学	担当教員 (単位認定者)	栗原 秀司	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目			
	カリキュラム上の位置づけ	基礎科目			
キーワード	運動、力、エネルギー、波動、電磁気、原子				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

物理学を通して自然科学の基本的な考え方を学び、応用できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①力の種類を知り、力のつりあいや運動の法則等を応用して、ヒトの体や骨・筋肉にはたらく力を求めることができる。
- ②運動の表し方を知り、式やグラフを読み取ることや式やグラフで表すことができる。
- ③エネルギー、熱、波、電気、磁気、放射線等について知り、その表し方や法則を理解し説明できる。

■授業の概要

物理学は自然を理解する基本的な考え方であるとともに、多くの場面で利用されている。医療の現場では検査や治療に応用されているだけでなく、ヒトの体の骨格・筋肉等は力学に従っている。本授業では力学を中心に物理学の基本的な考え方を説明し、エネルギー、熱、波、電気、磁気、放射線等について概説する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、物理を理解するための道具とルール
第2回	力学の基本-物体の運動を数式で表す-
第3回	物体の運動と力の関係-力の表し方と力の種類-
第4回	物体の運動と力の関係-運動方程式-
第5回	圧力のはたらきと物を回転させる力
第6回	エネルギーとその保存法則
第7回	運動量と視点の違いにより感じる力
第8回	気体分子の運動と熱エネルギー
第9回	波の性質とその表し方
第10回	波で理解する音と光の現象
第11回	静電気の力とその表し方
第12回	オームの法則から理解する電気回路
第13回	電流と磁場の関係
第14回	電磁誘導と交流
第15回	原子の構造と放射線

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・コメントカードで出席を確認するので、授業終了時に必ず提出すること。
- ・座席は特に指定しないが、できるだけ前に座るようにすること。

〔受講のルール〕

- ・分からないところがあれば、いつ質問をしてもよい。分からないところをそのままにしないようにすること。
- ・授業内容に関係のない私語は慎むこと。他の受講生の迷惑になる行為は禁止する。

■授業時間外学習にかかわる情報

事前に教科書を読み、分からないところを明確にしておくこと。授業終了後は、授業で扱った問題や授業中に扱えなかった教科書の章末問題を解いて理解を深めるようにすること。2回目以降の授業では最初に前回の授業についての確認テストを行う。

■オフィスアワー

- ・授業終了後30分間
- ・コメントカードに質問を記載すれば次の授業で返答する。

■評価方法

筆記試験 100%

■教科書

時政孝行監修、菓子研著:まるわかり!基礎物理、南山堂

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	法学	担当教員 (単位認定者)	森田 隆夫	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目	社会福祉主事任用資格指定科目		
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	法学概論、憲法、民法、理学療法士及び作業療法士法				

■授業の目的・到達目標

社会福祉の法律の実践では、法律関係が随所であり、基本的知識や法的センスが必要となります。そこで、社会福祉を志す者に必要な基本的法領域として、法学概論・憲法・民法を中心に、実務上の具体例等を通じた学習をしたいと考えています。この学習を通じて、法条の検索、判例等に触れて行きたいと考えています。

- ①六法で条文を調べることができる。
- ②法学概論・憲法・民法につきその重要な概念、制度等を説明することができる。
- ③法を解釈するという思考方法をとることができる。

■授業の概要

法学概論の学習によって、法についての基本的な考えを身につけます。その上で、公法の代表としての憲法と私法の代表としての民法を用いて、法解釈学を体験してもらいます。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション/概論1: 市民生活と社会規範
第2回	概論2: 市民生活の各領域と主な関係法
第3回	憲法1: 憲法総論、基本的人権総論1
第4回	憲法2: 基本的人権総論2・思想・良心の自由、信教の自由
第5回	憲法3: 表現の自由、経済的自由
第6回	憲法4: 財産権、社会権
第7回	憲法5: 人身の自由、その他の人権、国民の義務
第8回	憲法6: 統治機構の基本原則、国会、内閣
第9回	憲法7: 裁判所、財政、地方自治
第10回	民法1: 民法総則
第11回	民法2: 契約総論
第12回	民法3: 契約各論
第13回	民法4: 親権
第14回	民法5: 相続
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・可及的に多くの情報を提供したいので、予習復習は必ず行うこと。
- ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・社会福祉を志す者として、出席時間を厳守し、態度や身だしなみ等を整えること。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁する。

■授業時間外学習にかかわる情報

教科書で予習・復習すること、根拠条文を確認しておくことが、絶対に必要です。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

定期試験(60%)、授業時間に行う小テスト(40%)を総合して評価する。

■教科書

森長秀 編著「法学入門」光生館,2015年、有斐閣「ポケット六法」

■参考書

授業中に随時紹介する。

科目名	経済学	担当教員 (単位認定者)	白石 憲一	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	経済学				

■授業の目的・到達目標

経済学は人間と物との関係を分析する学問であるが、経済社会の構造とその歴史的発展を理解することにより、現代の経済構造を理解させる。

■授業の概要

- 1) 経済の生成・発展を社会科学の一分野としてとらえ分析する。
- 2) 経済を人間生活の中でとらえ、又経済学の変遷を歴史の発展の中からとらえ分析する。
- 3) 現代経済についてケインズ経済学とマルクス経済学の比較から分析。
- 4) 国民所得と経済成長について理解させる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	「経済」という用語の解説
第2回	経済学という学問は社会科学の一分野である。社会科学とは何か
第3回	社会科学の中でも政治は当初から経済と密接な関係にあった
第4回	人間生活と経済、経済の基本について
第5回	経済学の成立と歴史。A. スミスの経済学の成立
第6回	重商主義と重農主義
第7回	経済行為…限界効用の理論、メンガーとワルラス
第8回	現代の経済生活 所得、家計、企業、政府の関係について
第9回	現代の経済理論 マーシャル、ピグー、ケインズ、マルクス
第10回	市場と価格 需要と供給の法則 市場機構の限界
第11回	株式会社と株式資本 経営と資本の分離
第12回	国民所得 概念と基本 G.N.P及び G.D.P 経済の循環構造
第13回	家計と企業の循環 所得と経済の循環
第14回	三面等価の原則 所得・雇用・利率等の関係 流動性選好
第15回	経済成長 概念と経済成長率 成長の要因 投資の二重効果

■受講生に関わる情報および受講のルール

教科書を使用しない代わりに板書を大量に行う。ノートを用意し、しっかりと書きとめておくこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業内容の中で多くの著作が登場するのでのちに図書館などで参照すること。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

筆記試験 (100%)

■教科書

なし

■参考書

授業時間中に示す。

科目名	情報処理	担当教員 (単位認定者)	藤本 壱	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	理学療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	Word、Excel				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

レポート作成等で必要なパソコンの基本操作を身につけること、各種発表のためのパソコンでの資料作りの方法や、よりよい発表の方法を身につけることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①パソコンの基本的な操作を理解する。
- ②Microsoft Wordでレポート等の文章を作成できる。
- ③Microsoft Excelで表やグラフをまとめることができる。
- ④PowerPointの基本的な操作を理解する。
- ⑤PowerPointでプレゼンテーションを作成できる。
- ⑥作成したプレゼンテーションを使って発表できる。

■授業の概要

授業を通し、パソコンの基本的な使い方をマスターし、WordとExcelを使って各種の文書を作成することができるようになることを目標とする。他の科目でレポート課題等の文書を作成する際にWordやExcelを使う機会は多いので、他の科目との関わりも多い。PowerPointでプレゼンテーション用資料を作成することをマスターし、またその資料を使って人前で発表することができるようになることを目標とする。他の科目での各種発表の際にも、PowerPointを活用できるようにする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーションとキーボード、マウスの操作
第2回	[基礎]日本語の入力とファイルの操作
第3回	[基礎]ホームページの利用と情報セキュリティ
第4回	[Word]各種の書式設定
第5回	[Word]応用的な書式設定
第6回	[Word]表のある文書の作成
第7回	[Word]図や写真を含む文書の作成
第8回	[Word]作業の効率化と複数ページ文書の作成
第9回	[Excel]Excelの基本操作
第10回	[Excel]セルの書式設定
第11回	[Excel]グラフの作成
第12回	[Excel]計算の基本
第13回	[Excel]Excelをデータベースとして使う
第14回	[Word/Excel]Word/Excelの各種の操作
第15回	課題について

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・ファイル保存用にUSBメモリを持参すること。
- ・配布資料は当授業のホームページから各自ダウンロードすること。

〔受講のルール〕

- ・積極的に授業に臨むこと。
- ・実習形式の授業なので、話を聞くだけでなく、手を動かしてパソコンの操作を身につけること。
- ・授業に関係のないこと(例:YouTubeを見る)をしないこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

教科書の練習問題等を利用して復習すること。

■オフィスアワー

授業開始前20分間

■評価方法

前期:レポート課題による評価(100%) 後期:レポート課題(70%)、レポート発表(30%)。
以上から総合的に評価 前期と後期を合計して総合評価とする。

■教科書

今すぐ使えるかんたんWord&Excel&PowerPoint2013、技術評論社、2013年

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	情報処理	担当教員 (単位認定者)	藤本 壱	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	理学療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目			
	カリキュラム上の位置づけ		基礎科目		
キーワード	PowerPoint、Word、Excel、プレゼンテーション				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

レポート作成等で必要なパソコンの基本操作を身につけること、各種発表のためのパソコンでの資料作りの方法や、よりよい発表の方法を身につけることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①パソコンの基本的な操作を理解する。
- ②Microsoft Wordでレポート等の文章を作成できる。
- ③Microsoft Excelで表やグラフをまとめることができる。
- ④PowerPointの基本的な操作を理解する。
- ⑤PowerPointでプレゼンテーションを作成できる。
- ⑥作成したプレゼンテーションを使って発表できる。

■授業の概要

授業を通し、パソコンの基本的な使い方をマスターし、WordとExcelを使って各種の文書を作成することができるようになることを目標とする。他の科目でレポート課題等の文書を作成する際にWordやExcelを使う機会は多いので、他の科目との関わりも多い。PowerPointでプレゼンテーション用資料を作成することをマスターし、またその資料を使って人前で発表することができるようになることを目標とする。他の科目での各種発表の際にも、PowerPointを活用できるようにする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	[PowerPoint]Power Pointの基本操作
第17回	[PowerPoint] 書式の設定
第18回	[PowerPoint] 表と図の操作
第19回	[PowerPoint] 各種のオブジェクトの操作
第20回	[PowerPoint] 画面切り替えとアニメーション
第21回	[PowerPoint] プレゼンテーションの発表とその関連機能
第22回	[Word] 長文関連の機能(1)
第23回	[Word] 長文関連の機能(2)
第24回	[Word] 差し込み印刷関連の機能
第25回	[Excel] 複雑な計算(1)
第26回	[Excel] 複雑な計算(2)
第27回	プレゼンテーション作成実習
第28回	プレゼンテーション発表実習
第29回	プレゼンテーション発表実習
第30回	プレゼンテーション発表実習

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・ファイル保存用にUSBメモリを持参すること。
- ・配布資料は当授業のホームページから各自ダウンロードすること。

〔受講のルール〕

- ・積極的に授業に臨むこと。
- ・実習形式の授業なので、話を聞くだけでなく、手を動かしてパソコンの操作を身につけること。
- ・授業に関係のないこと(例:YouTubeを見る)をしないこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

教科書の練習問題等を利用して復習すること。

■オフィスアワー

授業開始前20分間

■評価方法

前期:レポート課題による評価(100%) 後期:レポート課題(70%)、レポート発表(30%)。
以上から総合的に評価 前期と後期を合計して総合評価とする。

■教科書

今すぐ使えるかんたんWord&Excel&PowerPoint2013、技術評論社、2013年

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	マスメディア論	担当教員 (単位認定者)	新井 英司	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目			
	カリキュラム上の位置づけ		基礎科目		
キーワード	マスメディア、ジャーナリズム、客観的認識、ありがとう				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

これからの人生で自分を輝かせて行くにはどうしたらよいか。ジャーナリズムの精神である「なんでも見てやろう」「なんでもやってやろう」という生活態度を身につけ、今日の高度な情報化社会を明るく楽しく生きる実践力を学ぶ。

〔到達目標〕

- ①グローバル化をめぐる世界情勢への関心が高まる。
- ②客観的な見方を習得する。
- ③ものの見方、考え方を深める。
- ④メディア・リテラシーの自覚と実践が可能となる。
- ⑤コミュニケーションの起源「ありがとう」を再認識する。

■授業の概要

ものの見方、考え方の窓ともいえることわざや慣用句を通して先人の智慧を学ぶとともに、日常生活の中から具体的な話題を取り上げ、深めて、自分を輝かせる智慧、術を身につける。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション
第2回	「木を見て森を見ず」 ～複眼的視点～
第3回	「駕籠に乗る人担ぐ人」 ～参加と責任～
第4回	「他山の石」 ～二項対立～
第5回	「事実は小説より奇なり」 ～事 実～
第6回	「因果応報」 ～思想 宗教 科学～
第7回	「温故知新」 ～歴史と時間～
第8回	「悪貨は良貨を駆逐する」 ～資本主義～
第9回	「両刃の剣」 ～両義性～
第10回	「人間万事塞翁が馬」 ～幸 不幸～
第11回	「水は方円の器に従う」 ～受け入れ～
第12回	「石の上にも三年」 ～精 進～
第13回	「急がば回れ」 ～選 択～
第14回	まとめ① 「客観的認識」とは
第15回	まとめ② 「ありがとうで前進」

■受講生に関わる情報および受講のルール

毎日のテレビ、新聞等のニュースを取り上げ、意見や感想を発表し合います。その都度、資料も配付しますので、積極的に授業に参加して下さい。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業後

■評価方法

筆記試験 100%

■教科書

特に指定しませんが、どんな国語辞典でも良いですからいつも携帯して下さい。(電子辞書も可)

■参考書

日々の新聞、テレビ。

科目名	医療英語Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	デビス ウォーレン	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目			
	カリキュラム上の位置づけ		基礎科目		
キーワード	日常会話、身体部位、姿勢や動き				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

医療の場面の中に基本的なコミュニケーションができるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ① 日常会話も含め、患者との基本的な会話ができる。
- ② 医療の専門用語を理解できる。
- ③ 英語でコミュニケーションをとる自信をつける。

■授業の概要

医療の現場で必要な日常会話や専門的な用語を中心に学びます。単語を学び、それを使って患者さんと会話できるように練習します。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	Meeting Colleagues I - Introducing Yourself to the Team / Orientation
第2回	Meeting Colleagues II - Reading a Nursing Schedule
第3回	Meeting Colleagues III - Meeting Patients and their Visitors
第4回	Meeting Colleagues IV - Escorting a Patient for Tests
第5回	Nursing Assessment I - Checking Patient Details
第6回	Nursing Assessment II - Describing Symptoms
第7回	The Patient Ward I - The Patient Ward
第8回	The Patient Ward II - Nursing Duties
第9回	The Patient Ward III - The Qualities of a Responsible Nurse
第10回	Review Test ①
第11回	The Body and Movement I - The Body: Limbs and Joints
第12回	The Body and Movement II - The Body: Torso and Head
第13回	The Body and Movement III - Setting Goals and Giving Encouragement
第14回	The Body and Movement IV - Documenting ROM Exercises
第15回	Review Test ②

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・英和・和英辞書があると授業に役立つでしょう。

〔受講のルール〕

- ・授業をよく聞いて、メモをとる。
- ・ペアワークやグループワークをするときに積極的に参加すること。
- ・英和・和英辞典が入っていても携帯電話を使用しないこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・Review test の時は、指示された範囲を必ず学習すること。
- ・分からない単語があれば、調べておくこと。

■オフィスアワー

授業後

■評価方法

筆記試験（論述・客観）、聞き取りを含む。100%

■教科書

English for Nursing ①

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	医療英語Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	デビス ウォーレン	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目			
	カリキュラム上の位置づけ		基礎科目		
キーワード	会話、医学英語、ケーススタディー				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

医療の場面の中に基本的なコミュニケーションができることと、簡単なケーススタディーを理解できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ① 患者との基本的な会話ができる。
- ② 医療の専門用語を理解できる。
- ③ 簡単なケーススタディーを理解できる。

■授業の概要

医療の現場で必要な会話や専門的な用語を学び、その勉強を生かして簡単なケーススタディーを理解する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	Medication I - Medication Routes and Forms / Orientation
第2回	Medication II - Dosages and Frequency
第3回	Medication III - Side Effects; Assisting Patients with Medication
第4回	The Hospital Team I - Moving and Handling Patients
第5回	The Hospital Team II - Communicating with Team Members by Phone
第6回	The Hospital Team III - Ordering Supplies / Giving Simple Safety Instructions
第7回	Recovery and Assessing the Elderly I - Caring for a Patient in the Recovery Room
第8回	Recovery and Assessing the Elderly II - Talking about Old Age
第9回	Recovery and Assessing the Elderly III - Assessing an Elderly Care Home Resident
第10回	Review Test ①
第11回	Case Study I - Introduction to Spinal Cord Injury: Juan's Story
第12回	Case Study II - Reading Comprehension: Understanding Spinal Cord Injury
第13回	Case Study III - Juan's Family and Timeline
第14回	Case Study IV - Juan's Future Goals
第15回	Review Test ②

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・英和・和英辞書があると授業に役立つ。

〔受講のルール〕

- ・授業をよく聞いて、メモをとる。
- ・ペアワークやグループワークをするときに積極的に参加すること。
- ・英和・和英辞典が入っていても携帯電話を使用しないこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・Review Test の時は、指示された範囲を必ず学習すること。
- ・ケーススタディーを理解するため授業時間外学習をすること。

■オフィスアワー

授業後

■評価方法

筆記試験（論述・客観）100%

■教科書

English for Nursing ①

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	韓国語Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	朴 惠蘭	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	韓国語				

■授業の目的・到達目標

ハングル(文字)の成り立ちや発音を学習し、文字を読み、書けるようにする。韓国語の基礎会話力を身につける。韓国に興味を持ち、韓国と日本の社会・文化を比較して理解を深める。

■授業の概要

ハングルの特徴、話し言葉の特徴や発音、イントネーションを、日常生活及び一般的な話題を通して学び、簡単な会話ができるように、何度も口に出して練習する。視聴覚教材なども用いる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	ハングルの母音/出会いの挨拶
第3回	ハングルの子音 1/別れの挨拶
第4回	ハングルの子音 2/基本会話 -「感謝」
第5回	ハングルの二重母音/基本会話 -「謝罪」
第6回	ハングルの濃音/基本会話 -「食事の時」
第7回	ハングルの激音/基本会話 -「お願いの時」
第8回	ハングルのパッチム 1/「分かる・分からない」の表現
第9回	ハングルのパッチム 2/「ある・ない」の表現
第10回	映像で学ぶハングル
第11回	ハングルの発音の規則
第12回	ハングルの日本語表記 /ハングルでの動物の鳴き声
第13回	自己紹介/「～は～です」文型
第14回	指示代名詞 1/「助詞～が」
第15回	指示代名詞 2/「～が何ですか」の文型

■受講生に関わる情報および受講のルール

日本語にない発音が多いため、正しい発音を身につけるためには、積極的に出席し、何度も口に出して練習することが望ましい。初めての言語のため、文字を覚えるためには、繰り返しの練習、復習が必要である。韓国語Ⅰに引き続き、韓国語Ⅱの履修が望ましい。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

試験(60%)、宿題・レポート(20%)、授業態度(20%)を総合して評価する。

■教科書

金眞 / 柳圭相 / 芦田麻樹子 著 「みんなで学ぶ韓国語(文法編)」 朝日出版社

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	韓国語Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	朴 惠蘭	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	韓国語				

■授業の目的・到達目標

韓国語の基礎会話、発音の習得を終えた学生を対象に、「聴く」「読む」「書く」「話す」の四つの技能のうち、「話す」こと、「聴く」ことにやや比重をおいて授業を進めていく。そのことにより、「会話力」を身につける。

■授業の概要

教材の項目別文例をもとに、対応の言い換え練習を行いながら、韓国語と日本語の発想の違いなどを確認していく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	否定文 / 「助詞～も」
第2回	疑問詞 / 「～は～ではありません」の文型
第3回	家族の呼び方 / 「～も～です」の文型
第4回	丁寧な会話体 / 「助詞～に」
第5回	位置を表す言葉 / 「～に～があります」の文型
第6回	時を表す言葉 1 / 「助詞～で」
第7回	曜日の言い方 / 「～で～をします」の文型
第8回	漢数詞 1 / 時を表す言葉 2
第9回	映像で学ぶハングル
第10回	漢数詞 2 / 「番号・値段の言い方」
第11回	漢数詞 3 / 「～月～日です」の文型
第12回	用言の「です・ます形」 1 / 「助詞～と」
第13回	用言の「です・ます形」 2 / 「～と～をします」の文型
第14回	否定・不可能の表現 / 「あまり～くありません」の文型
第15回	まとめ・復習

■受講生に関わる情報および受講のルール

日本語にない発音が多いため、正しい発音を身につけるためには、積極的に出席し、何度も口に出して練習することが望ましい。初めての言語のため、文字を覚えるためには、繰り返しの練習、復習が必要である。韓国語Ⅰに引き続き、韓国語Ⅱの履修が望ましい。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

試験(60%)、宿題・レポート(20%)、授業態度(20%)を総合して評価する。

■教科書

金眞 / 柳圭相 / 芦田麻樹子 著 「みんなで学ぶ韓国語(文法編)」 朝日出版社

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	中国語Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	岡野 康幸	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	漢語、中国語、簡体字、繁体字、中国、語学学習				

■授業の目的・到達目標

- ①中国語の正確な発音と初歩の文法・語彙を習得することにより、自己に関する簡単な事柄を言えるようにする。
- ②中国語の学習を通じて、日本語との構造の差異に着目する。

■授業の概要

中国語は声調（音声の高低）によって意味が変わる言語であり、また日本語には存在しない発音も多い言語である。発音を徹底的に練習することにより、正しい発音の習得と今後の自発的学習（予習・復習）の筋道をつける。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション、(教科書P2・3を読んでおくこと)
第2回	第1課 你好(こんにちは) 中国語の音節 声調 ドリル
第3回	第2課 明天见(また明日) 単母音 複母音 ドリル
第4回	第3課 谢谢(ありがとう) 子音(1)ドリル
第5回	第4課 好久不见(お久しぶり) 子音(2) 鼻音 ドリル
第6回	第5課 迎接(出迎える) 名前の言い方尋ね方
第7回	第6課 欢迎会(歓迎パーティー) 動詞「是」・助詞「的」の使い方
第8回	第7課 打的(タクシーに乗る) 基本語順S+V+O 連動文
第9回	第8課 住宿(宿泊する) 希望・願望を表す「想」、「いる・ある・持っている」を表す「有」、指示代名詞
第10回	第9課 问路(道をたずねる) 動詞「在」・前置詞「从」「往」の使い方
第11回	第10課 买东西(ショッピングする) 数の言い方・お金の言い方・値段の尋ね方。形容詞述語文
第12回	第11課 聊天儿(おしゃべりをする) 年月日・曜日の言い方、年齢の言い方
第13回	第12課 点菜(料理を注文する) 量詞、動詞の重ね方
第14回	第13課 买足球票(サッカーのチケットを買う) 時刻の言い方、状態の変化を表す文末の「了」
第15回	前期総復習

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業中は、単に授業を聞くといった受身の態度ではなく、積極的に参加し、発音の練習をすること。周囲の迷惑になるので、私語を慎むこと。注意しても改めない時は退席を命じる。中国語Ⅰに続けて中国語Ⅱも一緒に履修することが望ましい。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業前に必ず付属のCDを聞き、中国語に慣れ親しむこと。授業の時間だけで語学がマスターできたら、勘違いも甚だしいです。疑問が生じた時は、すぐに教員に質問をすること。後延ばしにしたら、理解が困難になります。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

期末試験 70%、平常点(小テスト、課題など) 30%。

■教科書

陳淑梅 劉光赤『しゃべっていいとも中国語 トータル版』朝日出版社、2014年1月

■参考書

相原茂『はじめての中国語』講談社現代新書、1990年2月

科目名	中国語Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	岡野 康幸	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	漢語、中国語、簡体字、繁体字、中国、語学学習				

■授業の目的・到達目標

- ①中国語Ⅰに続き、正確な発音、初級文法・語彙を習得することにより、身の回りの日常的な事柄を表現できるようになります。
- ②中国語の学習を通じて、日本語及び日本文化の差異に着目します。
- ③真面目に予習復習をすれば中国語検定4級のレベルになります。
- ④語学学習を通じて、異文化理解の方法を学びます。

■授業の概要

中国語は声調（音声の高低）によって意味が変わる言語であり、また日本語には存在しない発音も多い言語である。発音を徹底的に練習することにより、正しい発音の習得と今後の自発的学習（予習・復習）の筋道をつける。中国語Ⅱは中国語だけでなく、中国の文化・歴史にも着目し、授業を進めます。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	第14課 做按摩（マッサージをする）時間の長さの言い方 完了を表わす「了」
第2回	第15課 网吧（インターネットカフェ）動作の対象を表す前置詞「給」、助動詞「可以」「能」
第3回	第16課 打电话（電話をかける）動作行為の進行を表す表現、助動詞「会」
第4回	第17課 打工（アルバイトをする）前置詞「在」、二重目的語をとる動詞
第5回	第18課 在饭店（レストランで）経験を表す「过」、選択疑問文
第6回	第19課 去唱卡拉OK（カラオケに行く）助動詞「得」、「一～就」構文
第7回	第20課 你唱得真好（あなたは歌がうまい）結果補語、様態補語
第8回	中国の日本事情
第9回	第21課 全家照（家族写真）「是～的」構文、比較表現-前置詞「比」
第10回	第22課 买衬衫（シャツを買う）方向補語①単純方向補語、「有点儿」と「一点儿」
第11回	第23課 生日晚会（誕生パーティー）「把」構文、方向補語②複合方向補語
第12回	第24課 看DVD（DVDを見る）程度補語、可能補語
第13回	第25課 看病（診察を受ける）主述述語文、受け身表現
第14回	第26課 回国之前（帰国前）「就要～了」構文、使役表現
第15回	総復習

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業中は、単に授業を聞くといった受身の態度ではなく、積極的に参加し、発音の練習をすること。周囲の迷惑になるので、私語を慎むこと。注意しても改めない時は退席を命じる。中国語Ⅰに続けて中国語Ⅱも一緒に履修することが望ましい。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業前に必ず付属のCDを聞き、中国語に慣れ親しむこと。授業の時間だけで語学がマスターできたら、大間違いです。疑問が生じた時は、すぐに教員に質問をすること。後延ばしにしたら、理解が困難になります。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

期末試験 70%、平常点（小テスト、課題など）30%。

■教科書

陳淑梅 劉光赤『しゃべっていいとも中国語 トータル版』朝日出版社、2014年1月

■参考書

相原茂他『Why?にこたえる はじめての 中国語文法書』同学社、1996年9月
倉石武四郎『中国語五十年』岩波新書、1973年1月

科目名	スポーツ体育	担当教員 (単位認定者)	櫻井秀雄・田口敦彦	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	理学療法専攻1～4年次選択科目。 1年次集中講義に出席していない者は受講できない。	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	企画運営 レクリエーション 支援技術				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

PT/OT業務に活用できるよう、スポーツ大会でリーダー的存在として役割を担えること。レクリエーションプログラムの習得と企画や運営、指導技術を身につける。学びを通して、福祉施設、病院等の現場等で活動できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

1. レクリエーション活動の意義を理解できる。
2. さまざまな活動を通して、企画・実践することができる。
3. 他者への支援（指導）ができるようになる。

■授業の概要

1年後期に学んだスポーツプログラムの企画と運営を活かし、学園スポーツ大会に中心的存在として参加する。また、県内で開催されるマラソン大会に出場し完走を目指す。レクリエーションの楽しさを知り、ニュースポーツやコミュニケーションゲームを通じてレクリエーション支援の技術を習得する。そのための指導理論、組織論、事業論などの学習を通じ、支援者（指導者）としての実践力を高める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	科目オリエンテーション
第17回	レクリエーション ダンス・体操
第18回	基礎理論 レクリエーションの意義について
第19回	室内レクリエーション（実践）
第20回	レクリエーションにおけるホスピタリティとは
第21回	コミュニケーション・ワーク アイスブレイキングの意義と基本技術
第22回	マラソン大会に向けて
第23回	ランニング
第24回	ランニング
第25回	マラソン大会参加
第26回	マラソン大会参加
第27回	支援活動実習 レクリエーションプログラムの企画と運営-①
第28回	支援活動実習 レクリエーションプログラムの企画と運営-②
第29回	支援活動実習 レクリエーション評価とまとめ
第30回	学んだことの振り返り：レポート

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・ マラソン大会への参加費は自己負担となる。
- ・ マラソン大会へのエントリーはすぐに定員に達することが多いので、自らエントリー時期を確認し、応募漏れのないよう十分注意する。
- ・ マラソンを走る際は睡眠を十分に取り、準備運動や水分補給などの体調管理を十分に行うこと。
- ・ 屋外トレーニングの際、天候を考慮し屋内トレーニングに切り替えるなどの場合がある。掲示板をよく見ておくこと。
- ・ 成績評価に関する詳細はシラバスを参照すること。

〔受講のルール〕

- ・ 企画運営やグループワークの際は、率先して発言や行動をすること。
- ・ 授業中の私語など他学生に迷惑となる行為は禁止。

■授業時間外学習にかかわる情報

シラバスを基に教科書や配布資料で予習復習すること。分からない箇所はそのままにせず、次回の授業で解決するよう質問や自分で調べたことなどをまとめておく。日頃からレクリエーションに関する情報を新聞、雑誌、テレビ、インターネット等で収集するよう心がけること。

■オフィスアワー

木曜日 1限（変更時は掲示する）

■評価方法

□レポート 50%（再提出あり。期限内に提出されないものは総合評価に含めない。） □実技 50%

■教科書

特に指定はしないが、自ら情報収集をすること。自分に合った、マラソンに関する参考書を1冊購入すると良い。

■参考書

特に指定はしないが、自ら情報収集をすること。

科目名	スポーツ及びレクリエーション実技	担当教員 (単位認定者)	田口 敦彦	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	理学療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目	レクリエーションインストラクター 資格取得に関わる必修		
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	コミュニケーション・ワーク レクリエーション・ワーク ニュースポーツ・支援実習				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

レクリエーションプログラムの習得と企画や運営、指導技術を身につける。学びを通して、福祉施設、病院、学校教育の現場等で活動できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

1. レクリエーション活動の意義を理解できる。
2. さまざまな活動を通して、企画・実践することができる。
3. 他者への支援（指導）ができるようになる。

■授業の概要

レクリエーションの楽しさを知り、ニュースポーツやコミュニケーションゲームを通じてレクリエーション支援の技術を習得する。そのための指導理論、組織論、事業論などの学習を通じ、支援者（指導者）としての実践力を高める。レクリエーションインストラクター資格取得のための科目である。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション・レクリエーションの理解
第2回	アイスブレイキング（実践）
第3回	室内でできるレクリエーションゲーム（実践）
第4回	新聞紙を使ったレクリエーションゲーム（実践）
第5回	基礎理論 レクリエーションの意義について
第6回	基礎理論 レクリエーション運動の歴史とその背景
第7回	支援活動実習Ⅰ レクリエーションプログラムの企画と運営①-1
第8回	支援活動実習Ⅰ レクリエーションプログラムの企画と運営①-2
第9回	支援活動実習Ⅰ レクリエーション評価とまとめ①
第10回	ニュースポーツ キンボール ルールの理解と基礎技術の獲得
第11回	ニュースポーツ キンボール ゲーム
第12回	支援活動実習Ⅱ レクリエーションプログラムの企画と運営②-1
第13回	支援活動実習Ⅱ レクリエーションプログラムの企画と運営②-2
第14回	支援活動実習Ⅱ レクリエーション評価とまとめ②
第15回	前期の振り返り まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・レクリエーション活動（実技）を行う場合は、指定体育着、体育館シューズを着用すること。
- ・装飾品や爪など活動時に支障とならないようにすること。
- ・積極的に授業に取り組むこと。また支援者として好感のもてる態度、身だしなみを心掛けること。
- ・実技活動、グループ活動は仲間と協力して作業をすすめること。自分勝手な行動をとる受講者は減点の対象とする。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・日頃からレクリエーションに関する情報を新聞、雑誌、テレビ、インターネット等で収集するよう心がけること。
- ・地域で行われているレクリエーション活動に積極的に参加すること。

■オフィスアワー

月曜日 5時間目（変更時は掲示する）

■評価方法

評価の基準：到達目標の達成度を評価する。

評価の方法：筆記試験 50% レポート等提出物（活動企画書）20% 実技 30% として総合的に評価する。
（詳細な評価基準は授業シラバス参照）

■教科書

レクリエーションインストラクター養成テキスト 【レクリエーション支援の基礎】 ～楽しさ・心地よさを活かす理論と技術～
（財）日本レクリエーション協会編

■参考書

必要に応じて紹介する。

科目名	スポーツ及びレクリエーション実技	担当教員 (単位認定者)	田口 敦彦	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	理学療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目	レクリエーションインストラクター 資格取得に関わる必修		
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	コミュニケーション・ワーク レクリエーション・ワーク ニュースポーツ・支援実習				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

レクリエーションプログラムの習得と企画や運営、指導技術を身につける。学びを通して、福祉施設、病院、学校教育の現場等で活動できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

1. レクリエーション活動の意義を理解できる。
2. さまざまな活動を通して、企画・実践することができる。
3. 他者への支援（指導）ができるようになる。

■授業の概要

レクリエーションの楽しさを知り、ニュースポーツやコミュニケーションゲームを通じてレクリエーション支援の技術を習得する。そのための指導理論、組織論、事業論などの学習を通じ、支援者（指導者）としての実践力を高める。レクリエーションインストラクター資格取得のための科目である。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	レクリエーションダンス（地域伝承踊り）
第17回	レクリエーションダンス（介護予防体操含む）
第18回	コミュニケーション・ワーク ホスピタリティとは
第19回	コミュニケーション・ワーク ホスピタリティの示し方
第20回	ニュースポーツ ユニバーサルホッケー ルールの理解と基礎技術の獲得
第21回	ニュースポーツ ユニバーサルホッケー ゲーム
第22回	支援活動実習Ⅲ レクリエーションプログラムの企画と運営③-1
第23回	支援活動実習Ⅲ レクリエーションプログラムの企画と運営③-2
第24回	支援活動実習Ⅲ レクリエーション評価とまとめ③
第25回	コミュニケーション・ワーク 集団に対するホスピタリティ
第26回	コミュニケーション・ワーク アイスブレイキングの意義と基本技術
第27回	支援活動実習Ⅳ レクリエーションプログラムの企画と運営④-1
第28回	支援活動実習Ⅳ レクリエーションプログラムの企画と運営④-2
第29回	支援活動実習Ⅳ レクリエーション評価とまとめ④
第30回	1年間の振り返り まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・レクリエーション活動（実技）を行う場合は、指定体育着、体育館シューズを着用すること。
- ・装飾品や爪など活動時に支障とならないようにすること。
- ・積極的に授業に取り組むこと。また支援者として好感のもてる態度、身だしなみを心掛けること。
- ・実技活動、グループ活動は仲間と協力して作業をすすめること。自分勝手な行動をとる受講者は減点の対象とする。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・日頃からレクリエーションに関する情報を新聞、雑誌、テレビ、インターネット等で収集するよう心がけること。
- ・地域で行われているレクリエーション活動に積極的に参加すること。

■オフィスアワー

月曜日 5時間目（変更時は掲示する）

■評価方法

評価の基準：到達目標の達成度を評価する。

評価の方法：筆記試験 50% レポート等提出物（活動企画書）20% 実技 30% として総合的に評価する。
（詳細な評価基準は授業シラバス参照）

■教科書

レクリエーションインストラクター養成テキスト 【レクリエーション支援の基礎】 ～楽しさ・心地よさを活かす理論と技術～
（財）日本レクリエーション協会編

■参考書

必要に応じて紹介する。

科目名	レクリエーション活動援助法	担当教員 (単位認定者)	田口 敦彦	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	理学療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目	レクリエーションインストラクター 資格取得に関わる必修		
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	コミュニケーション・ワーク レクリエーション・ワーク 事業計画 ホスピタリティ アイスブレイキング A-PIEプロセス				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

レクリエーション活動の社会的意義を理解し、様々な活動現場における適切なレクリエーション活動支援の在り方や技術を身につけ、良好な人間関係を構築し、人々が笑顔に満ちた豊かなライフスタイルを確立できるように、公認指導者資格を有する支援者（レクリエーション・インストラクター）として、実践できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

1. レクリエーション活動の社会的意義と支援方法を身につける。
2. 対象に応じたレクリエーション支援の計画立案と実践の能力を身につける。
3. レクリエーション支援が十分に効果をあげるために組織論、事業論を理解し、活用できる。
4. 安全な活動とそのための危険を回避する能力を身につける。

■授業の概要

年代ごとの課題や特徴を知り、対象者のニーズに沿ったふさわしい形で提供できるレクリエーション活動の計画づくりを行い、対象者の元気や活力づくりの意欲を高め、自立・自律的な活動展開を支援できるよう学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション	福祉サービスにおけるレクリエーション援助の役割
第2回	基礎理論	レクリエーションの意義
第3回	基礎理論	レクリエーション運動の歴史とその背景
第4回	基礎理論	レクリエーションへの期待
第5回	基礎理論	生活のレクリエーション化
第6回	基礎理論	レクリエーションの生活化
第7回	基礎理論	社会福祉の中でのレクリエーションの役割
第8回	日常生活におけるレクリエーションの捉え方	
第9回	日常生活の3領域とレクリエーション援助の関係	
第10回	コミュニケーションワーク	アイスブレイキングの意義と基本技術
第11回	コミュニケーションワーク	アイスブレイキングの意義と基本技術 ～同時発声 同時動作 合図出し～
第12回	コミュニケーションワーク	アイスブレイキングのプログラミング
第13回	コミュニケーションワーク	アイスブレイキングのプログラミング ～アイスブレイキングモデルの作成～
第14回	コミュニケーションワーク	アイスブレイキングのプログラミング・実践 発表
第15回	まとめ(評価・ふりかえり)	

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・出席を重視し、授業態度を評価するので積極的に反応の良い授業参加を心がけること。また支援者として好感のもてる態度、身だしなみを心掛けること。
- ・授業シラバスを必ず確認すること。
- ・グループ活動は仲間と協力して作業をすすめること。自分勝手な行動をとる受講者は減点の対象とする。

■授業時間外学習にかかわる情報

各地で開催される、大会や講習会・研究会・セミナー・ボランティア等へ積極的に参加し、楽しい体験（世代間交流）の中で、レクリエーション支援の在り方、手法を幅広く習得すること。

■オフィスアワー

月曜日 5時間目（変更時は掲示する）

■評価方法

筆記試験 60% 授業中レポート 20% グループワーク及び発表 20%
（詳細な評価基準は授業シラバス参照）

■教科書

レクリエーションインストラクター養成テキスト 【レクリエーション支援の基礎】 ～楽しさ・心地よさを活かす理論と技術～
（財）日本レクリエーション協会編

■参考書

参考書 【楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施】 【楽しさの追求を支える理論と支援の方法】（日本レクリエーション協会） 【レクリエーション活動援助法】（中央法規）

科目名	レクリエーション活動援助法	担当教員 (単位認定者)	田口 敦彦	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	理学療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目	レクリエーションインストラクター 資格取得に関わる必修		
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	コミュニケーション・ワーク レクリエーション・ワーク 事業計画 ホスピタリティ アイスブレイキング A-PIEプロセス				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

レクリエーション活動の社会的意義を理解し、様々な活動現場における適切なレクリエーション活動支援の在り方や技術を身につけ、良好な人間関係を構築し、人々が笑顔に満ちた豊かなライフスタイルを確立できるように、公認指導者資格を有する支援者（レクリエーション・インストラクター）として、自信をもって実践できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

1. レクリエーション活動の社会的意義と支援方法を身につける。
2. 対象に応じたレクリエーション支援の計画立案と実践の能力を身につける。
3. レクリエーション支援が十分に効果をあげるために組織論、事業論を理解し、活用できる。
4. 安全な活動とそのための危険を回避する能力を身につける。

■授業の概要

年代ごとの課題や特徴を知り、対象者のニーズに沿ったふさわしい形で提供できるレクリエーション活動の計画づくりを行い、対象者の元気や活力づくりの意欲を高め、自立・自立的な活動展開を支援できるよう学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	支援論	ライフスタイルとレクリエーション	乳幼児期～児童期
第17回	支援論	ライフスタイルとレクリエーション	青年期～老年期
第18回	支援論	治療的意味合いを含めたレクリエーション	
第19回	目的に合わせたレクリエーションワーク	素材、アクティビティの選択	
第20回	目的に合わせたレクリエーションワーク	すり合わせのプロセス	
第21回	目的に合わせたレクリエーションワーク	ハードル設定	CSS プロセス
第22回	事業論	レクリエーション事業の展開方法	
第23回	事業論	アセスメントに基づいたプログラム計画	
第24回	事業論	レクリエーション事業のプログラムの組み立て方(1)	
第25回	事業論	レクリエーション事業のプログラムの組み立て方(2)	
第26回	事業論	レクリエーション事業のプログラムの組み立て方(3)	
第27回	事業論	レクリエーション事業のプログラムの組み立て方(4)	
第28回	事業論	レクリエーションプログラムの計画発表及び実践(1)	
第29回	事業論	レクリエーションプログラムの計画発表及び実践(2)	
第30回	一年間のまとめ(評価・ふりかえり)		

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・出席を重視し、授業態度を評価するので積極的に反応の良い授業参加を心がけること。また支援者として好感のもてる態度、身だしなみを心掛けること。
- ・授業シラバスを必ず確認すること。
- ・グループ活動は仲間と協力して作業をすすめること。自分勝手な行動をとる受講者は減点の対象とする。

■授業時間外学習にかかわる情報

各地で開催される、大会や講習会・研修会・セミナー・ボランティア等へ積極的に参加し、楽しい体験(世代間交流)の中で、レクリエーション支援の在り方、手法を幅広く習得すること。

■オフィスアワー

月曜日 5時間目 (変更時は掲示する)

■評価方法

筆記試験 60% 授業中レポート 20% グループワーク及び発表 20%
(詳細な評価基準は授業シラバス参照)

■教科書

レクリエーションインストラクター養成テキスト【レクリエーション支援の基礎】～楽しさ・心地よさを活かす理論と技術～
(財)日本レクリエーション協会編

■参考書

参考書【楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施】【楽しさの追求を支える理論と支援の方法】(日本レクリエーション協会) 【レクリエーション活動援助法】(中央法規)

科目名	障害者スポーツ	担当教員 (単位認定者)	櫻井 秀雄	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目	障害者スポーツ指導員 2 級		
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	障害区分、障害と特性、スポーツ、医療、社会参加と自立				

■授業の目的・到達目標

障害者が豊かな社会生活を送るために、障害者スポーツを理解して支援・援助できる知識・技能を習得する。また、障害者スポーツでは、重度障害者の参加も考慮し、生活の中で親しめるスポーツ、さらには、競技としてのスポーツを積極的に推進する障害者スポーツ指導者として理解とその援助法を習得する。

■授業の概要

障害者を取り巻く地域社会での福祉施策や、スポーツ環境、レクリエーションの意義、障害区分とスポーツ活動、スポーツ傷害の予防と処置、健康づくりとリハビリテーションの意義、障がい者との交流をおこないながら 障害者スポーツの実施と障害者のために工夫されたスポーツを学習する。「日本障害者スポーツ指導員」の資格取得をおこなう。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション(社会福祉、障害者福祉施策の概念)
第2回	障害の理解とスポーツ
第3回	障害各論と指導上の留意点
第4回	安全管理
第5回	全国障害者スポーツ大会と障害区分
第6回	全国障害者スポーツ大会の障害区分
第7回	公認障害者スポーツ指導者制度と補装具
第8回	障害者との交流①
第9回	障害者との交流②
第10回	障害に応じたスポーツの工夫
第11回	障害者スポーツの実践研究①ブラインドウォーク・ランとゴールボール
第12回	障害者スポーツの実践研究②サウンドテーブルテニスとバレーボール卓球
第13回	障害者スポーツの実践研究③シットイングバレーとペタンク
第14回	障害者スポーツの実践研究④車椅子バスケットボール・ソフトバレーボール
第15回	まとめ(実践研究報告発表)

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関する情報〕

・障害者の生活支援を念頭に置き、真摯な態度で受講する。運動着、運動靴の準備。実技でもメモの用意をする。

〔受講のルール〕

・着替え等は迅速にして授業の用具準備をおこなう。

・教材の整頓、会場の清掃は全員で協力しておこなう。

■授業時間外学習にかかわる情報

施設実習や障害者へのボランティア活動で、障害者スポーツには意識して接する。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

筆記試験・レポート(70%)実技試験(30%)総合評価で60%以上とする。

■教科書

日本障害者スポーツ協会:障害者スポーツ指導教本(初級・中級):ぎょうせい:平成26年

■参考書

井田朋宏:NOLIMIT(障害者スポーツ情報誌):日本障害者スポーツ協会:2015(年4回発刊)

科目名	基礎演習Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	担任	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目			
	カリキュラム上の位置づけ		基礎科目		
キーワード	授業の受け方、図書館利用、レポート、グループワーク、発表、礼儀挨拶、環境美化				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

本学の建学の精神・教育目標に基づき、高校と大学の相違を、さまざまな観点から学び、円滑な移行を目指して初年次教育をおこなう。基礎演習Ⅰにおいては、礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動を理解し、積極的に取り組み、人間としての基礎的教養力と自律的実践能力を養う。基礎演習の導入として、学問への動機づけ、コミュニケーション能力など、学習成果を保証するための学習方法や技術を総合的に学ぶ。また、他職種の職業を理解し、チームケアの必要性について気付く。

〔到達目標〕

- ①礼儀・挨拶について説明でき、日々の生活の中で実践できる。
- ②環境美化について説明でき、日々の生活の中で実践できる。
- ③レポートを形式に則って作成できる。
- ④グループワークを円滑に実施できる。
- ⑤発表を簡潔にわかりやすく行えるようになる。
- ⑥実際の場面において適切な身だしなみ、見学態度、時間厳守、報告・連絡・相談が実践できる。
- ⑦他職種の職業を理解し、チームケアの必要性を説明できる。

■授業の概要

本学の建学の精神・教育目的に基づき、自立の実践能力(マナー、バランス感覚、挨拶、服装、時間厳守、環境美化、ボランティア等)や基礎学士力(読書力、発表力、企画力等)の定着を図る。また、他職種の職業を理解し、学部間連携を通してチームケアの重要性を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	建学の精神と実践教育プログラム①:科目オリエンテーション、基礎学士力の育成、図書館の活用法
第2回	建学の精神と実践教育プログラム②:礼儀・挨拶の実践、個人情報の取り扱いについて
第3回	建学の精神と実践教育プログラム③:礼儀・挨拶の実践-身だしなみ-
第4回	建学の精神と実践教育プログラム④:ディズニープロジェクト①
第5回	学士力育成プログラム①:グループワーク手法・発表手法、レポートの書き方①
第6回	学士力育成プログラム②:グループワーク手法・発表手法、レポートの書き方②
第7回	建学の精神と実践教育プログラム⑤:ディズニープロジェクト②
第8回	建学の精神と実践教育プログラム⑥:ディズニープロジェクト③
第9回	建学の精神と実践教育プログラム⑦:ディズニープロジェクト④
第10回	建学の精神と実践教育プログラム⑧:個人情報保護について①
第11回	建学の精神と実践教育プログラム⑨:個人情報保護について②
第12回	学士力育成プログラム③~学部間で連携して~ オリエンテーション
第13回	学士力育成プログラム④~学部間で連携して~ グループワーク
第14回	建学の精神と実践教育プログラム⑩:礼儀・挨拶、環境美化について①
第15回	建学の精神と実践教育プログラム⑪:礼儀・挨拶、環境美化について②

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

グループワークや発表は出席が前提となるので、体調管理を怠らないこと。

〔受講のルール〕

- ①シラバスを確認し予習復習を必ず行い積極的に臨むこと。
- ②受講態度や身だしなみが整っていない場合受講を認めない。
- ③授業の流れや雰囲気や乱したり他の受講生の迷惑となる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁。
- ④内容が類似した課題は受け付けられないため自己の努力で作成すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

全ての授業で、情報収集、資料作成を行い、ポートフォリオを作成する。また、発表では、指定時間を厳守し、わかりやすく伝える工夫をすること。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

◆レポート 30% ◆発表 30% ◆ポートフォリオ 40%

■教科書

基礎演習テキスト、知へのステップ、学生生活 GUIDE

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	基礎演習Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	担任	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目			
	カリキュラム上の位置づけ		基礎科目		
キーワード	企画・運営能力、コミュニケーション能力、ケア・コミュニケーション検定				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

本学の建学の精神・教育目的に基づき、基礎演習Ⅰで行った初年次教育のステップアップを行う。基礎演習Ⅱにおいては、礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動に自主的に取り組み、工夫できることを目指し、人間としての基礎的教養力と自律的实践能力を確実なものとする。読書力、コミュニケーション能力、問題解決能力などを高め、専門演習への橋渡しとする。

〔到達目標〕

- ①コミュニケーションに必要な、語彙・敬語・文法など日本語の総合力を身につける。
- ②自分のコミュニケーションの特徴を理解することができる。
- ③学部間連携にて、他職種の職業理解を深め、チームの一員として協働のあり方を理解する。

■授業の概要

基礎演習Ⅱでは、①建学の精神と実践教育、②学士力育成、③進路・資格取得、④地域貢献、⑤心身の健康の5つのプログラムから構成し、建学の精神に則り、ボランティア活動、環境美化活動、挨拶等の礼儀作法等に関する人間としての基礎的教養力と自律的实践能力を学習する。また、読書力、問題解決能力、コミュニケーション能力を高め、学士力の向上を図ると共に、学部間連携を通じ、他学部（他職種）との協働スキル向上を図る。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	建学の精神と実践教育プログラム①：科目オリエンテーション
第2回	学士力育成プログラム①：敬語・文法・語彙力
第3回	学士力育成プログラム②：言葉の意味・表記・漢字
第4回	学士力育成プログラム③：日本語検定受験
第5回	学士力育成プログラム④：講話～話し方～
第6回	学士力育成プログラム⑤：協働スキルアップ
第7回	学士力育成プログラム⑥：医療福祉分野における協働
第8回	学士力育成プログラム⑦：リーダーシップとは
第9回	学士力育成プログラム⑧：～学部間で連携して～ オリエンテーション
第10回	学士力育成プログラム⑨：～学部間で連携して～ グループワーク
第11回	学士力育成プログラム⑩：～学部間で連携して～ グループワーク
第12回	学士力育成プログラム⑪：～学部間で連携して～ グループワーク
第13回	学士力育成プログラム⑫：読書力形成①
第14回	学士力育成プログラム⑬：読書力形成②
第15回	建学の精神と実践教育プログラム②：基礎演習まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

日本語検定受験料 5000 円。
グループワークが多くなるため欠席しないこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

コミュニケーション能力は授業だけでは身に付かないため、積極的にボランティアに参加し、授業で得た知識を実践していくこと。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

■日本語検定 50% ■レポート 50% (チームケア教育プログラム課題 25%、読書力形成課題 25%)

■教科書

基礎演習テキスト、学生生活 GUIDE

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	専門演習Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	担任・山口智晴	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻3年次必修科目	免許等指定科目			
	カリキュラム上の位置づけ		基礎科目		
キーワード	質問力、問題発見能力、問題解決能力				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

本学の建学の精神に基づき、基礎演習で身に付けた基礎学力や問題解決能力等を基にして、高度な専門知識と豊かな人間性及び人間愛並びに奉仕の精神を備え、自立心と礼儀を重んじた世の中で役に立つ心豊かな学生を育成する。問題解決の思考プロセスの体得を目指し、総合的な学力を養成する。

■授業の概要

専門演習Ⅰでは、論理的思考能力の基礎となる「質問力」「問題解決能力」「ディベート」をグループワーク等を通して身につけていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	建学の精神と実践教育プログラム①：科目オリエンテーション/学長講話および建学の精神について
第2回	学力育成プログラム①：何が問題か、問題点の整理
第3回	学力育成プログラム②：重要問題を選んで問を立てる
第4回	学力育成プログラム③：解決アイデアを発想する
第5回	学力育成プログラム④：解決アイデアを評価する基準
第6回	学力育成プログラム⑤：解決アイデアの評価
第7回	学力育成プログラム⑥：実行計画の立案
第8回	学力育成プログラム⑦：学力育成プログラム～学部間で連携して～①：ディベート①
第9回	学力育成プログラム⑧：学力育成プログラム～学部間で連携して～②：ディベート②
第10回	学力育成プログラム⑨：学力育成プログラム～学部間で連携して～③：発表①
第11回	学力育成プログラム⑩：学力育成プログラム～学部間で連携して～④：発表②
第12回	学力育成プログラム⑪：学力育成プログラム～学部間で連携して～⑤：発表③
第13回	学力育成プログラム⑫：学力育成プログラム～学部間で連携して～⑥：発表④
第14回	学力育成プログラム⑬：FPSP問題解決力検定
第15回	建学の精神と実践教育プログラム②：まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

グループワークが多いので休まないこと。
ポートフォリオ作成のため、A4クリアフォルダー（なるべくいっぱい入るもの）を用意すること。
NPO法人 日本未来問題解決プログラム FPSP問題解決力検定 受験料 3000円。

■授業時間外学習にかかわる情報

論理的思考能力を身につけるには、日々の生活を疑問を持って送ることが重要となる。授業で学んだことを生活の中で実践することが大切である。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

■ポートフォリオ 40% ■FPSP問題解決力検定 30% ■授業内発表 30%

■教科書

授業内で適宜紹介する。

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	専門演習Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	担任・北爪浩美	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻4年次必修科目	免許等指定科目			
	カリキュラム上の位置づけ		基礎科目		
キーワード	就職活動、自己分析、将来設計				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

本学の建学の精神・教育目的に基づき、人間としての総合的な力と問題解決能力を育成する。礼儀を重んじるとともに、ボランティア、環境美化活動、実習を通して身につけた実践力をさらに高め、「仁愛」の精神をもつ自立した社会人となるためのスキルアップを図る。

〔到達目標〕

- ①自己を客観的に分析し、他者に対しわかりやすく説明できる。
- ②社会人としてのマナーを身につける。

■授業の概要

専門演習Ⅱでは、目前に迫る就職における基本的な知識を学ぶ。そして、大学4年間を振り返り自分自身を客観的に捉え直す機会とする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	建学の精神と実践教育プログラム①: 科目オリエンテーション/学長講話および建学の精神について
第2回	進路・資格取得プログラム①: 就職活動の流れ
第3回	進路・資格取得プログラム②: 就職活動におけるマナー講座①(外部講師)
第4回	進路・資格取得プログラム③: 就職活動におけるマナー講座②(外部講師)
第5回	進路・資格取得プログラム④: 求人票の見方
第6回	進路・資格取得プログラム⑤: 情報収集発表①
第7回	進路・資格取得プログラム⑥: 情報収集発表②
第8回	進路・資格取得プログラム⑦: 自己分析①
第9回	進路・資格取得プログラム⑧: 自己分析②
第10回	進路・資格取得プログラム⑨: 自己分析③
第11回	進路・資格取得プログラム⑩: 履歴書
第12回	進路・資格取得プログラム⑪: 面接
第13回	進路・資格取得プログラム⑫: 卒業生からのメッセージ(就職編)
第14回	進路・資格取得プログラム⑬: 卒業生からのメッセージ(国家試験編)
第15回	進路・資格取得プログラム⑭: まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

教室指定をするので確認しておくこと。ポートフォリオを作成するためA4クリアファイル(厚めの物)を用意しておくこと。

〔受講のルール〕

間違っている、正しくなくても発言すること。他者の発言を糾弾し否定することは許されない。
ディスカッションには十分な準備が必要である。そのため、必ず配布された文献を読み、関連する資料を集めておくこと。
それらはすべてポートフォリオに収める。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

ポートフォリオ 100%

■教科書

進路の手引き

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	ボランティア活動I	担当教員 (単位認定者)	担任	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目			
	カリキュラム上の位置づけ		基礎科目		
キーワード	汎用的技能、態度・志向性、ボランティア、コミュニケーション				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

ボランティアへの参加を通し、医療従事者としての基本的態度を学び、身に付ける。幅広い視点・視野、協調性、行動力といった能力を中心に培うことを目的とする。

〔到達目標〕

- ① 本学におけるボランティア活動の位置づけについて理解し、説明することができる。
- ② 依頼ボランティアや学校行事ボランティアへの参加を通して、基本的参加態度やボランティアの必要性を理解することができる。
- ③ ボランティア体験を通して、医療従事者としての基本的態度などの実践を行うことができる。

■授業の概要

医療従事者を目指す者として、専門的な医学知識や技術の習得だけでなく、汎用的技能や態度・志向性を身につける必要がある。そのために必要なことをボランティア活動などを通して学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション/本学・本学部におけるボランティアの位置づけと自己目標の設定
第2回	ボランティアに臨むための態度
第3回	車椅子体験
第4回	高齢者体験
第5回	車椅子・高齢者体験まとめ
第6回	ボランティアについての講和
第7回	前期の振り返り
第8回	クリスマス会の企画
第9回	クリスマス会の企画、内容の検討、役割分担
第10回	クリスマス会予演会
第11回	クリスマス会予演会
第12回	クリスマス会
第13回	クリスマス会
第14回	クリスマス会の振り返り/1年を振り返って
第15回	1年を振り返って/学んだことの振り返り

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に係る情報〕

A4 クリアブックを用意。

〔受講のルール〕

この科目は、ボランティア活動を通して自分自身がどの様に成長したか自分でまとめていく作業があります。積極的なボランティア活動の実践が前提となっています。

依頼ボランティア参加方法について十分理解し、先方やボランティアセンターとトラブルのないように配慮してください。

■授業時間外学習にかかわる情報

初回オリエンテーション時に詳細を伝えます。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

◆ポートフォリオ 70%◆ボランティア参加状況 15%◆授業内発表 15%

■教科書

ボランティアハンドブック

■参考書

鈴木敏恵 著:ポートフォリオ評価とコーチング手法—臨床研修・臨床実習の成功戦略!, 医学書院, 2006

科目名	ボランティア活動Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	担任	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目			
	カリキュラム上の位置づけ	基礎科目「総合科学」			
キーワード	汎用的技能、態度・志向性、ボランティア、コミュニケーション				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

ボランティア実践や模擬場面での練習を通し、医療従事者としての基本的態度を身につける。

〔到達目標〕

- ①社会人・職業人としての基本的マナーを身に付け、実践することができる。
- ②自身のコミュニケーション能力について客観的に評価し、分析することができる。
- ③プレゼンテーションの適切な方法について理解、実践することができる。
- ④グループワークのプロセスについて理解し、プロセスを実践することができる。
- ⑤自分自身の課題を認識し、その改善のための具体的な取り組み方法を検討することができる。

■授業の概要

医療従事者を目指す者として、専門的な医学知識や技術の習得だけでなく、汎用的技能や態度・志向性を身につける必要がある。アクティブ・ラーニングを通じてこれらについて学び、医療従事者としての基本的態度を身につける。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション/ポートフォリオとは
第2回	マナー
第3回	マナー
第4回	マナー
第5回	マナー
第6回	コミュニケーション技能
第7回	コミュニケーション技能
第8回	コミュニケーション技能
第9回	講話:学生ボランティア経験について
第10回	資料の作成方法
第11回	資料の作成方法
第12回	資料の作成方法
第13回	グループワークの進め方
第14回	グループワークの進め方
第15回	学んだことの振り返り

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に係る情報〕

A4クリアブック(40ポケット)を用意。

〔受講のルール〕

積極的なボランティア活動の実践が前提である。

ふざけた態度や礼を欠く態度を取る者は受講を拒否することがある。

授業に関係ないものの持ち込みを禁止。特別な指示がない限り、携帯電話やスマートフォンは机に出さない。

■授業時間外学習にかかわる情報

初回オリエンテーション時に詳細を伝えます。

■オフィスアワー

各専攻担任より指示

■評価方法

ポートフォリオ 50%、授業内課題など 35%、ボランティア参加 15%。

■教科書

特になし。適宜紹介する。

■参考書

鈴木敏恵 著:ポートフォリオ評価とコーチング手法—臨床研修・臨床実習の成功戦略!, 医学書院, 2006

尾形圭子:イラッとされないビジネスマナー社会常識の正解, サンクチュアリ出版, 2010

2) 專門基礎科目

科目名	解剖学I	担当教員 (単位認定者)	伊東 順太	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」			
キーワード	骨格系、筋系				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

人体の構造と分類、特に骨格系、筋系および神経系について学び、運動に関係する基本的な解剖学的な構造を習得できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ① 椎骨の基本型と脊柱および胸郭の構成を説明することができる。
- ② 四肢の骨格の構成と各部の名称を説明することができる。
- ③ 頭蓋骨の構成と各部の特徴を説明することができる。
- ④ 四肢の筋群の起始停止部、支配神経および作用を説明することができる。
- ⑤ 体幹および頭頸部の筋群の構成と位置関係を説明することができる。
- ⑥ 骨の連結の種類と構造を説明することができる。
- ⑦ 脊柱と胸郭の連結を説明することができる。
- ⑧ 四肢の骨格の連結と運動を説明することができる。

■授業の概要

生体観察を通して、人体の区分、各部の特徴および骨格系と筋系、骨の連結について知り、理解できるようになることが必要である。また、解剖学実習、生理学実習、生理学、運動学の知識と双方向性の理解が必要となる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション、人体の各部の名称と方向用語
第2回	骨格系-1 上肢の骨
第3回	骨格系-2 上肢の骨
第4回	骨格系-3 骨盤、下肢の骨
第5回	骨格系-4、-5 椎骨、脊椎と胸郭
第6回	骨格系-5、-6 胸郭と頭部の骨、骨の構成
第7回	筋系-1 頭頸部の筋、頭部の各骨との連結
第8回	筋系-2 体幹の筋、胸部の筋
第9回	筋系-3 脊柱の筋、上肢の筋、肩関節
第10回	筋系-4 上肢の筋、肘関節、前腕の筋、手の筋
第11回	筋系-5 上肢の筋、肘関節、前腕の筋、手の筋
第12回	筋系-6 骨盤の筋、骨盤の連結、下肢の筋
第13回	筋系-7 骨盤の筋、骨盤の連結、下肢の筋
第14回	筋系-8 下肢の筋、下肢の連結と運動について
第15回	筋系-9 まとめ、試験について

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・講義の予習復習に十分な時間を割くこと。
- ・講義資料を配付しますので、解剖トレーニングノートおよび教科書の該当ページを必ず参照すること。

〔受講のルール〕

- ・授業概要を必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。
- ・最前列から着席し、授業を受けやすい環境を作ること。
- ・医療専門職及び対人サービス職として、出席時間の厳守および対象者が好感を持てる態度を身につけることは基本である。そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合は、受講を認めないことがある。
- ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話やスマートフォンの使用）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時間外には、予習復習に十分に時間を割くこと。特に、復習に重点を置き、授業内容はその日のうちに身につけること。

■オフィスアワー

授業後

■評価方法

筆記試験(客観・論述) 100%であり、60%を越えていることが必要である。しかし、総合評価には課題提出状況が良好であることが前提となる。

■教科書

- ・標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学 野村巖【編】 医学書院
- ・解剖トレーニングノート 竹内 修二 (著) 医学教育出版社

■参考書

- ・ネッター解剖学アトラス Frank H. Netter (著) 南江堂
- ・ネッター解剖生理学アトラス John T.Hansen (著) 南江堂
- ・プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論・運動器系 坂井 建雄 (著) 医学書院
- ・カラーイラストで学ぶ 集中講義 解剖学 メジカルレビュー社

科目名	解剖学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	伊東 順太	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」			
キーワード	脳、脊髄				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

人体の構造と分類、特に筋系、関節および神経系について学び、運動に関係する基本的な解剖学的な構造を習得できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①中枢神経の構造と機能および伝導路が説明することができる。
- ②末梢神経のうち、体性神経（脳神経、脊髄神経）の構成と分布先が説明することができる。
- ③末梢神経のうち、自律神経（交感神経、副交感神経）の構成と分布先が説明することができる。
- ④骨格系、筋系および神経系の構造を機能と関連づけて説明することができる。

■授業の概要

生体観察を通して、人体の区分、各部の特徴および筋系と神経系、筋の神経支配について知り、理解できるようになることが必要である。また、解剖学実習、生理学実習、生理学、運動学の知識と双方向性の理解が必要となる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、神経系と筋系との関わり
第2回	脳と脊髄-1 中枢神経系の全体的な構造、大脳と間脳の構造
第3回	脳と脊髄-2 中脳、橋、延髄、小脳、脊髄の構造
第4回	脳と脊髄-3 脳と脊髄のまとめ
第5回	脳と脊髄-4 中脳、橋、延髄、小脳、脊髄の伝導路
第6回	脊髄神経-1 脊髄神経の構造とその枝
第7回	脊髄神経-2、-3 頸神経叢、腕神経叢の構成とその枝
第8回	脊髄神経-4 腕神経叢の枝と支配筋
第9回	脊髄神経-5 腕神経叢のまとめ
第10回	脊髄神経-6 肋間神経の構成とその枝、支配筋
第11回	脊髄神経-7 腰神経叢の構成とその枝、支配筋
第12回	脊髄神経-8 仙骨神経叢の構成とその枝、支配筋
第13回	脊髄神経-9 坐骨神経の枝、支配筋
第14回	脊髄神経-10 腰神経総、仙骨神経叢のまとめ
第15回	脊髄神経-11 脳神経、自律神経、試験勉強

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・講義の予習復習に十分な時間を割くこと。
- ・講義資料を配付しますので、解剖トレーニングノートおよび教科書の該当ページを必ず参照すること。

〔受講のルール〕

- ・授業概要を必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。
- ・最前列から着席し、授業を受けやすい環境を作ること。
- ・医療専門職及び対人サービス職として、出席時間の厳守および対象者が好感を持てる態度を身につけることは基本である。そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合は、受講を認めないことがある。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話やスマートフォンの使用）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業後

■評価方法

筆記試験（客観・論述）100%であり、60%を越えていることが必要である。しかし、総合評価には課題提出状況が良好であることが前提となる。

■教科書

- ・標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学 野村巖【編】 医学書院
- ・解剖トレーニングノート 竹内 修二（著） 医学教育出版社

■参考書

- ・ネッター解剖学アトラス Frank H. Netter（著） 南江堂
- ・ネッター解剖生理学アトラス John T. Hansen（著） 南江堂
- ・プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論・運動器系 坂井 建雄（著） 医学書院
- ・カラーイラストで学ぶ 集中講義 解剖学 メジカルレビュー社

科目名	解剖学実習	担当教員 (単位認定者)	多田真和・栗原卓也	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」			
キーワード	脳神経系、呼吸器系、循環器系、消化器系、泌尿器系、内分泌系、平衡聴覚器				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

解剖学は、生理学、運動学、整形外科学および神経内科学等の専門基礎科目、さらに理学療法専門科目および作業療法専門科目等のすべての科目の基礎的知識であり、医療従事者として必須のものであるため、しっかりと知識を定着させる。

〔到達目標〕

- ①人体の構造を、器官系別に分類し理解できる。
- ②器官系別に理解した知識を有機的にまとめ、人体全体を立体的、総合的に理解できる。
- ③人体の構造を、自らの手で描き、説明することができる。

■授業の概要

「解剖学Ⅰ/Ⅱ」では「骨格系」、「筋系」および「神経系」を中心に授業が進められる。「解剖学実習」では、「脳神経系」に加え、人体の他の構成単位である「呼吸器系」、「循環器系」、「消化器系」、「泌尿器系」、「内分泌系」および「平衡聴覚器」について学ぶ。授業では、パワーポイント(ppt)やビデオ画像を多用し、視覚的に理解しやすいように配慮する。また、学年末には、実際の人体の解剖標本を目の当たりにすることで、授業で学んだ知識を立体的かつ総合的に理解を深められるようにする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	脳神経Ⅰ (脳室、大脳基底核)
第2回	オリエンテーション、呼吸器系
第3回	循環器系 (1)
第4回	循環器系 (2)
第5回	脳神経Ⅱ (脳血管、大脳辺縁系)
第6回	脳神経Ⅲ (CT, MRI)
第7回	循環器系 (3)
第8回	消化器系 (1)
第9回	消化器系 (2)
第10回	消化器系 (3)
第11回	泌尿器系
第12回	内分泌系 (1)
第13回	内分泌系 (2)
第14回	平衡聴覚器
第15回	脳神経Ⅳ (脳神経、末梢神経、自律神経)

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

授業に臨むにあたり、必ず該当分野の予習を行ってこよう。体内の位置と機能については、必須である。

〔受講のルール〕

将来の医療従事者として、相手から信頼感が得られるような態度および姿勢で授業に臨むこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

教科書の該当分野は前もって熟読し、自分が理解しにくい部分を明確にして授業に臨むこと。

■オフィスアワー

授業終了後の15分間、また、コメントカードに質問内容を記載すれば次回授業時に解説する。

■評価方法

筆記試験 100%

■教科書

標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第4版 野村巖【編】 医学書院
JIN ブックス 絵で見る脳と神経 しくみと障害のメカニズム 第3版 馬場元毅 著 医学書院

■参考書

授業中に適宜紹介してゆく。

科目名	体表解剖・触診演習	担当教員 (単位認定者)	新谷 益巳	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」			
キーワード	触診、ハンドリング、体表解剖、用手接触				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

解剖学、運動学で学んだ知識を用いて、実際に人体の観察・触知する技術の基礎を学ぶ。

〔到達目標〕

- ①対象者に不快を与えない手技について説明できる。
- ②対象者に対するあらゆる配慮について述べる事ができる。
- ③解剖学で学んだ主要な部位を体表から観察、触知できる。

■授業の概要

対象者が困難となっている日常生活の様々な活動について改善を促していくために、まず動作がどのように行われているのか(どのようにできていないのか)を観る事ができなければならない。また、これまでに学んだ解剖学や運動学に知識を照らし合わせて、原因となっている身体機能を見抜いていく必要がある。そのような能力を養う授業となる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション / 触診の基本
第2回	肩甲骨と鎖骨と上腕骨
第3回	橈骨と尺骨と手根骨と指骨
第4回	肩関節複合体に関連する靭帯、肘関節複合体に関連する靭帯、中手指節関節に関連する靭帯
第5回	肩甲上腕関節に関わる筋
第6回	肩甲胸郭関節に関わる筋
第7回	肘関節に関わる筋と手関節および手指に関わる筋
第8回	骨盤と大腿骨
第9回	膝関節周辺と足関節および足部周辺の下肢骨
第10回	スカルパ三角関連と膝関節関連と足関節関連の靭帯
第11回	股関節に関わる筋
第12回	膝関節に関わる筋
第13回	足関節および足部に関わる筋
第14回	胸郭に関連する諸組織
第15回	脊柱に関連する諸組織

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔服装指定〕

男性:水泳パンツ、女性:水着またはタンクトップ+ショートパンツのいずれか

〔学習方法〕

デルトマグラフィで皮膚に直接書き込みながら学習を進めていきます。

解剖学、運動学の知識を獲得済みであることが前提とします。不十分な者は事前学習を個人で進めてください。

■授業時間外学習にかかわる情報

〔復習支援〕

技術を身につけるために復習とトレーニングを支援します。到達度チェック表を使用したテクニカルトレーニングについて科目オリテンで説明します。

■オフィスアワー

木曜日 16:30～17:30

■評価方法

筆記試験(客観)100%とする。60点未満の場合、総合評価の対象としない。再試験:有。

■教科書

運動療法のための機能解剖学的触診術 上肢 林 典雄(執筆) MEDICAL VIEW
 運動療法のための機能解剖学的触診術 下肢 林 典雄(執筆) MEDICAL VIEW

■参考書

図解 四肢と脊柱の診かた Stanley Hoppenfeild 著 野島元雄監訳 医歯薬出版

科目名	生理学I	担当教員 (単位認定者)	神谷 誠	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」			
キーワード	神経系、運動器、造血器の生理機能				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

神経系、運動器、造血器の調節機構の基礎を身につけること、及び、専門科目に応用可能な知識を習得することを目的とする。

〔到達目標〕

- ① 神経系、運動器、造血器の基礎を解剖図・概念図を用いて簡潔に説明出来るようになる。
- ② 生理学全体を鳥瞰的に理解し、基本概念を全体の中での位置づけを意識して説明出来るようになる。
- ③ 他の基礎科目・専門科目に応用することが出来るようになる。

■授業の概要

生理学はヒトの体の正常の機能を理解することを目的としており、疾病から正常状態への復帰を目指すリハビリテーションには不可欠である。しかし、生理学の領域は膨大で、未だ解明されていないことが多くある。リハビリテーションの実践に、いかに生理学の知識を活用していくのかを常に念頭に置いて、体系的に理解が進められるように授業を進めていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	生命現象と人体①
第2回	生命現象と人体②
第3回	神経の興奮伝導
第4回	自律神経、シナプス
第5回	中枢神経系①
第6回	中枢神経系②
第7回	中枢神経系③
第8回	中枢神経系④
第9回	骨格筋
第10回	平滑筋、心筋、骨
第11回	感覚①
第12回	感覚②
第13回	血液①
第14回	血液②
第15回	心臓と循環①

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・予習復習は必ず行うこと。

〔受講のルール〕

- ・授業概要を必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・出席時間厳守。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業後

■評価方法

筆記試験（客観・論述）100%

総合評価は筆記試験が60%を超えていることが前提となる。

■教科書

標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第4版 医学書院 石澤光郎 富永淳 著

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	生理学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	神谷 誠	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」			
キーワード	循環器、呼吸器、泌尿生殖器、内分泌器の生理機能				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

循環器、呼吸器、泌尿生殖器、消化器、内分泌器の基礎を身につけること、及び、専門科目に応用可能な知識を習得することを目的とする。

〔到達目標〕

- ① 循環器、呼吸器、泌尿生殖器、消化器、内分泌器の基礎を解剖図・概念図を用いて簡潔に説明出来るようになる。
- ② 生理学全体を鳥瞰的に理解し、基本概念を全体の中での位置づけを意識して説明出来るようになる。
- ③ 他の基礎科目・専門科目に応用することが出来るようになる。

■授業の概要

理学はヒトの体の正常の機能を理解することを目的としており、疾病から正常状態への復帰を目指すリハビリテーションには不可欠である。しかし、生理学の領域は膨大で、未だ解明されていないことが多くある。リハビリテーションの実践に、いかに生理学の知識を活用していくのかを常に念頭に置いて、体系的に理解が進められるように授業を進めていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	心臓と循環 ①
第2回	心臓と循環 ②
第3回	呼吸とガスの運搬 ①
第4回	呼吸とガスの運搬 ②
第5回	尿の生成と排泄 ①
第6回	尿の生成と排泄 ②
第7回	酸塩基平衡
第8回	食道の消化と呼吸
第9回	内分泌 ①
第10回	内分泌 ②
第11回	代謝と体温 ①
第12回	代謝と体温 ②
第13回	生殖と発生
第14回	運動生理 ①
第15回	運動生理 ②

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・予習復習は必ず行うこと。

〔受講のルール〕

- ・授業概要を必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・出席時間厳守。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業後

■評価方法

筆記試験（客観・論述）100%（詳細な評価基準は授業シラバス参照）
総合評価は筆記試験が60%を超えていることが前提となる。

■教科書

標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第4版 医学書院 石澤光郎 富永淳 著

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	生理学実習	担当教員 (単位認定者)	大竹 一男	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る実習		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」			
キーワード	血圧測定、心電図、呼吸、体温、エネルギー、血液、尿、視覚、聴覚				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

生理学の授業で学んだ知識を最大限に活用し、実習を通じて生体の仕組みをより深く理解する。

〔到達目標〕

- ①人体の仕組みについての知識を習得し系統だてて説明できる。
- ②実際に医療現場で使われている器具や装置を適切に扱うことができる。
- ③お互い測定しあうことによって医療人としてのコミュニケーション能力を高めることができる。

■授業の概要

実際の医療の現場で使われている器具や装置を使って、私たちの血圧、呼吸、体温、心電図を実際に測定したり、血液を顕微鏡で観察したり、尿試験紙による尿検査も行います。また私たちが食物を摂取することによってエネルギーを生み出し、消費し、排泄するまでの一連の過程についても学習します。また、PT・OTの領域で特に重要な脳の可塑性、視覚や聴覚についての仕組みについても学びます。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	血圧測定の意義と方法について学ぶ。
第2回	実際に水銀血圧計で血圧を測定し、その評価ができる。
第3回	心電図の測定の意義と方法について学ぶ。
第4回	実際に心電図計で心電図を測定し、その評価ができる。
第5回	呼吸数及び呼吸機能の測定の意義と方法について学ぶ。
第6回	実際にスパイロメータで呼吸機能を測定し、その評価ができる。
第7回	体温測定の意義と方法について学ぶ。実際に体温を測定し、その評価ができる。
第8回	消化と吸収について学ぶ。消化管の運動(嚥下、蠕動運動、排便)について学ぶ。
第9回	エネルギー産生について学ぶ。十二指腸、肝臓、膵臓、胆のうのネットワークについて学ぶ。
第10回	体組成と腹囲測定の意義と方法について学ぶ。実際に体組成を測定し、その評価ができる。
第11回	神経細胞の軸索のネットワークと脳の可塑性
第12回	血液について学ぶ。実際の血液像を顕微鏡で観察し、その評価ができる。
第13回	尿の生成と排尿のしくみについて学ぶ。実際に尿検査を実施し、その評価ができる。
第14回	視覚についての基礎を学ぶ。盲点、瞳孔の反射の確認、色盲試験を行い、その評価ができる。
第15回	聴覚についての基礎を学ぶ。音の周波数の違い、平衡感覚試験を行い、その評価ができる。

■受講生に関わる情報および受講のルール

実習の実施に当たっては怪我のないように十分に注意し指導教員の指示に従うこと。実習で得られた検査結果を基に報告書(レポート)を作成し期限内に提出すること。その他、自習器具、検査値、感染性一般ゴミの取り扱いに注意し指導教員の指示に従うこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業後

■評価方法

授業提出レポート 30% レポート試験 70%

■教科書

標準理学療法学・作業療法学 生理学 第3版

■参考書

その都度指示する。

科目名	運動生理学演習	担当教員 (単位認定者)	小島俊文・新谷益巳	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	理学療法士国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」			
キーワード	運動・呼吸・循環・代謝・体力				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

運動療法は理学療法治療手段の根幹である。運動生理学演習の目的は、運動療法を治療手段として実施または指導する者として、運動が人体に対し「呼吸」「循環」「代謝」の面でどのような影響を与えるか、演習を通して学ぶことにある。

〔到達目標〕

- ①運動に対し循環系がどのように変化するか具体的に述べるができる。
- ②その他循環系に影響を与える因子と、それがどのような変化を起こすのか説明することができる。
- ③運動時の呼吸変化について具体的に述べるができる。
- ④最大酸素摂取量の求め方を述べるができる。
- ⑤体力テストの内容と評価方法について述べるができる。
- ⑥基礎代謝量とMet、消費カロリーの関係について述べるができる。

■授業の概要

演習が中心となるので、その手順について良く理解しておくことが重要である。

■授業計画

※下記予定は、受講生の理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション/理学療法と「呼吸」「循環」「代謝」・運動と循環 血圧とは？ 血圧を規定する因子(小島)
第2回	血圧計の取り扱い方・正しい血圧測定方法(小島)
第3回	姿勢変化・運動と血圧変化(小島)
第4回	バルサルバ試験の血圧および心拍数の変化(小島)
第5回	息こらえ中の血圧および心拍数の変化(小島)
第6回	寒冷刺激の血圧および心拍数の変化(小島)
第7回	最大酸素摂取量とは何か・最大酸素摂取量を求める(小島)
第8回	ATとは何か・ATを求める(小島)
第9回	酸素飽和度とは・酸素飽和度を求める(小島)
第10回	敏捷性の測定(小島)
第11回	METsについて(新谷)
第12回	消費カロリーについて(新谷)
第13回	重量感覚と温度感覚について(新谷)
第14回	疲労度の測定について(新谷)
第15回	運動による体表温度の変化について(新谷)

■受講生に関わる情報および受講のルール

・授業中の居眠りや、他の学生に迷惑となるような行為は厳に慎むこと。たび重なる注意を与えても改善が見られない場合は、退室してもらう場合がある。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業中は演習中心となる。ノートの整理をしておくこと。

■オフィスアワー

水曜日16時～17時 その他の曜日時間は要予約

■評価方法

筆記試験(客観・論述)100%

■教科書

教科書の設定なし

■参考書

理学療法概論 奈良 勲編 医歯薬出版
理学療法学概論 監修 千住 秀明

科目名	運動学I	担当教員 (単位認定者)	柴 ひとみ	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次必修科目 解剖学、生理学、力学の知識を必要とする。	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」			
キーワード	関節の形状、運動の名称、筋収縮、上肢の関節運動の主動筋、重心				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

身体の構造を理解しながら、体や各関節の動きを説明できることを目的とする。また、理学療法の対象となる上肢の骨関節障害の知識を得ることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①身体各部・各関節の名称及び運動の名称・運動面・運動軸を答えることができる。
- ②重心の定義を理解し、重心線が通る指標を列挙できる。
- ③運動時の筋収縮様態を説明することができる。
- ④上肢の各関節の形状分類を理解し関節運動を述べることも、主動筋を列挙することができる。
- ⑤上肢の関節の主な運動障害を列挙することができる。

■授業の概要

授業を通し、理学療法士として治療の対象となる機能障害を把握するうえで必要な正常なヒトの体のしくみについて学ぶ。自らの体を使って各関節や体の動きを理解し、主に上肢の主動筋と関節運動の関係を整理しながら運動の特徴を学ぶ。そのうえで、上肢の各関節における運動障害を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション/運動の基礎①身体各部位の名称、運動面
第2回	運動の基礎②運動方向の名称と運動軸、姿勢について
第3回	人体における重心について
第4回	関節の構造と運動について
第5回	筋の収縮のメカニズムについて、顔面の運動に作用する筋
第6回	肩複合体の運動①
第7回	肩複合体の運動② 肩関節の筋とその作用
第8回	肩関節の筋とその作用
第9回	肩甲骨周囲の筋とその作用
第10回	肩複合体の運動障害、肘関節の構造
第11回	肘関節の運動、前腕の運動 ①
第12回	前腕の運動 ②、肘の運動障害
第13回	手関節の構造と運動について
第14回	手指の関節の構造と運動について
第15回	手の運動障害

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・解剖学が基礎となるため履修内容に関連した範囲は必ず学習すること。

〔受講のルール〕

- ・授業計画を必ず確認し理解を深めるよう積極的に授業に臨むこと。
- ・授業の流れや雰囲気や迷惑行為、他の受講生の迷惑になる行為（携帯電話の使用、私語）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

毎回授業の冒頭で小テストを行うので、前回の講義内容を復習して臨むこと。また、小テストで正答率60%未満の学生に対しては補講を行うので、小テスト内容を復習したうえで出席すること。類似した事前学習シートは、受け付けない。

■オフィスアワー

木曜日16時～17時は随時（変更時は掲示する）その他の曜日については要予約。

■評価方法

筆記試験（客観）70%、レポート（15%）、事前学習シート（15%） 総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提となる。

■教科書

藤縄理編：シンプル理学療法学シリーズ 運動学テキスト、南江堂 林典雄：機能解剖学的触診技術上肢 下肢・体幹、メディカルビュー

■参考書

野村巖編：標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学第3版 医学書院

中村隆一：基礎運動学第6版 医学書院

科目名	運動学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	柴 ひとみ	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次必修科目 解剖学、生理学、力学の知識を必要とする。	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」			
キーワード	関節の形状、運動の名称、体幹・下肢の関節運動の主動作筋、呼吸、歩行				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

身体の構造を理解しながら、体や各関節の動きを説明できることを目的とする。また、理学療法の対象となる骨関節障害の知識を得ることを目的とする。

〔到達目標〕

- ① 下肢帯・体幹・頭部の関節運動とその主動作筋を答えることができる。
- ② 下肢や体幹の主な運動障害を列挙することができる。
- ③ 呼吸運動における胸郭の動きを説明することができる。
- ④ 歩行周期を説明することができる。
- ⑤ 歩行時の下肢関節の運動や重心の移動を説明することができる。

■授業の概要

授業を通し、理学療法士として治療の対象となる機能障害を把握するうえで必要な正常なヒトの体のしくみについて学ぶ。自らの体を使って各関節や体の動きを理解し、運動の特徴を学ぶ。そのうえで、体幹・下肢の各関節における運動障害を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション/ 骨盤・股関節の運動について
第2回	股関節の運動に作用する筋①
第3回	股関節の運動に作用する筋②
第4回	骨盤・股関節の運動障害、股関節のバイオメカニクス
第5回	膝関節の運動
第6回	膝関節の運動と運動障害
第7回	距腿関節の構造、足部の運動について
第8回	下腿・足根・足部の運動障害
第9回	頭部と頸部、体幹の運動
第10回	体幹の運動、頭部と頸部・胸椎・腰椎の運動障害
第11回	胸郭と呼吸運動について
第12回	正常歩行：歩行周期
第13回	正常歩行：下肢の関節運動と重心の移動
第14回	正常歩行：歩行時の下肢の筋活動について
第15回	運動学習

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・解剖学が基礎となるため履修内容に関連した範囲は必ず学習すること。

〔受講のルール〕

- ・授業計画を必ず確認し理解を深めるよう積極的に授業に臨むこと。
- ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（携帯電話の使用、私語）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

毎回授業の冒頭で小テストを行うので、前回の講義内容を復習して臨むこと。また、小テストで正答率 60%未満の学生に対しては補講を行うので、小テスト内容を復習したうえで出席すること。類似した事前学習シートは、受け付けない。

■オフィスアワー

木曜日 16時～17時は随時（変更時は掲示する）その他の曜日については要予約。

■評価方法

筆記試験（客観）70% 事前学習シート（30%） 総合評価は筆記試験が 60%以上であることが前提となる。

■教科書

藤縄理編：シンプル理学療法学シリーズ 運動学テキスト. 南江堂 林典雄：機能解剖学的触診技術上肢 下肢・体幹. メディカルビュー

■参考書

野村巖編：標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学第3版 医学書院
中村隆一：基礎運動学第6版 医学書院

科目名	臨床運動学実習	担当教員 (単位認定者)	横山 雅人	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻2年次必修科目 解剖学、生理学、運動学、力学の知識を必要とする。	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」			
キーワード	臨床運動学実習				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

身体の構造を理解しながら、健全なヒトの動作を運動学的に説明できることを目的とする。また、理学療法の場面で使用される機器について知識を得ることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①姿勢を体位や構えで説明することができる。
- ②バイオメカニクスの基礎的知識を理解し、動作を専門用語を使用して説明することができる。
- ③立ち上がり動作を運動学的に説明ことができ、列挙できる。
- ④寝返り・起き上がり動作を運動学的に説明することができる。
- ⑤歩行動作を運動学的に説明することができる。
- ⑥基本的なレポート作成ができる。

■授業の概要

授業を通し、理学療法士として治療の対象となる機能障害を把握するうえで必要な正常なヒトの体のしくみについて興味を持つことが重要である。自らの体を使って各動作を理解し、運動の特徴を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、姿勢、座位バランス
第2回	姿勢・立位バランス ※レポート課題
第3回	生体力学の基礎・スクワット動作①
第4回	生体力学の基礎・スクワット動作②
第5回	生体力学の基礎・スクワット動作③ ※小テスト実施
第6回	立ち上り動作①
第7回	立ち上り動作②
第8回	立ち上り動作③ ※レポート課題
第9回	寝返り・起き上がり動作①
第10回	寝返り・起き上がり動作②
第11回	寝返り・起き上がり動作③ ※レポート課題
第12回	歩行動作①
第13回	歩行動作②
第14回	歩行動作③ ※レポート課題
第15回	機器を用いた動作観察・動作分析/臨床的な動作観察・動作分析

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・運動学が基礎となるため履修内容に関連した範囲は必ず学習すること。
- ・実習については学校指定ジャージを着用のこと。

〔受講のルール〕

- ・授業概要を必ず確認し理解を深めるよう積極的に授業に臨むこと。
- ・類似したレポートを判断した場合、いかなる理由においても減点とする。
- ・授業の流れや雰囲気や迷惑行為、他の受講生の迷惑になる行為（携帯電話の使用、私語）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

重心動揺計や筋電図、三次元動作解析装置を用いて実習を行うが、授業内で終わることができない場合、授業時間外で行うこととする。

■オフィスアワー

水曜日16時～17時（その他の曜日については要予約）

■評価方法

筆記試験（客観）50%、レポート40%、小テスト10%の総合評価にて判定するが、筆記試験が60%以上であることが前提となる。

■教科書

藤縄理・編：シンプル理学療法学シリーズ 運動学テキスト、南江堂
 石川朗・総編：理学療法テキスト 臨床運動学、中山出版
 石井慎一郎：動作分析 臨床活用講座、メジカルビュー
 市橋則明・編：運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第二版、文光堂

■参考書

中村隆一：基礎運動学 第6版、医歯薬出版

科目名	人間発達学	担当教員 (単位認定者)	北爪 浩美	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	理学療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係わる必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」			
キーワード	ライフステージ、発達、発達過程				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

ヒトの神経系の発達と運動発達、認知・精神機能及び社会性の発達を学び、リハビリテーションに携わるものとしてQOLの視点から対象者の発達区分や状況に応じた対応ができるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①発達の諸段階と発達課題について説明できる。
- ②ヒトの発達における身体、認知機能の発達について理解し、説明することができる。
- ③心理、社会生活活動の発達について理解し、説明することができる。
- ④育ちを支える社会機構について理解し、説明することができる。

■授業の概要

ヒトの発達は脳を中心とする神経系の発達と外部からの情報を入力することでなされ、様々な機能や行動を学習し成熟する。発達を理解することでリハビリテーションにおける対象者の状況や目標を適切に把握するため、発達過程や発達課題について学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、人間発達の概念
第2回	乳児期の発達、反射、神経系の発達
第3回	乳児期の反射、神経系の発達
第4回	乳児期の発達（3～7か月）、原始反射、反応
第5回	乳児期及び幼児期の発達、反射反応と運動発達の関係
第6回	学童期の発達
第7回	青年期、成人期の発達
第8回	高齢期の発達

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・授業で配布する資料の予備は保管しないため、欠席した場合は出席者からコピーすること。
- ・授業の流れや雰囲気を乱す行為、常識を欠く行為（私語、携帯電話の使用など）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

月～水曜日の午前中。時間については事前に申し出ること。

■評価方法

筆記試験 100%

■教科書

福田恵美子編：コメディカルのための専門基礎テキスト 人間発達学 2版. 中外医学社. 2009

■参考書

前川喜平著：小児リハビリテーションのための神経と発達の診かた. 新興医学出版社. 2002

科目名	病理学概論	担当教員 (単位認定者)	前島 俊孝	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係わる必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」			
キーワード	病因、病態				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

病理学的な用語の定義、様々な疾患の発生機序や病態について学び、理解することを目的とする。

〔到達目標〕

- ・病理学関連の用語を理解し、正しく説明できる。
- ・基本的な疾患の病態について説明できる。

■授業の概要

細胞傷害、循環障害、先天異常、炎症、免疫、腫瘍、代謝異常などを学び、様々な疾病の成り立ち・病態が理解できるよう解説する。病理学概論の内容は、将来医療スタッフとして働いていく上で必要不可欠な知識であり、その理解なしには医学書を読むことも不可能である。覚えることが多いが、できるだけ考えることを重視した講義を行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション
第2回	解剖学の復習
第3回	病因
第4回	細胞傷害
第5回	循環障害 I
第6回	循環障害 II
第7回	炎症
第8回	免疫、アレルギー
第9回	腫瘍 I
第10回	腫瘍 II
第11回	腫瘍 III
第12回	代謝異常、糖尿病
第13回	先天異常
第14回	感染症
第15回	まとめ・補足

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・春休みに解剖学全般の復習をして、病理学概論の講義に臨んで欲しい。
- ・机の隣同士2～3人で相談し、毎時間、病理学と解剖学の教科書を各1冊は用意すること。
- ・病理学概論の講義では授業中の質問に対して「わからない」は禁句である。試験ではないので、教科書等で調べたり、周り相談するなどして何らかの答えを導き出すように。
- ・時間厳守であるが、もし遅刻した場合やトイレ等で退室する際などは、授業の妨げとならないよう静かに行動すること。
- ・新聞やテレビなどのニュース、特に医療・医学に関する内容に興味を持つ。
- ・読書の習慣を身につける。

■授業時間外学習にかかわる情報

講義を受けることで、教科書を理解して読むことが可能となるはずである。月に2回程度、週末で構わないので、講義で扱った範囲の教科書を読む習慣をつけておくと、試験直前に勉強を0から始めるような状況にならずにすむ。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

筆記試験(客観・論述)80%、レポート20%。

■教科書

堤 寛: クイックマスター 病理学, サイオ出版, 2015

■参考書

解剖学の教科書(病理学概論の講義でも使用する)

科目名	臨床心理学	担当教員 (単位認定者)	橋本 広信	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」			
キーワード	精神分析、分析心理学、対象関係論、交流分析、認知行動療法、クライアント中心療法、自律訓練法、芸術療法、森田療法、内観療法、SST他				

■授業の目的・到達目標

代表的な心理療法の理論と実際についてその基本を学び、内面的な支援を必要とする人の心理と回復のプロセスを考えていく。臨床心理学は、人間の心に対する様々な異なる考え方に基づき成立している。それらはすべて個人の心や行動の変容を目指す。それぞれの理論によって、目指すところも、そこに近づくための手段も大きく異なってくる。そうした違いを理解することにより、「人の心が回復する」ということについての考えを深めていく。

■授業の概要

臨床心理学領域における国家試験問題に対処できる基礎知識を習得する。また、集団としての人ではなく、独自の存在として生きる一人ひとりの人が、人生の途上で出会う心の問題に対する見方を深め、多面的に理解し、その対処のあり方をイメージできることを目的とする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション 臨床心理学とは？
第2回	精神分析の理論と技法：フロイトと無意識の発見
第3回	心の探求のその後① C.G. ユングと分析心理学を中心に
第4回	心の探求のその後② フロイト理論の発展と修正
第5回	人間関係を分析する 交流分析
第6回	ロジャーズの人格理論とクライアント中心療法
第7回	行動療法
第8回	認知行動療法
第9回	芸術・表現療法
第10回	森田療法・内観療法
第11回	家族療法
第12回	集団心理療法
第13回	リハビリ患者の心理と障害受容を考える①
第14回	リハビリ患者の心理と障害受容を考える②
第15回	リハビリ患者の心理と障害受容を考える③

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・国家試験に関連する科目である。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用等）は退席を明示します。その場合は欠席扱いとします。
- ・評価方法にある通り、5回程度小レポートや感想文を課します。それぞれ評価の対象になりますので、必ず提出してください。

■授業時間外学習にかかわる情報

シラバスで指示する内容について取り組むこと。

■オフィスアワー

基本的に授業後の休憩時間としますので、声をかけてください。

■評価方法

- ・総合評価は、以下の通りの割合で、評価。総合得点 60～69点:C 70～79:B 80～89:A 90点以上:S
- ・期末試験 70%、小レポート・感想文等提出物 30% (30÷提出回(予定5回)=1提出物得点(1回6点))
- ※課題提出がない場合もありうるが、その場合は試験 100%となる。

■教科書

やさしく学べる心理療法の基礎(2003) 窪内節子・吉武光世著 培風館

■参考書

適宜指示。

科目名	一般臨床医学	担当教員 (単位認定者)	栗原 卓也	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修 社会福祉主事任用資格指定科目		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」			
キーワード	生活習慣病、がん、感染症、生殖、移植				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

その病気がなぜ起こり、体の中でどのような異常が起こっているのか、そしてその状態を改善するためにはどのような方法をとればいいのかを、簡潔かつ的確に述べられることを目標とする。

〔到達目標〕

- ①各種疾患の症状や障害発生のメカニズムを病態生理学的に説明できる。
- ②疾患診断にあたっての代表的な手法や主要な治療方法、予後について説明できる。

■授業の概要

将来、医療の世界で活躍してゆく者にとって必要な医学の知識を、白紙の状態である君たちに、出来る限りわかりやすく、平易に伝えてゆく。人体を構成する各臓器の単位で、まずは構造（解剖）機能（生理）を学習し、ついでその破綻（病理）とその修復（治療）を、君たちが将来必ず直面する疾患に焦点を絞って解説する。1年次で並行して学習する、解剖学、生理学、生化学に役立ち、2年次で学習する病理学、内科学に直結する内容となるよう配慮している。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	・授業オリエンテーション ・ 医学とは？ 医学の歴史、医学の分類、医療の約束事（ルール）
第2回	生命維持のしくみ I 細胞、組織、血液
第3回	生命維持のしくみ II 循環器（心臓、血管）
第4回	生活習慣病I 動脈硬化のメカニズム（高血圧症）
第5回	生活習慣病II 動脈硬化のメカニズム（糖尿病、脂質異常症、メタボリック症候群）
第6回	生活習慣病III 動脈硬化の末路（脳血管障害）
第7回	生活習慣病IV 動脈硬化の末路（狭心症・心筋梗塞）
第8回	小テスト①（第1講から第6講までの範囲）、生命維持のしくみ III 呼吸器（口腔、鼻咽腔、気管、肺）
第9回	呼吸器の障害：炎症、閉塞性肺疾患、拘束性肺疾患、たばこの問題
第10回	細胞の暴走=がん：がんとは？がんの問題点、治療方法
第11回	生命維持のしくみ IV 消化器（消化管、腹腔内臓器）
第12回	消化器の障害：消化管のがん、潰瘍、肝炎
第13回	小テスト②（第7講から第12講までの範囲）、外敵の侵入：感染症
第14回	次世代につなぐ命I：生殖（妊娠、不妊症）
第15回	次世代につなぐ命II：臓器移植、細胞移植

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。

テキストはなく、授業時に配布する資料がテキストとなる。授業はハイスピードで進む。高校の授業とは違うことを認識すること。そのためには、KeyWordsを参照しながら、授業に集中することが要求される。そして、授業終了後にKeyWordsの指示事項を整理記憶することが必須である。この作業ができない者は、将来、患者さんからの情報を収集、分析することはできない。なお配布資料については、朝のホームルーム前に週番が講師室に受け取りに来て、責任を持ってクラスの全員に配布すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

第1回の授業で配布するKeywordに従って、要点を整理してゆくこと。A4のノートの左側にKeywordを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を記載してゆくこと。復習が重要となる。

■オフィスアワー

木曜日の授業終了後

■評価方法

筆記試験による期末試験で、60%以上の得点を得る事が、成績評価の前提条件である。その上で、学期中に2回行なう小テストの点数を50%（25点x2回）、期末テストの点数に50%（50点）の配分をした点数をもって、成績評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しない。欠席の場合は、如何なる理由でも0点となる。期末の再試験においても、小テストの再試験は実施せず、前期講義の全範囲の内容の100点満点の再試験で、単位修得の可否のみ判定（CまたはD評価のみとなる）する。日頃の健康管理も重要であり、医療人となる者にとっては必須の事項である。各テストは、空欄補充形式の問題と指定範囲内の過去の国家試験問題からなる。

■教科書

広範囲な内容にふさわしい適切なテキストがないため、特に指定しない。授業で配布するプリントの蓄積がテキストとなる。

■参考書

授業中に適宜紹介する。

科目名	リハビリテーション医学	担当教員 (単位認定者)	栗原 卓也	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修 社会福祉主事任用資格指定科目		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」			
キーワード	廃用症候群、運動器リハ、脳神経リハ、心臓リハ、呼吸器リハ				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

第4の医学といわれるリハビリテーション医学の成り立ち、背景を理解し、対象とする疾患の病態生理ならびに解決方法を、簡潔にかつ的確に述べられること。

〔到達目標〕

①痛みや機能障害発生のメカニズムを病態生理学的に説明できる。②診断にあたっての手順とその所見が説明できる。③治療方法の根拠と手順が説明できる。④治療前後の病態の変化が観察、理解、明示できる。

■授業の概要

2年次以降に展開される、専門科目や実習で必要となるリハビリテーション医学の内容は、広範囲にわたり、膨大な知識が必要となる。授業では、各項目について要点のみ簡潔に解説し、身についた知識が幹となり、2年次以降に学習する各専門科目に花開き、国家試験ならびに将来の現場で実を結ぶように配慮している。テキストは、基礎医学、臨床医学を学習している事が前提に記載されており、難解であり、予習は不可能である。未学習分野をプリントやビデオで補い、基礎的なところから疾患の病態に入り、その疾患に対するリハビリテーションの実際を重要点に絞って解説する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、リハビリテーション医学総論Ⅰ（歴史、理念、位置づけ、評価）
第2回	リハビリテーション医学総論Ⅱ（医療経済学）
第3回	リハビリテーション医学総論Ⅲ（評価、廃用症候群）
第4回	運動器リハビリテーションⅠ（骨疾患、骨折）
第5回	運動器リハビリテーションⅡ（関節疾患 1）
第6回	運動器リハビリテーションⅢ（関節疾患 2）
第7回	運動器リハビリテーションⅣ（腰痛、頸肩腕痛）
第8回	運動器リハビリテーションⅤ（スポーツ外傷障害、複合性局所疼痛症候群）
第9回	小テスト①（第1回から第8回までの内容） 脳神経リハビリテーションⅠ（脳血管障害の病態、急性期リハビリテーション）
第10回	脳神経リハビリテーションⅡ（脳血管障害の回復期、維持期のリハビリテーション）
第11回	脳神経リハビリテーションⅢ（高次脳機能障害）
第12回	脳神経リハビリテーションⅣ（認知症）
第13回	脳神経リハビリテーションⅤ（神経変性疾患）
第14回	小テスト②（第9回から13回までの内容）、内科領域のリハビリⅠ（心臓リハビリ、生活習慣病、内部障害のリハビリ）
第15回	内科領域のリハビリⅡ（呼吸器リハビリテーション）

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。

Keywordに基づき、集中して授業を聞き取ることが必須となる。自分の授業前の作業が、的確であったか否かの確認となる。さらに派生する重要事項も吸収することが必要で、1時間半の集中を要求する。

■授業時間外学習にかかわる情報

第1回の授業で配布するKeywordに従って、教科書で重要点を予習しておくこと。A4のノートの左側にKeywordを短冊状に切って貼り付け、右側のページに指定内容を記載しておく。授業でその内容を確認して、さらに追加内容を復習すること。

■オフィスアワー

木曜日の授業終了後の休憩時間

■評価方法

筆記試験による期末試験で、60%以上の得点を得る事が、成績評価の前提条件である。その上で、学期中に2回行なう小テストの点数を50%（25点x2回）、期末テストの点数に50%（50点）の配分をした点数をもって、成績評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しない。欠席の場合は、如何なる理由でも0点となる。期末の再試験においても、小テストの再試験は実施せず、後期講義の全範囲の内容の100点満点の再試験で、単位修得の可否のみ判定（CまたはD評価のみとなる）する。日頃の健康管理も重要であり、医療人となる者にとっては必須の事項である。各テストは、空欄補充形式の問題と指定範囲内の過去の国家試験問題からなる。

■教科書

最新リハビリテーション医学 米本 恭三 監修 医歯薬出版株式会社

■参考書

授業中に適宜紹介する。

科目名	内科・老年医学I	担当教員 (単位認定者)	栗原 卓也	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」			
キーワード	内科診断学、症候学、循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

目の前の患者さん、利用者さんの持っている内科的疾患に対して、その病態、治療内容、起こりうる合併症が把握、理解できるようになることである。到達目標は、理学療法士として活躍するために必要な内科学領域の知識、技術を習得することである。

〔到達目標〕

- ①メカニズムを病態生理学的に説明できる。
- ②診断にあたっての手順とその根拠が説明できる。
- ③治療方法の根拠と手順が説明できる。
- ④治療前後の病態の変化が観察、理解、明示できる。

■授業の概要

臨床医学の根幹をなす内科学について、各臓器別に、解剖学、生理学的知識を再確認しながら、疾患の病態生理、検査方法、治療方法を学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、内科学の概念 症候学I
第2回	症候学II
第3回	循環器I
第4回	循環器II
第5回	循環器III
第6回	循環器IV
第7回	呼吸器I
第8回	小テスト①(循環器IからIVの範囲)、呼吸器II
第9回	呼吸器III
第10回	呼吸器IV
第11回	消化器I
第12回	小テスト②(呼吸器IからIVの範囲)、消化器II
第13回	肝 胆 膵 I
第14回	肝 胆 膵 II
第15回	肝 胆 膵 III

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。チェックシート以外の重要点も随時強調する。神経を研ぎ澄ませ、聞き漏らさぬこと。1時間半の集中を要求する。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業で配布するチェックシートに従って、学習する。A4のノートの左側にチェックシートを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を教科書から調べ記載してゆくこと。これが予習である。授業で自分の事前の作業の妥当性を確認し、自宅で問題演習と併せ復習を行う。

■オフィスアワー

木曜日の授業終了後

■評価方法

筆記試験による期末試験で、60%以上の得点を得る事が、成績評価の前提条件である。その上で、学期中に2回行なう小テストの点数を50%(25点x2回)、期末テストの点数に50%(50点)の配分をした点数をもって、成績評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しない。欠席の場合は、如何なる理由でも0点となる。期末の再試験においても、小テストの再試験は実施せず、前期講義の全範囲の内容の100点満点の再試験で、単位修得の可否のみ判定(CまたはD評価のみとなる)する。日頃の健康管理も重要であり、医療人となる者にとっては必須の事項である。各テストは、空欄補充形式の問題と指定範囲内の過去の国家試験問題からなる。

■教科書

標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 内科学 第3版 前田 眞治 他 執筆 医学書院

■参考書

授業中に適宜紹介する。

科目名	内科・老年医学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	栗原 卓也	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」			
キーワード	血液疾患、内分泌代謝疾患、腎泌尿器疾患、膠原病、アレルギー疾患、感染症、皮膚科学、老年病				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

目の前の患者さん、利用者さんの持っている内科的疾患に対して、その病態、治療内容、起こりうる合併症が把握、理解できるようになることである。到達目標は、理学療法士として活躍するために必要な内科、老年医学領域の知識、技術を習得することである。

〔到達目標〕

- ①各種徴候や症状の発生メカニズムを病態生理学的に説明できる。
- ②診断にあたっての手順とその根拠が説明できる。
- ③治療方法の根拠と手順が説明できる。
- ④治療前後の病態の変化が観察、理解、明示できる。

■授業の概要

臨床医学の根幹をなす内科学を、各臓器別に、解剖学、生理学的知識を再確認しながら、疾患の病態生理、検査方法、治療方法を学習する。後半では、加齢に伴う生体の変化、高齢者特有の疾患の病態生理を重要点に絞り学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	血液 造血器 I
第2回	血液 造血器 II
第3回	代謝
第4回	内分泌 I (総論)
第5回	内分泌 II (各論)
第6回	腎・泌尿器 (I)
第7回	小テスト①(血液造血器、代謝、内分泌が範囲)、腎、泌尿器 II
第8回	腎、泌尿器 III
第9回	アレルギー疾患
第10回	膠原病
第11回	感染症 I 総論
第12回	感染症 II 各論
第13回	小テスト②(腎泌尿器、アレルギー膠原病が範囲)、老年学 I (総論)
第14回	老年学 II (高齢者に特徴的な症候と疾患①)
第15回	老年学 III (高齢者に特徴的な症候と疾患②)

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。

チェックシート以外の重要点も随時強調する。神経を研ぎ澄ませ、聞き漏らさないこと。1時間半の集中を要求する。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業で配布するチェックシートに従って、学習する。A4のノートの左側にチェックシートを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を教科書から調べ記載してゆくこと。これが予習である。授業で自分の事前の作業の妥当性を確認し、自宅で問題演習と併せ復習を行う。

■オフィスアワー

木曜日の授業終了後

■評価方法

筆記試験による期末試験で、60%以上の得点を得る事が、成績評価の前提条件である。その上で、学期中に2回行なう小テストの点数を50%(25点x2回)、期末テストの点数に50%(50点)の配分をした点数をもって、成績評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しない。欠席の場合は、如何なる理由でも0点となる。期末の再試験においても、小テストの再試験は実施せず、後期講義の全範囲の内容の100点満点の再試験で、単位修得の可否のみ判定(CまたはD評価のみとなる)する。日頃の健康管理も重要であり、医療人となる者にとっては必須の事項である。各テストは、空欄補充形式の問題と指定範囲内の過去の国家試験問題からなる。

■教科書

標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 内科学 第3版 前田 眞治 他 執筆 医学書院
標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 老年学 第3版 大内 尉義 編集 医学書院

■参考書

授業中に適宜紹介する。

科目名	整形外科学I	担当教員 (単位認定者)	栗原 卓也	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」			
キーワード	骨疾患、骨折、関節疾患、変形性関節症、関節リウマチ、脊椎疾患、脊髄損傷				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

筋骨格系疾患の痛み、機能障害を訴える患者の体の異常を的確に把握し、その現象（病態生理）をわかりやすく説明できるようにすることである。その上で、その異常（痛みや機能障害）を改善するためには、どのような方法をとればよいのか説明できるようにすることである。

〔到達目標〕

- ①痛みや機能障害発生のメカニズムを病態生理学的に説明できる。
- ②診断においての手順とその所見が説明できる。
- ③治療方法の根拠と手順が説明できる。
- ④治療前後の病態の変化が観察、理解、明示できる。

■授業の概要

運動器（筋、骨格、神経系）の機能障害を対象とする外科学の1分野であるが、外科的手技だけでなく、保存的治療も重要である。理学、作業療法は、保存的治療の主役であり、将来の君たちが治療の主役を担う事となる。リハビリテーション医療においては、必須の科目であり、日常よく遭遇する疾患を重点的に学習し、繰り返し行なう問題演習により、知識の定着を図る。将来君たちが現場に出た時に、迷わず動く事ができる実用的な知識を伝える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、骨 I:骨の基礎
第2回	骨 II:骨疾患、骨折総論①
第3回	骨 III:骨折総論②
第4回	骨 IV:骨折各論① 体幹部の骨折
第5回	骨 V:骨折各論② 上肢の骨折
第6回	骨 VI:骨折各論③ 下肢の骨折
第7回	関節 I:関節の基本構造、関節の変形、先天性股関節脱臼
第8回	小テスト①(骨IからVIまでの範囲)、関節 II:変形性関節症総論
第9回	関節 III:変形性関節症各論
第10回	関節 IV:関節リウマチ
第11回	関節 V:外傷性疾患①
第12回	関節 VI:外傷性疾患②
第13回	小テスト②(関節IからVIまでの範囲)、脊椎 I:脊椎の構造、障害部位と神経所見、脊椎疾患①
第14回	脊椎 II:脊椎疾患②
第15回	脊椎 III:脊椎疾患③

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。

チェックシート以外の重要点も随時強調する。神経を研ぎ澄ませ、聞き漏らさないこと。1時間半の集中を要求する。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業で配布するチェックシートに従って、学習する。A4のノートの左側にチェックシートを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を教科書から調べ記載してゆくこと。これが予習である。授業で自分の事前の作業の妥当性を確認し、自宅で問題演習と併せ復習を行う。

■オフィスアワー

木曜日の授業終了後

■評価方法

筆記試験による期末試験で、60%以上の得点を得る事が、成績評価の前提条件である。その上で、学期中に2回行なう小テストの点数を50%(25点x2回)、期末テストの点数に50%(50点)の配分をした点数をもって、成績評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しない。欠席の場合は、如何なる理由でも0点となる。期末の再試験においても、小テストの再試験は実施せず、前期講義の全範囲の内容の100点満点の再試験で、単位修得の可否のみ判定(CまたはD評価のみとなる)する。日頃の健康管理も重要であり、医療人となる者にとっては必須の事項である。各テストは、空欄補充形式の問題と指定範囲内の過去の国家試験問題からなる。

■教科書

標準整形外科学 第12版 中村利孝 他編 医学書院
1年次で使用した、リハビリテーション医学(医歯薬出版)も適宜使用する。

■参考書

授業中に適宜紹介する。

科目名	整形外科学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	栗原 卓也	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」			
キーワード	末梢神経疾患、神経、筋疾患、骨軟部腫瘍、四肢切断、義肢装具、スポーツ外傷、熱傷				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

筋骨格系疾患の痛み、機能障害を訴える患者の体の異常を的確に把握し、その現象(病態生理)をわかりやすく説明できるようにすることである。その上で、その異常(痛みや機能障害)を改善するためには、どのような方法をとればよいのか説明できるようになることである。

〔到達目標〕

- ①痛みや機能障害発生のメカニズムを病態生理学的に説明できる。
- ②診断にあたっての手順とその所見が説明できる。
- ③治療方法の根拠と手順が説明できる。
- ④治療前後の病態の変化が観察、理解、明示できる。

■授業の概要

運動器(筋、骨格、神経系)の機能障害を対象とする外科学の1分野であるが、外科的手技だけでなく、保存的治療も重要である。理学、作業療法は、保存的治療の主役であり、将来の君たちが治療の主役を担う事となる。リハビリテーション医療においては、必須の科目であり、日常よく遭遇する疾患を重点的に学習し、繰り返し行なう問題演習により、知識の定着を図る。将来君たちが現場に出た時に、迷わず動く事ができる実用的な知識を伝える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	脊髄損傷 I
第2回	脊髄損傷 II
第3回	脊髄損傷 III
第4回	末梢神経 I
第5回	末梢神経 II
第6回	神経・筋疾患
第7回	小テスト①(脊髄損傷IからIIIと末梢神経IからIIが範囲)、骨・軟部腫瘍
第8回	四肢の循環障害と壊死性疾患
第9回	切断および離断と義肢 I
第10回	切断および離断と義肢 II
第11回	切断および離断と義肢 III
第12回	小テスト②(神経筋疾患、骨軟部腫瘍腫瘍、四肢循環障害、壊死性疾患、切断、離断、義肢が範囲) 熱傷、手の外科
第13回	スポーツ外傷・障害 I
第14回	スポーツ外傷・障害 II
第15回	整形外科的治療法

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。
チェックシート以外の重要点も随時強調する。神経を研ぎ澄ませ、聞き漏らさないこと。1時間半の集中を要求する。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業で配布するチェックシートに従って、学習する。A4のノートの左側にチェックシートを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を教科書から調べ記載してゆくこと。これが予習である。授業で自分の事前の作業の妥当性を確認し、自宅で問題演習と併せ復習を行う。

■オフィスアワー

毎週木曜日、授業終了後

■評価方法

筆記試験による期末試験で、60%以上の得点を得る事が、成績評価の前提条件である。その上で、学期中に2回行なう小テストの点数を50%(25点x2回)、期末テストの点数に50%(50点)の配分をした点数をもって、成績評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しない。欠席の場合は、如何なる理由でも0点となる。期末の再試験においても、小テストの再試験は実施せず、後期講義の全範囲の内容の100点満点の再試験で、単位修得の可否のみ判定(CまたはD評価のみとなる)する。日頃の健康管理も重要であり、医療人となる者にとっては必須の事項である。各テストは、空欄補充形式の問題と指定範囲内の過去の国家試験問題からなる。

■教科書

標準整形外科学 第12版 中村利孝 他編 医学書院、1年次で使用した、リハビリテーション医学(医歯薬出版)も適宜使用する

■参考書

授業中に適宜紹介する。

科目名	神経内科学I	担当教員 (単位認定者)	栗原 卓也	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」			
キーワード	中枢神経、脳循環、脳脊髄液循環、意識障害、脳ヘルニア、言語障害、認知症、運動麻痺、知覚障害、脳神経障害、摂食嚥下障害、排尿障害、脳血管障害				

■授業の目的・到達目標

神経系の障害による、運動、知覚を代表とする諸機能の障害を訴える患者の異常を的確に把握し、その現象(病態生理)を説明できることをまず目的とする。そのためには、中枢神経、末梢神経、脳循環、脳脊髄液循環の構造としくみをしっかり理解していることが基礎となる。その上で、その障害を改善するためには、どのような方法をとればよいか説明できるようにすることを最終目標とする。

■授業の概要

リハビリテーションの中心分野である神経疾患の知識は、理学、作業療法を行うものにとっては、必須である。まず中枢神経のしくみ(解剖学、生理学の復習となる)を理解し、そのうえで各種障害のメカニズムを学習してゆく。前期では、特に重要な脳血管障害と認知症を取り上げる。また繰り返し行なう小テストと各自が行う問題演習により、知識の定着を図る。将来君たちが現場に出た時に、目の前で生じている障害を的確に把握し、何が生じているかの病態生理を説明でき、自信を持って動く事ができる実用的な知識を伝える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、 中枢神経のしくみ I 中枢神経と末梢神経、大脳①
第2回	中枢神経のしくみ II 大脳②、小脳
第3回	中枢神経のしくみ III 脳幹、脊髄
第4回	中枢神経のしくみ IV 脳循環、脳脊髄液循環
第5回	小テスト①(第1回から4回までの内容:20点満点)、障害のメカニズム I 意識障害、脳ヘルニア
第6回	障害のメカニズム II 言語障害、認知症
第7回	小テスト②(第5,6回の内容:10点満点) 障害のメカニズム III 運動麻痺
第8回	障害のメカニズム IV 知覚障害
第9回	小テスト③(第7,8回の内容:10点満点) 障害のメカニズム V 脳神経障害①
第10回	障害のメカニズム VI 脳神経障害 ②、摂食嚥下障害
第11回	小テスト④(第9,10回の内容:10点満点) 障害のメカニズム VII 小脳の障害
第12回	障害のメカニズム VIII 排尿障害
第13回	障害のメカニズム IX 脳血管障害①
第14回	障害のメカニズム X 脳血管障害②
第15回	障害のメカニズム XI 脳脊髄液障害

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。チェックシートを傍らに置き、予習でわからなかったチェックシートの項目を、授業中に明らかにすること。膨大なテキストの内容をこなすには、授業に集中することが必須である。

■授業時間外学習にかかわる情報

膨大な内容を短時間で理解するために、授業前にテキストの該当範囲を一読することが必要である。その上で、配布されたチェックシートに従って、学習する。A4のノートの左側にチェックシートを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を教科書から調べ記載してゆくこと(予習)。授業で自分の事前の作業の妥当性を確認し、不明点、誤っていた点は授業中に修正する。授業後、チェックシートを点検したのち、該当範囲の国家試験問題を行う(復習)。

■オフィスアワー

木曜日の授業終了後

■評価方法

筆記試験による期末試験(前期講義の全範囲)で、60%以上の得点を得る事が、成績評価の前提条件である。その上で、学期中に5回行なう小テストの点数を50%(20点×1回+10点×4回=合計50点)、期末テストの点数に50%(50点)の配分をした点数をもって、成績評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しない。欠席の場合は、如何なる理由でも0点となる。期末の再試験においても、小テストの再試験は実施せず、前期講義の全範囲の内容の100点満点の再試験で、単位修得の可否のみ判定(CまたはD評価のみとなる)する。日頃の健康管理も重要であり、医療人となる者にとっては必須の事項である。各テストは、空欄補充形式の問題と指定範囲内の過去の国家試験問題からなる。

■教科書

- ① JJN ブックス 絵で見る脳と神経 しくみと障害のメカニズム第3版 馬場元毅 著 医学書院
(1年次の解剖学実習で使用したテキストである)
- ② ベッドサイド神経の診かた 第17版 田崎義昭 著 南山堂

■参考書

授業中に適宜紹介する。

科目名	神経内科学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	栗原 卓也	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」			
キーワード	脳腫瘍、外傷性脳損傷、変性疾患、脱髄疾患、Parkinson症候群、末梢神経障害、てんかん、筋疾患、神経感染症、脳性麻痺、廃用症候群、誤用症候群、排尿障害、性機能障害、失認、失行、注意障害、遂行機能障害、認知症、脳血管障害				

■授業の目的・到達目標

神経系の障害による、運動、知覚を代表とする諸機能の障害を訴える患者の異常を的確に把握し、その現象(病態生理)を説明できることをまず目的とする。そのためには、中枢神経、末梢神経、脳循環、脳脊髄液循環の構造としくみをしっかり理解していることが基礎となる。その上で、その障害を改善するためには、どのような方法をとればよいか説明できるようになることを最終目標とする。

■授業の概要

リハビリテーションの中心分野である神経疾患の知識は、理学、作業療法を行うものにとっては、必須である。まず中枢神経のしくみ(解剖学、生理学の復習となる)を理解し、そのうえで各種障害のメカニズムを学習してゆく。後期では、各種神経疾患を順次学習する。前期に学習した内容、整形外科学ならびに小児科学で学習する内容を繰り返し学習することで、知識の確実な定着をはかる。そして繰り返し行なう小テストと各自が行う問題演習により、知識は更に確実なものになる。将来諸君が現場に出た時に、目の前で生じている障害を的確に判断し、何が生じているかの病態生理を説明でき、自信を持って動く事ができる実用的な知識を伝える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、小児神経疾患
第2回	てんかん
第3回	筋疾患
第4回	脳腫瘍、外傷性脳損傷
第5回	小テスト ①(第1回から4回までの内容)、脳血管障害①
第6回	脳血管障害②
第7回	小テスト ②(第5,6回の内容)、認知症
第8回	変性疾患、脱髄疾患
第9回	小テスト ③(第7,8回の内容) 感染性疾患、中毒性疾患、栄養欠乏による神経疾患
第10回	脊髄疾患、末梢神経疾患
第11回	小テスト ④(第9,10回の内容) 廃用症候群と誤用症候群、排尿障害、性機能障害
第12回	高次脳機能障害(失認、失行、注意障害、遂行機能障害)
第13回	脳神経外科領域の疾患(頭蓋内圧亢進、脳浮腫、脳ヘルニア、髄膜刺激症状)、構音障害、嚥下障害
第14回	小テスト ⑤(第11,12,13回の内容) 総復習① 神経診断技術から診る神経疾患①
第15回	総復習② 神経診断技術から診る神経疾患②

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。チェックシートを傍らに置き、予習でわからなかったチェックシートの項目を、授業中に明らかにすること。膨大なテキストの内容をこなすには、授業に集中することが必須である。

■授業時間外学習にかかわる情報

膨大な内容を短時間で理解するために、授業前にテキストの該当範囲を一読することが必要である。その上で、配布されたチェックシートに従って、学習する。A4のノートの左側にチェックシートを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を教科書から調べ記載してゆくこと(予習)。授業で自分の事前の作業の妥当性を確認し、不明点、誤っていた点は授業中に修正する。授業後、チェックシートを点検したのち、該当範囲の国家試験問題を行う(復習)。

■オフィスパワー

木曜日の授業終了後

■評価方法

筆記試験による期末試験(前期講義の全範囲)で、60%以上の得点を得る事が、成績評価の前提条件である。その上で、学期中に5回行なう小テストの点数を50%(10点x5回)、期末テストの点数に50%(50点)の配分をした点数をもって、成績評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しない。欠席の場合は、如何なる理由でも0点となる。期末の再試験においても、小テストの再試験は実施せず、後期講義の全範囲の内容の100点満点の再試験で、単位修得の可否のみ判定(CまたはD評価のみとなる)する。日頃の健康管理も重要であり、医療人となる者にとっては必須の事項である。各テストは、空欄補充形式の問題と指定範囲内の過去の国家試験問題からなる。

■教科書

- ① 標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 第3版 川平 和美 編集 医学書院
- ② ベッドサイド神経の診かた 第17版 田崎 義昭 著 南山堂

■参考書

授業中に適宜紹介する。

科目名	精神医学	担当教員 (単位認定者)	諸川由実代・石関 圭	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」			
キーワード	精神障害 ライフサイクル メンタルヘルス 自殺 脆弱性-ストレスモデル ICD-10 DSM-IV-TR インフォームド・コンセント 薬物療法 精神療法 リエゾン精神医学 多職種連携 リハビリテーション				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

精神障害リハビリテーションに関わる基本的な疾病の知識や評価・診断の方法、治療・援助の方法を理解・説明できることを目的とする。

〔達成目標〕

- ①精神医学の歴史と精神障害者の処遇について理解・説明することができる。
- ②現代社会とストレス・メンタルヘルスの関係性について理解・説明することができる。
- ③“脆弱性-ストレスモデル”に基づいた精神障害の成因について理解・説明することができる。
- ④精神医学において用いられる診断・評価方法の概要について理解・説明することができる。
- ⑤薬物療法や精神療法、リハビリテーションなどの治療法の一般的枠組みについて理解・説明することができる。
- ⑥精神障害リハビリテーションにおける多職種連携の重要性を理解・説明することができる。
- ⑦各疾患における成因や症状、治療を理解・説明することができる。
- ⑧精神障害者が地域生活を送るためのポイントと課題について理解・説明することができる。

■授業の概要

理学・作業療法士は対象者の身体・精神機能を十分把握した上でリハビリテーションを進めなければならない。本授業では、リハビリテーションに必要となる、精神疾患の成因や症状、診断・評価について学ぶ。また、入院から地域生活に移行するためのおおまかな治療・援助の流れと精神障害領域に関わる職種の連携、障害を持つ人が地域生活を送るためのポイントや課題を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション/精神医学とは/精神障害の成因と分類
第2回	精神機能の障害と精神症状(1)
第3回	精神機能の障害と精神症状(2)
第4回	精神障害の診断と評価
第5回	脳器質性精神障害/てんかん
第6回	症状性精神障害/精神作用物質による精神および行動の障害
第7回	統合失調症およびその関連障害
第8回	気分(感情)障害(1)
第9回	気分(感情)障害(2)
第10回	気分(感情)障害(3)/神経症性障害(1)
第11回	神経症性障害(2)
第12回	神経症性障害(3)/生理的障害および身体要因に関連した障害/成人のパーソナリティ・行動・性・障害
第13回	精神遅滞/心理的発達障害/リエゾン精神医学
第14回	精神機能の治療とリハビリテーション
第15回	心身医学/ライフサイクルにおける精神医学/精神科保健医療と福祉/職業リハビリテーション/社会・文化とメンタルヘルス

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

極力欠席のないようにし、質問は積極的に授業内で行うようにしてください。

〔受講のルール〕

携帯電話はマナーモードもしくは電源を切り、鞆にしまっておくこと。集中して講義に参加してください。

■授業時間外学習にかかわる情報

より効率的に授業を進めるため、事前に十分予習を行ってこよう。また、授業終了後に復習をすること。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

出席率 2/3 以上を試験受験資格とし、筆記試験 100%で判断。

■教科書

上野武治 編:標準理学療法・作業療法学 精神医学 (第4版). 医学書院, 2015

■参考書

上島国利 立山萬里 編:精神医学テキスト 改訂第3版. 南江堂, 2012

科目名	小児科学	担当教員 (単位認定者)	栗原 卓也	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」			
キーワード	成長、発育、発達、新生児、未熟児、先天異常、小児の神経筋疾患				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

出生から成人になるまで、常に成長、発達を遂げる（はずのものが大多数であるが、例外もある）ヒトの、成長、発育、発達の過程をまず理解する。その過程で生じる様々な障害を、リハビリテーション領域に関連の深い、神経、筋骨格系、精神系の疾患を重点的に学習する。そして小児の内科的疾患、外科的疾患、先天異常、遺伝病を学習し、小児におこる様々な問題を理解し、解決できる方法を思考できることを目的とする。

〔到達目標〕

①成長、発育、発達の状態が、正確に評価できる事。②先天異常と遺伝病の概要と各疾患の特徴が説明できること。③神経、筋、骨格系、精神科領域の小児疾患の概要、特徴が説明できること。④小児の内科的疾患の概要が説明できること。

■授業の概要

物言わぬ新生児、乳児、障害を持つ幼児、親の期待に応えようとしてつぶれる学童など、将来の諸君の前には、様々な子供たちが、助けを求めて現われる。そして、その背後には、子供の将来に大いなる不安を抱えた親がいる。目の前の子供に起こっている事を把握し、現状を正確に評価、その子の将来の為に何をなすべきか、さらにはその計画を、子供として親に、的確に説明し、了解を得る能力が必要とされる。これらのテクニックを中心に、授業を進めてゆく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、小児科学 概論Ⅰ：小児の成長・発育・発達
第2回	小児科学 概論Ⅱ：栄養と摂食、小児保健、小児の診断と治療の概要
第3回	新生児・未熟児疾患 Ⅰ
第4回	新生児・未熟児疾患 Ⅱ
第5回	先天異常と遺伝病
第6回	神経・筋・骨系疾患 Ⅰ 中枢神経疾患
第7回	小テスト①（第1回から第5回までの範囲） 神経・筋・骨系疾患 Ⅱ てんかん
第8回	神経・筋・骨系疾患 Ⅲ 脳性麻痺
第9回	神経・筋・骨系疾患 Ⅳ 知的障害・児童精神障害・脊髄疾患・筋疾患・骨関節疾患
第10回	循環器疾患
第11回	小テスト②（第6回から第9回までの範囲） 呼吸器疾患、感染症
第12回	消化器疾患、代謝内分泌疾患
第13回	血液疾患・免疫・アレルギー・膠原病
第14回	腎・泌尿器系、生殖器疾患、腫瘍性疾患
第15回	心身医学的疾患・虐待・重症心身障害児・眼科・耳鼻科的疾患

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。
チェックシート以外の重要点も、随時強調するので、神経を研ぎ澄ませ、聞き漏らさないこと。1時間半の集中！

■授業時間外学習にかかわる情報

授業で配布するチェックシートに従って、要点を整理してゆくこと。A4のノートの左側にチェックシートを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を教科書から調べ記載してゆくこと。これが予習である。授業で自分の作業の妥当性を確認し復習を行う。

■オフィスアワー

木曜日の授業終了後

■評価方法

筆記試験による期末試験で、60%以上の得点を得る事が、成績評価の前提条件である。その上で、学期中に2回行なう小テストの点数を50%（25点×2回）、期末テストの点数に50%（50点）の配分をした点数をもって、成績評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しない。欠席の場合は、如何なる理由でも0点となる。期末の再試験においても、小テストの再試験は実施せず、後期講義の全範囲の内容の100点満点の再試験で、単位修得の可否のみ判定（CまたはD評価のみとなる）する。日頃の健康管理も重要であり、医療人となる者にとっては必須の事項である。各テストは、空欄補充形式の問題と指定範囲内の過去の国家試験問題からなる。

■教科書

標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第4版 編集 富田 豊 医学書院
(第8および9講 神経、筋、骨格系疾患ⅢおよびⅣにおいては、1年次で使用したリハビリテーション医学のテキストも使用する。)

■参考書

授業中に適宜紹介する。

科目名	リハビリテーション入門	担当教員 (単位認定者)	小島 俊文	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	理学療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「保健医療とリハビリテーションの理念」			
キーワード	リハビリテーション、ノーマライゼーション、QOL				

■授業の目的・到達目標

リハビリテーションとは何か、その概要について理解することがこの科目の目標である。
リハビリテーションを支える思想、またその領域と諸段階を学び、どのような専門職が何を担っているのかを知る。
さらにリハビリテーションを提供する様々な施設、それらを動かす関連法制度を知る必要がある。
1年前期の8コマではあるが、理学療法士として必須であるリハビリテーションの知識について、しっかり身につけてもらう。

■授業の概要

必要に応じた教材を用いて医療やリハビリテーション領域の土台となる知識を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション/リハビリテーションの定義と目的
第2回	ノーマライゼーション・IL運動・QOL
第3回	障害とは・国際疾病分類(ICD)・国際生活機能分類(ICF)
第4回	障害者の心理・リハビリテーションの諸段階
第5回	リハビリテーションの過程と手段
第6回	関連職種とその役割・チームアプローチ
第7回	評価会議・ゴール設定、リハビリテーションプログラム、クリニカルパス
第8回	4年間のカリキュラムマップと到達目標について

■受講生に関わる情報および受講のルール

1年前期の授業ということで、学習者としての態度、自ら考え学ぶための学習方法とその習慣について、大学生としての基本的な姿勢についてしっかり築き上げていってもらいたい。

■授業時間外学習にかかわる情報

毎回、授業開始時と終了時にミニテストを行う。開始時には各回のキーワードについての知識を問う。終了時には各回の授業で身に付けた知識を測るので、特に予習をしっかり行い、習慣をつけること。

■オフィスアワー

金曜日 16:30～17:30

■評価方法

客観試験 ミニテスト全8回(各5点、合計40点)と期末試験(60点)の100点満点で行う。

■教科書

特に定めない。

■参考書

入門リハビリテーション概論 中村隆一 編 医歯薬出版・リハビリテーション 砂原 茂一 岩波新書

科目名	保健医療福祉論	担当教員 (単位認定者)	大竹 勤	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	理学療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「保健医療とリハビリテーションの理念」			
キーワード	対人援助技術、コミュニケーションスキル、ライフサイクル、社会保障				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

医療福祉従事者に必要なソーシャルワークについて学び、実践できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①ソーシャルワークの意義と目的について理解する。
- ②援助技術の原理原則について理解する。
- ③基本的な援助技法を身につける。

■授業の概要

講義や演習を通して、医療従事者に必要な社会福祉の知識や援助技術の実際について学ぶ。援助技術は「人の生活を支える」重要な技術であり、そのために必要な支援の方法を考える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、自己紹介カード
第2回	障害者の理解、ある筋ジス患者の自立
第3回	対人援助技術の原則
第4回	コミュニケーションスキルを磨こう
第5回	情報を共有し合意すること
第6回	人の一生と社会福祉 各種法制度
第7回	人の一生と社会福祉 事例検討
第8回	援助の基本原則 まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

対人援助サービスに携わる者としての視点で授業に参加すること。

8回の授業なので、欠席が3回以上になると単位認定はできなくなるので注意すること。

演習には積極的に参加すること。授業の流れに反した行動を取る場合には履修しないこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業後

■評価方法

100%筆記試験（レポート試験）による。ただし、宿題や授業中に課すレポートやミニテストの提出状況で加点・減点することがある。

■教科書

授業中に指示する。

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	公衆衛生学	担当教員 (単位認定者)	大竹 一男	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	理学療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る選択		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「保健医療とリハビリテーションの理念」			
キーワード	生活単位、家族、ライフスタイル、疫学、母子保健、地球環境				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

公衆衛生の目的は、人々を疾病から守り、健康を保持・増進し、人々に十分な発育を遂げさせ、肉体的・精神的能力を完全に発揮させることである。臨床医学が病気になった個人を対象にしているのに対し、公衆衛生学は個人、家族、地域社会及び全国民の健康の総和を指標として、疾病のみならずすべての健康からの偏りの予防、コントロール、治療のみでなく、積極的な意味での健康の達成を目的としている。従って、単なる治療医学ではなく、予防医学さらには社会における医療制度施設など社会の健康水準を保持・増進するのに必要な社会医学も含まれる。

〔到達目標〕

- ①人々の基本的な生活と人間のあり方、健康と公衆衛生、健康指標と予防、生活環境の保全について学習するとともに、最新データを自らが読み解き、日本が抱える課題・問題等を発見することができる。
- ②専門医療職に従事することを念頭に、クライアントに対して公衆衛生学の領域に関して適切なアドバイスをすることができる。

■授業の概要

人々の基本的な生活と人間のあり方、健康と公衆衛生、健康指標と予防、生活環境の保全について学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	生活単位、家庭生活の基本機能、生活の場と健康について学ぶ
第2回	家族の機能と役割、ライフスタイルの変化、生活習慣の確立、人間の集団としての働きを学ぶ
第3回	公衆衛生の概念、健康と環境について学ぶ
第4回	疫学的方法による健康の理解について学ぶ
第5回	人口静態と人口動態、疾病統計について学ぶ
第6回	母子保健統計について学ぶ
第7回	地球環境、水・空気・土壌、食品管理及び家庭用品について学ぶ
第8回	ごみ、廃棄物、住環境について学ぶ

■受講生に関わる情報および受講のルール

配布プリントに最新の政府発表のデータのURLを紹介するので、予習・復習に役立ててください。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業後

■評価方法

筆記試験 100%

■教科書

みるみるナーシング最新版

■参考書

授業内で適宜紹介する。

3) 專門科目

科目名	理学療法概論	担当教員 (単位認定者)	小島 俊文	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「基礎理学療法学」			
キーワード	理学療法、リハビリテーション、理学療法士法、運動療法、物理療法				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

理学療法に関して、歴史・法律・理学療法対象・理学療法手技・倫理・活動分野等、様々な観点より理学療法を捉えることにより、理学療法の概要について知る。

〔到達目標〕

- ①リハビリテーション医療における位置付けおよび理学療法発展の歴史について説明できる。
- ②理学療法士及び作業療法士法について説明できる。
- ③理学療法士の活動分野と概略について説明できる。
- ④理学療法の対象者と疾患について説明できる。
- ⑤理学療法の治療までの流れと理学療法の手段について説明できる。
- ⑥リハビリテーションチームと理学療法部門の管理について説明できる。

■授業の概要

15回に及ぶ講義中心の授業である。各回ごとに主たるテーマを決め、そのテーマにそって授業を展開する。第2回以降、授業冒頭にミニテストを行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション・理学療法の歴史と法律
第2回	理学療法の対象
第3回	理学療法の治療手段
第4回	リハビリテーションチームと理学療法部門
第5回	理学療法士の活動分野
第6回	医療事故と理学療法
第7回	感染予防
第8回	理学療法に関連する各法律
第9回	理学療法における障害のとらえ方
第10回	理学療法と評価
第11回	運動療法と関連機器
第12回	物理療法と関連機器
第13回	理学療法と義肢装具
第14回	理学療法と日常生活活動
第15回	理学療法と倫理

■受講生に関わる情報および受講のルール

・授業中の居眠りや、他の学生に迷惑となるような行為は厳に慎むこと。たび重なる注意を与えても改善が見られない場合は、退室してもらう場合がある。

■授業時間外学習にかかわる情報

毎回の復習を怠らないこと。

■オフィスアワー

月～金 17:00～

■評価方法

筆記試験（客観・論述）100%

■教科書

教科書の設定なし

■参考書

理学療法概論 奈良 勲編 医歯薬出版
理学療法学概論 監修 千住 秀明

科目名	理学療法セミナーⅠ	担当教員 (単位認定者)	小島・柴・多田 新谷・横山・村山	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻3年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「基礎理学療法学」			
キーワード	PBL 症例 グループワーク				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

自ら学び、問題点を発見し、解決方法を提案できる高度医療人としての資質を身につける。

〔到達目標〕

- ①症例の情報収集について、様々なメディアを用いて行うことができる。
- ②症例の問題点について、理学療法の視点のみならず社会的側面も含め、ICFに従って抽出できる。
- ③症例の問題点が、どのような背景から、どのような要因から起きているのか、述べることができる。
- ④症例の問題点が、「生活」や「人生」にどのような影響を与えているのか、述べるができる。

■授業の概要

PBLチュートリアル授業を通して、理学療法士としての総合的な能力を養う内容となる。授業では学生主体の能動的自己学習を促し、またグループダイナミクスも活用しながら、課題解決能力・継続的な自己学習・協調性・リーダーシップを実践していく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション/レディネステスト				
第2回	PBLチュートリアル	症例①(変形性膝関節症)	ファクターの列挙、問題点抽出、背景・成因の仮説		
第3回	PBLチュートリアル	症例①(変形性膝関節症)	グループワーク、問題点の検証、記録		
第4回	PBLチュートリアル	症例②(大腿骨頸部骨折)	ファクターの列挙、問題点抽出、背景・成因の仮説		
第5回	PBLチュートリアル	症例②(大腿骨頸部骨折)	グループワーク、問題点の検証、記録		
第6回	PBLチュートリアル	症例③(腰椎圧迫骨折)	ファクターの列挙、問題点抽出、背景・成因の仮説		
第7回	PBLチュートリアル	症例③(腰椎圧迫骨折)	グループワーク、問題点の検証、記録		
第8回	PBLチュートリアル	症例④(後縦靭帯骨化症)	ファクターの列挙、問題点抽出、背景・成因の仮説		
第9回	PBLチュートリアル	症例④(後縦靭帯骨化症)	グループワーク、問題点の検証、記録		
第10回	PBLチュートリアル	症例⑤(脳梗塞)	ファクターの列挙、問題点抽出、背景・成因の仮説		
第11回	PBLチュートリアル	症例⑤(脳梗塞)	グループワーク、問題点の検証、記録		
第12回	PBLチュートリアル	症例⑥(パーキンソン病)	ファクターの列挙、問題点抽出、背景・成因の仮説		
第13回	PBLチュートリアル	症例⑥(パーキンソン病)	グループワーク、問題点の検証、記録		
第14回	PBLチュートリアル	症例⑦(脳卒中後遺症)	ファクターの列挙、問題点抽出、背景・成因の仮説		
第15回	PBLチュートリアル	症例⑦(脳卒中後遺症)	グループワーク、問題点の検証、記録		

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・少人数のグループ学習が中心となる。

〔受講のルール〕

・1症例につき2コマで展開する授業構成となる。1回目終了後の能動的自己学習が必須となる。またグループ学習においては、協調性とリーダーシップが必要となる。主体的かつ積極的な姿勢で授業に臨むこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

特に予習が必須となる。授業内で発生した課題を次の授業までに能動的自己学習をしておくことが必要である。

■オフィスアワー

各担当と確認のこと。

■評価方法

レディネステスト20%、期末試験(客観試験)50%、PBLポートフォリオ(成果物として予習の結果を提出)30%。
※レディネステストは、前期・後期オリエンテーション時に実施される「校内模試」の成績とする。

■教科書

PT/OT 国家試験 2016 専門基礎分野 基礎医学, 医歯薬出版 / PT/OT 国家試験 2016 専門基礎分野 臨床医学, 医歯薬出版

■参考書

障害別・ケースで学ぶ理学療法臨床思考—PBLで考え進める 編集 嶋田智明 文光堂

科目名	理学療法セミナーⅡ	担当教員 (単位認定者)	小島・柴・多田 新谷・横山・村山	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻4年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「基礎理学療法学」			
キーワード	アクティブラーニング				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

4年生の到達目標は、総合的な理学療法の「知識」「技能」「態度」を身につけ、実践できることにある。この科目ではアクティブラーニングを通して「自ら学び、また学び続ける力をつくる」、「能動的に取り組むことにより知識を確実に身につけること」を目的とする。

〔到達目標〕

各領域のポイントを整理し、まとめあげ、発表し、練習問題の作成ができる。
理学療法全般にわたり、平均した「知識」「技能」を有することができる。

■授業の概要

グループワークや発表を通して主体的に学ぶことにより、理学療法全般の「知識」「技能」を整理し、確実に身につける授業を行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション/レディネステスト・アクティブラーニングについて・アクティブラーニング第1週 解剖学
第2回	アクティブラーニング第2週 生理学
第3回	アクティブラーニング第3週 運動学
第4回	アクティブラーニング第4週 病理学・臨床心理学
第5回	アクティブラーニング第5週 臨床医学(内科・整形外科)
第6回	アクティブラーニング第6週 臨床医学(神経内科・小児科学)
第7回	アクティブラーニング第7週 臨床医学(精神医学・老年学)
第8回	アクティブラーニング第8週 リハビリテーション医学・概論
第9回	中間試験
第10回	アクティブラーニング第9週 理学療法学(検査測定)
第11回	アクティブラーニング第10週 理学療法学(運動器障害)
第12回	アクティブラーニング第11週 理学療法学(中枢神経障害)
第13回	アクティブラーニング第12週 理学療法学(内部障害)
第14回	アクティブラーニング第13週 理学療法学(発達障害)
第15回	アクティブラーニング第14週 理学療法学(物理療法・その他)

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・グループワークおよび発表が中心となるので、「自ら積極的に参加し、考え、学ぶ」ことが求められる。

〔受講のルール〕

・複数での活動が中心になるので、参加する態度が重要となる。健康管理に留意し、欠席や遅刻に注意すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

与えられた課題は、授業時間中では達成できない。授業時間外での予習は必須である。また確実に知識を身につけるためには、復習も必須となるので「自ら学び、学び続ける」努力を怠らないこと。

■オフィスアワー

各授業終了後。各担当と相談すること。

■評価方法

筆記試験(客観試験) レディネステスト(前期校内模試) 20%、中間試験 20%、期末試験 60%。

■教科書

特に設定しない。必要があれば資料を配布する。

■参考書

クエスチョン・バンク 理学療法士・作業療法士国家試験問題解説/メディックメディア
PT/OT 国家試験必修ポイント/医歯薬出版

科目名	理学療法評価学I	担当教員 (単位認定者)	多田 菊代	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	<理学療法専攻2年次必修科目> 解剖学、運動学、生理学の知識が必要	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法評価学」			
キーワード	評価プロセス、面接技法、観察技法、検査技法				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

理学療法評価の基本的な考え方・枠組み、基本的な検査項目を学び、実践できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①評価の意味、評価の対象、評価の手段を理解できる。
- ②基本的な面接・観察技法を身につける。
- ③基本的な検査手技が実施できる。
- ④検査測定結果からの解釈の方法を理解する。

■授業の概要

対象者が持つ身体的機能面から全生活場面までをみて症状や障害を把握し、回復や改善の方策を探ることが「評価」の目的である。理学療法評価の基本的な枠組みを学ぶとともに、実践できるよう検査測定技能を修得する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、リハビリテーション医療における評価	事前課題提出①
第2回	評価の基礎 評価の過程、対象、構成要素	事前課題提出②
第3回	評価の実際 評価の進め方	事前課題提出③
第4回	評価の実際 医療面接(実施するタイミング、実施手順、注意点、主訴、ニーズ、デマンド)	事前課題提出④
第5回	評価の実際 情報収集(情報収集項目、カルテの見かた、医学的・社会的情報の取り方)	事前課題提出⑤
第6回	意識障害・全身状態の評価	事前課題提出⑥
第7回	全体像把握	事前課題提出⑦
第8回	評価記録の方法、取扱い	ポートフォリオ提出①
第9回	痛みの評価(痛みとは、運動器に関連した疼痛評価の進め方)	事前課題提出⑧
第10回	痛みの臨床的評価尺度	事前課題提出⑨
第11回	姿勢評価(抗重力姿勢の特徴、異常姿勢のタイプと原因、姿勢評価の意義と手順)	
第12回	検査測定結果からの解釈-形態測定-	
第13回	検査測定結果からの解釈-反射検査-	
第14回	検査測定結果からの解釈-感覚検査-	ポートフォリオ提出②
第15回	検査測定結果からの解釈-関節可動域検査、徒手筋力検査-	結果解釈課題提出

■受講生に関わる情報および受講のルール

理学療法学生としてふさわしい受講態度で参加すること。体を動かすことも多いので学校ジャージを用意しておくこと。クリップボードを準備すること。

〔受講のルール〕

- ①授業概要・シラバスを受講前に確認し積極的に臨むこと。
- ②受講態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めない。
- ③授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁
- ④授業に関係ないもの(携帯電話、スマートフォン、タブレット、ペットボトル等)は机の上に置かない。
- ⑤授業ノート、配布資料、自己学習資料等はポートフォリオ形式でまとめておくこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

初回の科目オリエンテーションにて詳細を説明する。予習や課題の実施を前提に講義を進める。

■オフィスアワー

水曜日16時から17時は随時。それ以外は要予約。

■評価方法

評価配分:課題提出20%(事前課題提出18%、結果解釈課題提出2%)、ポートフォリオ10%、筆記試験70%。

■教科書

- ①潮見 泰蔵ら 編:リハビリテーション基礎評価学, 羊土社
- ②柴 喜崇ら 編:ADL, 羊土社
- ③細田多穂 監:シンプル理学療法学シリーズ 運動学テキスト, 南江堂
- ④田崎 義昭 著:ベッドサイドの神経の診かた, 南山堂
- ⑤津山直一 中村耕三 訳:新徒手筋力検査法 協同医書出版社
- ⑥林典雄 著:運動療法のため機能解剖学的触診技術 上肢+下肢・体幹 改訂第2版
- ⑦市橋 則明 編:運動療法学—障害別アプローチの理論と実際

■参考書

適宜紹介する。

科目名	理学療法評価学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	多田菊代・横山雅人	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	<理学療法専攻2年次必修科目>解剖学、運動学、理学療法入門、リハビリテーション入門、理学療法評価学Ⅰの知識が必要となる。	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法評価学」			
キーワード	評価プロセス、面接技法、観察技法、検査技法				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

理学療法評価の基本的な考え方・枠組み、基本的な検査項目を学び、実践できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①意欲・自己効力感・気分・思考・E-SASの評価方法を説明できる。
- ②ADL評価の意義、評価手順を説明できる。
- ③代表的疾患の理学療法評価の流れが説明できる。

■授業の概要

対象者が持つ身体的機能面から全生活場面までをみて症状や障害を把握し、その回復の方策を探ることが「評価」の目的である。理学療法評価学Ⅰおよび理学療法評価学実習Ⅰで学んだ評価の目的、意義、方法、流れを基軸としつつ、各種検査方法について学んでいく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション	意欲・自己効力感の評価、転倒恐怖感	事前課題①
第2回	気分(うつ・不安)・思考の評価、E-SAS		事前課題②
第3回	ADL評価 FIM/BI		事前課題③
第4回	観察に基づくADL評価	グループワーク、事例検討	
第5回	観察に基づくADL評価	グループワーク、事例検討	
第6回	観察に基づくADL評価	グループワーク、事例検討	
第7回	症例に基づく評価の進め方	～大腿骨頸部骨折患者～ ①評価計画の立て方	事前課題④
第8回	症例に基づく評価の進め方	～大腿骨頸部骨折患者～ ②評価時の留意点	事前課題⑤
第9回	症例に基づく評価の進め方	～脳卒中片麻痺～ ①評価計画の立て方 【横山】	事前課題⑥
第10回	症例に基づく評価の進め方	～脳卒中片麻痺～ ②評価時の留意点 【横山】	事前課題⑦
第11回	姿勢・平衡機能	バランス検査① 【横山】	事前課題⑧
第12回	姿勢・平衡機能	バランス検査② 【横山】	
第13回	姿勢・平衡機能	バランス検査③ 【横山】	
第14回	症例に基づく評価の進め方	～内部障害患者～ ①評価計画の立て方	事前課題⑨
第15回	症例に基づく評価の進め方	～内部障害患者～ ②評価時の留意点	事前課題⑩

■受講生に関わる情報および受講のルール

理学療法学生としてふさわしい受講態度で参加すること。体を動かすことも多いので学校ジャージを用意しておくこと。クリップボードを準備すること。

〔受講のルール〕

- ①授業概要・シラバスを受講前に確認し積極的に臨むこと。
- ②受講態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めない。
- ③授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁。
- ④授業に関係のないもの(携帯電話、スマートフォン、タブレット、ペットボトル等)は机の上に置かない。
- ⑤授業ノート、配布資料、自己学習資料等はポートフォリオ形式でまとめておくこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

初回の科目オリエンテーションにて詳細を説明する。予習や課題の実施を前提に講義を進める。

■オフィスアワー

水曜日16時から17時は随時。それ以外は要予約。

■評価方法

評価配分:事前課題 20%、グループワーク・事例検討 20%、筆記試験 60%。

■教科書

- ①潮見 泰蔵ら 編:リハビリテーション基礎評価学, 羊土社
- ②柴 喜崇ら 編:ADL, 羊土社
- ③細田多穂 監:シンプル理学療法学シリーズ 運動学テキスト, 南江堂
- ④石井慎一郎 動作分析 臨床活用講座—バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践
- ⑤市橋 則明 編:運動療法学—障害別アプローチの理論と実際

■参考書

適宜紹介する。

科目名	理学療法評価学実習Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	多田菊代・横山雅人	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	<理学療法専攻2年次必修科目> 解剖学、運動学、生理学の知識が必要。	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法評価学」			
キーワード	評価プロセス、面接技法、観察技法、検査技法				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

理学療法評価の基本的な考え方・枠組み、基本的な検査項目を学び、実践できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①評価の意味、評価の対象、評価の手段を理解できる。②基本的な面接・観察技法を身につける。
③基本的な検査手技を実施できる。④それぞれの検査の目的や利用法についての基本的知識を得る。

■授業の概要

対象者が持つ身体的機能面から全生活場面までをみて症状や障害を把握し、回復や改善の方策を探ることが「評価」の目的である。理学療法評価の基本的な枠組みを学ぶとともに、実践できるよう検査測定技能を修得する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	【多田】科目オリエンテーション、面接技法、フィジカルアセスメント、主訴/ホープ/ニーズの確認
第2回	【多田】実技小テスト①(面接技法、フィジカルアセスメント)、医療面接の注意点
第3回	【多田】筆記小テスト①(形態測定)、形態測定の実際
第4回	【多田】実技小テスト②(形態測定)、形態測定のポイント
第5回	【多田】筆記小テスト②(反射検査)、反射検査の実際
第6回	【多田】実技小テスト③(反射検査)、反射検査のポイント
第7回	【多田】筆記小テスト③(関節可動域検査)、関節可動域検査(肩甲帯・肩・肘・前腕)
第8回	【多田】関節可動域検査(股関節・膝関節・足関節)
第9回	【横山】実技小テスト④(関節可動域検査)、関節可動域検査(頸部・体幹・手・手指)
第10回	【横山】筆記小テスト④(徒手筋力検査定)、徒手筋力検査(上肢)
第11回	【横山】徒手筋力検査(下肢)
第12回	【横山】徒手筋力検査(その他の部位)
第13回	【横山】実技小テスト⑤(徒手筋力検査)、徒手筋力検査のまとめ
第14回	【多田】筆記小テスト⑤(感覚検査)、感覚検査の実際
第15回	【多田】感覚検査のポイント

■受講生に関わる情報および受講のルール

ケーシーを着用し、理学療法学生としてふさわしい受講態度で参加すること。学校ジャージ・クリップボードを準備すること。

〔受講のルール〕

- ①授業概要・シラバスを受講前に確認し積極的に臨むこと。
②受講態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めない。
③授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁。
④授業に関係ないもの(携帯電話、スマートフォン、タブレット、ペットボトル等)は机の上に置かない。
⑤授業ノート、配布資料、自己学習資料等はポートフォリオ形式でまとめておくこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

初回の科目オリエンテーションにて詳細を説明する。予習や課題の実施を前提に講義を進める。

■オフィスアワー

水曜日16時から17時は随時。それ以外は要予約。

■評価方法

評価配分:筆記小テスト20%、実技小テスト20%、実技試験60%。

■教科書

- ①潮見 泰蔵ら 編:リハビリテーション基礎評価学, 羊土社 ②柴 喜崇ら 編:ADL, 羊土社
③細田多穂 監:シンプル理学療法学シリーズ 運動学テキスト, 南江堂
④田崎 義昭 著:ベッドサイドの神経の診かた, 南山堂
⑤津山直一 中村耕三 訳:新徒手筋力検査法 協同医書出版社
⑥林典雄 著:運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢+下肢・体幹 改訂第2版
⑦市橋 則明 編:運動療法学—障害別アプローチの理論と実際

■参考書

鈴木則宏・編:神経診察クローズアップ, メジカルビュー / 斎藤佳雄ら:ベッドサイドの神経の診方, 南山堂

科目名	理学療法評価学実習Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	横山 雅人	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	<理学療法専攻2年次必修科目>解剖学、運動学、理学療法入門、リハビリテーション入門、理学療法評価学Ⅰの知識が必要となる。	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法評価学」			
キーワード	評価プロセス、面接技法、観察技法、検査技法				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

主に神経障害に関連する理学療法評価の基本的な考え方・枠組み、基本的な検査項目を学び、実践できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①評価の意味、評価の対象、評価の手段を理解できる。
- ②基本的な面接・観察技法を身につける。
- ③基本的な検査手技を自己学習により正確に行えるようになる。
- ④それぞれの検査の目的や利用法についての基本的知識を得る。

■授業の概要

主に神経障害患者が持つ身体的機能面から全生活場面までをみて症状や障害を把握し、その回復の方策を探ることが「評価」の目的である。理学療法評価学Ⅰおよび理学療法評価学実習Ⅰで学んだ評価の目的、意義、方法、流れを基軸としつつ、各種検査方法について学んでいく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション/脳神経検査①
第2回	脳神経検査② 課題・小テスト
第3回	観察による動作分析①
第4回	観察による動作分析② 課題・小テスト
第5回	筋緊張検査①
第6回	筋緊張検査② 課題・小テスト
第7回	協調性検査①
第8回	協調性検査② 課題・小テスト
第9回	片麻痺機能検査①
第10回	片麻痺機能検査② 課題・小テスト
第11回	姿勢・平衡機能・バランス検査①
第12回	姿勢・平衡機能・バランス検査②
第13回	姿勢・平衡機能・バランス検査③ 課題・小テスト
第14回	高次脳機能障害①
第15回	高次脳機能障害② 課題・小テスト

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ①実技を行う場合は動きやすい格好で準備すること。
- ②予習を前提に講義を進める。

〔受講のルール〕

- ①授業概要を確認し積極的に臨むこと。
- ②受講態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めない。
- ③授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業概要・授業進行を確認し、予習を怠らないこと。指定された予習以外にも、評価（検査・測定）に関連する基礎医学的な知識を学習しておくこと。また、不足している基礎的な医学知識を授業終了後に必ず確認すること。

■オフィスアワー

水曜日16時～17時（その他の曜日については要予約）

■評価方法

実技・筆記試験 70%、授業進行に合わせた課題・小テスト等 30%の総合評価にて判定するが、実技・筆記試験が60%以上であることが前提となる。

■教科書

潮見泰蔵ら・編：リハビリテーション基礎評価学，羊土社
 柴喜崇ら・編：ADL，羊土社
 石川朗・総編：理学療法テキスト 神経障害理学療法Ⅰ，中山書店
 市橋則明・編：運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第二版，南江堂
 石井慎一郎：動作分析 臨床活用講座，メジカルビュー
 石川朗・総編：理学療法・作業療法テキスト 臨床運動学，中山書店

■参考書

鈴木則宏・編：神経診察クローズアップ，メジカルビュー / 斎藤佳雄ら：ベッドサイドの神経の診方，南山堂

科目名	運動療法学Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	新谷益巳・小島俊文	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目 「理学療法治療学」			
キーワード	関節可動域運動、筋力強化、持久力、基本動作練習、歩行練習、高齢者の運動				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

理学療法における治療技術の基礎を学ぶ。

〔達成目標〕

- ①主要なキーワードの自分言葉で説明ができる。
- ②正常と異常について説明できる。
- ③評価と結びつけて運動プログラムを説明できる。

■授業の概要

解剖学、運動学、評価学の学習を踏まえて、理学療法で必要となる治療技術の基礎を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション / 運動療法とは (新谷)
第2回	痛みの基礎知識① (新谷)
第3回	骨の構造と機能① (新谷)
第4回	骨の構造と機能② (新谷)
第5回	関節の構造と機能① (新谷)
第6回	関節の構造と機能② (新谷)
第7回	筋の構造と機能① (新谷)
第8回	筋の構造と機能② (新谷)
第9回	神経の構造と機能 (新谷)
第10回	基本動作 (新谷)
第11回	運動学習 (小島)
第12回	視覚と運動制御 (小島)
第13回	発達と運動機能① (小島)
第14回	発達と運動機能② (小島)
第15回	老化と運動機能 (小島)

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔服装指定〕 Tシャツ+ハーフパンツ 指定とします。(防寒対策は認めます)

〔学習方法〕 基礎を学びながら、実際に体験して学びます。

解剖学、運動学の知識を獲得済みであることが前提とします。不十分な者は事前学習を個人で進めてください。

■授業時間外学習にかかわる情報

〔復習支援〕 技術を身につけるために復習とトレーニングを支援します。「運動療法学実習Ⅰ」と合わせて、到達度チェック表を使用したテクニカルトレーニングについて科目オリテンで説明します。

■オフィスアワー

新谷：木曜日16:30～17:30

■評価方法

筆記試験(客観)100%とする。60点未満の場合、総合評価の対象としない。再試験：有。

■教科書

運動療法学—障害別アプローチの理論と実際 市橋 則明(編集) 文光堂

■参考書

運動器障害理学療法学テキスト(シンプル理学療法学シリーズ) 高柳清美(著), 中川法一(著) 南江堂

科目名	運動療法学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	横山 雅人	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目 「理学療法治療学」			
キーワード	運動療法学Ⅱ				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

神経障害疾患の理学療法における評価・治療技術の基礎を学ぶ。

〔達成目標〕

- ①主要なキーワードの自分言葉で説明ができる。
- ②疾患に関連した障害像を説明できる。
- ③評価と結びつけた介入方法を説明できる。

■授業の概要

解剖学、運動学、評価学、運動療法学の学習を踏まえて、主に神経障害疾患に関する理学療法で必要となる評価・治療技術の基礎を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	神経の構造と機能① / 科目オリエンテーション
第2回	神経の構造と機能②
第3回	姿勢障害に対する運動療法①
第4回	姿勢障害に対する運動療法②
第5回	バランス障害に対する運動療法
第6回	感覚障害に対する運動療法
第7回	中枢神経障害・脳血管障害に対する運動療法①
第8回	中枢神経障害・脳血管障害に対する運動療法②
第9回	パーキンソン病に対する運動療法
第10回	運動失調・協調性障害に対する運動療法
第11回	脊髄損傷に対する運動療法
第12回	高次脳機能障害に対する運動療法
第13回	歩行障害に対する運動療法
第14回	嚥下障害 (外部講師)
第15回	小児疾患 脳性麻痺 二分脊椎 発達障害 運動発達遅滞 ダウン症候群 その他 (外部講師)

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔服装指定〕 実技の予定がある場合はTシャツ+ハーフパンツを指定とします(防寒対策は認めます)。

〔学習方法〕 神経障害疾患に関する基礎知識、評価、運動療法を中心に学びますので、関連した予習を進めてください。解剖学、運動学、生理学の知識を獲得済みであることが前提としますので、不十分な者は事前学習を個人で進めてください。

■授業時間外学習にかかわる情報

科目オリエンテーションや授業内で説明を実施しますが、予習・課題の実施を前提に講義を進めます。

■オフィスアワー

水曜日16時～17時(その他の曜日については要予約)

■評価方法

筆記試験70%、授業進行に合わせた課題・小テスト等30%の総合評価にて判定するが、筆記試験が60%以上であることが前提となる。

■教科書

市川則明・編:運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第二版,文光堂
 石井慎一郎:動作分析 臨床活用講座,メジカルビュー
 細田多穂・監修:中枢神経障害理学療法学テキスト 第二版,南江堂
 石川朗・総編:理学療法テキスト 神経理学療法学Ⅰ,中山出版
 石川朗・総編:理学療法・作業療法テキスト 臨床運動学,中山出版

■参考書

必要に応じて授業中に紹介します。

科目名	運動療法学Ⅲ	担当教員 (単位認定者)	多田 菊代	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	<理学療法専攻3年次必修科目>解剖学、運動学、生理学、一般臨床医学の知識が必要となる。	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法治療学」			
キーワード	内部障害、循環器疾患、呼吸器疾患、代謝障害、腎機能障害				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

内部障害の定義が説明できると共に、内部障害に対する基本的理学療法の意義と内容を説明できる。

〔到達目標〕

- ①内部障害の定義が説明できる。
- ②内部障害に対するフィジカルアセスメントについて説明できる。
- ③内部障害に対するリスク管理について説明できる。
- ④内部障害に対する一般的理学療法プログラムを説明できる。

■授業の概要

呼吸・循環・代謝疾患について、病態に関する知識の確認を行うと共にフィジカルアセスメントを学ぶ。また、呼吸・循環・代謝疾患に対する一般的な運動療法について学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、内部障害の定義・疫学・歴史的背景	
第2回	呼吸器系の解剖学・運動学	
第3回	呼吸器系の生理学	
第4回	呼吸不全の病態と呼吸器疾患	小テスト①
第5回	呼吸器疾患と関連疾患	小テスト②
第6回	医療面接（病歴聴取・問診）とフィジカルアセスメント	小テスト③
第7回	臨床検査データの読み方	小テスト④
第8回	運動負荷試験、ADL・QOL評価、画像所見	小テスト⑤
第9回	包括的呼吸リハビリテーション、呼吸理学療法	小テスト⑥
第10回	呼吸理学療法基本手技（1）コンディショニング・排痰で用いる徒手の手技	外部講師 小テスト⑦
第11回	呼吸理学療法基本手技（2）呼吸困難改善のための手技	〃 小テスト⑧
第12回	酸素療法、在宅酸素療法	小テスト⑨
第13回	人工呼吸療法と呼吸理学療法	小テスト⑩
第14回	疾患別呼吸理学療法（1）急性呼吸不全	
第15回	疾患別呼吸理学療法（2）慢性呼吸不全	

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ①予習・復習は必須である。

〔受講のルール〕

- ①授業概要を確認し積極的に臨むこと。
- ②受講態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めない。
- ③授業の流れや雰囲気や迷惑行為（私語、スマートフォン等の使用）は厳禁。全15回で授業開始時に小テストを実施する。

■授業時間外学習にかかわる情報

循環器系・呼吸器系・代謝系・腎機能の解剖学・運動学・生理学を復習して講義に臨むこと。

■オフィスアワー

水曜日16時から17時は随時。それ以外は要予約。

■評価方法

小テスト20%、筆記試験80%。

■教科書

標準理学療法学 内部障害理学療法学 シリーズ監修：奈良 勲 医学書院

■参考書

随時紹介する。

科目名	運動療法学実習Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	新谷益巳・小島俊文	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法治療学」			
キーワード	関節可動域運動、筋力強化、持久力、基本動作練習、歩行練習、高齢者の運動				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

理学療法における治療技術の基礎を身につける。

〔到達目標〕

- ①異常な状態に対する治療技術を選ぶことができる。
- ②①に関連した主要な治療技術を実行できる。
- ③②について、評価学に基づいて、介入効果を示すことができる。

■授業の概要

運動療法学Ⅰの学習を踏まえて、理学療法で必要となる治療技術の代表的なものが実施できるように、体験して身につける。この科目で学んだことは、今後運動療法学、理学療法技術論へつながる科目である。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション/運動療法の実際(新谷)
第2回	痛みに対する運動療法①(新谷)
第3回	関節可動域制限に対する運動療法①(新谷)
第4回	関節可動域制限に対する運動療法②(新谷)
第5回	筋力低下に対する運動療法(新谷)
第6回	持久力低下に対する運動療法(新谷)
第7回	感覚障害に対する運動療法(新谷)
第8回	バランス障害に対する運動療法(新谷)
第9回	協調性障害に対する運動療法(新谷)
第10回	基本動作に対する運動療法(新谷)
第11回	姿勢障害に対する運動療法(小島)
第12回	歩行障害に対する運動療法(小島)
第13回	発達障害に対する運動療法①(小島)
第14回	発達障害に対する運動療法②(小島)
第15回	高次脳機能障害に対する運動療法(小島)

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔服装指定〕 Tシャツ+ハーフパンツ 指定とします。(防寒対策は認めます)

〔学習方法〕 体験と指導デモンストレーションをトレーニングします。

解剖学、運動学の知識を獲得済みであることが前提とします。不十分な者は事前学習を個人で進めてください。

■授業時間外学習にかかわる情報

〔復習支援〕 技術を身につけるために復習とトレーニングを支援します。

■オフィスアワー

新谷：木曜日16:30～17:30

■評価方法

筆記試験(客観)100%とする。60点未満の場合、総合評価の対象としない。再試験：有。

■教科書

運動療法学—障害別アプローチの理論と実際 市橋 則明(編集) 文光堂

■参考書

運動器障害理学療法学テキスト(シンプル理学療法学シリーズ) 高柳清美(著), 中川法一(著) 南江堂

科目名	運動療法学実習Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	横山 雅人	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目 「理学療法治療学」			
キーワード	運動療法学実習Ⅱ				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕 神経障害疾患の理学療法における治療技術の基礎を身につける。
〔到達目標〕 ①疾患に関連した運動療法を中心とした治療技術を選択することができる。機能障害に対する治療技術を選ぶことができる。 ②①の主要な治療技術を実行できる。 ③②について、難易度設定や効果判定、動作目標、機能障害を示すことができる。

■授業の概要

運動療法学Ⅱの学習を踏まえて、神経障害疾患の理学療法で必要となる治療技術の代表的なものが実施できるように、身につける。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。	
第1回	神経障害に対する運動療法基礎：動作観察/科目オリエンテーション
第2回	神経障害—脳卒中片麻痺の姿勢・動作の特徴
第3回	神経障害—評価・運動療法・介入の基礎：動作観察、姿勢・運動制御、運動学習①
第4回	神経障害—評価・運動療法・介入の基礎：動作観察、姿勢・運動制御、運動学習②
第5回	神経障害—運動療法・介入の実際 脳卒中急性期①
第6回	神経障害—運動療法・介入の実際 脳卒中急性期②
第7回	神経障害—運動療法・介入の実際 運動療法の考え方：課題指向型アプローチ・神経生理学アプローチ①
第8回	神経障害—運動療法・介入の実際 運動療法の考え方：課題指向型アプローチ・神経生理学アプローチ②
第9回	神経障害—運動療法・介入の実際 具体的な運動療法①：寝返り・起き上がり/臥位・ベッド上動作
第10回	神経障害—運動療法・介入の実際 具体的な運動療法②：座位・立ち上り・移乗
第11回	神経障害—運動療法・介入の実際 具体的な運動療法③：立位
第12回	神経障害—運動療法・介入の実際 具体的な運動療法④：歩行
第13回	神経障害—運動療法・介入の実際 具体的な運動療法⑤：その他
第14回	嚥下障害 (外部講師)
第15回	小児疾患 脳性麻痺 二分脊椎 発達障害の実際 運動発達遅滞 ダウン症候群 その他 (外部講師)

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔服装指定〕 実技中心になることから、運動可能なTシャツ+ハーフパンツを指定とします(防寒対策は認めます)。 〔学習方法〕 体験と指導デモンストレーションをトレーニングします。 解剖学、運動学、生理学の知識を獲得済みであることが前提としますので、不十分な者は事前学習を個人で進めてください。

■授業時間外学習にかかわる情報

初回オリエンテーションにて詳細を説明する。

■オフィスアワー

水曜日16時～17時(その他の曜日については要予約)

■評価方法

筆記試験 60%、動作観察課題・実技見極めへの合格等 40%で総合評価にて判定するが、筆記試験が60%以上であることが前提となる。

■教科書

細田多穂・監修：中枢神経障害理学療法学テキスト 第二版、南江堂 石川朗・総編：理学療法テキスト 神経理学療法学Ⅰ、中山出版 市川則明・編：運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第二版、文光堂 石井慎一郎：動作分析 臨床活用講座、メジカルビュー 石川朗・総編：理学療法・作業療法テキスト 臨床運動学、中山出版

■参考書

必要に応じて授業中に紹介します。

科目名	運動療法学実習Ⅲ	担当教員 (単位認定者)	多田菊代・新谷益巳 山口智晴	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻3年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「運動療法治療学」			
キーワード	理学療法、リハビリテーション、理学療法士法、運動療法、物理療法				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

運動療法学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲおよびそれぞれの実習より学んだ各種運動療法の知識と技術を応用し、また人間発達学、老年学などから学んだ高齢者の特徴を考慮しながら、高齢者全般に関わる理学療法（特に運動療法）について学んでいく。

〔到達目標〕

- ①高齢者の精神・心理の一般的な状態について述べるができる。
- ②高齢者の身体機能の特性について述べるができる。
- ③高齢者にみられやすい併存疾患の管理・リスク管理を説明できる。
- ④高齢者に多い問題への対応を説明できる。
- ⑤介護予防を目的に理学療法士がどのような視点が必要か説明できる。

■授業の概要

加齢による身体機能・精神機能が変化した高齢者の特性を知り、併存疾患の管理やリスク管理について理解する。また、理学療法士として高齢者に多い問題にどのように対応するか、その視点を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、超高齢者社会 日本の現状と課題
第2回	高齢者の認知・身体機能特性
第3回	認知症の定義と分類、認知症の症状と評価
第4回	【山口】認知症に対するリハビリテーション 認知症状と認知症の行動・心理症状への介入
第5回	【山口】認知症に対するリハビリテーション 作業療法の実際
第6回	【新谷】高齢者リハビリテーション リハビリテーションに伴うリスク管理～浮腫～
第7回	高齢者リハビリテーション 併存疾患の管理～医薬品による影響～
第8回	高齢者リハビリテーション 高齢者に多い問題への対応～低栄養～
第9回	高齢者リハビリテーション 高齢者に多い問題への対応～排尿・排便障害～
第10回	【新谷】高齢者リハビリテーション 介護予防～高齢者の体力測定～
第11回	【新谷】高齢者リハビリテーション 介護予防～高齢者の筋力増強～
第12回	高齢者リハビリテーション 介護予防～高齢者の転倒予防～
第13回	高齢者リハビリテーション 介護予防～高齢者の健康増進～
第14回	高齢者リハビリテーション 演習①
第15回	高齢者リハビリテーション 演習②

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ①予習・復習は必須である。

〔受講のルール〕

- ①授業概要を確認し積極的に臨むこと。
- ②受講態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めない。
- ③授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、スマートフォン等の使用）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

水曜日16時から17時は随時。それ以外は要予約。

■評価方法

演習課題20%、筆記試験（客観）80%。

■教科書

標準理学療法学 内部障害理学療法学 シリーズ監修：奈良 勲 医学書院
高齢者リハビリテーション実践マニュアル 編集 宮越浩一 メジカルビュー

■参考書

適宜紹介する。

科目名	物理療法学	担当教員 (単位認定者)	新谷 益巳	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻2年次必修科目。 解剖学と生理学の知識が必要。	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法治療学」			
キーワード	温熱療法・寒冷療法・電気刺激療法・光線療法				

■授業の目的・到達目標

〔目的〕熱、光、水、電気、超音波などの物理的なエネルギーを生体に加えることによって、生体が有する自然治癒力を賦活させることができる。特に疼痛、創傷、浮腫、組織などの柔軟性を改善することができる物理療法について学ぶ。

〔到達目標〕

- ①物理的なエネルギーが生体に与える生理学的な影響。
- ②症状に応じた治療法の選択のための臨床判断の概念。
- ③具体的な治療法の実際。
- ④リスク管理などについての系統的な知識を修得する。

■授業の概要

物理療法とは生体に物理的エネルギーを与え、生体反応を引き起こすことにより、疾病治療を行う治療手段である。当科目は理学療法における物理療法の位置づけを理解することから始まり、物理療法に用いられる各種エネルギーの特性と生体反応の物理的機序を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	物理療法の概要について
第2回	物理療法学の生理学的基礎について
第3回	物理療法の適応と禁忌について
第4回	温熱療法の概要について
第5回	エネルギー変換療法の概要について
第6回	超音波療法の概要について
第7回	寒冷療法の概要について
第8回	電気刺激療法の概要について
第9回	電気生理学的評価法とバイオフィードバックについて
第10回	光線療法の概要について
第11回	牽引療法の概要について
第12回	持続的他動運動装置を用いた治療法の概要
第13回	水治療法の概要について
第14回	臨床で行う頻度の多い疾患に対する対応について
第15回	物理療法学のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・予習復習は必ず行うこと。

〔受講ルール〕

- ・授業概要を必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。
- ・寝ている者については、気づいた者が起こすなどして見て見ぬふりは絶対にしないこと。また、寝ている者がいる場合は授業の進行を一時止めたりすることもある。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている文献は必ず確認し、理解をして授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。

■オフィスアワー

基本的に授業前後の休憩時間とする。それ以外の場合は要予約。

■評価方法

筆記試験（客観）100%とする。60点未満の場合、総合評価の対象としない。再試験：有

■教科書

シンプル理学療法学シリーズ 物理療法学テキスト 第2版 南江堂

■参考書

必要に応じて紹介する。

科目名	物理療法学実習	担当教員 (単位認定者)	新谷 益巳	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法2年次必修科目。 解剖学と生理学の知識が必要。	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法治療学」			
キーワード	温熱療法・寒冷療法・電気刺激療法・光線療法				

■授業の目的・到達目標

〔目的〕運動療法によって要素的な運動機能や実際の動作能力を高めていくための前段階として、疼痛や創傷などの機能・構造障害の改善を促進し、動きやすい身体状況を整える必要がある。そのための具体的な治療手段が、熱、光、水、電気、超音波などの物理的なエネルギーを生体に加えることの意味について理解し、各種機器を操作し実践することを目的とする。

〔到達目標〕

- ①物理療法機器を安全に取り扱いできる。
- ②症例に合わせた機器の選択ができる。
- ③物理療法機器の生理学的特性を理解したうえでのオリエンテーションができる。
- ④物理療法機器のリスク管理ができる。

■授業の概要

物理療法とは生体に物理的エネルギーを与え、生体反応を引き起こすことにより、疾病治療を行う治療手段である。当科目は各種疾患に対する物理療法の適応を理解し、物理療法に用いられる各種エネルギー特性と疾患特有の症状への生理的機序を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	ホットパックの実際について
第2回	パラフィン浴の実際について
第3回	極超短波療法の実際について
第4回	超短波療法の実際について
第5回	赤外線療法の実際について
第6回	超音波療法の実際について
第7回	伝導冷却法の実際について
第8回	対流冷却法と渦流浴法と気化冷却法の実際について
第9回	痛みのコントロール：経皮的電気神経刺激の実際について
第10回	運動の制御：神経筋電気刺激（NMES）の実際について
第11回	レーザー療法の実際について
第12回	紫外線療法の実際について
第13回	頸椎牽引の実際について
第14回	腰椎牽引の実際について
第15回	マッサージ療法の実際について

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・ふざけた態度や礼を欠く態度を取る者は受講を拒否することがある。
- ・予習復習は必ず行うこと。
- ・授業概要を必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。
- ・寝ている者については、気づいた者が起こすなどして見て見ぬふりは絶対にしないこと。また、寝ている者がいる場合は授業の進行を一時止めたりすることもある。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている文献は必ず確認し、理解をして授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。

■オフィスアワー

基本的に授業前後の休憩時間とする。それ以外の場合は要予約。

■評価方法

筆記試験（客観）100%とする。60点未満の場合、総合評価の対象としない。再試験：有

■教科書

シンプル理学療法学シリーズ 物理療法学テキスト 第2版 南江堂

■参考書

必要に応じて紹介する。

科目名	義肢装具学	担当教員 (単位認定者)	柴ひとみ・小島俊文	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法治療学」			
キーワード	切断、麻痺(中枢性・末梢性)、義足、装具、車椅子、歩行補助具				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

車椅子や歩行補助具、義肢、装具の特徴を理解し、疾患や障害に合わせた車椅子や歩行補助具、義肢、装具を選択できるようにすることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①リハビリテーション医学における義肢・装具の意義を説明できる。
- ②車椅子や歩行補助具、義肢装具の種類と機能を述べる事ができる。また、義肢装具の構造を説明することができる。
- ③疾患や障害に合った車椅子、歩行補助具、装具を選択することができる。

■授業の概要

臨床で使用されている車椅子、歩行補助具、義肢・装具を、理学療法との結び付きの中で学習し、これまで習った疾患や障害に照らし合わせながら車椅子、歩行補助具、義肢・装具の種類、適応、用法、禁忌、起こりやすいトラブルなどの基礎知識を身に付ける。義肢については、切断部位、ソケットの構造、継手の種類・適応などを学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション/歩行補助具について(担当 小島)
第2回	歩行補助具、車椅子について(担当 小島)
第3回	車椅子の採寸、チェックポイント(担当 小島)
第4回	義肢装具の概念、切断部位と切断術について(担当 柴)
第5回	切断の分類・原因、切断手段の概略、切断部位と切断術について(担当 柴)
第6回	大腿義足ソケット(四辺形ソケットとIRCソケットの機能的役割)について(担当 柴)
第7回	下腿義足ソケット(PTB、PTS、KBM、TSB式下腿義足)について(担当 柴)
第8回	股義足、膝義足について(担当 柴)
第9回	サイム義足、足部義足について(担当 柴)
第10回	義手について(担当 牛込)
第11回	装具学総論、短下肢装具(担当 小島)
第12回	長下肢装具(担当 小島)
第13回	靴型装具について(担当 柴)
第14回	頸部体幹装具について(担当 柴)
第15回	上肢装具について(担当 柴)

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・整形外科が基礎となるため履修内容に関連した範囲は必ず学習すること。積極的に車椅子や歩行補助具、義肢、装具などに触れること。

〔受講のルール〕

- ・授業概要を必ず確認し理解を深めるよう積極的に授業に臨むこと。
- ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(携帯電話の使用、私語)は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている文献は必ず確認し、理解をして授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するように努力すること。

■オフィスアワー

木曜日16時～17時は随時(変更時は掲示する)その他の曜日については要予約

■評価方法

筆記試験(客観)100%

■教科書

細田多穂監:義肢装具学テキスト 南江堂

■参考書

日本義肢装具学会監修:義肢学 医歯薬出版
日本義肢装具学会監修:装具学 第3版 医歯薬出版

科目名	義肢装具学実習	担当教員 (単位認定者)	柴ひとみ・小島俊文	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻3年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法治療学」			
キーワード	切断、麻痺(中枢性・末梢性)、義足、装具				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

義肢、装具の特徴を理解し、疾患や障害に合わせた義肢、装具を選択できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①切断者に対する術直後の断端管理、ADL動作指導について述べるができる。
- ②切断者に対する義肢適合のチェックポイントを述べるができる。
- ③下肢切断者の異常歩行についてその原因を列挙することができる。
- ④プラスチック製短下肢装具の製作工程を説明することができる。

■授業の概要

「義肢装具学」で学んだことを実際の義肢・装具などを扱いながら知識を深めることを目的とする。切断の断端管理、ソケットの構造や制作方法、懸垂方法、継手の種類・適応、フィッティングの確認方法、義足着用時の動作分析などを学習する。また、短下肢装具の型どりを体験するとともに下肢装具のチェックポイントや歩行への影響を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション/切断者の評価 全身及び断端の評価
第2回	断端管理法 立位歩行練習 ADL指導 グループワーク
第3回	断端管理法 立位歩行練習 ADL指導 発表①
第4回	断端管理法 立位歩行練習 ADL指導 発表②
第5回	断端評価 断端管理法 まとめ
第6回	大腿義足、下腿義足のベンチアライメントと静的アライメント、ダイナミックアライメント①(外部講師)
第7回	大腿義足、下腿義足のベンチアライメントと静的アライメント、ダイナミックアライメント②(外部講師)
第8回	大腿義足、下腿義足の異常歩行とダイナミックアライメント
第9回	下肢装具のチェックポイントと歩行への影響①(担当:小島)
第10回	下肢装具のチェックポイントと歩行への影響②(担当:小島)
第11回	プラスチック装具の採型①(外部講師)
第12回	プラスチック装具の採型②(外部講師)
第13回	上肢装具・体幹装具・膝装具の実際
第14回	義肢製作所の見学①
第15回	義肢製作所の見学②

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・整形外科が基礎となるため履修内容に関連した範囲は必ず学習すること。積極的に義肢、装具などに触れること。

〔受講のルール〕

- ・授業シラバスを必ず確認し理解を深めるよう積極的に授業に臨むこと。
- ・授業の流れや雰囲気や迷惑行為(携帯電話の使用、私語)は厳禁。
- ・採型実習や見学は出席を前提とするため休まないこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている文献は必ず確認し、理解をして授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するように努力すること。

■オフィスアワー

木曜日16時～17時は随時(変更時は掲示する)その他の曜日については要予約

■評価方法

筆記試験(客観)80%、ポートフォリオ10%、発表10% 総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提となる。

■教科書

細田多穂監:義肢装具学テキスト 南江堂

■参考書

日本義肢装具学会監修:義肢学 医歯薬出版
日本義肢装具学会監修:装具学 第3版 医歯薬出版

科目名	理学療法技術論Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	多田 菊代	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻3年次必修科目 運動療法学Ⅲおよび運動療法学実習Ⅲの知識が必要	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法治療学」			
キーワード	骨折・脱臼・靭帯損傷				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

内部障害の定義が説明できると共に、内部障害に対する基本的理学療法の意義と内容を説明できる。

〔到達目標〕

- ①内部障害の定義が説明できる。
- ②内部障害に対するフィジカルアセスメントについて説明できる。
- ③内部障害に対するリスク管理について説明できる。
- ④内部障害に対する一般的理学療法プログラムを説明できる。

■授業の概要

運動療法学Ⅲおよび運動療法学実習Ⅲで学んだ内部障害に対する理学療法の意義やフィジカルアセスメントを基盤とし、内部障害を呈する症例に対する基本的理学療法を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、エネルギー代謝と栄養	小テスト①
第2回	循環器系の解剖学・運動学	小テスト②
第3回	循環器系の生理学、運動と循環の関連	小テスト③
第4回	虚血性心疾患の病態・検査と治療	小テスト④
第5回	心不全(急性・慢性)の病態・検査と治療	小テスト⑤
第6回	心臓リハビリテーション総論	
第7回	循環器疾患に対する理学療法	小テスト⑥
第8回	日本におけるがん医療	
第9回	がん患者に対するリハビリテーション	小テスト⑦
第10回	糖尿病の病態・検査と治療	小テスト⑧
第11回	糖尿病の合併症と治療	
第12回	糖尿病に対する理学療法	小テスト⑨
第13回	腎機能障害の病態・検査と治療	
第14回	腎機能障害に対する理学療法	小テスト⑩
第15回	循環・代謝機能障害患者に対する教育	

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ①予習・復習は必須である。

〔受講のルール〕

- ①授業概要を確認し積極的に臨むこと。
- ②受講態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めない。
- ③授業の流れや雰囲気や迷惑行為(私語、スマートフォン等の使用)は厳禁。全15回で授業開始時に小テストを実施する。

■授業時間外学習にかかわる情報

循環器系・呼吸器系・代謝系・腎機能の解剖学・運動学・生理学を復習して講義に臨むこと。

■オフィスアワー

基本的に授業前後の休憩時間とする。それ以外の場合は要予約。

■評価方法

小テスト 20%、筆記試験(客観) 80%。

■教科書

標準理学療法学 内部障害理学療法学 シリーズ監修:奈良 勲 医学書院
高齢者リハビリテーション実践マニュアル 編集 宮越浩一 メジカルビュー

■参考書

授業時に必要に応じて紹介する。

科目名	理学療法技術論Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	新谷 益巳	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻3年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法治療学」			
キーワード	理学療法、リハビリテーション、理学療法士法、運動療法、物理療法				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

臨床で担当する機会が多い運動器疾患であるが、その病態を理解した上で、評価からプログラムへと進める考え方が求められる。本講義は関節機能障害、関節外機能障害、関節内外複合障害について学び、EBMを元実際に治療について説明できることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①関節機能障害について説明できる。
- ②関節外機能障害について説明できる。
- ③関節内外複合障害について説明できる。
- ④整形外科疾患の評価および理学療法プログラムを設定することができる。

■授業の概要

「整形外科学」、「理学療法評価学」、「運動療法学」で学んだ知識を基に、各疾患に対しての治療方法について学ぶ。基礎的な内容に関しては、事前に復習しておく必要がある。授業は各疾患に対してどのような考えを基に治療（プログラムの立案）を進めるかについて学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	スポーツ外傷の治療プログラムについて
第2回	スポーツ障害の治療プログラムについて
第3回	腰椎椎間板ヘルニア・腰部脊柱管狭窄症の治療プログラムについて
第4回	腰椎椎間板ヘルニア・腰部脊柱管狭窄症の治療プログラムについて
第5回	肩関節周囲炎の治療プログラムについて
第6回	腱板損傷の治療プログラムについて
第7回	骨形成不全の治療プログラムについて
第8回	廃用症候群の治療プログラムについて
第9回	有痛性障害・疾患の治療プログラムについて
第10回	熱傷の治療プログラムについて
第11回	変形性関節症の治療プログラムについて
第12回	靭帯損傷・半月板損傷・脱臼の治療プログラムについて
第13回	関節リウマチとその近縁疾患の治療プログラムについて
第14回	脊椎疾患の治療プログラムについて
第15回	骨壊死性疾患の治療プログラムについて（大腿骨頭壊死を含む）

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・授業計画を必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。
- ・寝ている者については、気づいた者が起こすなどして見て見ぬふりは絶対にしないこと。また、寝ている者がいる場合は授業の進行を一時止めたりすることもある。

■授業時間外学習にかかわる情報

毎回の復習を怠らないこと。

■オフィスアワー

基本的に授業前後の休憩時間とする。それ以外の場合は要予約。

■評価方法

筆記試験（客観）100%とする。60点未満の場合、総合評価の対象としない。

再試験：有

■教科書

シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト 2013 南江堂
PT臨床実習ルートマップ 2011 MEDICALVIEW

■参考書

授業内に随時紹介する。

科目名	理学療法技術論Ⅲ	担当教員 (単位認定者)	横山 雅人	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻3年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法治療学」			
キーワード	評価項目の抽出、統合と解釈、問題点抽出、プログラム立案、理学療法の実際、理学療法の記録				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

神経障害を呈する代表的疾患に対し、理学療法の一般的評価、評価結果を踏まえた統合と解釈、問題点抽出、ゴール設定、プログラム立案、理学療法の具体的方法、リスク管理について学ぶ。

〔到達目標〕

- ①実習で対応できるレベルのケースに即した理学療法を論じることができる。
- ②ケースに応じたリスク管理について述べるができる。
- ③実習に対応できるレベルのレポート、サマリーを記録できる。

■授業の概要

神経障害を呈する代表的疾患に対しての基本的な理学療法の進め方について学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	脳血管障害に対する理学療法①:脳損傷と回復/科目オリエンテーション
第2回	脳血管障害に対する理学療法②:Impairment / Activity Limitation評価
第3回	脳血管障害に対する理学療法③:座位・立位
第4回	脳血管障害に対する理学療法④:歩行
第5回	脳血管障害に対する理学療法⑤:Pusher 現象と半側空間無視
第6回	パーキンソン病の理解と理学療法①:基本的な考え方・評価
第7回	パーキンソン病の理解と理学療法②:理学療法の実際
第8回	運動失調症(脊髄小脳変性症・多系統萎縮症)の理解と理学療法
第9回	頭部外傷の理解と理学療法
第10回	多発性硬化症/筋萎縮性側索硬化症の理解と理学療法
第11回	筋ジストロフィー/多発性筋炎/重症筋無力症/ギラン・バレー症候群に対する理解と理学療法
第12回	脊髄損傷の理解と理学療法①:基本的考え方・評価
第13回	脊髄損傷の理解と理学療法②:理学療法の実際
第14回	末梢神経損傷(腕神経叢損傷、絞扼性末梢神経損傷など)の理解と理学療法
第15回	その他の神経障害に対する理学療法(嚥下障害、褥瘡、排尿障害など)の理解と理学療法

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

高い思考力が要求される。自力で思考展開ができるように努力すること。

〔受講ルール〕

- ・講義で大枠の流れを学ぶ。後のケース演習に対応できるようにしっかりと学ぶこと。
- ・他者に依存することで実習に対応できる能力が身に付かないので、主体的に関わること。

■授業時間外学習にかかわる情報

難易度は高めであっても臨床では平均的に要求される内容であり、理解ができない部分は自己学習で十分に補うこと。レポートの出来栄が悪い場合は、個別に課題提示することがある。

■オフィスアワー

水曜日 16:30～17:30

■評価方法

筆記試験 70%、授業進行に合わせた課題・小テスト等 30%の総合評価にて判定するが、筆記試験が 60%以上であることが前提となる。

■教科書

石川朗・総編:理学療法テキスト 神経理学療法学Ⅰ, 中山出版
 細田多穂・監修:中枢神経障害理学療法テキスト 第二版, 南江堂
 市川則明・編:運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第二版, 文光堂

■参考書

石井慎一郎:動作分析 臨床活用講座, メジカルビュー
 石川朗・総編:理学療法・作業療法テキスト 臨床運動学, 中山出版

科目名	理学療法技術論実習Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	多田 菊代	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻3年次必修科目 運動療法学Ⅲおよび実習Ⅲ・理学療法技術論Ⅰの知識が必要	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法治療学」			
キーワード	治療・評価・プログラム				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

内部障害の定義が説明できると共に、内部障害に対する基本的理学療法の意義と内容を説明できる。

〔到達目標〕

- ①内部障害の理学療法に必要な検査データのみかたが説明できる。
- ②検査データから理学療法で実施すべきリスク管理が説明できる。
- ③内部障害に対する一般的理学療法プログラムと検査データの関連を説明できる。

■授業の概要

運動療法学Ⅲおよび運動療法学実習Ⅲ、理学療法技術論Ⅰで学んだ内部障害に対する理学療法の意義やフィジカルアセスメントを基盤とし、内部障害を呈する症例に対する基本的理学療法を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、内部障害における臨床検査データの解釈	
第2回	心電図波形のみかた（理論）	
第3回	心電図波形のみかた（演習）	演習課題①
第4回	BLS、ACLS	
第5回	内部障害に対する理学療法の実際①	外部講師
第6回	"	② 外部講師
第7回	画像のみかた	演習課題②
第8回	人工呼吸器の取り扱い	
第9回	心肺運動負荷試験（理論）	
第10回	心肺運動負荷試験（演習）	演習課題③
第11回	吸引のしくみ（理論）	
第12回	吸引のしくみ（演習）	演習課題④
第13回	ペーパーペイシエント～呼吸器疾患～	
第14回	ペーパーペイシエント～循環器疾患～	
第15回	ペーパーペイシエント～糖尿病～	

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ①予習・復習は必須である。

〔受講のルール〕

- ①授業概要を確認し積極的に臨むこと。
- ②受講態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めない。
- ③授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、スマートフォン等の使用）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

循環器系・呼吸器系・代謝系・腎機能の解剖学・運動学・生理学を復習して講義に臨むこと。運動療法学Ⅲおよび運動療法学実習Ⅲ、理学療法技術論Ⅰの配布資料等を本科目資料と共に一元化し管理すること。

■オフィスアワー

基本的に授業前後の休憩時間とする。それ以外の場合は要予約。

■評価方法

演習課題 20%、筆記試験 80%。

■教科書

標準理学療法学 内部障害理学療法学 シリーズ監修:奈良 勲 医学書院
高齢者リハビリテーション実践マニュアル 編集 宮越浩一 メジカルビュー

■参考書

授業時に必要に応じて随時紹介する。

科目名	理学療法技術論実習Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	新谷 益巳	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻3年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法治療学」			
キーワード	理学療法、リハビリテーション、理学療法士法、運動療法、物理療法				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

理学療法技術論Ⅱを理解した上での科目となる。そのため、各疾患における治療プログラムの立案から実際の理学療法までについて実技を中心に行う。

〔到達目標〕

- ①関節機能障害について説明できる。
- ②関節外機能障害について説明できる。
- ③関節内外複合障害について説明できる。
- ④整形外科疾患の評価および理学療法プログラムを設定することができる。

■授業の概要

「整形外科学」、「理学療法評価学」、「運動療法学」で学んだ知識を基に、各疾患に対しての治療方法について学ぶ。基礎的な内容に関しては、事前に復習しておく必要がある。授業は各疾患に対してどのような考えを基に治療（プログラムの立案）を進めるかについて学ぶ。また、実際に実技を通して流れについても理解する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション/スポーツ外傷に対する運動療法の実際
第2回	スポーツ障害に対する運動療法の実際
第3回	腰椎椎間板ヘルニア・腰部脊柱管狭窄症に対する運動療法の実際
第4回	腰椎椎間板ヘルニア・腰部脊柱管狭窄症に対する運動療法の実際
第5回	肩関節周囲炎に対する運動療法の実際
第6回	腱板損傷に対する運動療法の実際
第7回	骨形成不全に対する運動療法の実際
第8回	廃用症候群に対する運動療法の実際
第9回	有痛性障害・疾患に対する運動療法の実際
第10回	熱傷に対する運動療法の実際
第11回	変形性関節症に対する運動療法の実際
第12回	靭帯損傷・半月板損傷・脱臼に対する運動療法の実際
第13回	関節リウマチとその近縁疾患に対する運動療法の実際
第14回	脊椎疾患に対する運動療法の実際
第15回	骨壊死性疾患に対する運動療法の実際（大腿骨頭壊死を含む）

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・授業計画を必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。
- ・寝ている者については、気づいた者が起こすなどして見て見ぬふりは絶対にしないこと。また、寝ている者がいる場合は授業の進行を一時止めたりすることもある。

■授業時間外学習にかかわる情報

毎回の復習を怠らないこと。

■オフィスアワー

基本的に授業前後の休憩時間とする。それ以外の場合は要予約。

■評価方法

筆記試験（客観）100%とする。60点未満の場合、総合評価の対象としない。

再試験：有

■教科書

シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト 2013 南江堂
PT臨床実習ルートマップ 2011 MEDICALVIEW

■参考書

授業内に随時紹介する。

科目名	理学療法技術論実習Ⅲ	担当教員 (単位認定者)	横山 雅人	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻3年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法治療学」			
キーワード	評価項目の抽出、統合と解釈、問題点抽出、プログラム立案、理学療法記録、ケースレポート、レジュメ				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

神経障害の理学療法の基本的な進め方を、脳血管障害・パーキンソン病など具体的な疾患を通して学び、実習ではそれらを実行できる能力を身につける。

〔到達目標〕

- ①実習で対応できるレベルのケースに即した理学療法を具体的に提示し、実行できる。
- ②ケースに応じたリスク管理について意見を述べ、実際に対応できる。
- ③実習に対応できるレベルのレポート、サマリーを記録できる。

■授業の概要

疾患概要、評価、治療と個々に学んだものを神経障害の観点から統合して、一連の理学療法プロセスを実践する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	脳血管障害の理学療法ケーススタディ①：リハビリテーションの流れ/科目オリエンテーション
第2回	脳血管障害の理学療法ケーススタディ②：情報収集・評価の選択・結果の解釈
第3回	脳血管障害の理学療法ケーススタディ③：統合と解釈
第4回	脳血管障害の理学療法ケーススタディ④：問題点抽出、ゴール設定
第5回	脳血管障害の理学療法ケーススタディ⑤：ケースに対する考察
第6回	脳血管障害の理学療法ケーススタディ⑥：歩行観察とアセスメント
第7回	脳血管障害の理学療法ケーススタディ⑦：歩行に対する理学療法の展開・装具療法
第8回	パーキンソン病の理学療法ケーススタディ①：パーキンソン病に対する理学療法の考え方・評価
第9回	パーキンソン病の理学療法ケーススタディ②：問題点抽出とプログラム立案
第10回	ケーススタディ口頭試問①
第11回	ケーススタディ口頭試問②
第12回	ケーススタディ口頭試問③
第13回	ケーススタディ口頭試問④
第14回	ケーススタディ口頭試問⑤
第15回	ケーススタディ口頭試問⑥

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

高い思考力と実技能力が要求される。自力で思考展開ができ、かつ実践できるように学習を進めること。

〔受講ルール〕

- ・他者に依存することで実習に対応できる能力が身に付かないので、主体的に関わること。
- ・白衣着用して講義に望むこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

口頭試問の難易度は実習で要求されるレベルを基準としている。時間外でも質問は随時受け付ける。

■オフィスアワー

水曜日 16:30～17:30

■評価方法

実技試験 60%、授業進行に合わせた口頭試問・課題・小テスト等 40%の総合評価にて判定するが、実技試験が 60%以上であることが前提となる。

■教科書

石川朗・総編：理学療法テキスト 神経理学療法学Ⅰ，中山出版
 細田多穂・監修：中枢神経障害理学療法学テキスト 第二版，南江堂
 市川則明・編：運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第二版，文光堂
 石川朗・総編：理学療法・作業療法テキスト 臨床運動学，中山出版

■参考書

PT臨床実習ルートマップ，メジカルビュー
 石井慎一郎：動作分析 臨床活用講座，メジカルビュー

科目名	基礎理学療法学特論	担当教員 (単位認定者)	小島 俊文	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	理学療法専攻3年次自由科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法治療学」			
キーワード	文献抄読、症例検討				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

理学療法士としての必要な知識と技能を身に付け、臨床的問題を見出し自ら解決する能力を身につける。

〔到達目標〕

学習資料を自ら探し出し、事前準備をすることができる。

グループワークにおいて積極的な発言や、リーダーシップをとることができる。

批判的思考で論文を読むことができる。

■授業の概要

この科目では、基礎的医学・理学療法を整理し、臨床的問題を解決するために必要な基礎的知識と臨床技能を再確認する。また、臨床的問題を見出し自ら解決する能力を身につけるため、文献の検索から始まり批判的思考の実践、グループワークをとりいれたPBLを実践する。さらには論文作成に向け、英文抄読にも取り組む。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	コースオリエンテーション。基礎医学の整理をおこなう。レディネステストを実施する予定なので、予習資料として第50～48回理学療法士国家試験問題を解いておくこと。
第2回	文献の検索方法を紹介する。また論理的思考方法の実際について紹介し、批判的に文献を読むための準備を行う。
第3回	文献の検索と批判的思考の実践。一人数題の文献を用意し、あらかじめ渡したチェックシートをもとに文献の抄読を行う。抄読の紹介後、グループワークを通して意見を出し合う。
第4回	文献の検索と批判的思考の実践。一人数題の文献を用意し、あらかじめ渡したチェックシートをもとに文献の抄読を行う。抄読の紹介後、グループワークを通して意見を出し合う。
第5回	症例検討(運動器障害)をグループワークにて行う。教科書的な内容の復習や文献等も取り入れ、運動器障害の整理と、その特性をとらえながら理学療法介入の糸口を見出す。
第6回	症例検討(内部障害)をグループワークにて行う。教科書的な内容の復習や文献等も取り入れ、内部障害の整理と、その特性をとらえながら理学療法介入の糸口を見出す。
第7回	症例検討(中枢神経障害)をグループワークにて行う。教科書的な内容の復習や文献等も取り入れ、中枢神経障害の整理と、その特性をとらえながら理学療法介入の糸口を見出す。
第8回	英文抄読。課題の英文を和訳し、グループごとに発表しまとめること。 英文献は第5回終了後にグループごとに配布する。

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・授業の理解度を高めるためには、予習活動は必須である。決められた課題を必ず行ってくること。
- ・グループにおける討議が重要となる。主体性を持って、自らグループを主導する気持ちで臨んでもらいたい。

〔受講のルール〕

- ・医療従事者として必要な態度や身だしなみを整えうえで受講すること。準備不足の学生は授業を受けられないこともある。

■授業時間外学習にかかわる情報

事前準備は必須である。活発で奥深い討論ができるよう、各自で事前の学習をしていくこと。

■オフィスアワー

随時対応するが、事前にアポイントメントをとるように。

■評価方法

ポートフォリオ 50%、口頭試問 50%。

■教科書

特に設定しない。必要時には資料配布予定。

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	中枢神経障害理学療法学特論	担当教員 (単位認定者)	横山 雅人	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	理学療法専攻3年次自由科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法治療学」			
キーワード	脳卒中 パーキンソン病 理学療法の実際 神経生理学的アプローチ				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕
中枢神経障害についての特徴を学び、実際の現場を通してより具体的な理学療法テクニックについて経験する。
〔達成目標〕
①主要なキーワードの自分言葉で説明ができる。
②中枢神経障害の理学療法の役割について説明することができる。
③疾患の特徴や現象から、具体的な介入方法について説明することができる。

■授業の概要

主に脳卒中、パーキンソン病患者に対する理学療法の実際を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション / 脳卒中、パーキンソン病を中心とした中枢神経障害の理学療法について①
第2回	脳卒中、パーキンソン病を中心とした中枢神経障害に対する理学療法の実践テクニック①
第3回	脳卒中、パーキンソン病を中心とした中枢神経障害に対する理学療法の実践テクニック②
第4回	脳卒中、パーキンソン病を中心とした中枢神経障害に対する理学療法の実践テクニック③
第5回	神経生理学的アプローチ①
第6回	神経生理学的アプローチ②
第7回	病院・施設の見学
第8回	中枢神経障害に対する理学療法についての実技発表・ディスカッション

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔服装指定〕
Tシャツ+ハーフパンツ 指定とします。(防寒対策は認めます)
〔学習方法〕
基礎を学びながら、実際に体験して学びます。
解剖学、運動学の知識を獲得済みであることが前提とします。不十分な者は事前学習を個人で進めてください。

■授業時間外学習にかかわる情報

〔復習支援〕
技術を身につけるために復習とトレーニングを支援します。現場で必要とする技術などについては科目オリエンテーションで説明します。

■オフィスアワー

水曜日16時30分～17時30分

■評価方法

実技発表(50%)、レポート・ポートフォリオ(50%)。

■教科書

細田多穂・監修：中枢神経障害理学療法学テキスト，南江堂

■参考書

千田富義ら：リハ実践テクニック，メジカルビュー / 必要に応じて授業内に提示します。

科目名	内部障害理学療法学特論	担当教員 (単位認定者)	多田 菊代	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻3年次自由科目 運動療法学Ⅲおよび実習Ⅲ・理学療法技術論Ⅰ および実習Ⅰの知識が必要	免許等指定科目			
	カリキュラム上の位置づけ	専門科目「理学療法治療学」			
キーワード	治療・評価・プログラム				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

内部障害の定義が説明できると共に、内部障害に対する基本的理学療法の意義と内容を説明できる。

〔到達目標〕

- ①内部障害の理学療法に必要な検査データのみかたが説明できる。
- ②検査データから理学療法で実施すべきリスク管理が説明できる。
- ③内部障害に対する一般的理学療法プログラムと検査データの関連を説明できる。

■授業の概要

運動療法学Ⅲおよび運動療法学実習Ⅲ、理学療法技術論Ⅰで学んだ内部障害に対する理学療法の意義やフィジカルアセスメントを基盤とし、内部障害を呈する症例に対する基本的理学療法を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	演習1: 症例に対する運動耐容能評価
第2回	演習2: 症例から学ぶ胸部X線写真の読影方法(理論)
第3回	演習3: 症例から学ぶ胸部X線写真の読影方法(実際)
第4回	演習4: 症例から学ぶ心肺運動負荷試験(理論)
第5回	演習5: 症例から学ぶ心肺運動負荷試験(実際)
第6回	演習6: 呼吸理学療法(評価)
第7回	演習7: 呼吸理学療法(実際)
第8回	演習8: 演習総括、ペーパーペイシエント ～呼吸器疾患～

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ①予習・復習は必須である。

〔受講のルール〕

- ①授業概要を確認し積極的に臨むこと。
- ②受講態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めない。
- ③授業の流れや雰囲気や迷惑になる行為(私語、スマートフォン等の使用)は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

循環器系・呼吸器系・代謝系・腎機能の解剖学・運動学・生理学を復習して講義に臨むこと。運動療法学Ⅲおよび運動療法学実習Ⅲ、理学療法技術論Ⅰの配布資料等を本科目資料と共に一元化し管理すること。

■オフィスアワー

基本的に授業前後の休憩時間とする。それ以外の場合は要予約。

■評価方法

ポートフォリオ 50%、レポート 50%。

■教科書

標準理学療法学 内部障害理学療法学 シリーズ監修: 奈良 勲 医学書院
高齢者リハビリテーション実践マニュアル 編集 宮越浩一 メジカルビュー

■参考書

授業時に必要に応じて随時紹介する。

科目名	スポーツ理学療法特論	担当教員 (単位認定者)	新谷 益巳	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	理学療法専攻3年次自由科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法治療学」			
キーワード	スポーツ外傷、スポーツ障害、アライメント、リスク管理				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

スポーツ理学療法についての特徴を学び、実際の現場を通してより具体的なサポートについて経験する。

〔達成目標〕

- ①主要なキーワードの自分言葉で説明ができる。
- ②スポーツ現場における理学療法の役割について説明ができる。
- ③スポーツ外傷と障害の違いについて明確に理解し、各疾患における対応方法について説明ができる。

■授業の概要

解剖学、運動学、評価学の学習を基に、スポーツ理学療法で必要な知識と技術を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション / スポーツ外傷とスポーツ障害の違いについて
第2回	スポーツ外傷について
第3回	スポーツ障害について
第4回	スポーツ現場、またはスポーツ疾患を取り扱う病院での理学療法の見学
第5回	スポーツ現場、またはスポーツ疾患を取り扱う病院での理学療法の見学
第6回	スポーツ現場、またはスポーツ疾患を取り扱う病院での理学療法の見学
第7回	スポーツ現場、またはスポーツ疾患を取り扱う病院での理学療法の見学
第8回	現場で学んだことについてまとめ発表する。

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔服装指定〕

Tシャツ+ハーフパンツ 指定とします。(防寒対策は認めます)

〔学習方法〕 基礎を学びながら、実際に体験して学びます。

解剖学、運動学の知識を獲得済みであることが前提とします。不十分な者は事前学習を個人で進めてください。

■授業時間外学習にかかわる情報

〔復習支援〕

技術を身につけるために復習とトレーニングを支援します。現場で必要とする技術などについては科目オリエンテーションで説明します。

■オフィスアワー

木曜日 16時30分～17時30分

■評価方法

第8回に行う発表(50%)、レポート・ポートフォリオ(50%)。

■教科書

スポーツ理学療法 浦辺幸夫(著) 医歯薬出版株式会社

■参考書

スポーツ外傷・障害に対する、術後のリハビリテーション 園部俊晴(著) 運動と医学の出版社

科目名	地域理学療法学I	担当教員 (単位認定者)	柴 ひとみ	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻3年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「地域理学療法学」			
キーワード	介護保険、自立支援法、地域リハビリテーション				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

地域リハビリテーションの概念、社会背景、関連制度、施設についての知識を学ぶとともに、地域で生活する対象者を把握するうえで必要な知識を身につける。また、自立支援法、介護保険制度を理解したうえで、各々の特徴を捉える。

〔到達目標〕

- ①自立支援法の概要について説明できる。
- ②介護保険制度の概要について説明できる。
- ③ケアマネジャーの役割が説明できる。
- ④介護保険制度の施設サービス、在宅サービスについて説明できる。

■授業の概要

地域リハビリテーションの思想を理解し、障害者や高齢者が社会の中で生活していくうえで地域が果たす役割が極めて大きいこと、その中でPTに何ができるのかを考えながら自ら実践する基本を学ぶ。法学やリハビリテーション入門、理学療法概論が基礎となり、地域で生活する対象者を取り巻く制度・環境について理解を深める。また、体験学習を通して自立支援施設で生活する対象者の全体像を捉える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション	介護保険制度	高齢者の医療確保に関する法律と健康増進法
第2回	自立支援法について①	目的・理念・しくみについて	グループワーク
第3回	自立支援法について②	目的・理念・仕組みについて	まとめ
第4回	自立支援法について③	サービスについて	
第5回	介護保険制度の目的・理念・仕組みについて	グループワーク	小テスト①実施
第6回	介護保険制度の目的・理念・仕組みについて	まとめ	自立支援法との対比
第7回	介護保険制度	介護給付と予防給付	
第8回	ケアマネジャーの役割とケアマネジメント		
第9回	介護保険制度	施設サービスについて	
第10回	介護保険制度	在宅サービスについて	
第11回	介護保険制度における住宅改修		
第12回	介護保険制度における福祉用具について		
第13回	地域に関連するその他の制度について	小テスト②実施	
第14回	地域生活期における理学療法		
第15回	行政で働く理学療法士の仕事について	(外部講師)	

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・事前に自立支援法、介護保険制度等の情報収集を必ず行うこと。

〔受講のルール〕

- ・授業計画を必ず確認し、理解を深めるよう積極的に授業に臨むこと。
- ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（携帯電話の使用、私語）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・授業内容を確認し、事前学習および復習を計画的に進めること。
- ・グループワークでは積極的に関わり、内容を充実させるために授業時間外においてもグループワークの時間を持つこと。

■オフィスアワー

木曜日16時～17時は随時 その他の曜日については要予約。

■評価方法

筆記試験（論述・記述）80% 小テスト①10% 小テスト②10%
総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提となる。

■教科書

重森健太：地域理学療法学、柴喜崇：PTOT ビジュアルテキストADL、羊土社

■参考書

授業内で適宜紹介。

科目名	地域理学療法学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	柴ひとみ・村山明彦	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻3年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「地域理学療法学」			
キーワード	生活期、理学療法、他職種連携、体験学習				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

地域リハビリテーションの対象となる脳血管障害を取り上げ、病態や症状について理解したうえで、ADL動作の観察～仮説の検証～問題点の抽出までで行えるようになる。また、地域リハビリテーションの対象者について面談から理学療法評価の一連の流れが安全・効率的に実践できる。さらに、理学療法士と他職種との連携の必要性について考えることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①脳血管障害の病態や症状が説明ができる。
- ②動作観察を行い、仮説の検証から問題点を挙挙することができる。
- ③他職種の役割を理解したうえで、連携の必要性を説明できる。
- ④地域リハビリテーションの対象者に対し、面談から理学療法の一連の流れが安全・効率的に実施できる。

■授業の概要

地域リハビリテーションの思想を理解し、障害者や高齢者が社会の中で生活していくうえで地域が果たす役割が極めて大きいこと、その中でPTに何ができるのかを考えながら自ら実践する基本を学ぶ。生活期の脳血管障害を取り上げ、ADLの動作観察を行ったうえで、仮説の検証、問題点の整理までを学習する。また、体験学習を通して自立支援施設で生活する対象者の全体像を捉える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション	生活期における理学療法	ADLに着目して
第2回	生活期における理学療法	ADLに着目して	-脳血管障害- 動作の観察、情報収集
第3回	生活期における理学療法	ADLに着目して	-脳血管障害- 根拠に基づく仮説を立てる
第4回	体験学習①		
第5回	体験学習②		
第6回	生活期における理学療法	ADLに着目して	-脳血管障害- 検証
第7回	生活期における理学療法	ADLに着目して	-脳血管障害- 問題点の整理
第8回	生活期における理学療法	ADLに着目して	-脳血管障害- グループ内発表
第9回	体験学習③		
第10回	体験学習④		
第11回	他職種との連携	看護師	
第12回	他職種との連携	作業療法士	
第13回	他職種との連携	言語聴覚士	
第14回	他職種との連携	社会福祉士	
第15回	他職種との連携	介護福祉士	

■受講生に関わる情報および受講のルール

体験学習は出席を前提とするため休まず予習（実技を含む）を行った上で臨むこと。
体験学習の実習記録は、翌日の9:00までに提出すること。
内容が類似した実習記録やレポートは受け付けられないため、自己の努力により作成すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・授業内容を確認し、事前学習および復習を計画的に進めること。
- ・グループワークでは積極的に関わり、授業時間外においてもグループワークの時間を持つこと。

■オフィスアワー

木曜日16時～17時は随時 その他の曜日については要予約。

■評価方法

筆記試験（客観・記述）70% レポート30% 総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提となる。

■教科書

重森健太：地域理学療法学、柴喜崇：PTOT ビジュアルテキストADL、羊土社

■参考書

内山靖：標準理学療法学 理学療法評価学 第2班 医学書院

科目名	地域理学療法学実習	担当教員 (単位認定者)	柴ひとみ・小島俊文 村山明彦	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	理学療法専攻3年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「地域理学療法学」			
キーワード	地域包括ケアシステム、廃用症候群、ADL、住環境、体験学習				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

地域リハビリテーションの対象となる各疾患の病態や症状について理解し、それぞれに適したADL指導、住環境整備が行えるようになる。また、活動性の低下から生じるリスクについて考え、予防できるようにする。地域サービスや自立支援施設等における体験学習を通し、理学療法士の役割や他職種との連携を学び、対象となる方の生活上の問題を考える事を目的とする。

〔到達目標〕

- ①地域包括ケアシステムの概要について説明ができる。
- ②活動性の低下から起こるリスクとその予防法について説明できる。
- ③基本動作・歩行とADLの関係性を説明できる。
- ④生活行為別に福祉住環境の整備について説明できる。
- ④体験学習を通して理学療法の対象者の生活について説明ができる。
- ⑤情報収集や動作観察から対象者の全体像を考えることができる。

■授業の概要

地域リハビリテーションの思想を理解し、障害者や高齢者が社会の中で生活していくうえで地域が果たす役割が極めて大きいこと、その中でPTに何ができるのかを考えながら自ら実践する基本を学ぶ。地域リハビリテーションの対象となる各疾患の病態・症状について理解し、それぞれに適したADL指導・住宅環境について学習する。また、体験学習を通して理学療法士の役割・連携する他職種の役割について学び、地域で生活する対象者の生活を捉える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、地域包括ケアシステムについて(担当 柴)
第2回	活動性の低下から起こるリスクについて グループワーク (担当 柴)
第3回	活動性の低下から起こるリスクについて 発表① (担当 柴)
第4回	活動性の低下から起こるリスクについて 発表② (担当 柴)
第5回	活動性の低下から起こるリスクについて 発表③ まとめ (担当 柴)
第6回	生活環境を考える(担当 小島)
第7回	自立の意味/バリアフリーとユニバーサルデザインの違い(担当 小島)
第8回	ICFの理解と活用(担当 小島)
第9回	基本動作・歩行と理学療法(担当 小島)
第10回	日常生活活動と理学療法(担当 小島)
第11回	疾患別ADL/脳卒中(担当 小島)
第12回	疾患別ADL/脊髄損傷(担当 小島)
第13回	疾患別ADL/大腿骨頸部骨折・関節リウマチ(担当 小島)
第14回	生活行為別福祉住環境の整備(担当 小島)
第15回	生活行為別福祉用具の利用方法(担当 小島)

■受講生に関わる情報および受講のルール

事前に授業計画を確認し、積極的に授業に参加すること。他の学生の迷惑となるような行為(私語・携帯電話の使用など)は厳禁。体験学習は出席を前提とするため休まず予習を行った上で臨むこと。体験学習の実習記録は、翌日の9:00までに提出すること。内容が類似した実習記録やレポートは受け付けないため、自己の努力により作成すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

前回の復習をして授業に臨むこと。体験学習にあたっては、事前に準備(情報収集や実技練習)をすること。福祉住環境コーディネーター3級を全員受験します。試験日:H28年11月下旬予定。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

筆記試験(客観)60% レポート20% 発表20% 総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提となる。

■教科書

重森健太:地域理学療法学、柴喜崇:PTOT ビジュアルテキストADL. 羊土社

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	地域理学療法学実習	担当教員 (単位認定者)	柴ひとみ・小島俊文 村山明彦	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	理学療法専攻3年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「地域理学療法学」			
キーワード	地域包括ケアシステム、廃用症候群、ADL、住環境、体験学習				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

地域リハビリテーションの対象となる各疾患の病態や症状について理解し、それぞれに適したADL指導、住環境整備が行えるようになる。また、活動性の低下から生じるリスクについて考え、予防できるようにする。地域サービスや自立支援施設等における体験学習を通し、理学療法士の役割や他職種との連携を学び、対象となる方の生活上の問題を考える事を目的とする。

〔到達目標〕

- ①地域包括ケアシステムの概要について説明ができる。
- ②活動性の低下から起こるリスクとその予防法について説明できる。
- ③基本動作・歩行とADLの関係性を説明できる。
- ④生活行為別に福祉住環境の整備について説明できる。
- ④体験学習を通して理学療法の対象者の生活について説明ができる。
- ⑤情報収集や動作観察から対象者の全体像を考えることができる。

■授業の概要

地域リハビリテーションの思想を理解し、障害者や高齢者が社会の中で生活していくうえで地域が果たす役割が極めて大きいこと、その中でPTに何ができるのかを考えながら自ら実践する基本を学ぶ。地域リハビリテーションの対象となる各疾患の病態・症状について理解し、それぞれに適したADL指導・住環境について学習する。また、体験学習を通して理学療法士の役割・連携する他職種の役割について学び、地域で生活する対象者の生活を捉える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	体験学習オリエンテーション(担当 柴)
第17回	体験学習 -水浴リハビリの実際-(担当 柴)
第18回	体験学習 -水浴リハビリの実際-(担当 柴)
第19回	体験学習 -地域サービスの実際①-(担当 柴 小島 村山)
第20回	体験学習 -地域サービスの実際①-(担当 柴 小島 村山)
第21回	体験学習 -地域サービスの実際①-(担当 柴 小島 村山)
第22回	体験学習 -地域サービスの実際①-(担当 柴 小島 村山)
第23回	体験学習 -地域サービスの実際①-(担当 柴 小島 村山)
第24回	体験学習 -地域サービスの実際②-(担当 柴 小島 村山)
第25回	体験学習 -地域サービスの実際②-(担当 柴 小島 村山)
第26回	体験学習 -地域サービスの実際②-(担当 柴 小島 村山)
第27回	体験学習 -地域サービスの実際②-(担当 柴 小島 村山)
第28回	体験学習 -地域サービスの実際②-(担当 柴 小島 村山)
第29回	体験学習 発表①(担当 柴)
第30回	体験学習 発表②(担当 柴)

■受講生に関わる情報および受講のルール

事前に授業計画を確認し、積極的に授業に参加すること。他の学生の迷惑となるような行為(私語・携帯電話の使用など)は厳禁。体験学習は出席を前提とするため休まず予習を行った上で臨むこと。体験学習の実習記録は、翌日の9:00までに提出すること。内容が類似した実習記録やレポートは受け付けないため、自己の努力により作成すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

前回の復習をして授業に臨むこと。体験学習にあたっては、事前に準備(情報収集や実技練習)をすること。福祉住環境コーディネーター3級を全員受験します。試験日:H28年11月下旬予定。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

筆記試験(客観)60% レポート20% 発表20% 総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提となる。

■教科書

重森健太:地域理学療法学、柴喜崇:PTOT ビジュアルテキストADL. 羊土社

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	地域理学療法学特論	担当教員 (単位認定者)	柴 ひとみ	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻3年次自由科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「地域理学療法学」			
キーワード	介護保険、介護予防、ADL、住環境、体験学習				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

地域リハビリテーションの中の介護予防分野において、健康寿命を延伸するためにPTとして行えることは何かを考え、実践できる力を身に付ける。また、小規模多機能や訪問リハビリなどの地域サービスの実際を学び、地域における理学療法士の役割や他職種との連携を学ぶ。そして、地域包括ケアシステムの仕組みについて理解することを目的とする。

〔到達目標〕

- ①健康寿命について説明できる。
- ②健康寿命を延伸する目的で、PTとして行うべきことを実践できる。
- ③小規模多機能について説明できる。
- ④訪問リハビリの目的について説明できる。
- ⑤地域包括ケアシステムのしくみを理解し、その目的について説明ができる。

■授業の概要

地域で生活する高齢者、障害者の視点に立ち、安全・安心に暮らせるような住環境の整備や活動性の維持・向上を図るために必要な戦略を学ぶ。介護保険分野や介護予防分野におけるPTの役割を明確にする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、介護予防分野における理学療法とは
第2回	介護予防分野における理学療法-準備-
第3回	介護予防分野における理学療法-実践-
第4回	介護予防分野における理学療法-発表・振り返り-
第5回	介護保険分野における理学療法-小規模多機能、訪問リハビリ、地域包括ケアシステムとは-
第6回	介護保険分野における理学療法-小規模多機能、訪問リハビリ、地域包括ケアシステムの実際-
第7回	介護保険分野における理学療法-小規模多機能、訪問リハビリ、地域包括ケアシステムの実際-
第8回	介護保険分野における理学療法-まとめ-

■受講生に関わる情報および受講のルール

事前に授業計画を確認し、積極的に授業に参加すること。他の学生の迷惑となるような行為（私語・携帯電話の使用など）は厳禁。

体験学習は出席を前提とするため休まず予習を行った上で臨むこと。体験学習の実習記録は、翌日の9:00までに提出すること。

内容が類似した実習記録は受け付けられないため、自己の努力により作成すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

前回の復習をして授業に臨むこと。

体験学習にあたっては、事前に準備（情報収集や実技練習）をすること。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

ポートフォリオ 100%

■教科書

重森健太:地域理学療法学.羊土社、柴喜崇:PTOT ビジュアルテキストADL.羊土社

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	臨床実習指導Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	小島・柴・多田 新谷・横山・村山	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻3年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「臨床実習」			
キーワード	知識 技能 態度 OSCE				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

臨床技能の実践を中心に、理学療法士として必要な「知識」「技能」「態度」を確実に身につけることが目的である。

〔到達目標〕

- ①「感染予防」「医療面接」「リスク管理」「検査測定」について、決められた時間内に安全かつ正確に実施することができる。
- ②実習後、レジュメを作成し、発表することができる。

■授業の概要

現在の理学療法臨床実習は、クリニカルクラークシップの形をとっているのがほとんどである。当然実習に臨む学生には、患者に理学療法介入を行うための「知識」「技能」「態度」が求められる。臨床実習指導Ⅰでは実際の臨床技能の習得に着目して、実習前後の達成度を測るためのOSCEを実施し、確実に臨床技能が身につけていることを確認していく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション/臨床実習の手引き
第2回	医療福祉従事者としての身だしなみ/スタンダードプレコーションの実際
第3回	医療面接技法(コミュニケーション技法・インフォームドコンセント)
第4回	リスクマネージメントの実際(バイタル・転倒)
第5回	姿勢チェック・移乗と移動
第6回	理学療法評価技法 深部腱反射
第7回	理学療法評価技法 感覚検査
第8回	理学療法評価技法 関節可動域測定
第9回	理学療法評価技法 MMT
第10回	理学療法評価技法 形態測定
第11回	理学療法評価技法 バランス検査/OSCEについて
第12回	評価実習前OSCE
第13回	ケース発表①
第14回	ケース発表②
第15回	評価実習後OSCE

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・3年次評価実習対象者が、受講の条件となる。
- ・実技を行うときはケーシーを着用し、医療福祉従事者としての身だしなみを整えること。

〔受講のルール〕

- ・医療従事者として必要な態度や身だしなみを整えたうえで受講すること。準備不足の学生は授業を受けられないこともある。

■授業時間外学習にかかわる情報

臨床技能は、度重なる練習を経て身につくものである。授業内で数回実施すれば身につくものではない。授業時間外での学習が必須となるので、PT、患者、評価者役を作り練習を重ねてもらいたい。

■オフィスアワー

授業終了後から当日中

■評価方法

実習前OSCE 50%、実習後OSCE 50%。

■教科書

PT/OT 国家試験 2016 専門基礎分野 基礎医学, 医歯薬出版 / PT/OT 国家試験 2016 専門基礎分野 臨床医学, 医歯薬出版

■参考書

PT・OTのための臨床技能とOSCE(DVD付): コミュニケーションと介助・検査測定 編/才藤栄一/金原出版

科目名	臨床実習指導Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	小島・柴・多田 新谷・横山・村山	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻4年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「臨床実習」			
キーワード	評価プロセス、面接技法、検査技法、観察技法、統合と解釈、問題点の抽出、理学療法プログラム				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

理学療法評価からプログラム実施までの基本的な進め方を学び、実際の場面で実施できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①臨床で必要とされる「知識」「技能」「態度」を身に付け、実践することができる。
- ②実習後、レジュメを作成し、発表することができる。

■授業の概要

これまで学んできたことを整理し、臨床総合実習に向けた準備とする。実習後は担当した症例について整理し、レジュメを作成後に発表・報告会を行い、理学療法の評価から効果判定に対する理解を深めることを目的とする。また、実習を終えた時点で4年間の学習理解度を図る試験を実施する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション/総合臨床実習について(ゴール設定と治療プログラム立案)
第2回	急性期の理学療法(ゴール設定と治療プログラム立案)
第3回	回復期の理学療法(ゴール設定と治療プログラム立案)
第4回	維持期の理学療法(ゴール設定と治療プログラム立案)
第5回	運動器障害の理学療法(ゴール設定と治療プログラム立案)
第6回	中枢神経障害の理学療法(ゴール設定と治療プログラム立案)
第7回	内部障害の理学療法(ゴール設定と治療プログラム立案)
第8回	地域理学療法(ゴール設定と治療プログラム立案)
第9回	医療面接技法(コミュニケーション技法・インフォームドコンセント)
第10回	リスクマネジメントの実際(バイタル・転倒)
第11回	姿勢チェック・移乗と移動
第12回	理学療法評価技法
第13回	レジュメ発表①
第14回	レジュメ発表②
第15回	総合実習後OSCE

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

4年次総合臨床実習対象者が、受講の条件となる。

〔受講のルール〕

第2～8回は事前の自己学習とその後のグループ学習が必要となる。特に活発な議論を期待する。また第15回については十分な復習が必要となるので、主体的な自己学習を行うこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

第2～8回の各テーマについて、文献検索を行いグループ間での発表を通して、情報を共有しておくこと。特に各テーマにおける疑問点を整理し、積極的な授業展開ができるよう、主体的に学ぶ努力が必要となる。また第15回に実施予定の「総合実習後OSCE」では理学療法士としての基本的技能がどの程度身につけているかを確認するものとなる。十分な復習が必要となるので、学生主体の能動的な自己学習が必要となる。

■オフィスアワー

各担当に確認を行うこと。

■評価方法

総合実習後OSCE 100%

■教科書

授業内で適宜紹介する。

■参考書

臨床実習の手引き・関連領域の教科書を用意のこと。

科目名	評価実習	担当教員 (単位認定者)	小島・柴・多田 新谷・横山・村山	単位数 (時間数)	4 (180)
履修要件	理学療法専攻3年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「臨床実習」			
キーワード	評価プロセス、面接技法、検査技法、観察技法、統合と解釈、問題点の抽出				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的と概要〕

臨床の場で各対象者に応じた評価項目を選択、実施し、得られた結果をもとに問題点の抽出を行えるようになることを目的とする。臨床評価実習を医療機関または介護老人保健施設において4週間実施する。これまで学んできた知識・技術を臨床の現場で、臨床実習指導者のもとで実施する。病院・老健という大きな組織の中で理学療法士の位置付け、他部門・他職種とのやり取り、患者様との交流などを学んでいく。クリニカルクラークシップのもとにリハビリテーション業務に実際に関与しながら、その実態を学んでいく。臨床実習指導者から紹介された患者様にインタビュー、評価を実施する。その際は患者様の背景、疾患の知識、初期情報とそこからの評価の戦略、結果の統合と解釈、問題点抽出といった思考過程を、指導者の監視とアドバイスのもとに進めていく。

〔到達目標〕

- ①理学療法士を目指す上で必要な基本的態度を身につける。
- ②臨床実習施設職員並びに対象者と良好な関係を築くことができる。
- ③理学療法の位置づけや役割を説明することができる。
- ④関連職種の役割について説明することができる。
- ⑤各対象者に応じた評価項目を選択し、実施することができる。
- ⑥評価結果をもとに問題点の抽出、ゴールの設定を行うことができる。
- ⑦実習内容を記録し、書面や口頭で実習指導者に報告することができる。

■実習履修資格者

3年次評価実習開始までに1年～3年後期までに開講されるすべての科目（選択科目は選択の範囲において）の単位修得が必要となる。

■実習時期及び実習日数・時間

臨床評価実習を医療機関または介護老人保健施設において4週間実施する。

■実習上の注意

- ・医療従事者として必要な態度や身だしなみを整えたうえで実習に臨むこと。
- ・時間の厳守と、報告・相談・連絡を怠らないこと。
- ・体調管理に留意し、実習に対して積極的に行動すること。

臨床実習の手引きを熟読すること。

■評価方法

臨床実習評価表の結果、デイリーノート・ケースレポート等の提出物等を総合的に判断する。

科目名	総合臨床実習Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	小島・柴・多田・ 新谷・横山・村山	単位数 (時間数)	8 (360)
履修要件	理学療法専攻4年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「臨床実習」			
キーワード	評価プロセス、面接技法、検査技法、観察技法、統合と解釈、問題点の抽出、理学療法プログラム				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的と概要〕

臨床の場で各対象者に応じた評価を実施し、得られた結果をもとに問題点の抽出、プログラムの実施、効果判定を行えるようになることを目的とする。総合臨床実習を医療機関または介護老人保健施設において8週間実施する。これまで学んできた知識・技術を臨床の現場で、臨床実習指導者のもとで実施する。病院・老健という大きな組織の中で理学療法士の位置付け、他部門・他職種とのやり取り、患者様との交流などを学んでいく。臨床実習指導者から紹介された患者様にインタビュー、評価、プログラムを実施する。その際は患者様の背景、疾患の知識、初期情報とそこからの評価の戦略、結果の統合と解釈、問題点抽出、ゴールの設定、プログラム立案・実施といった思考過程を、指導者の監視とアドバイスのもとに進めていく。

- ①各対象者に応じた評価項目を選択し、実施することができる。
- ②評価結果をもとに問題点の抽出、ゴールの設定、理学療法プログラムの立案を行うことができる。
- ③理学療法再評価を実施し、理学療法の効果判定を考察することができる。
- ④実習内容を記録し、書面や口頭で実習指導者に報告することができる。

■実習履修資格者

1年～3年次までに開講されるすべての科目（選択科目は選択の範囲において）の単位修得が必要となる。

■実習時期及び実習日数・時間

総合臨床実習を医療機関等において8週間実施する。

■実習上の注意

- ・医療従事者として必要な態度や身だしなみを整えたうえで実習に臨むこと。
- ・時間の厳守と、報告・相談・連絡を怠らないこと。
- ・体調管理に留意し、実習に対して積極的に行動すること。

臨床実習の手引きを熟読すること。

■評価方法

臨床実習評価表の結果、デイリーノート・ケースレポート等の提出物等を総合的に判断する。

科目名	総合臨床実習Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	小島・柴・多田・ 新谷・横山・村山	単位数 (時間数)	8 (360)
履修要件	理学療法専攻4年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「臨床実習」			
キーワード	評価プロセス、面接技法、検査技法、観察技法、統合と解釈、問題点の抽出、理学療法プログラム				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的と概要〕

臨床の場で各対象者に応じた評価を実施し、得られた結果をもとに問題点の抽出、プログラムの実施、効果判定を行えるようになることを目的とする。総合臨床実習を医療機関または介護老人保健施設において8週間実施する。これまで学んできた知識・技術を臨床の現場で、臨床実習指導者のもとで実施する。病院・老健という大きな組織の中で理学療法士の位置付け、他部門・他職種とのやり取り、患者様との交流などを学んでいく。臨床実習指導者から紹介された患者様にインタビュー、評価、プログラムを実施する。その際は患者様の背景、疾患の知識、初期情報とそこからの評価の戦略、結果の統合と解釈、問題点抽出、ゴールの設定、プログラム立案・実施といった思考過程を、指導者の監視とアドバイスのもとに進めていく。

- ①各対象者に応じた評価項目を選択し、実施することができる。
- ②評価結果をもとに問題点の抽出、ゴールの設定、理学療法プログラムの立案を行うことができる。
- ③理学療法再評価を実施し、理学療法の効果判定を考察することができる。
- ④実習内容を記録し、書面や口頭で実習指導者に報告することができる。

■実習履修資格者

1年～3年次までに開講されるすべての科目（選択科目は選択の範囲において）の単位修得が必要となる。

■実習時期及び実習日数・時間

総合臨床実習を医療機関等において8週間実施する。

■実習上の注意

- ・医療従事者として必要な態度や身だしなみを整えたうえで実習に臨むこと。
- ・時間の厳守と、報告・相談・連絡を怠らないこと。
- ・体調管理に留意し、実習に対して積極的に行動すること。

臨床実習の手引きを熟読すること。

■評価方法

臨床実習評価の結果、デイリーノート・ケースレポート等の提出物等を総合的に判断する。

科目名	卒業研究		担当教員 (単位認定者)	小島・柴・多田・ 新谷・横山・村山	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	理学療法専攻4年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修			
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「卒業研究」				
キーワード	理学療法、リハビリテーション、理学療法士、運動療法、物理療法、研究					

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

本講義では4年間の講義や実習で学んだ知識の集大成として、1年間をかけ自ら研究を計画・実践し、論文の作成・発表を行う。

〔到達目標〕

臨床実習で体験した症例などから観察された症状や障害について様々なデータを収集し、その特徴を明らかにし、治療モデルを見つけ出すことができる。

■授業の概要

研究テーマを見つけ、調査・資料収集を行いながら、担当教員の指導を受けながら計画的に研究を進める、その手順について学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	研究計画の立案
第3回	〃
第4回	〃
第5回	研究テーマの決定
第6回	調査（調査及び資料の収集）
第7回	〃
第8回	〃
第9回	〃
第10回	倫理的配慮について（倫理審査書類の作成）
第11回	研究計画書作成及び発表
第12回	〃
第13回	〃
第14回	〃
第15回	〃

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・授業中の居眠りや、他の学生に迷惑となるような行為は厳に慎むこと。たび重なる注意を与えても改善が見られない場合は、退室してもらう場合がある。
- ・この科目は、自ら行動を起こすことを求められる。各担当教員と綿密に連絡を取り合い、計画的に研究を進めること。

■授業時間外学習にかかわる情報

適宜、担当教員と連絡を取り合い、研究を進めること。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

論文、発表にて総合的に判断、評価する。研究論文（80%）及び研究発表（20%）。

■教科書

教科書の設定なし

■参考書

はじめての研究法 著者：千住秀明・他 SHINRYOUBUNKO

科目名	卒業研究		担当教員 (単位認定者)	小島・柴・多田・ 新谷・横山・村山	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	理学療法専攻4年次必修科目	免許等指定科目				
カリキュラム上の位置づけ			専門科目「卒業研究」			
キーワード	理学療法、リハビリテーション、理学療法士、運動療法、物理療法、研究					

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

本講義では4年間の講義や実習で学んだ知識の集大成として、1年間をかけ自ら研究を計画・実践し、論文の作成・発表を行う。

〔到達目標〕

臨床実習で体験した症例などから観察された症状や障害について様々なデータを収集し、その特徴を明らかにし、治療モデルを見つけ出すことができる。

■授業の概要

研究テーマを見つけ、調査・資料収集を行いながら、担当教員の指導を受けながら計画的に研究を進めその手順について学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	研究活動
第17回	〃
第18回	〃
第19回	〃
第20回	〃
第21回	〃
第22回	〃
第23回	卒業研究発表会
第24回	〃
第25回	〃
第26回	〃
第27回	〃
第28回	〃
第29回	〃
第30回	〃

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・授業中の居眠りや、他の学生に迷惑となるような行為は厳に慎むこと。たび重なる注意を与えても改善が見られない場合は、退室してもらう場合がある。
- ・この科目は、自ら行動を起こすことを求められる。各担当教員と綿密に連絡を取り合い、計画的に研究を進めること。

■授業時間外学習にかかわる情報

適宜、担当教員と連絡を取り合い、研究を進めること。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

論文、発表にて総合的に判断、評価する。研究論文(80%)及び研究発表(20%)。

■教科書

教科書の設定なし

■参考書

はじめての研究法 著者:千住秀明・他 SHINRYOUBUNKO

作業療法専攻

群馬医療福祉大学リハビリテーション学部リハビリテーション学科作業療法専攻 教育課程

◎必修科目 △選択科目

授業科目の名称	配当年次	単位数	1年		2年		3年		4年		備考		
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
人間哲学	1	2	◎										
道徳教育	1	2	△										
教育原理	1	2	△										
生涯学習概論	1	2	△										
心理学	1	2	△										
国際文化論	1	2	△										
美術技法	1	2	△										
物理学	1	2	△										
法学	1	2	△										
経済学	1	2	△										
情報処理	1	2	△										
マスメディア論	1	2	△										
医療英語 I	1	2	◎										
医療英語 II	1	2	△										
韓国語 I	1	2	△										
韓国語 II	1	2	△										
中国語 I	1	2	△										
中国語 II	1	2	△										
スポーツ体育	1~4	2			△								
スポーツレクリエーション実技	1	2	△										
レクリエーション活動援助法	1	2	△										
障害者スポーツ	1	2	△										
基礎演習 I	1	1	◎										
基礎演習 II	2	1			◎								
専門演習 I	3	1					◎						
専門演習 II	4	1							◎				
ボランティア活動 I	1	1	◎										
ボランティア活動 II	2	1			◎								
小計	—	10	40	10	2	1	1						
基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学 I	1	2	◎								
		解剖学 II	1	2	◎								
		解剖学実習	1	1	◎								
		生理学 I	1	2	◎								
		生理学 II	1	2	◎								
		生理学実習	1	1	◎								
		運動学 I	1	2	◎								
		運動学 II	1	2	◎								
		運動学実習	2	1		◎							
		人間発達学	1	1	◎								
		専門基礎科目	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病理学概論	2	2		◎					
				臨床心理学	1	2		◎					
				一般臨床医学	1	2	◎						
リハビリテーション医学	1			2		◎							
内科・老年医学 I	2			2		◎							
内科・老年医学 II	2			2			◎						
整形外科学 I	2			2		◎							
整形外科学 II	2			2			◎						
神経内科学 I	2			2		◎							
神経内科学 II	2			2			◎						
精神医学	2			2		◎							
小児科学	2	2			◎								
専門基礎科目	リハビリテーションの理念	リハビリテーション入門	1	1	◎								
		保健医療福祉論	1	1	△								
		公衆衛生学	1	1	◎								
		小計	—	42	1	23	19	0	0				

必修科目10単位のほか、選択科目から4単位以上履修

授業科目の名称	配当年次	単位数	1年		2年		3年		4年		備考
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎作業療法学	作業療法入門	1	1		◎						
	作業療法入門実習	2	1			◎					
	作業療法管理論	4	1						◎		
	ひとと作業	1	1	◎							
	ひとと作業活動 I	1	2		◎						
	ひとと作業活動 II	2	2			◎					
	作業療法研究法	3	1					◎			
	作業療法セミナー I	3	1						◎		
	作業療法セミナー II	4	1							◎	
	作業療法評価学	作業療法評価法 I	2	2		◎					
作業療法評価法 II		2	2			◎					
作業療法評価法 III		3	1					◎			
作業療法評価法特論 I		3	1						△		
作業療法評価法特論 II		3	1							△	
作業療法治療学		身体機能作業療法学 I	2	1		◎					
	身体機能作業療法学 II	2	2			◎					
	精神機能作業療法学 I	2	1		◎						
	精神機能作業療法学 II	2	2			◎					
	発達過程作業療法学 I	3	2					◎			
	発達過程作業療法学 II	3	1						◎		
	高齢期作業療法学 I	3	2						◎		
	高齢期作業療法学 II	3	1							◎	
	ひとと暮らし I	2	2		◎						
	ひとと暮らし II	2	2			◎					
	義肢装具学	3	1						◎		
	作業療法治療学 I	2	1					◎			
	作業療法治療学 II	3	1						◎		
	作業療法治療学 III	3	1						◎		
	作業療法技術論 I	3	1						△		
	作業療法技術論 II	3	1						△		
作業療法技術論 III	3	1						△			
作業療法特論 I	3	1							△		
作業療法特論 II	3	1							△		
作業療法特論 III	4	1								△	
作業療法特論 IV	4	1								△	
地域作業療法学	地域作業療法入門 I	2	1		◎						
	地域作業療法入門 II	2	1			◎					
	地域作業療法実習 I	2	1			◎					
	地域作業療法実習 II	2	1			◎					
臨床実習	臨床評価実習指導	3	1						◎		
	臨床評価実習 I	3	3						◎		
	臨床評価実習 II	3	3						◎		
	臨床総合実習指導	4	1							◎	
	臨床総合実習 I	4	8							◎	
	臨床総合実習 II	4	8								◎
卒業研究	4	2								◎	
小計	—	66	9	4	22	19	21				
合計	—	118	50	37	43	20	22				

必修科目66単位のほか、選択科目から2単位以上を履修

卒業要件

基礎教養科目の必修科目10単位、選択科目から4単位以上、専門基礎科目の必修科目42単位、専門科目の必修科目66単位、選択科目から2単位を修得し、124単位以上修得すること。
(履修科目の登録の上限：50単位(年間))

群馬医療福祉大学リハビリテーション学部作業療法専攻 カリキュラムマップ

作業療法専攻ディプロマポリシー（作業療法専攻のカリキュラムを履修することにより修得できる能力）

- 「知識・理解」(1) 作業療法士として活躍するための必要な基礎的知識・技術を習得している (2) 人間性や倫理感を裏付ける幅広い教養を身につけている
- 「思考・判断」(3) 対象となる人の身体的・心理的・社会的な健康状態を科学的に評価し、情報の統合と的確な判断を示すことができる
- 「技能・表現」(4) 基本的な医療行為を対象者にも自らにも安全に実施することができる (5) 他者の声に耳を傾け、自分の考えを口頭表現や文章表現によって伝えることができる
- 「関心・意欲・態度」(6) 科学の進歩及び社会の医療ニーズの変化や国際化に対応して、生涯を通して自らを高めることができる
- (7) 地域や組織の中で医療人としての高い倫理観と責任感を持ち、他者と協力して仕事や研究を進める意欲を持つことができる

教育内容	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎分野 科学的思考の基礎 人間と生活	○人間哲学 △道徳教育 △心理学 △国際文化論 △法学 ○医療英語 I △韓国語 I △中国語 I △障害者スポーツ ○基礎演習 I △ポランテティア活動 I △美術技法 △情報処理 △スポーツレクリエーション実技 △レクリエーション活動援助法	△教育原理 △生涯学習概論 △物理学 △経済学 △マスメディア論 △医療英語 II △中国語 II △韓国語 II △中国語 II ○基礎演習 II △ポランテティア活動 II △美術技法 △情報処理 △スポーツレクリエーション実技 △レクリエーション活動援助法	○運動学実習 ○解剖学 II ○生理学 II ○心理学 II ○人間発達学	○基礎演習 II ○ポランテティア活動 II	○運動学実習 ○病理学概論 ○内科・老年医学 I ○整形外科学 I ○神経内科学 I ○精神医学	○運動学実習 ○解剖学 II ○生理学 II ○心理学 II ○人間発達学	○基礎演習 II ○ポランテティア活動 II	○専門演習 I ○専門演習 II
専門基礎分野 人体の構造と機能 及び心身の発達 疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	○解剖学 I ○生理学 I ○運動学 I ○一般臨床医学	○解剖学 II ○生理学 II ○心理学 II ○人間発達学	○運動学実習 ○病理学概論 ○内科・老年医学 I ○整形外科学 I ○神経内科学 I ○精神医学	○基礎演習 II ○ポランテティア活動 II	○運動学実習 ○病理学概論 ○内科・老年医学 I ○整形外科学 I ○神経内科学 I ○精神医学	○運動学実習 ○解剖学 II ○生理学 II ○心理学 II ○人間発達学	○基礎演習 II ○ポランテティア活動 II	○専門演習 I ○専門演習 II
保健医療福祉とリハビリテーションの理念	○リハビリテーション入門 △保健医療福祉論							
基礎作業療法学	○ひとと作業	○作業療法入門 ○ひとと作業活動 I	○ひとと作業活動 II	○作業療法入門実習	○作業療法入門実習	○作業療法研究法	○作業療法セミナー I ○作業療法管理論	○作業療法セミナー II (通年) ○作業療法管理論
作業療法評価学			○作業療法評価法 I	○作業療法評価法 II	○作業療法評価法 II	○作業療法評価法 III ○作業療法評価法 IV	○作業療法評価法 I ○作業療法評価法 II	○作業療法評価法 I ○作業療法評価法 II
作業療法治療学			○身体機能作業療法学 I ○精神機能作業療法学 I ○ひとと暮らし I	○身体機能作業療法学 II ○精神機能作業療法学 II ○ひとと暮らし II ○作業療法治療学 I	○身体機能作業療法学 II ○精神機能作業療法学 II ○ひとと暮らし II ○作業療法治療学 I	○発達過程作業療法学 I ○発達過程作業療法学 II ○高齢期作業療法学 I ○高齢期作業療法学 II ○基礎器具学 ○作業療法治療学 III ○作業療法治療学 IV △作業療法技術論 I △作業療法技術論 II △作業療法技術論 III	○高年齢期作業療法学 II △作業療法特論 I △作業療法特論 II △作業療法特論 III △作業療法特論 IV	○高年齢期作業療法学 II △作業療法特論 I △作業療法特論 II △作業療法特論 III △作業療法特論 IV
地域作業療法学			○地域作業療法学入門 I	○地域作業療法学入門 II ○地域作業療法学実習 I ○地域作業療法学実習 II	○地域作業療法学入門 I ○地域作業療法学実習 I ○地域作業療法学実習 II			
臨床実習							○臨床評価実習指導 ○臨床評価実習 I ○臨床評価実習 II	○臨床総合実習指導 (通年) ○臨床総合実習 I ○臨床総合実習 II

○必修科目 △選択科目

1) 基礎科目

科目名	人間哲学	担当教員 (単位認定者)	鈴木 利定	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	人間哲学				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

「人間とは何か」我々はこれまで幾度となくこの問いかけを繰り返してきた。中国の思想家たちは、この問いにどのように解答しているのか。そしてそれぞれの解答に対して自分自身はどう思うのかを自らとらえてみる学問をねらいとしている。

〔達成目標〕

- ①人間とは何か、中国の思想家たちの解答に対し、自分自身はどう思うのかを問う。
- ②孔子と老子・荘子の思想を比較し、学ぶ。

■授業の概要

孔子は人間にいかによく生きべきかという問いについて、人間によるべき新しい「道」をどのように考えたか。仁と礼について、特に最近では礼儀をわきまえないという声もある。つまり「形式的な礼など無用だ。真心さえ持っていればそれでよいのでは虚礼廃止だ。」ということもあるが、孔子の説いた礼をもとに現代における礼のあり方を学ぶ。プラトンと同じく孔子は、理想国家を説くことにより政治のあり方を説いた。孔子の説いた政治道徳の現代にあてはまることを学ぶ。老子・荘子は孔子と並ぶ中国の代表的な思想家である。両者は全く相反する傾向すら持っている。この両者の思想を比較し、学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	善く生きるとは
第3回	哲学の語源、世界4大聖人(思想の源)
第4回	プラトン、アリストテレス
第5回	ギリシャの愛(3つ) 仁
第6回	政とは如何なるべきか。志学より従心までの心持。
第7回	教育論
第8回	大学の道
第9回	家を斉へて国を治むるを釈く
第10回	人生いかに生きるか「後世への最大遺物」を通して
第11回	道に対する知者
第12回	世界の四聖人
第13回	孔子の弟子「顔回」
第14回	四端の心
第15回	人生に宗教は必要

■受講生に関わる情報および受講のルール

成績評価は、筆記試験・レポート・出席状況を鑑み、一度も休みのない者については、成績としては十分な評価を与える。出欠席は重視する。理由なくして欠席、遅刻の多い者(二回以上の者)は成績評価を受ける資格を失う。欠席の虚偽申告(代返等)をした者は単位を認めない。講義中のノート筆記は必ず行い、質問に対して的確な解答ができるよう努める。私語は厳禁。注意を促し、場合によっては退出を命ずる。再試は1回のみ。

■授業時間外学習にかかわる情報

テキストの予習・復習をすること。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

評価配分:成績評価は、筆記試験・レポート・出席状況を鑑み、一度も休みのない者については、成績評価としては十分な評価を与える。

■教科書

鈴木利定著「儒教哲学の研究-修正版」(明治書院) 咸有一徳(中央法規)

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	道徳教育	担当教員 (単位認定者)	岡野 康幸	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	人間力を育てる学び				

■授業の目的・到達目標

人が社会にあって、人としてどうあるべきなのかを学び、実践できる力を身につける。 自己の考えを表現できる言語力・話力・能力をみがき、思考力・判断力を身につける。

■授業の概要

人間としての在り方・生き方について学び、積極的に社会に参加できる力を養う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション(講義内容・方法、授業時の留意事項、評価)・咸有一徳とは
第2回	事象の論説・事実把握・検証・論述すること(題材「ハチドリの一としづく」)
第3回	「徳」「仁」の字源から咸有一徳を解釈する
第4回	論語に見る「徳」「仁」の解釈。孔子の時代
第5回	小学校・中学校・高等学校学習指導要領に示された「道徳」の解説
第6回	小学校・中学校・高等学校学習指導要領に示された「道徳」の解説
第7回	「真心」の解説(中国における儒学関係古典の解釈)・「心」の字源
第8回	「至誠」「尽くす」の解説・「儒教」とは・知行合一(五常・五倫)の解説
第9回	豊かな人間性の涵養と、人格の向上について(交際・礼儀作法・エチケット)
第10回	家庭生活の基本マナー(儒学における関係古典文献より考察)
第11回	福祉界が望むマナー(人間として大切であることを説く中国古典、先達のことばから考察)
第12回	学校生活での品位あるマナー(人間として大切であることを説く中国古典、先達のことばから考察)
第13回	学校生活での品位あるマナー(人間として大切であることを説く中国古典、先達のことばから考察)
第14回	時事問題の考察・発表・解説(人としての在り方・生き方を考える)
第15回	時事問題の考察・発表・解説(人としての在り方・生き方を考える)

■受講生に関わる情報および受講のルール

意欲的な学習態度であること。
日常生活において学びを実践すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

ニュース・新聞等より、社会現象、とくに人間としての在り方・生き方に関する事象について感心を持ってとらえ、どうあるべきかということに考えを巡らすこと。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

提出物と定期試験によって評価。それぞれが60%を超えていること。

■教科書

咸有一徳

■参考書

授業において紹介。

科目名	教育原理	担当教員 (単位認定者)	江原 京子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	教育思想の変遷、学校の歴史、義務教育の意義、「わかる」と「できる」、非言語・言語コミュニケーション				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

学習指導要領の「総則」に示される、これからの日本の学校教育の理念、具体化の方向の趣旨に沿い、我が国が歩んできた教育の歴史的背景を理解し、これからの日本の教師はどうあるべきかを学び、必要な資質や能力、態度の基礎・基本を養う。

〔到達目標〕

- 1 教育思想の変遷に基づき、歴史的背景から教育の本質を捉えることができる。
- 2 学校の歴史・義務教育の意義が理解できる。
- 3 教育現場の実態を理解し、教育活動の展開の実際を身につける。

■授業の概要

- 1 教育における人間観を哲学者のカントや比較動物学者のポルトマンから言及し、教育思想の展開を、村井実のモデル（①手細工モデル、②農耕モデル、③生産モデル）を用い、社会的背景を交えながら考察し、学校の歴史や義務教育史にも触れる。
- 2 子どもと授業の関係を、「わかる」「できる」「考える」といったそれぞれの違った視点から捉える。さらに、教育現場における言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションの教育的意義について考え、学校における教育的効果について考える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション(授業概要、評価方法等) - 授業の冒頭に示す【視点】を意識し授業に臨む。 教育における人間観 - 「人間は教育によってのみ人間になる」その功罪、野生児に学ぶ
第2回	教育思想の変遷 ① 手細工モデルと農耕モデルの特徴と問題点
第3回	教育思想の変遷 ② 生産モデルの特徴と問題点
第4回	学校の歴史 ① 学校とは何か・学校の定義、下構型・上構型の学校システム
第5回	学校の歴史 ② 就学の形態: 複線型、分岐型、単線型
第6回	義務教育の意義 ① 義務教育の歴史からその成立に至った意義について4つの視点からみる
第7回	義務教育の意義 ② 日本の義務教育制度の変遷、教育課程
第8回	生産モデル体制(閉鎖性)の諸問題
第9回	人間モデルによる体制(開放性)
第10回	「わかる」「できる」 ① 「わかっている」とはどういうことか - 事例を通して考える -
第11回	「わかる」「できる」 ② 「わかっている」が出来ていないというのはどういうことか - 事例を通して考える -
第12回	非言語コミュニケーション ① 人は気持ちをどう伝え合うのか - 近言語的、非言語 -
第13回	非言語コミュニケーション ② 人は気持ちをどう伝え合うのか - 空間の行動、人工物、物理的環境 -
第14回	言語コミュニケーション 言語を通してのコミュニケーションの役割
第15回	発問と質問 / まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 1 遅刻・欠席は授業時間前に必ず届け出ること。6回以上欠席した場合は定期試験の受験資格を喪失する。
- 2 授業中に課したミニレポートを必ず提出すること。
- 3 予習復習を必ず行い、疑問点を確認しておくこと。
- 4 私語を慎み、誠意ある態度での受講を求める。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業の要約もしくは課題をミニレポートとしてまとめ、指定した日時までに提出すること。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

授業中に課したミニレポート 30%、試験またはレポートを 70%として総合的に評価する。

■教科書

柴田義松著 『新教育原理』 有斐閣双書、2005年

■参考書

講義の中で適宜紹介する。

科目名	生涯学習概論	担当教員 (単位認定者)	篠原 章	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	秘められた宝 だれでも どこでも いつでも				

■授業の目的・到達目標

生涯学習の基本理念と内容を理解し、わが国の歴史的展開と現状や世界の流れを知るとともに、生涯学習における学び方を身に付け、学習者への支援方法を効果的に活かせる力を養う。

■授業の概要

生涯学習における日本と世界の基本的考え方や理念、特にユネスコとOECDの相違、生涯学習の今後の展望を学ぶ。また現在の家庭・学校・社会の諸課題を踏まえ、生涯学習時代に期待される人間像について考察する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション
第2回	国際社会における議論
第3回	日本での議論・政策
第4回	生涯学習の理念と理論(その1)
第5回	生涯学習の理念と理論(その2)
第6回	生涯学習の内容と形態
第7回	学校教育と生涯学習
第8回	外国の生涯学習(その1)
第9回	外国の生涯学習(その2)
第10回	生涯学習の先駆け(その1)
第11回	生涯学習の先駆け(その2)
第12回	社会教育制度
第13回	生涯学習支援の動向と課題
第14回	まちづくりと生涯学習
第15回	グローバリゼーションと生涯学習

■受講生に関わる情報および受講のルール

板書・口述内容は、定期試験に重要なので整理すること。
小論文、レポートは必ず提出すること。
5回を超えて欠席すると定期試験の受験資格を失う。

■授業時間外学習にかかわる情報

予習に重点を置き学習すること。「学び方を学ぶ」ということを意識して学習すること。

■オフィスアワー

講師室で授業後30分。

■評価方法

定期試験・小論文・レポートを総合的に評価する。(目安)定期試験 70%、小論文・レポート 30%。

■教科書

「テキスト生涯学習 新訂版」学文社

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	心理学	担当教員 (単位認定者)	橋本 広信	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目	社会福祉主事任用資格指定科目		
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	感覚、知覚、認知、欲求、学習、記憶、発達、パーソナリティ、無意識、心理検査、知能検査				

■授業の目的・到達目標

広範囲にわたる心理学の研究や知識を概観し、人の心理や行動、人間関係の理解に関する基礎知識を学んでいく。心理学は臨床心理学など、応用的心理学の基礎となる科目であり、精神医学などその他の科目とも連動する内容となっている。他の心理学の理解のためにも、積極的に学習に臨んでほしい。

■授業の概要

心の成立を支える機能や、心に関連する現象などについて幅広く学び、人間を心理学的な観点から捉える基本的知識を得る。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、心理学の歴史
第2回	行動の基本様式
第3回	発達 ～遺伝と環境～
第4回	感覚と知覚①
第5回	感覚と知覚と認知②
第6回	学習
第7回	記憶
第8回	思考・言語①
第9回	思考・言語②
第10回	動機づけ・情動
第11回	個人差と知能
第12回	性格と質問紙法人格検査
第13回	投影法人格検査
第14回	無意識の発見 ～フロイトと防衛機制～
第15回	生涯発達とライフサイクル: エリクソンの心理社会的発達理論

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・選択科目ではあるが、国家試験に関連する基礎知識を学ぶので、履修することが望ましい。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用等）は退席を命じます。その場合は欠席扱いとします。
- ・評価にある通り、5回程度小レポートや感想文を課します。それぞれ評価の対象になりますので、必ず提出してください。

■授業時間外学習にかかわる情報

シラバスで指示する内容について取り組むこと。

■オフィスアワー

基本的に授業後の休憩時間としますので、声をかけてください。個別に質問がある場合はメールで。
hashimoto@shoken-gakuen.ac.jp

■評価方法

- ・総合評価は、以下の通りの割合で、評価。総合得点 60～69点:C 70～79点:B 80～89点:A 90点以上:S
- ・期末試験 70%、小レポート・感想文等提出物 30% (30 ÷ 提出回 (予定5回) = 1 提出物得点 (1回6点) 満点)
- ※提出課題がない場合もありうるが、その場合は試験 100%となる。

■教科書

心理学(第5版)(2015) 鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃 東京大学出版会

■参考書

適宜指示。

科目名	国際文化論	担当教員 (単位認定者)	久山 宗彦	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	人づくり、対話と独語（ひとりごと）、平和				

■授業の目的・到達目標

国際文化論（intercultural studies）では、国際的な相互依存関係の中で生きていく私たちが、自立した個人として生き生きと活躍していくためには、自国の文化に根差した自己の確立や、異なる文化を持った人たちをも受け入れ、かれらと繋がっていきける能力や態度を身につけていくことを主眼としている。

■授業の概要

世界の諸事情と日本との関係を知り、自らの歩む道について考える。更に、日本と世界（諸外国）の関係がどのように発展したらよいかについても考察する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	「国際文化論が目指すのは国際平和である。」～特に難民問題と日本の関わりを巡って～
第2回	和の文化（1）～その構造について～
第3回	和の文化（2）～神の文化との比較～
第4回	マルティン・ブーバー（Martin Buber）の「関係」の哲学（1）
第5回	マルティン・ブーバー（Martin Buber）の「関係」の哲学（2）～医療世界への応用～
第6回	日本外交の原点に位置する聖徳太子
第7回	ヨーロッパ文明とEU
第8回	日本と中東（1）
第9回	日本と中東（2）
第10回	湾岸戦争後のイラクの弱者に対する救援活動
第11回	ダブリン（Dublin）のホスピスの発祥の地、聖母ホスピスを訪ねて
第12回	「平和」実現への第一歩とは（1）
第13回	「平和」実現への第一歩とは（2）～平和憲法の共有～
第14回	国際文化論として考えるリハビリテーション
第15回	個性と異文化との格闘、異文化理解、そして外国語

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・授業レジュメは原則として毎回配布する。
- ・授業には積極的な態度で臨むように。

■授業時間外学習にかかわる情報

世界の国々と関わる日本のニュースにも、いつも感心を持っていただきたい。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

最終レポート試験（80%）、授業時等のレポート（20%）。

■教科書

教科書は使用しない。授業時に授業レジュメや参考資料を配布する。

■参考書

授業時に随時紹介する。久山宗彦著「神の文化と和の文化」（北樹出版）もそのうちの一つである。

科目名	美術技法	担当教員 (単位認定者)	本田 真芳	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	作業療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	発想、鑑賞、版画、製版				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

表現及び鑑賞の活動を通して感性を働かせながらつくりだす喜びを味わう。造形的な創造活動の能力を培い、豊かな情操を養う。

〔達成目標〕

- ①美しいものや、優れたものに接して感動できる豊かな人間性を高める。
- ②発想や構想の能力を高める。
- ③日常での着実な研究心と探究心を培う。
- ④日々の生活の中で何かを表す意識を持った時、それが表現の原点であることを身につける。

■授業の概要

図画工作としての基礎基本、バランスの取れた指導計画などを学ぶ。また、版画の歴史、流れを学び、版画の種類（ドライポイント・エッチング）等の実技制作を行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション、美術技法を考える
第2回	発想、表現、鑑賞について
第3回	美術の概念
第4回	新しい造形と教育
第5回	版画の歴史について考える
第6回	版画の種類について学ぶ①
第7回	版画の種類について学ぶ②
第8回	基本技法①
第9回	基本技法②
第10回	製版の準備①
第11回	製版の準備②
第12回	製版の準備③
第13回	製版の実践・刷り
第14回	製版の実践・刷り
第15回	製版の実践・刷り

■受講生に関わる情報および受講のルール

シラバスを確認し、積極的に授業に取り組むこと。

時には服が汚れないためのエプロン、軍手が必要なこともあります。授業中の私語は十分つつしむこと。

工作室などで決められた座席を守ること。

■授業時間外学習にかかわる情報

作業内容を十分に理解し、授業に臨むこと。

■オフィスアワー

授業後

■評価方法

課題作品 70% 試験（レポート） 30%

■教科書

長谷喜久一：図画工作、建帛社

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	美術技法	担当教員 (単位認定者)	本田 真芳	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	作業療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	発想、鑑賞、版画、製版				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

表現及び鑑賞の活動を通して感性を働かせながらつくりだす喜びを味わう。造形的な創造活動の能力を培い、豊かな情操を養う。

〔達成目標〕

- ①美しいものや、優れたものに接して感動できる豊かな人間性を高める。
- ②発想や構想の能力を高める。
- ③日常での着実な研究心と探究心を培う。
- ④日々の生活の中で何かを表す意識を持った時、それが表現の原点であることを身につける。

■授業の概要

図画工作としての基礎基本、バランスの取れた指導計画などを学ぶ。また、版画の歴史、流れを学び、版画の種類(ドライポイント・エッチング)等の実技制作を行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	基本技法③メゾチント
第17回	基本技法④ルーレット
第18回	基本技法⑤エッチング
第19回	基本技法⑥ソフトグラウンド
第20回	基本技法⑦アクアチント
第21回	その他の技法
第22回	その他の技法
第23回	凸版を刷る
第24回	作者の署名と番号などの約束
第25回	製版の準備
第26回	製作の実践・刷り
第27回	製作の実践・刷り
第28回	製作の実践・刷り
第29回	鑑賞
第30回	版の保存とまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

シラバスを確認し、積極的に授業に取り組むこと。
時には服が汚れないためのエプロン、軍手が必要なこともあります。授業中の私語は十分つつしむこと。
工作室などで決められた座席を守ること。

■授業時間外学習にかかわる情報

作業内容を十分に理解し、授業に臨むこと。

■オフィスアワー

授業後

■評価方法

課題作品 70% 試験(レポート) 30%

■教科書

長谷喜久一:図画工作. 建帛社

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	物理学	担当教員 (単位認定者)	栗原 秀司	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	運動、力、エネルギー、波動、電磁気、原子				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

物理学を通して自然科学の基本的な考え方を学び、応用できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①力の種類を知り、力のつりあいや運動の法則等を応用して、ヒトの体や骨・筋肉にはたらく力を求めることができる。
- ②運動の表し方を知り、式やグラフを読み取ることや式やグラフで表すことができる。
- ③エネルギー、熱、波、電気、磁気、放射線等について知り、その表し方や法則を理解し説明できる。

■授業の概要

物理学は自然を理解する基本的な考え方であるとともに、多くの場面で利用されている。医療の現場では検査や治療に応用されているだけでなく、ヒトの体の骨格・筋肉等は力学に従っている。本授業では力学を中心に物理学の基本的な考え方を説明し、エネルギー、熱、波、電気、磁気、放射線等について概説する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、物理を理解するための道具とルール
第2回	力学の基本-物体の運動を数式で表す-
第3回	物体の運動と力の関係-力の表し方と力の種類-
第4回	物体の運動と力の関係-運動方程式-
第5回	圧力のはたらきと物を回転させる力
第6回	エネルギーとその保存法則
第7回	運動量と視点の違いにより感じる力
第8回	気体分子の運動と熱エネルギー
第9回	波の性質とその表し方
第10回	波で理解する音と光の現象
第11回	静電気の力とその表し方
第12回	オームの法則から理解する電気回路
第13回	電流と磁場の関係
第14回	電磁誘導と交流
第15回	原子の構造と放射線

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・コメントカードで出席を確認するので、授業終了時に必ず提出すること。
- ・座席は特に指定しないが、できるだけ前に座るようにすること。

〔受講のルール〕

- ・分からないところがあれば、いつ質問をしてもよい。分からないところをそのままにしないようにすること。
- ・授業内容に関係のない私語は慎むこと。他の受講生の迷惑になる行為は禁止する。

■授業時間外学習にかかわる情報

事前に教科書を読み、分からないところを明確にしておくこと。授業終了後は、授業で扱った問題や授業中に扱えなかった教科書の章末問題を解いて理解を深めるようにすること。2回目以降の授業では最初に前回の授業についての確認テストを行う。

■オフィスアワー

- ・授業終了後30分間
- ・コメントカードに質問を記載すれば次の授業で返答する。

■評価方法

筆記試験 100%

■教科書

時政孝行監修、菓子研著:まるわかり!基礎物理、南山堂

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	法学	担当教員 (単位認定者)	森田 隆夫	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目	社会福祉主事任用資格指定科目		
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	法学概論、憲法、民法、理学療法士及び作業療法士法				

■授業の目的・到達目標

社会福祉の法律の実践では、法律関係が随所であり、基本的知識や法的センスが必要となります。そこで、社会福祉を志す者に必要な基本的法領域として、法学概論・憲法・民法を中心に、実務上の具体例等を通じた学習をしたいと考えています。この学習を通じて、法条の検索、判例等に触れて行きたいと考えています。

- ①六法で条文を調べることができる。
- ②法学概論・憲法・民法につきその重要な概念、制度等を説明することができる。
- ③法を解釈するという思考方法をとることができる。

■授業の概要

法学概論の学習によって、法についての基本的な考えを身につけます。その上で、公法の代表としての憲法と私法の代表としての民法を用いて、法解釈学を体験してもらいます。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション/概論1: 市民生活と社会規範
第2回	概論2: 市民生活の各領域と主な関係法
第3回	憲法1: 憲法総論、基本的人権総論1
第4回	憲法2: 基本的人権総論2・思想・良心の自由、信教の自由
第5回	憲法3: 表現の自由、経済的自由
第6回	憲法4: 財産権、社会権
第7回	憲法5: 人身の自由、その他の人権、国民の義務
第8回	憲法6: 統治機構の基本原則、国会、内閣
第9回	憲法7: 裁判所、財政、地方自治
第10回	民法1: 民法総則
第11回	民法2: 契約総論
第12回	民法3: 契約各論
第13回	民法4: 親権
第14回	民法5: 相続
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・可及的に多くの情報を提供したいので、予習復習は必ず行うこと。
- ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・社会福祉を志す者として、出席時間を厳守し、態度や身だしなみ等を整えること。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁する。

■授業時間外学習にかかわる情報

教科書で予習・復習すること、根拠条文を確認しておくことが、絶対に必要です。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

定期試験(60%)、授業時間に行う小テスト(40%)を総合して評価する。

■教科書

森長秀 編著「法学入門」光生館,2015年、有斐閣「ポケット六法」

■参考書

授業中に随時紹介する。

科目名	経済学	担当教員 (単位認定者)	白石 憲一	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	経済学				

■授業の目的・到達目標

経済学は人間と物との関係を分析する学問であるが、経済社会の構造とその歴史的発展を理解することにより、現代の経済構造を理解させる。

■授業の概要

- 1) 経済の生成・発展を社会科学の一分野としてとらえ分析する。
- 2) 経済を人間生活の中でとらえ、又経済学の変遷を歴史の発展の中からとらえ分析する。
- 3) 現代経済についてケインズ経済学とマルクス経済学の比較から分析。
- 4) 国民所得と経済成長について理解させる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	「経済」という用語の解説
第2回	経済学という学問は社会科学の一分野である。社会科学とは何か
第3回	社会科学の中でも政治は当初から経済と密接な関係にあった
第4回	人間生活と経済、経済の基本について
第5回	経済学の成立と歴史。A. スミスの経済学の成立
第6回	重商主義と重農主義
第7回	経済行為…限界効用の理論、メンガーとワルラス
第8回	現代の経済生活 所得、家計、企業、政府の関係について
第9回	現代の経済理論 マーシャル、ピグー、ケインズ、マルクス
第10回	市場と価格 需要と供給の法則 市場機構の限界
第11回	株式会社と株式資本 経営と資本の分離
第12回	国民所得 概念と基本 G.N.P及び G.D.P 経済の循環構造
第13回	家計と企業の循環 所得と経済の循環
第14回	三面等価の原則 所得・雇用・利子率等の関係 流動性選好
第15回	経済成長 概念と経済成長率 成長の要因 投資の二重効果

■受講生に関わる情報および受講のルール

教科書を使用しない代わりに板書を大量に行う。ノートを用意し、しっかりと書きとめておくこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業内容の中で多くの著作が登場するのでのちに図書館などで参照すること。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

筆記試験 (100%)

■教科書

なし

■参考書

授業時間中に示す。

科目名	情報処理	担当教員 (単位認定者)	藤本 壱	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	作業療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	Word、Excel				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

レポート作成等で必要なパソコンの基本操作を身につけること、各種発表のためのパソコンでの資料作りの方法や、よりよい発表の方法を身につけることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①パソコンの基本的な操作を理解する。
- ②Microsoft Wordでレポート等の文章を作成できる。
- ③Microsoft Excelで表やグラフをまとめることができる。
- ④PowerPointの基本的な操作を理解する。
- ⑤PowerPointでプレゼンテーションを作成できる。
- ⑥作成したプレゼンテーションを使って発表できる。

■授業の概要

授業を通し、パソコンの基本的な使い方をマスターし、WordとExcelを使って各種の文書を作成することができるようになることを目標とする。他の科目でレポート課題等の文書を作成する際にWordやExcelを使う機会は多いので、他の科目との関わりも多い。PowerPointでプレゼンテーション用資料を作成することをマスターし、またその資料を使って人前で発表することができるようになることを目標とする。他の科目での各種発表の際にも、PowerPointを活用できるようにする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーションとキーボード、マウスの操作
第2回	[基礎]日本語の入力とファイルの操作
第3回	[基礎]ホームページの利用と情報セキュリティ
第4回	[Word]各種の書式設定
第5回	[Word]応用的な書式設定
第6回	[Word]表のある文書の作成
第7回	[Word]図や写真を含む文書の作成
第8回	[Word]作業の効率化と複数ページ文書の作成
第9回	[Excel]Excelの基本操作
第10回	[Excel]セルの書式設定
第11回	[Excel]グラフの作成
第12回	[Excel]計算の基本
第13回	[Excel]Excelをデータベースとして使う
第14回	[Word/Excel]Word/Excelの各種の操作
第15回	課題について

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・ファイル保存用にUSBメモリを持参すること。
- ・配布資料は当授業のホームページから各自ダウンロードすること。

〔受講のルール〕

- ・積極的に授業に臨むこと。
- ・実習形式の授業なので、話を聞くだけでなく、手を動かしてパソコンの操作を身につけること。
- ・授業に関係のないこと(例:YouTubeを見る)をしないこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

教科書の練習問題等を利用して復習すること。

■オフィスアワー

授業開始前20分間

■評価方法

前期:レポート課題による評価(100%) 後期:レポート課題(70%)、レポート発表(30%)。
以上から総合的に評価 前期と後期を合計して総合評価とする。

■教科書

今すぐ使えるかんたんWord&Excel&PowerPoint2013、技術評論社、2013年

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	情報処理	担当教員 (単位認定者)	藤本 壱	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	作業療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	PowerPoint、Word、Excel、プレゼンテーション				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

レポート作成等で必要なパソコンの基本操作を身につけること、各種発表のためのパソコンでの資料作りの方法や、よりよい発表の方法を身につけることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①パソコンの基本的な操作を理解する。
- ②Microsoft Wordでレポート等の文章を作成できる。
- ③Microsoft Excelで表やグラフをまとめることができる。
- ④PowerPointの基本的な操作を理解する。
- ⑤PowerPointでプレゼンテーションを作成できる。
- ⑥作成したプレゼンテーションを使って発表できる。

■授業の概要

授業を通し、パソコンの基本的な使い方をマスターし、WordとExcelを使って各種の文書を作成することができるようになることを目標とする。他の科目でレポート課題等の文書を作成する際にWordやExcelを使う機会は多いので、他の科目との関わりも多い。PowerPointでプレゼンテーション用資料を作成することをマスターし、またその資料を使って人前で発表することができるようになることを目標とする。他の科目での各種発表の際にも、PowerPointを活用できるようにする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	[PowerPoint]Power Pointの基本操作
第17回	[PowerPoint] 書式の設定
第18回	[PowerPoint] 表と図の操作
第19回	[PowerPoint] 各種のオブジェクトの操作
第20回	[PowerPoint] 画面切り替えとアニメーション
第21回	[PowerPoint] プレゼンテーションの発表とその関連機能
第22回	[Word] 長文関連の機能(1)
第23回	[Word] 長文関連の機能(2)
第24回	[Word] 差し込み印刷関連の機能
第25回	[Excel] 複雑な計算(1)
第26回	[Excel] 複雑な計算(2)
第27回	プレゼンテーション作成実習
第28回	プレゼンテーション発表実習
第29回	プレゼンテーション発表実習
第30回	プレゼンテーション発表実習

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・ファイル保存用にUSBメモリを持参すること。
- ・配布資料は当授業のホームページから各自ダウンロードすること。

〔受講のルール〕

- ・積極的に授業に臨むこと。
- ・実習形式の授業なので、話を聞くだけでなく、手を動かしてパソコンの操作を身につけること。
- ・授業に関係のないこと(例:YouTubeを見る)をしないこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

教科書の練習問題等を利用して復習すること。

■オフィスアワー

授業開始前20分間

■評価方法

前期:レポート課題による評価(100%) 後期:レポート課題(70%)、レポート発表(30%)。
以上から総合的に評価 前期と後期を合計して総合評価とする。

■教科書

今すぐ使えるかんたんWord&Excel&PowerPoint2013、技術評論社、2013年

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	マスメディア論	担当教員 (単位認定者)	新井 英司	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	マスメディア、ジャーナリズム、客観的認識、ありがとう				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

これからの人生で自分を輝かせて行くにはどうしたらよいか。ジャーナリズムの精神である「なんでも見てやろう」「なんでもやってやろう」という生活態度を身につけ、今日の高度な情報化社会を明るく楽しく生きる実践力を学ぶ。

〔到達目標〕

- ①グローバル化をめぐる世界情勢への関心が高まる。
- ②客観的な見方を習得する。
- ③ものの見方、考え方を深める。
- ④メディア・リテラシーの自覚と実践が可能となる。
- ⑤コミュニケーションの起源「ありがとう」を再認識する。

■授業の概要

ものの見方、考え方の窓ともいえることわざや慣用句を通して先人の智慧を学ぶとともに、日常生活の中から具体的な話題を取り上げ、深めて、自分を輝かせる智慧、術を身につける。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション
第2回	「木を見て森を見ず」 ～複眼的視点～
第3回	「駕籠に乗る人担ぐ人」 ～参加と責任～
第4回	「他山の石」 ～二項対立～
第5回	「事実は小説より奇なり」 ～事 実～
第6回	「因果応報」 ～思想 宗教 科学～
第7回	「温故知新」 ～歴史と時間～
第8回	「悪貨は良貨を駆逐する」 ～資本主義～
第9回	「両刃の剣」 ～両義性～
第10回	「人間万事塞翁が馬」 ～幸 不幸～
第11回	「水は方円の器に従う」 ～受け入れ～
第12回	「石の上にも三年」 ～精 進～
第13回	「急がば回れ」 ～選 択～
第14回	まとめ① 「客観的認識」とは
第15回	まとめ② 「ありがとうで前進」

■受講生に関わる情報および受講のルール

毎日のテレビ、新聞等のニュースを取り上げ、意見や感想を発表し合います。その都度、資料も配付しますので、積極的に授業に参加して下さい。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業後

■評価方法

筆記試験 100%

■教科書

特に指定しませんが、どんな国語辞典でも良いですからいつも携帯して下さい。(電子辞書も可)

■参考書

日々の新聞、テレビ。

科目名	医療英語Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	デビス ウォーレン	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目			
	カリキュラム上の位置づけ		基礎科目		
キーワード	日常会話、身体部位、姿勢や動き				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

医療の場面の中に基本的なコミュニケーションができるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ① 日常会話も含め、患者との基本的な会話ができる。
- ② 医療の専門用語を理解できる。
- ③ 英語でコミュニケーションをとる自信をつける。

■授業の概要

医療の現場で必要な日常会話や専門的な用語を中心に学びます。単語を学び、それを使って患者さんと会話できるように練習します。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	Meeting Colleagues I - Introducing Yourself to the Team / Orientation
第2回	Meeting Colleagues II - Reading a Nursing Schedule
第3回	Meeting Colleagues III - Meeting Patients and their Visitors
第4回	Meeting Colleagues IV - Escorting a Patient for Tests
第5回	Nursing Assessment I - Checking Patient Details
第6回	Nursing Assessment II - Describing Symptoms
第7回	The Patient Ward I - The Patient Ward
第8回	The Patient Ward II - Nursing Duties
第9回	The Patient Ward III - The Qualities of a Responsible Nurse
第10回	Review Test ①
第11回	The Body and Movement I - The Body: Limbs and Joints
第12回	The Body and Movement II - The Body: Torso and Head
第13回	The Body and Movement III - Setting Goals and Giving Encouragement
第14回	The Body and Movement IV - Documenting ROM Exercises
第15回	Review Test ②

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・英和・和英辞書があると授業に役立つでしょう。

〔受講のルール〕

- ・授業をよく聞いて、メモをとる。
- ・ペアワークやグループワークをするときに積極的に参加すること。
- ・英和・和英辞典が入っていても携帯電話を使用しないこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・Review test の時は、指示された範囲を必ず学習すること。
- ・分からない単語があれば、調べておくこと。

■オフィスアワー

授業後

■評価方法

筆記試験（論述・客観）、聞き取りを含む。100%

■教科書

English for Nursing ①

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	医療英語Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	デビス ウォーレン	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目			
	カリキュラム上の位置づけ		基礎科目		
キーワード	会話、医学英語、ケーススタディー				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

医療の場面の中に基本的なコミュニケーションができることと、簡単なケーススタディーを理解できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ① 患者との基本的な会話ができる。
- ② 医療の専門用語を理解できる。
- ③ 簡単なケーススタディーを理解できる。

■授業の概要

医療の現場で必要な会話や専門的な用語を学び、その勉強を生かして簡単なケーススタディーを理解する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	Medication I - Medication Routes and Forms / Orientation
第2回	Medication II - Dosages and Frequency
第3回	Medication III - Side Effects; Assisting Patients with Medication
第4回	The Hospital Team I - Moving and Handling Patients
第5回	The Hospital Team II - Communicating with Team Members by Phone
第6回	The Hospital Team III - Ordering Supplies / Giving Simple Safety Instructions
第7回	Recovery and Assessing the Elderly I - Caring for a Patient in the Recovery Room
第8回	Recovery and Assessing the Elderly II - Talking about Old Age
第9回	Recovery and Assessing the Elderly III - Assessing an Elderly Care Home Resident
第10回	Review Test ①
第11回	Case Study I - Introduction to Spinal Cord Injury: Juan's Story
第12回	Case Study II - Reading Comprehension: Understanding Spinal Cord Injury
第13回	Case Study III - Juan's Family and Timeline
第14回	Case Study IV - Juan's Future Goals
第15回	Review Test ②

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・英和・和英辞書があると授業に役立つ。

〔受講のルール〕

- ・授業をよく聞いて、メモをとる。
- ・ペアワークやグループワークをするときに積極的に参加すること。
- ・英和・和英辞典が入っていても携帯電話を使用しないこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・Review Test の時は、指示された範囲を必ず学習すること。
- ・ケーススタディーを理解するため授業時間外学習をすること。

■オフィスアワー

授業後

■評価方法

筆記試験（論述・客観）100%

■教科書

English for Nursing ①

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	韓国語Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	朴 惠蘭	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	韓国語				

■授業の目的・到達目標

ハングル（文字）の成り立ちや発音を学習し、文字を読み、書けるようにする。韓国語の基礎会話力を身につける。韓国に興味を持ち、韓国と日本の社会・文化を比較して理解を深める。

■授業の概要

ハングルの特徴、話し言葉の特徴や発音、イントネーションを、日常生活及び一般的な話題を通して学び、簡単な会話ができるように、何度も口に出して練習する。視聴覚教材なども用いる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	ハングルの母音/出会いの挨拶
第3回	ハングルの子音 1/別れの挨拶
第4回	ハングルの子音 2/基本会話 -「感謝」
第5回	ハングルの二重母音/基本会話 -「謝罪」
第6回	ハングルの濃音/基本会話 -「食事の時」
第7回	ハングルの激音/基本会話 -「お願いの時」
第8回	ハングルのパッチム 1/「分かる・分からない」の表現
第9回	ハングルのパッチム 2/「ある・ない」の表現
第10回	映像で学ぶハングル
第11回	ハングルの発音の規則
第12回	ハングルの日本語表記 /ハングルでの動物の鳴き声
第13回	自己紹介/「～は～です」文型
第14回	指示代名詞 1/「助詞～が」
第15回	指示代名詞 2/「～が何ですか」の文型

■受講生に関わる情報および受講のルール

日本語にない発音が多いため、正しい発音を身につけるためには、積極的に出席し、何度も口に出して練習することが望ましい。初めての言語のため、文字を覚えるためには、繰り返しの練習、復習が必要である。韓国語Ⅰに引き続き、韓国語Ⅱの履修が望ましい。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

試験（60%）、宿題・レポート（20%）、授業態度（20%）を総合して評価する。

■教科書

金眞 / 柳圭相 / 芦田麻樹子 著 「みんなで学ぶ韓国語（文法編）」 朝日出版社

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	韓国語Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	朴 惠蘭	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	韓国語				

■授業の目的・到達目標

韓国語の基礎会話、発音の習得を終えた学生を対象に、「聴く」「読む」「書く」「話す」の四つの技能のうち、「話す」こと、「聴く」ことにやや比重をおいて授業を進めていく。そのことにより、「会話力」を身につける。

■授業の概要

教材の項目別文例をもとに、対応の言い換え練習を行いながら、韓国語と日本語の発想の違いなどを確認していく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	否定文 / 「助詞～も」
第2回	疑問詞 / 「～は～ではありません」の文型
第3回	家族の呼び方 / 「～も～です」の文型
第4回	丁寧な会話体 / 「助詞～に」
第5回	位置を表す言葉 / 「～に～があります」の文型
第6回	時を表す言葉 1 / 「助詞～で」
第7回	曜日の言い方 / 「～で～をします」の文型
第8回	漢数詞 1 / 時を表す言葉 2
第9回	映像で学ぶハングル
第10回	漢数詞 2 / 「番号・値段の言い方」
第11回	漢数詞 3 / 「～月～日です」の文型
第12回	用言の「です・ます形」 1 / 「助詞～と」
第13回	用言の「です・ます形」 2 / 「～と～をします」の文型
第14回	否定・不可能の表現 / 「あまり～くありません」の文型
第15回	まとめ・復習

■受講生に関わる情報および受講のルール

日本語にない発音が多いため、正しい発音を身につけるためには、積極的に出席し、何度も口に出して練習することが望ましい。初めての言語のため、文字を覚えるためには、繰り返しの練習、復習が必要である。韓国語Ⅰに引き続き、韓国語Ⅱの履修が望ましい。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

試験(60%)、宿題・レポート(20%)、授業態度(20%)を総合して評価する。

■教科書

金眞 / 柳圭相 / 芦田麻樹子 著 「みんなで学ぶ韓国語(文法編)」 朝日出版社

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	中国語Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	岡野 康幸	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	漢語、中国語、簡体字、繁体字、中国、語学学習				

■授業の目的・到達目標

- ①中国語の正確な発音と初歩の文法・語彙を習得することにより、自己に関する簡単な事柄を言えるようにする。
- ②中国語の学習を通じて、日本語との構造の差異に着目する。

■授業の概要

中国語は声調（音声の高低）によって意味が変わる言語であり、また日本語には存在しない発音も多い言語である。発音を徹底的に練習することにより、正しい発音の習得と今後の自発的学習（予習・復習）の筋道をつける。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション、(教科書P2・3を読んでおくこと)
第2回	第1課 你好(こんにちは) 中国語の音節 声調 ドリル
第3回	第2課 明天见(また明日) 単母音 複母音 ドリル
第4回	第3課 谢谢(ありがとう) 子音(1)ドリル
第5回	第4課 好久不见(お久しぶり) 子音(2) 鼻音 ドリル
第6回	第5課 迎接(出迎える) 名前の言い方尋ね方
第7回	第6課 欢迎会(歓迎パーティー) 動詞「是」・助詞「的」の使い方
第8回	第7課 打的(タクシーに乗る) 基本語順S+V+O 連動文
第9回	第8課 住宿(宿泊する) 希望・願望を表す「想」、「いる・ある・持っている」を表す「有」、指示代名詞
第10回	第9課 问路(道をたずねる) 動詞「在」・前置詞「从」「往」の使い方
第11回	第10課 买东西(ショッピングする) 数の言い方・お金の言い方・値段の尋ね方。形容詞述語文
第12回	第11課 聊天儿(おしゃべりをする) 年月日・曜日の言い方、年齢の言い方
第13回	第12課 点菜(料理を注文する) 量詞、動詞の重ね方
第14回	第13課 买足球票(サッカーのチケットを買う) 時刻の言い方、状態の変化を表す文末の「了」
第15回	前期総復習

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業中は、単に授業を聞くといった受身の態度ではなく、積極的に参加し、発音の練習をすること。周囲の迷惑になるので、私語を慎むこと。注意しても改めない時は退席を命じる。中国語Ⅰに続けて中国語Ⅱも一緒に履修することが望ましい。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業前に必ず付属のCDを聞き、中国語に慣れ親しむこと。授業の時間だけで語学がマスターできたら、勘違いも甚だしいです。疑問が生じた時は、すぐに教員に質問をすること。後延ばしにしたら、理解が困難になります。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

期末試験 70%、平常点(小テスト、課題など) 30%。

■教科書

陳淑梅 劉光赤『しゃべっていいとも中国語 トータル版』朝日出版社、2014年1月

■参考書

相原茂『はじめての中国語』講談社現代新書、1990年2月

科目名	中国語Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	岡野 康幸	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	漢語、中国語、簡体字、繁体字、中国、語学学習				

■授業の目的・到達目標

- ①中国語Ⅰに続き、正確な発音、初級文法・語彙を習得することにより、身の回りの日常的な事柄を表現できるようになります。
- ②中国語の学習を通じて、日本語及び日本文化の差異に着目します。
- ③真面目に予習復習をすれば中国語検定4級のレベルになります。
- ④語学学習を通じて、異文化理解の方法を学びます。

■授業の概要

中国語は声調（音声の高低）によって意味が変わる言語であり、また日本語には存在しない発音も多い言語である。発音を徹底的に練習することにより、正しい発音の習得と今後の自発的学習（予習・復習）の筋道をつける。中国語Ⅱは中国語だけでなく、中国の文化・歴史にも着目し、授業を進めます。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	第14課 做按摩（マッサージをする）時間の長さの言い方 完了を表わす「了」
第2回	第15課 网吧（インターネットカフェ）動作の対象を表す前置詞「給」、助動詞「可以」「能」
第3回	第16課 打电话（電話をかける）動作行為の進行を表す表現、助動詞「会」
第4回	第17課 打工（アルバイトをする）前置詞「在」、二重目的語をとる動詞
第5回	第18課 在饭店（レストランで）経験を表す「过」、選択疑問文
第6回	第19課 去唱卡拉OK（カラオケに行く）助動詞「得」、「一～就」構文
第7回	第20課 你唱得真好（あなたは歌がうまい）結果補語、様態補語
第8回	中国の日本事情
第9回	第21課 全家照（家族写真）「是～的」構文、比較表現-前置詞「比」
第10回	第22課 买衬衫（シャツを買う）方向補語①単純方向補語、「有点儿」と「一点儿」
第11回	第23課 生日晚会（誕生パーティー）「把」構文、方向補語②複合方向補語
第12回	第24課 看DVD（DVDを見る）程度補語、可能補語
第13回	第25課 看病（診察を受ける）主述述語文、受け身表現
第14回	第26課 回国之前（帰国前）「就要～了」構文、使役表現
第15回	総復習

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業中は、単に授業を聞くといった受身の態度ではなく、積極的に参加し、発音の練習をすること。周囲の迷惑になるので、私語を慎むこと。注意しても改めない時は退席を命じる。中国語Ⅰに続けて中国語Ⅱも一緒に履修することが望ましい。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業前に必ず付属のCDを聞き、中国語に慣れ親しむこと。授業の時間だけで語学がマスターできたら、大間違いです。疑問が生じた時は、すぐに教員に質問をすること。後延ばしにしたら、理解が困難になります。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

期末試験 70%、平常点（小テスト、課題など）30%。

■教科書

陳淑梅 劉光赤『しゃべっていいとも中国語 トータル版』朝日出版社、2014年1月

■参考書

相原茂他『Why?にこたえる はじめての 中国語文法書』同学社、1996年9月
倉石武四郎『中国語五十年』岩波新書、1973年1月

科目名	スポーツ体育	担当教員 (単位認定者)	櫻井秀雄・田口敦彦	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	作業療法専攻1～4年次選択科目。 1年次集中講義に出席していない者は受講できない。	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	企画運営 レクリエーション 支援技術				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

PT/OT業務に活用できるよう、スポーツ大会でリーダー的存在として役割を担えること。レクリエーションプログラムの習得と企画や運営、指導技術を身につける。学びを通して、福祉施設、病院等の現場等で活動できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

1. レクリエーション活動の意義を理解できる。
2. さまざまな活動を通して、企画・実践することができる。
3. 他者への支援（指導）ができるようになる。

■授業の概要

1年後期に学んだスポーツプログラムの企画と運営を活かし、学園スポーツ大会に中心的存在として参加する。また、県内で開催されるマラソン大会に出場し完走を目指す。レクリエーションの楽しさを知り、ニュースポーツやコミュニケーションゲームを通じてレクリエーション支援の技術を習得する。そのための指導理論、組織論、事業論などの学習を通じ、支援者（指導者）としての実践力を高める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	科目オリエンテーション
第17回	レクリエーション ダンス・体操
第18回	基礎理論 レクリエーションの意義について
第19回	室内レクリエーション（実践）
第20回	レクリエーションにおけるホスピタリティとは
第21回	コミュニケーション・ワーク アイスブレイキングの意義と基本技術
第22回	マラソン大会に向けて
第23回	ランニング
第24回	ランニング
第25回	マラソン大会参加
第26回	マラソン大会参加
第27回	支援活動実習 レクリエーションプログラムの企画と運営-①
第28回	支援活動実習 レクリエーションプログラムの企画と運営-②
第29回	支援活動実習 レクリエーション評価とまとめ
第30回	学んだことの振り返り：レポート

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・マラソン大会への参加費は自己負担となる。
- ・マラソン大会へのエントリーはすぐに定員に達することが多いので、自らエントリー時期を確認し、応募漏れのないよう十分注意する。
- ・マラソンを走る際は睡眠を十分に取り、準備運動や水分補給などの体調管理を十分に行うこと。
- ・屋外トレーニングの際、天候を考慮し屋内トレーニングに切り替えるなどの場合がある。掲示板をよく見ておくこと。
- ・成績評価に関する詳細はシラバスを参照すること。

〔受講のルール〕

- ・企画運営やグループワークの際は、率先して発言や行動をすること。
- ・授業中の私語など他学生に迷惑となる行為は禁止。

■授業時間外学習にかかわる情報

シラバスを基に教科書や配布資料で予習復習すること。分からない箇所はそのままにせず、次回の授業で解決するよう質問や自分で調べたことなどをまとめておく。日頃からレクリエーションに関する情報を新聞、雑誌、テレビ インターネット等で収集するよう心がけること。

■オフィスアワー

木曜日 1限（変更時は掲示する）

■評価方法

□レポート 50%（再提出あり。期限内に提出されないものは総合評価に含めない。） □実技 50%

■教科書

特に指定はしないが、自ら情報収集をすること。自分に合った、マラソンに関する参考書を1冊購入すると良い。

■参考書

特に指定はしないが、自ら情報収集をすること。

科目名	スポーツ及びレクリエーション実技	担当教員 (単位認定者)	田口 敦彦	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	作業療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目	レクリエーションインストラクター 資格取得に関わる必修		
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	コミュニケーション・ワーク レクリエーション・ワーク ニュースポーツ・支援実習				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

レクリエーションプログラムの習得と企画や運営、指導技術を身につける。学びを通して、福祉施設、病院、学校教育の現場等で活動できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

1. レクリエーション活動の意義を理解できる。
2. さまざまな活動を通して、企画・実践することができる。
3. 他者への支援（指導）ができるようになる。

■授業の概要

レクリエーションの楽しさを知り、ニュースポーツやコミュニケーションゲームを通じてレクリエーション支援の技術を習得する。そのための指導理論、組織論、事業論などの学習を通じ、支援者（指導者）としての実践力を高める。レクリエーションインストラクター資格取得のための科目である。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション・レクリエーションの理解
第2回	アイスブレイキング（実践）
第3回	室内でできるレクリエーションゲーム（実践）
第4回	新聞紙を使ったレクリエーションゲーム（実践）
第5回	基礎理論 レクリエーションの意義について
第6回	基礎理論 レクリエーション運動の歴史とその背景
第7回	支援活動実習Ⅰ レクリエーションプログラムの企画と運営①-1
第8回	支援活動実習Ⅰ レクリエーションプログラムの企画と運営①-2
第9回	支援活動実習Ⅰ レクリエーション評価とまとめ①
第10回	ニュースポーツ キンボール ルールの理解と基礎技術の獲得
第11回	ニュースポーツ キンボール ゲーム
第12回	支援活動実習Ⅱ レクリエーションプログラムの企画と運営②-1
第13回	支援活動実習Ⅱ レクリエーションプログラムの企画と運営②-2
第14回	支援活動実習Ⅱ レクリエーション評価とまとめ②
第15回	前期の振り返り まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・レクリエーション活動（実技）を行う場合は、指定体育着、体育館シューズを着用すること。
- ・装飾品や爪など活動時に支障とならないようにすること。
- ・積極的に授業に取り組むこと。また支援者として好感のもてる態度、身だしなみを心掛けること。
- ・実技活動、グループ活動は仲間と協力して作業をすすめること。自分勝手な行動をとる受講者は減点の対象とする。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・日頃からレクリエーションに関する情報を新聞、雑誌、テレビ、インターネット等で収集するよう心がけること。
- ・地域で行われているレクリエーション活動に積極的に参加すること。

■オフィスアワー

月曜日 5時間目（変更時は掲示する）

■評価方法

評価の基準：到達目標の達成度を評価する。

評価の方法：筆記試験 50% レポート等提出物（活動企画書）20% 実技 30% として総合的に評価する。
（詳細な評価基準は授業シラバス参照）

■教科書

レクリエーションインストラクター養成テキスト 【レクリエーション支援の基礎】 ～楽しさ・心地よさを活かす理論と技術～
（財）日本レクリエーション協会編

■参考書

必要に応じて紹介する。

科目名	スポーツ及びレクリエーション実技	担当教員 (単位認定者)	田口 敦彦	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	作業療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目	レクリエーションインストラクター 資格取得に関わる必修		
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	コミュニケーション・ワーク レクリエーション・ワーク ニュースポーツ・支援実習				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

レクリエーションプログラムの習得と企画や運営、指導技術を身につける。学びを通して、福祉施設、病院、学校教育の現場等で活動できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

1. レクリエーション活動の意義を理解できる。
2. さまざまな活動を通して、企画・実践することができる。
3. 他者への支援（指導）ができるようになる。

■授業の概要

レクリエーションの楽しさを知り、ニュースポーツやコミュニケーションゲームを通じてレクリエーション支援の技術を習得する。そのための指導理論、組織論、事業論などの学習を通じ、支援者（指導者）としての実践力を高める。レクリエーションインストラクター資格取得のための科目である。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	レクリエーションダンス（地域伝承踊り）
第17回	レクリエーションダンス（介護予防体操含む）
第18回	コミュニケーション・ワーク ホスピタリティとは
第19回	コミュニケーション・ワーク ホスピタリティの示し方
第20回	ニュースポーツ ユニバーサルホッケー ルールの理解と基礎技術の獲得
第21回	ニュースポーツ ユニバーサルホッケー ゲーム
第22回	支援活動実習Ⅲ レクリエーションプログラムの企画と運営③-1
第23回	支援活動実習Ⅲ レクリエーションプログラムの企画と運営③-2
第24回	支援活動実習Ⅲ レクリエーション評価とまとめ③
第25回	コミュニケーション・ワーク 集団に対するホスピタリティ
第26回	コミュニケーション・ワーク アイスブレイキングの意義と基本技術
第27回	支援活動実習Ⅳ レクリエーションプログラムの企画と運営④-1
第28回	支援活動実習Ⅳ レクリエーションプログラムの企画と運営④-2
第29回	支援活動実習Ⅳ レクリエーション評価とまとめ④
第30回	1年間の振り返り まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・レクリエーション活動（実技）を行う場合は、指定体育着、体育館シューズを着用すること。
- ・装飾品や爪など活動時に支障とならないようにすること。
- ・積極的に授業に取り組むこと。また支援者として好感のもてる態度、身だしなみを心掛けること。
- ・実技活動、グループ活動は仲間と協力して作業をすすめること。自分勝手な行動をとる受講者は減点の対象とする。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・日頃からレクリエーションに関する情報を新聞、雑誌、テレビ、インターネット等で収集するよう心がけること。
- ・地域で行われているレクリエーション活動に積極的に参加すること。

■オフィスアワー

月曜日 5時間目（変更時は掲示する）

■評価方法

評価の基準：到達目標の達成度を評価する。

評価の方法：筆記試験 50% レポート等提出物（活動企画書）20% 実技 30% として総合的に評価する。
（詳細な評価基準は授業シラバス参照）

■教科書

レクリエーションインストラクター養成テキスト 【レクリエーション支援の基礎】 ～楽しさ・心地よさを活かす理論と技術～
（財）日本レクリエーション協会編

■参考書

必要に応じて紹介する。

科目名	レクリエーション活動援助法	担当教員 (単位認定者)	田口 敦彦	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	作業療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目	レクリエーションインストラクター 資格取得に関わる必修		
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	コミュニケーション・ワーク レクリエーション・ワーク 事業計画 ホスピタリティ アイスブレイキング A-PIEプロセス				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

レクリエーション活動の社会的意義を理解し、様々な活動現場における適切なレクリエーション活動支援の在り方や技術を身につけ、良好な人間関係を構築し、人々が笑顔に満ちた豊かなライフスタイルを確立できるように、公認指導者資格を有する支援者（レクリエーション・インストラクター）として、実践できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

1. レクリエーション活動の社会的意義と支援方法を身につける。
2. 対象に応じたレクリエーション支援の計画立案と実践の能力を身につける。
3. レクリエーション支援が十分に効果をあげるために組織論、事業論を理解し、活用できる。
4. 安全な活動とそのための危険を回避する能力を身につける。

■授業の概要

年代ごとの課題や特徴を知り、対象者のニーズに沿ったふさわしい形で提供できるレクリエーション活動の計画づくりを行い、対象者の元気や活力づくりの意欲を高め、自立・自律的な活動展開を支援できるよう学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション	福祉サービスにおけるレクリエーション援助の役割
第2回	基礎理論	レクリエーションの意義
第3回	基礎理論	レクリエーション運動の歴史とその背景
第4回	基礎理論	レクリエーションへの期待
第5回	基礎理論	生活のレクリエーション化
第6回	基礎理論	レクリエーションの生活化
第7回	基礎理論	社会福祉の中でのレクリエーションの役割
第8回	日常生活におけるレクリエーションの捉え方	
第9回	日常生活の3領域とレクリエーション援助の関係	
第10回	コミュニケーションワーク	アイスブレイキングの意義と基本技術
第11回	コミュニケーションワーク	アイスブレイキングの意義と基本技術 ～同時発声 同時動作 合図出し～
第12回	コミュニケーションワーク	アイスブレイキングのプログラミング
第13回	コミュニケーションワーク	アイスブレイキングのプログラミング ～アイスブレイキングモデルの作成～
第14回	コミュニケーションワーク	アイスブレイキングのプログラミング・実践 発表
第15回	まとめ（評価・ふりかえり）	

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・出席を重視し、授業態度を評価するので積極的に反応の良い授業参加を心がけること。また支援者として好感のもてる態度、身だしなみを心掛けること。
- ・授業シラバスを必ず確認すること。
- ・グループ活動は仲間と協力して作業をすすめること。自分勝手な行動をとる受講者は減点の対象とする。

■授業時間外学習にかかわる情報

各地で開催される、大会や講習会・研究会・セミナー・ボランティア等へ積極的に参加し、楽しい体験（世代間交流）の中で、レクリエーション支援の在り方、手法を幅広く習得すること。

■オフィスアワー

月曜日 5時間目（変更時は掲示する）

■評価方法

筆記試験 60% 授業中レポート 20% グループワーク及び発表 20%
（詳細な評価基準は授業シラバス参照）

■教科書

レクリエーションインストラクター養成テキスト【レクリエーション支援の基礎】～楽しさ・心地よさを活かす理論と技術～
（財）日本レクリエーション協会編

■参考書

参考書【楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施】【楽しさの追求を支える理論と支援の方法】（日本レクリエーション協会）【レクリエーション活動援助法】（中央法規）

科目名	レクリエーション活動援助法	担当教員 (単位認定者)	田口 敦彦	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	作業療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目	レクリエーションインストラクター 資格取得に関わる必修		
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	コミュニケーション・ワーク レクリエーション・ワーク 事業計画 ホスピタリティ アイスブレイキング A-PIEプロセス				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

レクリエーション活動の社会的意義を理解し、様々な活動現場における適切なレクリエーション活動支援の在り方や技術を身につけ、良好な人間関係を構築し、人々が笑顔に満ちた豊かなライフスタイルを確立できるように、公認指導者資格を有する支援者（レクリエーション・インストラクター）として、自信をもって実践できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

1. レクリエーション活動の社会的意義と支援方法を身につける。
2. 対象に応じたレクリエーション支援の計画立案と実践の能力を身につける。
3. レクリエーション支援が十分に効果をあげるために組織論、事業論を理解し、活用できる。
4. 安全な活動とそのための危険を回避する能力を身につける。

■授業の概要

年代ごとの課題や特徴を知り、対象者のニーズに沿ったふさわしい形で提供できるレクリエーション活動の計画づくりを行い、対象者の元気や活力づくりの意欲を高め、自立・自律的な活動展開を支援できるよう学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	支援論	ライフスタイルとレクリエーション	乳幼児期～児童期
第17回	支援論	ライフスタイルとレクリエーション	青年期～老年期
第18回	支援論	治療的意味合いを含めたレクリエーション	
第19回	目的に合わせたレクリエーションワーク	素材、アクティビティの選択	
第20回	目的に合わせたレクリエーションワーク	すり合わせのプロセス	
第21回	目的に合わせたレクリエーションワーク	ハードル設定	CSS プロセス
第22回	事業論	レクリエーション事業の展開方法	
第23回	事業論	アセスメントに基づいたプログラム計画	
第24回	事業論	レクリエーション事業のプログラムの組み立て方(1)	
第25回	事業論	レクリエーション事業のプログラムの組み立て方(2)	
第26回	事業論	レクリエーション事業のプログラムの組み立て方(3)	
第27回	事業論	レクリエーション事業のプログラムの組み立て方(4)	
第28回	事業論	レクリエーションプログラムの計画発表及び実践(1)	
第29回	事業論	レクリエーションプログラムの計画発表及び実践(2)	
第30回	一年間のまとめ(評価・ふりかえり)		

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・出席を重視し、授業態度を評価するので積極的に反応の良い授業参加を心がけること。また支援者として好感のもてる態度、身だしなみを心掛けること。
- ・授業シラバスを必ず確認すること。
- ・グループ活動は仲間と協力して作業をすすめること。自分勝手な行動をとる受講者は減点の対象とする。

■授業時間外学習にかかわる情報

各地で開催される、大会や講習会・研修会・セミナー・ボランティア等へ積極的に参加し、楽しい体験(世代間交流)の中で、レクリエーション支援の在り方、手法を幅広く習得すること。

■オフィスアワー

月曜日 5時間目 (変更時は掲示する)

■評価方法

筆記試験 60% 授業中レポート 20% グループワーク及び発表 20%
(詳細な評価基準は授業シラバス参照)

■教科書

レクリエーションインストラクター養成テキスト【レクリエーション支援の基礎】～楽しさ・心地よさを活かす理論と技術～
(財)日本レクリエーション協会編

■参考書

参考書【楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施】【楽しさの追求を支える理論と支援の方法】(日本レクリエーション協会) 【レクリエーション活動援助法】(中央法規)

科目名	障害者スポーツ	担当教員 (単位認定者)	櫻井 秀雄	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目	障害者スポーツ指導員 2 級		
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	障害区分、障害と特性、スポーツ、医療、社会参加と自立				

■授業の目的・到達目標

障害者が豊かな社会生活を送るために、障害者スポーツを理解して支援・援助できる知識・技能を習得する。また、障害者スポーツでは、重度障害者の参加も考慮し、生活の中で親しめるスポーツ、さらには、競技としてのスポーツを積極的に推進する障害者スポーツ指導者として理解とその援助法を習得する。

■授業の概要

障害者を取り巻く地域社会での福祉施策や、スポーツ環境、レクリエーションの意義、障害区分とスポーツ活動、スポーツ傷害の予防と処置、健康づくりとリハビリテーションの意義、障がい者との交流をおこないながら 障害者スポーツの実施と障害者のために工夫されたスポーツを学習する。「日本障害者スポーツ指導員」の資格取得をおこなう。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション(社会福祉、障害者福祉施策の概念)
第2回	障害の理解とスポーツ
第3回	障害各論と指導上の留意点
第4回	安全管理
第5回	全国障害者スポーツ大会と障害区分
第6回	全国障害者スポーツ大会の障害区分
第7回	公認障害者スポーツ指導者制度と補装具
第8回	障害者との交流①
第9回	障害者との交流②
第10回	障害に応じたスポーツの工夫
第11回	障害者スポーツの実践研究①ブラインドウォーク・ランとゴールボール
第12回	障害者スポーツの実践研究②サウンドテーブルテニスとバレーボール卓球
第13回	障害者スポーツの実践研究③シットイングバレーとペタンク
第14回	障害者スポーツの実践研究④車椅子バスケットボール・ソフトバレーボール
第15回	まとめ(実践研究報告発表)

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関する情報〕

・障害者の生活支援を念頭に置き、真摯な態度で受講する。運動着、運動靴の準備。実技でもメモの用意をする。

〔受講のルール〕

・着替え等は迅速にして授業の用具準備をおこなう。

・教材の整頓、会場の清掃は全員で協力しておこなう。

■授業時間外学習にかかわる情報

施設実習や障害者へのボランティア活動で、障害者スポーツには意識して接する。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

筆記試験・レポート(70%)実技試験(30%)総合評価で60%以上とする。

■教科書

日本障害者スポーツ協会:障害者スポーツ指導教本(初級・中級):ぎょうせい:平成26年

■参考書

井田朋宏:NOLIMIT(障害者スポーツ情報誌):日本障害者スポーツ協会:2015(年4回発刊)

科目名	基礎演習Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	担任	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目			
	カリキュラム上の位置づけ		基礎科目		
キーワード	授業の受け方、図書館利用、レポート、グループワーク、発表、礼儀挨拶、環境美化				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

本学の建学の精神・教育目標に基づき、高校と大学の相違を、さまざまな観点から学び、円滑な移行を目指して初年次教育をおこなう。基礎演習Ⅰにおいては、礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動を理解し、積極的に取り組み、人間としての基礎的教養力と自律的実践能力を養う。基礎演習の導入として、学問への動機づけ、コミュニケーション能力など、学習成果を保証するための学習方法や技術を総合的に学ぶ。また、他職種の職業を理解し、チームケアの必要性について気付く。

〔到達目標〕

- ①礼儀・挨拶について説明でき、日々の生活の中で実践できる。
- ②環境美化について説明でき、日々の生活の中で実践できる。
- ③レポートを形式に則って作成できる。
- ④グループワークを円滑に実施できる。
- ⑤発表を簡潔にわかりやすく行えるようになる。
- ⑥実際の場面において適切な身だしなみ、見学態度、時間厳守、報告・連絡・相談が実践できる。
- ⑦他職種の職業を理解し、チームケアの必要性を説明できる。

■授業の概要

本学の建学の精神・教育目的に基づき、自立の実践能力(マナー、バランス感覚、挨拶、服装、時間厳守、環境美化、ボランティア等)や基礎学士力(読書力、発表力、企画力等)の定着を図る。また、他職種の職業を理解し、学部間連携を通してチームケアの重要性を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	建学の精神と実践教育プログラム①:科目オリエンテーション、基礎学士力の育成、図書館の活用法
第2回	建学の精神と実践教育プログラム②:礼儀・挨拶の実践、個人情報取り扱いについて
第3回	建学の精神と実践教育プログラム③:礼儀・挨拶の実践-身だしなみ-
第4回	建学の精神と実践教育プログラム④:ディズニープロジェクト①
第5回	学士力育成プログラム①:グループワーク手法・発表手法、レポートの書き方①
第6回	学士力育成プログラム②:グループワーク手法・発表手法、レポートの書き方②
第7回	建学の精神と実践教育プログラム⑤:ディズニープロジェクト②
第8回	建学の精神と実践教育プログラム⑥:ディズニープロジェクト③
第9回	建学の精神と実践教育プログラム⑦:ディズニープロジェクト④
第10回	建学の精神と実践教育プログラム⑧:個人情報保護について①
第11回	建学の精神と実践教育プログラム⑨:個人情報保護について②
第12回	学士力育成プログラム③~学部間で連携して~ オリエンテーション
第13回	学士力育成プログラム④~学部間で連携して~ グループワーク
第14回	建学の精神と実践教育プログラム⑩:礼儀・挨拶、環境美化について①
第15回	建学の精神と実践教育プログラム⑪:礼儀・挨拶、環境美化について②

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

グループワークや発表は出席が前提となるので、体調管理を怠らないこと。

〔受講のルール〕

- ①シラバスを確認し予習復習を必ず行い積極的に臨むこと。
- ②受講態度や身だしなみが整っていない場合受講を認めない。
- ③授業の流れや雰囲気や乱したり他の受講生の迷惑となる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁。
- ④内容が類似した課題は受け付けられないため自己の努力で作成すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

全ての授業で、情報収集、資料作成を行い、ポートフォリオを作成する。また、発表では、指定時間を厳守し、わかりやすく伝える工夫をすること。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

◆レポート 30% ◆発表 30% ◆ポートフォリオ 40%

■教科書

基礎演習テキスト、知へのステップ、学生生活GUIDE

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	基礎演習Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	担任	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目			
	カリキュラム上の位置づけ		基礎科目		
キーワード	企画・運営能力、コミュニケーション能力、ケア・コミュニケーション検定				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

本学の建学の精神・教育目的に基づき、基礎演習Ⅰで行った初年次教育のステップアップを行う。基礎演習Ⅱにおいては、礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動に自主的に取り組み、工夫できることを目指し、人間としての基礎的教養力と自律的实践能力を確実なものとする。読書力、コミュニケーション能力、問題解決能力などを高め、専門演習への橋渡しとする。

〔到達目標〕

- ①コミュニケーションに必要な、語彙・敬語・文法など日本語の総合力を身につける。
- ②自分のコミュニケーションの特徴を理解することができる。
- ③学部間連携にて、他職種の職業理解を深め、チームの一員として協働のあり方を理解する。

■授業の概要

基礎演習Ⅱでは、①建学の精神と実践教育、②学士力育成、③進路・資格取得、④地域貢献、⑤心身の健康の5つのプログラムから構成し、建学の精神に則り、ボランティア活動、環境美化活動、挨拶等の礼儀作法等に関する人間としての基礎的教養力と自律的实践能力を学習する。また、読書力、問題解決能力、コミュニケーション能力を高め、学士力の向上を図ると共に、学部間連携を通じ、他学部（他職種）との協働スキル向上を図る。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	建学の精神と実践教育プログラム①：科目オリエンテーション
第2回	学士力育成プログラム①：敬語・文法・語彙力
第3回	学士力育成プログラム②：言葉の意味・表記・漢字
第4回	学士力育成プログラム③：日本語検定受験
第5回	学士力育成プログラム④：講話～話し方～
第6回	学士力育成プログラム⑤：協働スキルアップ
第7回	学士力育成プログラム⑥：医療福祉分野における協働
第8回	学士力育成プログラム⑦リーダーシップとは
第9回	学士力育成プログラム⑧：～学部間で連携して～ オリエンテーション
第10回	学士力育成プログラム⑨：～学部間で連携して～ グループワーク
第11回	学士力育成プログラム⑩：～学部間で連携して～ グループワーク
第12回	学士力育成プログラム⑪：～学部間で連携して～ グループワーク
第13回	学士力育成プログラム⑫：読書力形成①
第14回	学士力育成プログラム⑬：読書力形成②
第15回	建学の精神と実践教育プログラム②：基礎演習まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

日本語検定受験料 5000 円。
グループワークが多くなるため欠席しないこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

コミュニケーション能力は授業だけでは身に付かないため、積極的にボランティアに参加し、授業で得た知識を実践していくこと。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

■日本語検定 50% ■レポート 50% (チームケア教育プログラム課題 25%、読書力形成課題 25%)

■教科書

基礎演習テキスト、学生生活 GUIDE

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	専門演習Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	担任・山口智晴	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻3年次必修科目	免許等指定科目			
	カリキュラム上の位置づけ		基礎科目		
キーワード	質問力、問題発見能力、問題解決能力				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

本学の建学の精神に基づき、基礎演習で身に付けた基礎学力や問題解決能力等を基にして、高度な専門知識と豊かな人間性及び人間愛並びに奉仕の精神を備え、自立心と礼儀を重んじた世の中で役に立つ心豊かな学生を育成する。問題解決の思考プロセスの体得を目指し、総合的な学力を養成する。

■授業の概要

専門演習Ⅰでは、論理的思考能力の基礎となる「質問力」「問題解決能力」「ディベート」をグループワーク等を通して身につけていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	建学の精神と実践教育プログラム①：科目オリエンテーション/学長講話および建学の精神について
第2回	学力育成プログラム①：何が問題か、問題点の整理
第3回	学力育成プログラム②：重要問題を選んで問を立てる
第4回	学力育成プログラム③：解決アイデアを発想する
第5回	学力育成プログラム④：解決アイデアを評価する基準
第6回	学力育成プログラム⑤：解決アイデアの評価
第7回	学力育成プログラム⑥：実行計画の立案
第8回	学力育成プログラム⑦：学力育成プログラム～学部間で連携して～①：ディベート①
第9回	学力育成プログラム⑧：学力育成プログラム～学部間で連携して～②：ディベート②
第10回	学力育成プログラム⑨：学力育成プログラム～学部間で連携して～③：発表①
第11回	学力育成プログラム⑩：学力育成プログラム～学部間で連携して～④：発表②
第12回	学力育成プログラム⑪：学力育成プログラム～学部間で連携して～⑤：発表③
第13回	学力育成プログラム⑫：学力育成プログラム～学部間で連携して～⑥：発表④
第14回	学力育成プログラム⑬：FPSP問題解決力検定
第15回	建学の精神と実践教育プログラム②：まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

グループワークが多いので休まないこと。
ポートフォリオ作成のため、A4クリアフォルダー（なるべくいっぱい入るもの）を用意すること。
NPO法人 日本未来問題解決プログラム FPSP問題解決力検定 受験料 3000円。

■授業時間外学習にかかわる情報

論理的思考能力を身につけるには、日々の生活を疑問を持って送ることが重要となる。授業で学んだことを生活の中で実践することが大切である。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

■ポートフォリオ 40% ■FPSP問題解決力検定 30% ■授業内発表 30%

■教科書

授業内で適宜紹介する。

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	専門演習Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	担任・北爪浩美	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻4年次必修科目	免許等指定科目			
	カリキュラム上の位置づけ		基礎科目		
キーワード	就職活動、自己分析、将来設計				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

本学の建学の精神・教育目的に基づき、人間としての総合的な力と問題解決能力を育成する。礼儀を重んじるとともに、ボランティア、環境美化活動、実習を通して身につけた実践力をさらに高め、「仁愛」の精神をもつ自立した社会人となるためのスキルアップを図る。

〔到達目標〕

- ①自己を客観的に分析し、他者に対しわかりやすく説明できる。
- ②社会人としてのマナーを身につける。

■授業の概要

専門演習Ⅱでは、目前に迫る就職における基本的な知識を学ぶ。そして、大学4年間を振り返り自分自身を客観的に捉え直す機会とする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	建学の精神と実践教育プログラム①: 科目オリエンテーション/学長講話および建学の精神について
第2回	進路・資格取得プログラム①: 就職活動の流れ
第3回	進路・資格取得プログラム②: 就職活動におけるマナー講座①(外部講師)
第4回	進路・資格取得プログラム③: 就職活動におけるマナー講座②(外部講師)
第5回	進路・資格取得プログラム④: 求人票の見方
第6回	進路・資格取得プログラム⑤: 情報収集発表①
第7回	進路・資格取得プログラム⑥: 情報収集発表②
第8回	進路・資格取得プログラム⑦: 自己分析①
第9回	進路・資格取得プログラム⑧: 自己分析②
第10回	進路・資格取得プログラム⑨: 自己分析③
第11回	進路・資格取得プログラム⑩: 履歴書
第12回	進路・資格取得プログラム⑪: 面接
第13回	進路・資格取得プログラム⑫: 卒業生からのメッセージ(就職編)
第14回	進路・資格取得プログラム⑬: 卒業生からのメッセージ(国家試験編)
第15回	進路・資格取得プログラム⑭: まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

教室指定をするので確認しておくこと。ポートフォリオを作成するためA4クリアファイル(厚めの物)を用意しておくこと。

〔受講のルール〕

間違っている、正しくなくても発言すること。他者の発言を糾弾し否定することは許されない。
ディスカッションには十分な準備が必要である。そのため、必ず配布された文献を読み、関連する資料を集めておくこと。
それらはすべてポートフォリオに収める。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

ポートフォリオ 100%

■教科書

進路の手引き

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	ボランティア活動I	担当教員 (単位認定者)	担任	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目			
	カリキュラム上の位置づけ		基礎科目		
キーワード	汎用的技能、態度・志向性、ボランティア、コミュニケーション				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

ボランティアへの参加を通し、医療従事者としての基本的態度を学び、身に付ける。幅広い視点・視野、協調性、行動力といった能力を中心に培うことを目的とする。

〔到達目標〕

- ① 本学におけるボランティア活動の位置づけについて理解し、説明することができる。
- ② 依頼ボランティアや学校行事ボランティアへの参加を通して、基本的参加態度やボランティアの必要性を理解することができる。
- ③ ボランティア体験を通して、医療従事者としての基本的態度などの実践を行うことができる。

■授業の概要

医療従事者を目指す者として、専門的な医学知識や技術の習得だけでなく、汎用的技能や態度・志向性を身につける必要がある。そのために必要なことをボランティア活動などを通して学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション/本学・本学部におけるボランティアの位置づけと自己目標の設定
第2回	ボランティアに臨むための態度
第3回	車椅子体験
第4回	高齢者体験
第5回	車椅子・高齢者体験まとめ
第6回	ボランティアについての講和
第7回	前期の振り返り
第8回	クリスマス会の企画
第9回	クリスマス会の企画、内容の検討、役割分担
第10回	クリスマス会予演会
第11回	クリスマス会予演会
第12回	クリスマス会
第13回	クリスマス会
第14回	クリスマス会の振り返り/1年を振り返って
第15回	1年を振り返って/学んだことの振り返り

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に係る情報〕

A4 クリアブックを用意。

〔受講のルール〕

この科目は、ボランティア活動を通して自分自身がどの様に成長したか自分でまとめていく作業があります。積極的なボランティア活動の実践が前提となっています。

依頼ボランティア参加方法について十分理解し、先方やボランティアセンターとトラブルのないように配慮してください。

■授業時間外学習にかかわる情報

初回オリエンテーション時に詳細を伝えます。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

◆ポートフォリオ 70%◆ボランティア参加状況 15%◆授業内発表 15%

■教科書

ボランティアハンドブック

■参考書

鈴木敏恵 著:ポートフォリオ評価とコーチング手法—臨床研修・臨床実習の成功戦略!, 医学書院, 2006

科目名	ボランティア活動Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	担任	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目			
	カリキュラム上の位置づけ		基礎科目		
キーワード	汎用的技能、態度・志向性、ボランティア、コミュニケーション				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

ボランティア実践や模擬場面での練習を通し、医療従事者としての基本的態度を身につける。

〔到達目標〕

- ①社会人・職業人としての基本的マナーを身に付け、実践することができる。
- ②自身のコミュニケーション能力について客観的に評価し、分析することができる。
- ③プレゼンテーションの適切な方法について理解、実践することができる。
- ④グループワークのプロセスについて理解し、プロセスを実践することができる。
- ⑤自分自身の課題を認識し、その改善のための具体的な取り組み方法を検討することができる。

■授業の概要

医療従事者を目指す者として、専門的な医学知識や技術の習得だけでなく、汎用的技能や態度・志向性を身につける必要がある。アクティブ・ラーニングを通じてこれらについて学び、医療従事者としての基本的態度を身につける。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション/ポートフォリオとは
第2回	マナー
第3回	マナー
第4回	マナー
第5回	マナー
第6回	コミュニケーション技能
第7回	コミュニケーション技能
第8回	コミュニケーション技能
第9回	講話：学生ボランティア経験について
第10回	資料の作成方法
第11回	資料の作成方法
第12回	資料の作成方法
第13回	グループワークの進め方
第14回	グループワークの進め方
第15回	学んだことの振り返り

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に係る情報〕

A4 クリアブック（40 ポケット）を用意。

〔受講のルール〕

積極的なボランティア活動の実践が前提である。

ふざけた態度や礼を欠く態度を取る者は受講を拒否することがある。

授業に関係ないものの持ち込みを禁止。特別な指示がない限り、携帯電話やスマートフォンは机に出さない。

■授業時間外学習にかかわる情報

初回オリエンテーション時に詳細を伝えます。

■オフィスアワー

各専攻担任より指示

■評価方法

ポートフォリオ 50%、授業内課題など 35%、ボランティア参加 15%。

■教科書

特になし。適宜紹介する。

■参考書

鈴木敏恵 著：ポートフォリオ評価とコーチング手法—臨床研修・臨床実習の成功戦略！, 医学書院, 2006

尾形圭子：イラッとされないビジネスマナー社会常識の正解, サンクチュアリ出版, 2010

2) 專門基礎科目

科目名	解剖学I	担当教員 (単位認定者)	伊東 順太	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」			
キーワード	骨格系、筋系				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

人体の構造と分類、特に骨格系、筋系および神経系について学び、運動に関係する基本的な解剖学的な構造を習得できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ① 椎骨の基本型と脊柱および胸郭の構成を説明することができる。
- ② 四肢の骨格の構成と各部の名称を説明することができる。
- ③ 頭蓋骨の構成と各部の特徴を説明することができる。
- ④ 四肢の筋群の起始停止部、支配神経および作用を説明することができる。
- ⑤ 体幹および頭頸部の筋群の構成と位置関係を説明することができる。
- ⑥ 骨の連結の種類と構造を説明することができる。
- ⑦ 脊柱と胸郭の連結を説明することができる。
- ⑧ 四肢の骨格の連結と運動を説明することができる。

■授業の概要

生体観察を通して、人体の区分、各部の特徴および骨格系と筋系、骨の連結について知り、理解できるようになることが必要である。また、解剖学実習、生理学実習、生理学、運動学の知識と双方向性の理解が必要となる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション、人体の各部の名称と方向用語
第2回	骨格系-1 上肢の骨
第3回	骨格系-2 上肢の骨
第4回	骨格系-3 骨盤、下肢の骨
第5回	骨格系-4、-5 椎骨、脊椎と胸郭
第6回	骨格系-5、-6 胸郭と頭部の骨、骨の構成
第7回	筋系-1 頭頸部の筋、頭部の各骨との連結
第8回	筋系-2 体幹の筋、胸部の筋
第9回	筋系-3 脊柱の筋、上肢の筋、肩関節
第10回	筋系-4 上肢の筋、肘関節、前腕の筋、手の筋
第11回	筋系-5 上肢の筋、肘関節、前腕の筋、手の筋
第12回	筋系-6 骨盤の筋、骨盤の連結、下肢の筋
第13回	筋系-7 骨盤の筋、骨盤の連結、下肢の筋
第14回	筋系-8 下肢の筋、下肢の連結と運動について
第15回	筋系-9 まとめ、試験について

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・講義の予習復習に十分な時間を割くこと。
- ・講義資料を配付しますので、解剖トレーニングノートおよび教科書の該当ページを必ず参照すること。

〔受講のルール〕

- ・授業概要を必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。
- ・最前列から着席し、授業を受けやすい環境を作ること。
- ・医療専門職及び対人サービス職として、出席時間の厳守および対象者が好感を持てる態度を身につけることは基本である。そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合は、受講を認めないことがある。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話やスマートフォンの使用）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時間外には、予習復習に十分に時間を割くこと。特に、復習に重点を置き、授業内容はその日のうちに身につけること。

■オフィスアワー

授業後

■評価方法

筆記試験(客観・論述) 100%であり、60%を越えていることが必要である。しかし、総合評価には課題提出状況が良好であることが前提となる。

■教科書

- ・標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学 野村巖【編】 医学書院
- ・解剖トレーニングノート 竹内 修二(著) 医学教育出版社

■参考書

- ・ネッター解剖学アトラス Frank H. Netter (著) 南江堂
- ・ネッター解剖生理学アトラス John T.Hansen (著) 南江堂
- ・プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論・運動器系 坂井 建雄(著) 医学書院
- ・カラーイラストで学ぶ 集中講義 解剖学 メジカルレビュー社

科目名	解剖学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	伊東 順太	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」			
キーワード	脳、脊髄				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

人体の構造と分類、特に筋系、関節および神経系について学び、運動に関係する基本的な解剖学的な構造を習得できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①中枢神経の構造と機能および伝導路が説明することができる。
- ②末梢神経のうち、体性神経（脳神経、脊髄神経）の構成と分布先が説明することができる。
- ③末梢神経のうち、自律神経（交感神経、副交感神経）の構成と分布先が説明することができる。
- ④骨格系、筋系および神経系の構造を機能と関連づけて説明することができる。

■授業の概要

生体観察を通して、人体の区分、各部の特徴および筋系と神経系、筋の神経支配について知り、理解できるようになることが必要である。また、解剖学実習、生理学実習、生理学、運動学の知識と双方向性の理解が必要となる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、神経系と筋系との関わり
第2回	脳と脊髄-1 中枢神経系の全体的な構造、大脳と間脳の構造
第3回	脳と脊髄-2 中脳、橋、延髄、小脳、脊髄の構造
第4回	脳と脊髄-3 脳と脊髄のまとめ
第5回	脳と脊髄-4 中脳、橋、延髄、小脳、脊髄の伝導路
第6回	脊髄神経-1 脊髄神経の構造とその枝
第7回	脊髄神経-2、-3 頸神経叢、腕神経叢の構成とその枝
第8回	脊髄神経-4 腕神経叢の枝と支配筋
第9回	脊髄神経-5 腕神経叢のまとめ
第10回	脊髄神経-6 肋間神経の構成とその枝、支配筋
第11回	脊髄神経-7 腰神経叢の構成とその枝、支配筋
第12回	脊髄神経-8 仙骨神経叢の構成とその枝、支配筋
第13回	脊髄神経-9 坐骨神経の枝、支配筋
第14回	脊髄神経-10 腰神経総、仙骨神経叢のまとめ
第15回	脊髄神経-11 脳神経、自律神経、試験勉強

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・講義の予習復習に十分な時間を割くこと。
- ・講義資料を配付しますので、解剖トレーニングノートおよび教科書の該当ページを必ず参照すること。

〔受講のルール〕

- ・授業概要を必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。
- ・最前列から着席し、授業を受けやすい環境を作ること。
- ・医療専門職及び対人サービス職として、出席時間の厳守および対象者が好感を持てる態度を身につけることは基本である。そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合は、受講を認めないことがある。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話やスマートフォンの使用）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業後

■評価方法

筆記試験（客観・論述）100%であり、60%を越えていることが必要である。しかし、総合評価には課題提出状況が良好であることが前提となる。

■教科書

- ・標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学 野村巖【編】 医学書院
- ・解剖トレーニングノート 竹内 修二（著） 医学教育出版社

■参考書

- ・ネッター解剖学アトラス Frank H. Netter（著） 南江堂
- ・ネッター解剖生理学アトラス John T. Hansen（著） 南江堂
- ・プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論・運動器系 坂井 建雄（著） 医学書院
- ・カラーイラストで学ぶ 集中講義 解剖学 メジカルレビュー社

科目名	解剖学実習	担当教員 (単位認定者)	多田真和・栗原卓也	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」			
キーワード	脳神経系、呼吸器系、循環器系、消化器系、泌尿器系、内分泌系、平衡聴覚器				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

解剖学は、生理学、運動学、整形外科学および神経内科学等の専門基礎科目、さらに理学療法専門科目および作業療法専門科目等のすべての科目の基礎的知識であり、医療従事者として必須のものであるため、しっかりと知識を定着させる。

〔到達目標〕

- ①人体の構造を、器官別に分類し理解できる。
- ②器官別に分類した知識を有機的にまとめ、人体全体を立体的、総合的に理解できる。
- ③人体の構造を、自らの手で描き、説明することができる。

■授業の概要

「解剖学Ⅰ/Ⅱ」では「骨格系」、「筋系」および「神経系」を中心に授業が進められる。「解剖学実習」では、「脳神経系」に加え、人体の他の構成単位である「呼吸器系」、「循環器系」、「消化器系」、「泌尿器系」、「内分泌系」および「平衡聴覚器」について学ぶ。授業では、パワーポイント(ppt)やビデオ画像を多用し、視覚的に理解しやすいように配慮する。また、学年末には、実際の人体の解剖標本を目の当たりにすることで、授業で学んだ知識を立体的かつ総合的に理解を深められるようにする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	脳神経Ⅰ (脳室、大脳基底核)
第2回	オリエンテーション、呼吸器系
第3回	循環器系 (1)
第4回	循環器系 (2)
第5回	脳神経Ⅱ (脳血管、大脳辺縁系)
第6回	脳神経Ⅲ (CT, MRI)
第7回	循環器系 (3)
第8回	消化器系 (1)
第9回	消化器系 (2)
第10回	消化器系 (3)
第11回	泌尿器系
第12回	内分泌系 (1)
第13回	内分泌系 (2)
第14回	平衡聴覚器
第15回	脳神経Ⅳ (脳神経、末梢神経、自律神経)

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

授業に臨むにあたり、必ず該当分野の予習を行ってこよう。体内の位置と機能については、必須である。

〔受講のルール〕

将来の医療従事者として、相手から信頼感が得られるような態度および姿勢で授業に臨むこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

教科書の該当分野は前もって熟読し、自分が理解しにくい部分を明確にして授業に臨むこと。

■オフィスアワー

授業終了後の15分間、また、コメントカードに質問内容を記載すれば次回授業時に解説する。

■評価方法

筆記試験 100%

■教科書

標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第4版 野村巖【編】 医学書院
JIN ブックス 絵で見る脳と神経 しくみと障害のメカニズム 第3版 馬場元毅 著 医学書院

■参考書

授業中に適宜紹介してゆく。

科目名	生理学I	担当教員 (単位認定者)	神谷 誠	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」			
キーワード	神経系、運動器、造血器の生理機能				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

神経系、運動器、造血器の調節機構の基礎を身につけること、及び、専門科目に応用可能な知識を習得することを目的とする。

〔到達目標〕

- ① 神経系、運動器、造血器の基礎を解剖図・概念図を用いて簡潔に説明出来るようになる。
- ② 生理学全体を鳥瞰的に理解し、基本概念を全体の中での位置づけを意識して説明出来るようになる。
- ③ 他の基礎科目・専門科目に応用することが出来るようになる。

■授業の概要

生理学はヒトの体の正常の機能を理解することを目的としており、疾病から正常状態への復帰を目指すリハビリテーションには不可欠である。しかし、生理学の領域は膨大で、未だ解明されていないことが多くある。リハビリテーションの実践に、いかに生理学の知識を活用していくのかを常に念頭に置いて、体系的に理解が進められるように授業を進めていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	生命現象と人体①
第2回	生命現象と人体②
第3回	神経の興奮伝導
第4回	自律神経、シナプス
第5回	中枢神経系①
第6回	中枢神経系②
第7回	中枢神経系③
第8回	中枢神経系④
第9回	骨格筋
第10回	平滑筋、心筋、骨
第11回	感覚①
第12回	感覚②
第13回	血液①
第14回	血液②
第15回	心臓と循環①

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・予習復習は必ず行うこと。

〔受講のルール〕

- ・授業概要を必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・出席時間厳守。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業後

■評価方法

筆記試験（客観・論述）100%

総合評価は筆記試験が60%を超えていることが前提となる。

■教科書

標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第4版 医学書院 石澤光郎 富永淳 著

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	生理学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	神谷 誠	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」			
キーワード	循環器、呼吸器、泌尿生殖器、内分泌器の生理機能				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

循環器、呼吸器、泌尿生殖器、消化器、内分泌器の基礎を身につけること、及び、専門科目に応用可能な知識を習得することを目的とする。

〔到達目標〕

- ① 循環器、呼吸器、泌尿生殖器、消化器、内分泌器の基礎を解剖図・概念図を用いて簡潔に説明出来るようになる。
- ② 生理学全体を鳥瞰的に理解し、基本概念を全体の中での位置づけを意識して説明出来るようになる。
- ③ 他の基礎科目・専門科目に応用することが出来るようになる。

■授業の概要

理学はヒトの体の正常の機能を理解することを目的としており、疾病から正常状態への復帰を目指すリハビリテーションには不可欠である。しかし、生理学の領域は膨大で、未だ解明されていないことが多くある。リハビリテーションの実践に、いかに生理学の知識を活用していくのかを常に念頭に置いて、体系的に理解が進められるように授業を進めていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	心臓と循環 ①
第2回	心臓と循環 ②
第3回	呼吸とガスの運搬 ①
第4回	呼吸とガスの運搬 ②
第5回	尿の生成と排泄 ①
第6回	尿の生成と排泄 ②
第7回	酸塩基平衡
第8回	食道の消化と呼吸
第9回	内分泌 ①
第10回	内分泌 ②
第11回	代謝と体温 ①
第12回	代謝と体温 ②
第13回	生殖と発生
第14回	運動生理 ①
第15回	運動生理 ②

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・予習復習は必ず行うこと。

〔受講のルール〕

- ・授業概要を必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・出席時間厳守。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業後

■評価方法

筆記試験（客観・論述）100%（詳細な評価基準は授業シラバス参照）
総合評価は筆記試験が60%を超えていることが前提となる。

■教科書

標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第4版 医学書院 石澤光郎 富永淳 著

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	生理学実習	担当教員 (単位認定者)	大竹 一男	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」			
キーワード	血圧測定、心電図、呼吸、体温、エネルギー、血液、尿、視覚、聴覚				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

生理学の授業で学んだ知識を最大限に活用し、実習を通じて生体の仕組みをより深く理解する。

〔到達目標〕

- ①人体の仕組みについての知識を習得し系統だてて説明できる。
- ②実際に医療現場で使われている器具や装置を適切に扱うことができる。
- ③お互い測定しあうことによって医療人としてのコミュニケーション能力を高めることができる。

■授業の概要

実際の医療の現場で使われている器具や装置を使って、私たちの血圧、呼吸、体温、心電図を実際に測定したり、血液を顕微鏡で観察したり、尿試験紙による尿検査も行います。また私たちが食物を摂取することによってエネルギーを生み出し、消費し、排泄するまでの一連の過程についても学習します。また、PT・OTの領域で特に重要な脳の可塑性、視覚や聴覚についての仕組みについても学びます。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	血圧測定の意義と方法について学ぶ。
第2回	実際に水銀血圧計で血圧を測定し、その評価ができる。
第3回	心電図の測定の意義と方法について学ぶ。
第4回	実際に心電図計で心電図を測定し、その評価ができる。
第5回	呼吸数及び呼吸機能の測定の意義と方法について学ぶ。
第6回	実際にスパイロメータで呼吸機能を測定し、その評価ができる。
第7回	体温測定の意義と方法について学ぶ。実際に体温を測定し、その評価ができる。
第8回	消化と吸収について学ぶ。消化管の運動(嚥下、蠕動運動、排便)について学ぶ。
第9回	エネルギー産生について学ぶ。十二指腸、肝臓、膵臓、胆のうのネットワークについて学ぶ。
第10回	体組成と腹囲測定の意義と方法について学ぶ。実際に体組成を測定し、その評価ができる。
第11回	神経細胞の軸索のネットワークと脳の可塑性
第12回	血液について学ぶ。実際の血液像を顕微鏡で観察し、その評価ができる。
第13回	尿の生成と排尿のしくみについて学ぶ。実際に尿検査を実施し、その評価ができる。
第14回	視覚についての基礎を学ぶ。盲点、瞳孔の反射の確認、色盲試験を行い、その評価ができる。
第15回	聴覚についての基礎を学ぶ。音の周波数の違い、平衡感覚試験を行い、その評価ができる。

■受講生に関わる情報および受講のルール

実習の実施に当たっては怪我のないように十分に注意し指導教員の指示に従うこと。実習で得られた検査結果を基に報告書(レポート)を作成し期限内に提出すること。その他、自習器具、検査値、感染性一般ゴミの取り扱いに注意し指導教員の指示に従うこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業後

■評価方法

授業提出レポート 30% レポート試験 70%

■教科書

標準理学療法学・作業療法学 生理学 第3版

■参考書

その都度指示する。

科目名	運動学I	担当教員 (単位認定者)	古田 常人	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」			
キーワード	運動学、骨・関節の構造と運動				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

作業療法士が対象者の生活に関わる上で必要となる身体運動や様々な動作を構造-機能的見方で理解し、説明することができることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①体の運動の要素を理解できるようになるために、骨関節についての解剖・生理を復習する。
- ②人体の運動の要素を理解できるようになるために骨格筋・神経系についての解剖・生理を復習する。
- ③物理学、特に力学の知識を用いて、人の動作・活動を理解できるようになる。
- ④上肢の運動を分析できるようになるため、肩甲帯と肩関節、肘関節と前腕、手関節と手についての骨・関節の構造と機能を理解する。
- ⑤上肢における指標となる骨・筋を触診できるようになる。

■授業の概要

作業療法士は、対象者の生活をリハビリする仕事といわれている。生活とは、様々な姿勢で行う動作や活動の繰り返しで成り立っている。この授業では、ひとの動作や活動を評価・分析するために必要な身体構造・機能、身体を動かすための力学、動作の基礎となる姿勢の基礎知識を学ぶ。それをもとに、上肢の機能解剖と運動を学ぶことを目的とする。授業の内容は、解剖学・生理学の内容を基礎に学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション/運動学の定義/身体の肢位・区分・位置・方向/身体運動の面と軸/骨・関節・筋の構造と機能
第2回	物理学・力学の基礎
第3回	身体における物理・力学の視点
第4回	物理学・力学の日常生活での視点
第5回	上肢帯・肩関節に関する骨・関節・靭帯の基本構造と機能・役割
第6回	上肢帯における骨格筋の構造と作用、及び触診
第7回	肩関節における骨格筋の構造と作用、及び触診
第8回	肘関節の構造と運動/小テスト①(肩甲帯・肩関節)
第9回	上腕・肘における骨格筋の構造と作用、及び触診
第10回	前腕における骨格筋の構造と作用、及び触診
第11回	前腕・手関節・手指・母指の構造と運動/小テスト②(肘関節)
第12回	実技試験① 骨・関節の部位名称、及び標本組み立て(上肢)
第13回	前腕・手関節における骨格筋の構造と作用、及び触診
第14回	手指・母指における骨格筋の構造と作用、及び触診
第15回	実技テスト② 触診(上肢)

■受講生に関わる情報および受講のルール

実際に身体を動かすことが多いため、Tシャツ・ハーフパンツ・学校ジャージを用意しておくこと。
 メモがしやすいように筆記用ボードを用意しておくこと。
 予習復習は欠かさないこと。
 測定・検査の実技課題・テストがあるので各自実技練習を実施しておくこと。
 授業資料の再発行はしない。授業を休んだ場合は、クラスメートからコピーを取ること。
 授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為を行う者は受講を拒否する場合がある。
 授業に関係のないものの持ち込みは禁止。
 携帯電話・スマートフォン・タブレットなどは机に出さない。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている文献は必ず確認し、理解をして授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。

■オフィスアワー

水曜日16時～17時は随時(変更時は掲示する)その他の曜日においては要予約。

■評価方法

■筆記試験 60% ■小テスト 20% ■実技試験(骨・関節標本、触診)20%

■教科書

筋骨格系のキネシオロジー 嶋田智明訳 医歯薬出版
 新・徒手筋力検査 原著第9版、協同医書出版社、2014

■参考書

伊藤元、高橋正明編：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 運動学. 医学書院, 2012
 中村隆一・齋藤宏：基礎運動学. 第6版, 医歯薬出版株式会社
 野村巖編：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学. 第3版, 医学書院, 2012
 荻島 秀男：図説運動器の機能解剖 By Rene Cailliet
 A.I.Kapandji 著/荻島秀男 監訳/嶋田智明 訳：カパンディ 関節の生理学
 By J.Castaing：図解関節・運動器の機能解剖(上巻・下巻)
 望月 久、棚橋 信雄、他：PT・OTゼロからの物理学、羊土社

科目名	運動学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	古田 常人	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」			
キーワード	運動学、筋作用、姿勢、歩行、運動の学習				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

作業療法士が対象者の生活に関わる上で必要となる身体運動や様々な動作を構造－機能的見方で理解し、説明することができることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①運動学の基盤となる生体力学について説明することができる。
- ②運動器のひとつである筋の触診を行い、位置を特定し、作用を説明することができる。
- ③姿勢・歩行について運動学的に分析を行い、説明することができる。

■授業の概要

作業療法士は、対象者の生活をリハビリする仕事といわれている。この授業では、ひとの動作や活動を運動学的観点で分析し、評価・治療に必要な身体の構造・機能、身体を動かすための力学、動作の基礎となる姿勢の基礎知識を学ぶ。授業の内容は、解剖学・生理学の内容を基礎として、触診を通して下肢・頭頸部・体幹の構造、及び骨格筋の作用と運動を学ぶことを目的とする。また、姿勢や歩行について運動学的分析を基に学ぶことを目的とする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション／下肢の構造と役割／骨盤・下肢帯の構造と運動
第2回	股関節の構造と運動
第3回	骨格筋の作用と触診：股関節部
第4回	膝関節の構造と運動／小テスト①
第5回	骨格筋の作用と触診：大腿部・膝関節部
第6回	足関節の構造と運動／小テスト②
第7回	骨格筋の作用と触診：下腿部・足部
第8回	脊柱（頸椎・胸椎・腰椎）の構造と運動／小テスト③
第9回	骨格筋の作用と触診：頭頸部・体幹
第10回	触診（下肢・頭頸部・体幹）実技テスト
第11回	胸郭の運動と呼吸運動／顔面・頭部の構造と運動／口腔・咽頭・喉頭の構造と嚥下運動
第12回	姿勢の分類と安定性
第13回	歩行：歩行周期と運動学分析①
第14回	歩行：歩行周期と運動学分析②
第15回	運動学習

■受講生に関わる情報および受講のルール

実際に身体を動かすことが多いため、Tシャツ・ハーフパンツ・学校ジャージを用意しておくこと。
メモがしやすいように筆記用ボードを用意しておくこと。
予習復習は欠かさないこと。
測定・検査の実技課題・テストがあるので各自実技練習を実施しておくこと。
授業資料の再発行はしない。授業を休んだ場合は、クラスメートからコピーを取ること。
授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為を行う者は受講を拒否する場合がある。
授業に関係のないものの持ち込みは禁止。
携帯電話・スマートフォン・タブレットなどは机に出さない。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている文献は必ず確認し、理解をして授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。

■オフィスアワー

水曜日16時～17時は随時（変更時は掲示する）その他の曜日においては要予約。

■評価方法

■筆記試験 50% ■小テスト 30% ■実技試験（触診）20%

■教科書

- ①筋骨格系のキネシオロジー 嶋田智明訳 医歯薬出版
- ②新・徒手筋力検査 原著第9版、協同医書出版社、2014

■参考書

伊藤元、高橋正明編：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 運動学. 医学書院, 2012
中村隆一・齋藤宏：基礎運動学. 第6版, 医歯薬出版株式会社
野村巖編：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学. 第3版, 医学書院, 2012
荻島 秀男：図説運動器の機能解剖 By Rene Cailliet
A.I.Kapandji 著／荻島秀男 監訳／嶋田智明 訳：カパンディ 関節の生理学
By J.Castaing：図解関節・運動器の機能解剖（上巻・下巻）
望月 久、棚橋 信雄、他：PT・OTゼロからの物理学、羊土社

科目名	運動学実習	担当教員 (単位認定者)	古田 常人	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」			
キーワード	基本動作、3次元動作解析、筋電図、筋機能評価、重心動揺、呼吸機能評価				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕 人の動きに関して、筋力、角度・位置・速さの変化、重心の変化などを観察や各種測定機器を利用して分析する。そして、人間の活動のメカニズムを理解し、その動き・機能を解剖・生理学・運動学、および医学用語を用いて表現できるようになる。
〔達成目標〕 1) 身体の各部位や肢節の長さや周径等を正しく計測し、結果を適切に評価できる。 2) セグメント法により平面上で重心位置を推定し、平面上で重心線が体重支持面上に落ちることを証明できる。 3) 重心動揺計を用いていわゆる“重心動揺”を測定できる。重心と足圧中心の違い、立位姿勢制御における視覚の役割を説明できる。 4) 体重を用い、てこの原理で重心の位置を測定することができる。 5) 筋機能解析装置を使用し、筋力測定が行える。また肢位・角速度による筋力の違い、筋疲労を理解し、種々の活動における複合筋力を測定できる。 6) 筋電図法と電気角度計を用いて動作分析ができる。 7) 健康者の寝返り・立ち上がり動作を観察し、基礎運動学(教科書)に記載されている運動分析手順にそって分析ができ、動作分析に必要な表現ができる。 8) 学習とパフォーマンスの関係を説明できる。反復練習に伴うパフォーマンスの変化を確認し、トランスファーテストを用いて運動学習の成立を確認する。 9) 3次元動作解析装置を利用し、正常歩行の動作分析、および解析を学ぶ。 10) 運動負荷量を変化させ、酸素摂取量・二酸化酸素呼出量を測定できる。呼吸機能を理解し、その評価を実施できる。 11) 心拍変動機能による自律神経機能評価の方法を実施できる。また認知機能評価による負荷による自律神経機能(脈波、発汗、皮膚温)の影響を学ぶ。

■授業の概要

ひとが日々暮らしていく中で行っている様々な行為は、姿勢を保ちながら体の一部を動かして行われている。このひとの動きの基礎となる、姿勢、運動、動作について学び、それらを行うために必要な機能について、動作分析の方法や機器を用いて学んでいく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。	
第1回	科目オリエンテーション、形態計測1
第2回	形態計測2、筋力評価
第3回	姿勢評価
第4回	解析方法について1
第5回	基本動作分析/筋電図/筋機能解析装置
第6回	〃
第7回	〃
第8回	解析方法について2
第9回	運動学習1
第10回	運動学習2
第11回	呼吸機能評価/自律神経機能評価/3次元動作分析
第12回	〃
第13回	〃
第14回	解析方法について3
第15回	発表

■受講生に関わる情報および受講のルール

実際に体を動かすことが多いため、学校指定のジャージを用意しておくこと。 メモがしやすいように筆記用ボードを用意しておくこと。 課題の提出は、原則としてデータ収集、あるいは解析方法の指導後2週間後の17時、担当教員に提出すること。
--

■授業時間外学習にかかわる情報

解析方法などは授業内で説明するが、解析し、結果・考察を導き出すためには、解剖学・生理学・運動学の復習や深い理解が必要となる。グループで協力し、理解を深めること。
--

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

□レポート 40% (個人レポート 20%、グループレポート 20%) □グループ発表 20% □筆記試験 40%

■教科書

実習手引きの配布。

■参考書

授業の中で紹介する。

科目名	人間発達学	担当教員 (単位認定者)	北爪 浩美	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必須		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」			
キーワード	ライフステージ、発達、発達過程				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

ヒトの神経系の発達と運動発達、認知・精神機能及び社会性の発達を学び、リハビリテーションに携わるものとしてQOLの視点から対象者の発達区分や状況に応じた対応ができるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①発達の諸段階と発達課題について説明できる。
- ②ヒトの発達における身体、認知機能の発達について理解し、説明することができる。
- ③心理、社会生活活動の発達について理解し、説明することができる。
- ④育ちを支える社会機構について理解し、説明することができる。

■授業の概要

ヒトの発達は脳を中心とする神経系の発達と外部からの情報を入力することでなされ、様々な機能や行動を学習し成熟する。発達を理解することでリハビリテーションにおける対象者の状況や目標を適切に把握するため、発達過程や発達課題について学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、人間発達の概念
第2回	乳児期の発達、反射、神経系の発達
第3回	乳児期の反射、神経系の発達
第4回	乳児期の発達（3～7か月）、原始反射、反応
第5回	乳児期及び幼児期の発達、反射反応と運動発達の関係
第6回	学童期の発達
第7回	青年期、成人期の発達
第8回	高齢期の発達

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・授業で配布する資料の予備は保管しないため、欠席した場合は出席者からコピーすること。
- ・授業の流れや雰囲気を乱す行為、常識を欠く行為（私語、携帯電話の使用など）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

月～水曜日の午前中。時間については事前に申し出ること。

■評価方法

筆記試験 100%

■教科書

福田恵美子編：コメディカルのための専門基礎テキスト 人間発達学 2版. 中外医学社. 2009

■参考書

前川喜平著：小児リハビリテーションのための神経と発達の診かた. 新興医学出版社. 2002

科目名	病理学概論	担当教員 (単位認定者)	前島 俊孝	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」			
キーワード	病因、病態				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

病理学的な用語の定義、様々な疾患の発生機序や病態について学び、理解することを目的とする。

〔到達目標〕

- ・病理学関連の用語を理解し、正しく説明できる。
- ・基本的な疾患の病態について説明できる。

■授業の概要

細胞傷害、循環障害、先天異常、炎症、免疫、腫瘍、代謝異常などを学び、様々な疾病の成り立ち・病態が理解できるよう解説する。病理学概論の内容は、将来医療スタッフとして働いていく上で必要不可欠な知識であり、その理解なしには医学書を読むことも不可能である。覚えることが多いが、できるだけ考えることを重視した講義を行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション
第2回	解剖学の復習
第3回	病因
第4回	細胞傷害
第5回	循環障害 I
第6回	循環障害 II
第7回	炎症
第8回	免疫、アレルギー
第9回	腫瘍 I
第10回	腫瘍 II
第11回	腫瘍 III
第12回	代謝異常、糖尿病
第13回	先天異常
第14回	感染症
第15回	まとめ・補足

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・春休みに解剖学全般の復習をして、病理学概論の講義に臨んで欲しい。
- ・机の隣同士2～3人で相談し、毎時間、病理学と解剖学の教科書を各1冊は用意すること。
- ・病理学概論の講義では授業中の質問に対して「わからない」は禁句である。試験ではないので、教科書等で調べたり、周り相談するなどして何らかの答えを導き出すように。
- ・時間厳守であるが、もし遅刻した場合やトイレ等で退室する際などは、授業の妨げとならないよう静かに行動すること。
- ・新聞やテレビなどのニュース、特に医療・医学に関する内容に興味を持つ。
- ・読書の習慣を身につける。

■授業時間外学習にかかわる情報

講義を受けることで、教科書を理解して読むことが可能となるはずである。月に2回程度、週末で構わないので、講義で扱った範囲の教科書を読む習慣をつけておくと、試験直前に勉強を0から始めるような状況にならずにすむ。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

筆記試験（客観・論述）80%、レポート20%。

■教科書

堤 寛：クイックマスター 病理学，サイオ出版，2015

■参考書

解剖学の教科書（病理学概論の講義でも使用する）

科目名	臨床心理学	担当教員 (単位認定者)	橋本 広信	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」			
キーワード	精神分析、分析心理学、対象関係論、交流分析、認知行動療法、クライアント中心療法、自律訓練法、芸術療法、森田療法、内観療法、SST他				

■授業の目的・到達目標

代表的な心理療法の理論と実際についてその基本を学び、内面的な支援を必要とする人の心理と回復のプロセスを考えていく。臨床心理学は、人間の心に対する様々な異なる考え方に基づき成立している。それらはすべて個人の心や行動の変容を目指す。それぞれの理論によって、目指すところも、そこに近づくための手段も大きく異なってくる。そうした違いを理解することにより、「人の心が回復する」ということについての考えを深めていく。

■授業の概要

臨床心理学領域における国家試験問題に対処できる基礎知識を習得する。また、集団としての人ではなく、独自の存在として生きる一人ひとりの人が、人生の途上で出会う心の問題に対する見方を深め、多面的に理解し、その対処のあり方をイメージできることを目的とする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション 臨床心理学とは？
第2回	精神分析の理論と技法：フロイトと無意識の発見
第3回	心の探求のその後① C.G. ユングと分析心理学を中心に
第4回	心の探求のその後② フロイト理論の発展と修正
第5回	人間関係を分析する 交流分析
第6回	ロジャーズの人格理論とクライアント中心療法
第7回	行動療法
第8回	認知行動療法
第9回	芸術・表現療法
第10回	森田療法・内観療法
第11回	家族療法
第12回	集団心理療法
第13回	リハビリ患者の心理と障害受容を考える①
第14回	リハビリ患者の心理と障害受容を考える②
第15回	リハビリ患者の心理と障害受容を考える③

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・国家試験に関連する科目である。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用等）は退席を明示します。その場合は欠席扱いとします。
- ・評価方法にある通り、5回程度小レポートや感想文を課します。それぞれ評価の対象になりますので、必ず提出してください。

■授業時間外学習にかかわる情報

シラバスで指示する内容について取り組むこと。

■オフィスアワー

基本的に授業後の休憩時間としますので、声をかけてください。

■評価方法

- ・総合評価は、以下の通りの割合で、評価。総合得点 60～69点:C 70～79:B 80～89:A 90点以上:S
- ・期末試験 70%、小レポート・感想文等提出物 30% (30÷提出回(予定5回)=1提出物得点(1回6点))
- ※課題提出がない場合もありうるが、その場合は試験 100%となる。

■教科書

やさしく学べる心理療法の基礎(2003) 窪内節子・吉武光世著 培風館

■参考書

適宜指示。

科目名	一般臨床医学	担当教員 (単位認定者)	栗原 卓也	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修 社会福祉主事任用資格指定科目		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」			
キーワード	生活習慣病、がん、感染症、生殖、移植				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

その病気がなぜ起こり、体の中でどのような異常が起こっているのか、そしてその状態を改善するためにはどのような方法をとればいいのかを、簡潔かつ的確に述べられることを目標とする。

〔到達目標〕

- ①各種疾患の症状や障害発生のメカニズムを病態生理学的に説明できる。
- ②疾患診断にあたっての代表的な手法や主要な治療方法、予後について説明できる。

■授業の概要

将来、医療の世界で活躍してゆく者にとって必要な医学の知識を、白紙の状態である君たちに、出来る限りわかりやすく、平易に伝えてゆく。人体を構成する各臓器の単位で、まずは構造(解剖)機能(生理)を学習し、ついでその破綻(病理)とその修復(治療)を、君たちが将来必ず直面する疾患に焦点を絞って解説する。1年次で並行して学習する、解剖学、生理学、生化学に役立ち、2年次で学習する病理学、内科学に直結する内容となるよう配慮している。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	・授業オリエンテーション ・ 医学とは? 医学の歴史、医学の分類、医療の約束事(ルール)
第2回	生命維持のしくみ I 細胞、組織、血液
第3回	生命維持のしくみ II 循環器(心臓、血管)
第4回	生活習慣病I 動脈硬化のメカニズム (高血圧症)
第5回	生活習慣病II 動脈硬化のメカニズム (糖尿病、脂質異常症、メタボリック症候群)
第6回	生活習慣病III 動脈硬化の末路 (脳血管障害)
第7回	生活習慣病IV 動脈硬化の末路 (狭心症・心筋梗塞)
第8回	小テスト①(第1講から第6講までの範囲)、生命維持のしくみ III 呼吸器(口腔、鼻咽腔、気管、肺)
第9回	呼吸器の障害 : 炎症、閉塞性肺疾患、拘束性肺疾患、たばこの問題
第10回	細胞の暴走=がん:がんとは?がんの問題点、治療方法
第11回	生命維持のしくみ IV 消化器(消化管、腹腔内臓器)
第12回	消化器の障害 : 消化管のがん、潰瘍、肝炎
第13回	小テスト②(第7講から第12講までの範囲)、 外敵の侵入:感染症
第14回	次世代につなぐ命I:生殖(妊娠、不妊症)
第15回	次世代につなぐ命II:臓器移植、細胞移植

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。

テキストはなく、授業時に配布する資料がテキストとなる。授業はハイスピードで進む。高校の授業とは違うことを認識すること。そのためには、KeyWordsを参照しながら、授業に集中することが要求される。そして、授業終了後にKeyWordsの指示事項を整理記憶することが必須である。この作業ができない者は、将来、患者さんからの情報を収集、分析することはできない。なお配布資料については、朝のホームルーム前に週番が講師室に受け取りに来て、責任を持ってクラスの全員に配布すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

第1回の授業で配布するKeywordに従って、要点を整理してゆくこと。A4のノートの左側にKeywordを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を記載してゆくこと。復習が重要となる。

■オフィスアワー

木曜日の授業終了後

■評価方法

筆記試験による期末試験で、60%以上の得点を得る事が、成績評価の前提条件である。その上で、学期中に2回行なう小テストの点数を50%(25点x2回)、期末テストの点数に50%(50点)の配分をした点数をもって、成績評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しない。欠席の場合は、如何なる理由でも0点となる。期末の再試験においても、小テストの再試験は実施せず、前期講義の全範囲の内容の100点満点の再試験で、単位修得の可否のみ判定(CまたはD評価のみとなる)する。日頃の健康管理も重要であり、医療人となる者にとっては必須の事項である。各テストは、空欄補充形式の問題と指定範囲内の過去の国家試験問題からなる。

■教科書

広範囲な内容にふさわしい適切なテキストがないため、特に指定しない。授業で配布するプリントの蓄積がテキストとなる。

■参考書

授業中に適宜紹介する。

科目名	リハビリテーション医学	担当教員 (単位認定者)	栗原 卓也	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修 社会福祉主事任用資格指定科目		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」			
キーワード	廃用症候群、運動器リハ、脳神経リハ、心臓リハ、呼吸器リハ				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

第4の医学といわれるリハビリテーション医学の成り立ち、背景を理解し、対象とする疾患の病態生理ならびに解決方法を、簡潔にかつ的確に述べられること。

〔到達目標〕

①痛みや機能障害発生のメカニズムを病態生理学的に説明できる。②診断にあたっての手順とその所見が説明できる。③治療方法の根拠と手順が説明できる。④治療前後の病態の変化が観察、理解、明示できる。

■授業の概要

2年次以降に展開される、専門科目や実習で必要となるリハビリテーション医学の内容は、広範囲にわたり、膨大な知識が必要となる。授業では、各項目について要点のみ簡潔に解説し、身についた知識が幹となり、2年次以降に学習する各専門科目に花開き、国家試験ならびに将来の現場で実を結ぶように配慮している。テキストは、基礎医学、臨床医学を学習している事が前提に記載されており、難解であり、予習は不可能である。未学習分野をプリントやビデオで補い、基礎的なところから疾患の病態に入り、その疾患に対するリハビリテーションの実際を重要点に絞って解説する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、リハビリテーション医学総論Ⅰ(歴史、理念、位置づけ、評価)
第2回	リハビリテーション医学総論Ⅱ (医療経済学)
第3回	リハビリテーション医学総論Ⅲ (評価、廃用症候群)
第4回	運動器リハビリテーションⅠ (骨疾患、骨折)
第5回	運動器リハビリテーションⅡ (関節疾患 1)
第6回	運動器リハビリテーションⅢ (関節疾患 2)
第7回	運動器リハビリテーションⅣ (腰痛、頸肩腕痛)
第8回	運動器リハビリテーションⅤ (スポーツ外傷障害、複合性局所疼痛症候群)
第9回	小テスト①(第1回から第8回までの内容) 脳神経リハビリテーションⅠ(脳血管障害の病態、急性期リハビリテーション)
第10回	脳神経リハビリテーションⅡ(脳血管障害の回復期、維持期のリハビリテーション)
第11回	脳神経リハビリテーションⅢ(高次脳機能障害)
第12回	脳神経リハビリテーションⅣ(認知症)
第13回	脳神経リハビリテーションⅤ(神経変性疾患)
第14回	小テスト②(第9回から13回までの内容)、内科領域のリハビリⅠ(心臓リハビリ、生活習慣病、内部障害のリハビリ)
第15回	内科領域のリハビリⅡ(呼吸器リハビリテーション)

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。

Keywordに基づき、集中して授業を聞き取ることが必須となる。自分の授業前の作業が、的確であったか否かの確認となる。さらに派生する重要事項も吸収することが必要で、1時間半の集中を要求する。

■授業時間外学習にかかわる情報

第1回の授業で配布するKeywordに従って、教科書で重要点を予習しておくこと。A4のノートの左側にKeywordを短冊状に切って貼り付け、右側のページに指定内容を記載しておく。授業でその内容を確認して、さらに追加内容を復習すること。

■オフィスアワー

木曜日の授業終了後の休憩時間

■評価方法

筆記試験による期末試験で、60%以上の得点を得る事が、成績評価の前提条件である。その上で、学期中に2回行なう小テストの点数を50%(25点x2回)、期末テストの点数に50%(50点)の配分をした点数をもって、成績評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しない。欠席の場合は、如何なる理由でも0点となる。期末の再試験においても、小テストの再試験は実施せず、後期講義の全範囲の内容の100点満点の再試験で、単位修得の可否のみ判定(CまたはD評価のみとなる)する。日頃の健康管理も重要であり、医療人となる者にとっては必須の事項である。各テストは、空欄補充形式の問題と指定範囲内の過去の国家試験問題からなる。

■教科書

最新リハビリテーション医学 米本 恭三 監修 医歯薬出版株式会社

■参考書

授業中に適宜紹介する。

科目名	内科・老年医学I	担当教員 (単位認定者)	栗原 卓也	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」			
キーワード	内科診断学、症候学、循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

目の前の患者さん、利用者さんの持っている内科的疾患に対して、その病態、治療内容、起こりうる合併症が把握、理解できるようになることである。到達目標は、理学療法士として活躍するために必要な内科学領域の知識、技術を習得することである。

〔到達目標〕

- ①メカニズムを病態生理学的に説明できる。
- ②診断にあたっての手順とその根拠が説明できる。
- ③治療方法の根拠と手順が説明できる。
- ④治療前後の病態の変化が観察、理解、明示できる。

■授業の概要

臨床医学の根幹をなす内科学について、各臓器別に、解剖学、生理学的知識を再確認しながら、疾患の病態生理、検査方法、治療方法を学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、内科学の概念 症候学I
第2回	症候学II
第3回	循環器I
第4回	循環器II
第5回	循環器III
第6回	循環器IV
第7回	呼吸器I
第8回	小テスト①(循環器IからIVの範囲)、呼吸器II
第9回	呼吸器III
第10回	呼吸器IV
第11回	消化器I
第12回	小テスト②(呼吸器IからIVの範囲)、消化器II
第13回	肝 胆 膵 I
第14回	肝 胆 膵 II
第15回	肝 胆 膵 III

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。チェックシート以外の重要点も随時強調する。神経を研ぎ澄ませ、聞き漏らさぬこと。1時間半の集中を要求する。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業で配布するチェックシートに従って、学習する。A4のノートの左側にチェックシートを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を教科書から調べ記載してゆくこと。これが予習である。授業で自分の事前の作業の妥当性を確認し、自宅で問題演習と併せ復習を行う。

■オフィスアワー

木曜日の授業終了後

■評価方法

筆記試験による期末試験で、60%以上の得点を得る事が、成績評価の前提条件である。その上で、学期中に2回行なう小テストの点数を50%(25点x2回)、期末テストの点数に50%(50点)の配分をした点数をもって、成績評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しない。欠席の場合は、如何なる理由でも0点となる。期末の再試験においても、小テストの再試験は実施せず、前期講義の全範囲の内容の100点満点の再試験で、単位修得の可否のみ判定(CまたはD評価のみとなる)する。日頃の健康管理も重要であり、医療人となる者にとっては必須の事項である。各テストは、空欄補充形式の問題と指定範囲内の過去の国家試験問題からなる。

■教科書

標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 内科学 第3版 前田 眞治 他 執筆 医学書院

■参考書

授業中に適宜紹介する。

科目名	内科・老年医学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	栗原 卓也	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」			
キーワード	血液疾患、内分泌代謝疾患、腎泌尿器疾患、膠原病、アレルギー疾患、感染症、皮膚科学、老年病				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

目の前の患者さん、利用者さんの持っている内科的疾患に対して、その病態、治療内容、起こりうる合併症が把握、理解できるようになることである。到達目標は、作業療法士として活躍するために必要な内科および老年医学領域の知識、技術を習得することである。

〔到達目標〕

- ①各種徴候や症状の発生メカニズムを病態生理学的に説明できる。
- ②診断にあたっての手順とその根拠が説明できる。
- ③治療方法の根拠と手順が説明できる。
- ④治療前後の病態の変化が観察、理解、明示できる。

■授業の概要

臨床医学の根幹をなす内科学を、各臓器別に、解剖学、生理学的知識を再確認しながら、疾患の病態生理、検査方法、治療方法を学習する。後半では、加齢に伴う生体の変化、高齢者特有の疾患の病態生理を重要点に絞り学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	血液 造血器 I
第2回	血液 造血器 II
第3回	代謝
第4回	内分泌 I (総論)
第5回	内分泌 II (各論)
第6回	腎・泌尿器 (I)
第7回	小テスト①(血液造血器、代謝、内分泌が範囲)、腎、泌尿器 II
第8回	腎、泌尿器 III
第9回	アレルギー疾患
第10回	膠原病
第11回	感染症 I 総論
第12回	感染症 II 各論
第13回	小テスト②(腎泌尿器、アレルギー膠原病が範囲)、老年学 I (総論)
第14回	老年学 II (高齢者に特徴的な症候と疾患①)
第15回	老年学 III (高齢者に特徴的な症候と疾患②)

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。

チェックシート以外の重要点も随時強調する。神経を研ぎ澄ませ、聞き漏らさないこと。1時間半の集中を要求する。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業で配布するチェックシートに従って、学習する。A4のノートの左側にチェックシートを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を教科書から調べ記載してゆくこと。これが予習である。授業で自分の事前の作業の妥当性を確認し、自宅で問題演習と併せ復習を行う。

■オフィスアワー

木曜日の授業終了後

■評価方法

筆記試験による期末試験で、60%以上の得点を得る事が、成績評価の前提条件である。その上で、学期中に2回行なう小テストの点数を50%(25点x2回)、期末テストの点数に50%(50点)の配分をした点数をもって、成績評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しない。欠席の場合は、如何なる理由でも0点となる。期末の再試験においても、小テストの再試験は実施せず、後期講義の全範囲の内容の100点満点の再試験で、単位修得の可否のみ判定(CまたはD評価のみとなる)する。日頃の健康管理も重要であり、医療人となる者にとっては必須の事項である。各テストは、空欄補充形式の問題と指定範囲内の過去の国家試験問題からなる。

■教科書

標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 内科学 第3版 前田 眞治 他 執筆 医学書院
標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 老年学 第3版 大内 尉義 編集 医学書院

■参考書

授業中に適宜紹介する。

科目名	整形外科学I	担当教員 (単位認定者)	栗原 卓也	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」			
キーワード	骨疾患、骨折、関節疾患、変形性関節症、関節リウマチ、脊椎疾患、脊髄損傷				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

筋骨格系疾患の痛み、機能障害を訴える患者の体の異常を的確に把握し、その現象（病態生理）をわかりやすく説明できるようにすることである。その上で、その異常（痛みや機能障害）を改善するためには、どのような方法をとればよいのか説明できるようにすることである。

〔到達目標〕

- ①痛みや機能障害発生のメカニズムを病態生理学的に説明できる。
- ②診断においての手順とその所見が説明できる。
- ③治療方法の根拠と手順が説明できる。
- ④治療前後の病態の変化が観察、理解、明示できる。

■授業の概要

運動器（筋、骨格、神経系）の機能障害を対象とする外科学の1分野であるが、外科的手技だけでなく、保存的治療も重要である。理学、作業療法は、保存的治療の主役であり、将来の君たちが治療の主役を担う事となる。リハビリテーション医療においては、必須の科目であり、日常よく遭遇する疾患を重点的に学習し、繰り返し行なう問題演習により、知識の定着を図る。将来君たちが現場に出た時に、迷わず動く事ができる実用的な知識を伝える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、骨 I:骨の基礎
第2回	骨 II:骨疾患、骨折総論①
第3回	骨 III:骨折総論②
第4回	骨 IV:骨折各論① 体幹部の骨折
第5回	骨 V:骨折各論② 上肢の骨折
第6回	骨 VI:骨折各論③ 下肢の骨折
第7回	関節 I:関節の基本構造、関節の変形、先天性股関節脱臼
第8回	小テスト①(骨IからVIまでの範囲)、関節 II:変形性関節症総論
第9回	関節 III:変形性関節症各論
第10回	関節 IV:関節リウマチ
第11回	関節 V:外傷性疾患①
第12回	関節 VI:外傷性疾患②
第13回	小テスト②(関節IからVIまでの範囲)、脊椎 I:脊椎の構造、障害部位と神経所見、脊椎疾患①
第14回	脊椎 II:脊椎疾患②
第15回	脊椎 III:脊椎疾患③

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。

チェックシート以外の重要点も随時強調する。神経を研ぎ澄ませ、聞き漏らさないこと。1時間半の集中を要求する。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業で配布するチェックシートに従って、学習する。A4のノートの左側にチェックシートを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を教科書から調べ記載してゆくこと。これが予習である。授業で自分の事前の作業の妥当性を確認し、自宅で問題演習と併せ復習を行う。

■オフィスアワー

木曜日の授業終了後

■評価方法

筆記試験による期末試験で、60%以上の得点を得る事が、成績評価の前提条件である。その上で、学期中に2回行なう小テストの点数を50%(25点x2回)、期末テストの点数に50%(50点)の配分をした点数をもって、成績評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しない。欠席の場合は、如何なる理由でも0点となる。期末の再試験においても、小テストの再試験は実施せず、前期講義の全範囲の内容の100点満点の再試験で、単位修得の可否のみ判定(CまたはD評価のみとなる)する。日頃の健康管理も重要であり、医療人となる者にとっては必須の事項である。各テストは、空欄補充形式の問題と指定範囲内の過去の国家試験問題からなる。

■教科書

標準整形外科学 第12版 中村利孝 他編 医学書院
1年次で使用した、リハビリテーション医学(医歯薬出版)も適宜使用する。

■参考書

授業中に適宜紹介する。

科目名	整形外科学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	栗原 卓也	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」			
キーワード	末梢神経疾患、神経、筋疾患、骨軟部腫瘍、四肢切断、義肢装具、スポーツ外傷、熱傷				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

筋骨格系疾患の痛み、機能障害を訴える患者の体の異常を的確に把握し、その現象(病態生理)をわかりやすく説明できるようにすることである。その上で、その異常(痛みや機能障害)を改善するためには、どのような方法をとればよいのか説明できるようになることである。

〔到達目標〕

- ①痛みや機能障害発生のメカニズムを病態生理学的に説明できる。
- ②診断にあたっての手順とその所見が説明できる。
- ③治療方法の根拠と手順が説明できる。
- ④治療前後の病態の変化が観察、理解、明示できる。

■授業の概要

運動器(筋、骨格、神経系)の機能障害を対象とする外科学の1分野であるが、外科的手技だけでなく、保存的治療も重要である。理学、作業療法は、保存的治療の主役であり、将来の君たちが治療の主役を担う事となる。リハビリテーション医療においては、必須の科目であり、日常よく遭遇する疾患を重点的に学習し、繰り返し行なう問題演習により、知識の定着を図る。将来君たちが現場に出た時に、迷わず動く事ができる実用的な知識を伝える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	脊髄損傷 I
第2回	脊髄損傷 II
第3回	脊髄損傷 III
第4回	末梢神経 I
第5回	末梢神経 II
第6回	神経・筋疾患
第7回	小テスト①(脊髄損傷IからIIIと末梢神経IからIIが範囲)、骨・軟部腫瘍
第8回	四肢の循環障害と壊死性疾患
第9回	切断および離断と義肢 I
第10回	切断および離断と義肢 II
第11回	切断および離断と義肢 III
第12回	小テスト②(神経筋疾患、骨軟部腫瘍腫瘍、四肢循環障害、壊死性疾患、切断、離断、義肢が範囲) 熱傷、手の外科
第13回	スポーツ外傷・障害 I
第14回	スポーツ外傷・障害 II
第15回	整形外科的治療法

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。
チェックシート以外の重要点も随時強調する。神経を研ぎ澄ませ、聞き漏らさないこと。1時間半の集中を要求する。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業で配布するチェックシートに従って、学習する。A4のノートの左側にチェックシートを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を教科書から調べ記載してゆくこと。これが予習である。授業で自分の事前の作業の妥当性を確認し、自宅で問題演習と併せ復習を行う。

■オフィスアワー

毎週木曜日、授業終了後

■評価方法

筆記試験による期末試験で、60%以上の得点を得る事が、成績評価の前提条件である。その上で、学期中に2回行なう小テストの点数を50%(25点x2回)、期末テストの点数に50%(50点)の配分をした点数をもって、成績評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しない。欠席の場合は、如何なる理由でも0点となる。期末の再試験においても、小テストの再試験は実施せず、後期講義の全範囲の内容の100点満点の再試験で、単位修得の可否のみ判定(CまたはD評価のみとなる)する。日頃の健康管理も重要であり、医療人となる者にとっては必須の事項である。各テストは、空欄補充形式の問題と指定範囲内の過去の国家試験問題からなる。

■教科書

標準整形外科学 第12版 中村利孝 他編 医学書院、1年次で使用した、リハビリテーション医学(医歯薬出版)も適宜使用する。

■参考書

授業中に適宜紹介する。

科目名	神経内科学I	担当教員 (単位認定者)	栗原 卓也	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」			
キーワード	中枢神経、脳循環、脳脊髄液循環、意識障害、脳ヘルニア、言語障害、認知症、運動麻痺、知覚障害、脳神経障害、摂食嚥下障害、排尿障害、脳血管障害				

■授業の目的・到達目標

神経系の障害による、運動、知覚を代表とする諸機能の障害を訴える患者の異常を的確に把握し、その現象(病態生理)を説明できることをまず目的とする。そのためには、中枢神経、末梢神経、脳循環、脳脊髄液循環の構造としくみをしっかり理解していることが基礎となる。その上で、その障害を改善するためには、どのような方法をとればよいか説明できるようにすることを最終目標とする。

■授業の概要

リハビリテーションの中心分野である神経疾患の知識は、理学、作業療法を行うものにとっては、必須である。まず中枢神経のしくみ(解剖学、生理学の復習となる)を理解し、そのうえで各種障害のメカニズムを学習してゆく。前期では、特に重要な脳血管障害と認知症を取り上げる。また繰り返し行なう小テストと各自が行う問題演習により、知識の定着を図る。将来君たちが現場に出た時に、目の前で生じている障害を的確に把握し、何が生じているかの病態生理を説明でき、自信を持って動く事ができる実用的な知識を伝える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、 中枢神経のしくみ I 中枢神経と末梢神経、大脳①
第2回	中枢神経のしくみ II 大脳②、小脳
第3回	中枢神経のしくみ III 脳幹、脊髄
第4回	中枢神経のしくみ IV 脳循環、脳脊髄液循環
第5回	小テスト①(第1回から4回までの内容:20点満点)、障害のメカニズム I 意識障害、脳ヘルニア
第6回	障害のメカニズム II 言語障害、認知症
第7回	小テスト②(第5,6回の内容:10点満点) 障害のメカニズム III 運動麻痺
第8回	障害のメカニズム IV 知覚障害
第9回	小テスト③(第7,8回の内容:10点満点) 障害のメカニズム V 脳神経障害①
第10回	障害のメカニズム VI 脳神経障害 ②、摂食嚥下障害
第11回	小テスト④(第9,10回の内容:10点満点) 障害のメカニズム VII 小脳の障害
第12回	障害のメカニズム VIII 排尿障害
第13回	障害のメカニズム IX 脳血管障害①
第14回	障害のメカニズム X 脳血管障害②
第15回	障害のメカニズム XI 脳脊髄液障害

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。チェックシートを傍らに置き、予習でわからなかったチェックシートの項目を、授業中に明らかにすること。膨大なテキストの内容をこなすには、授業に集中することが必須である。

■授業時間外学習にかかわる情報

膨大な内容を短時間で理解するために、授業前にテキストの該当範囲を一読することが必要である。その上で、配布されたチェックシートに従って、学習する。A4のノートの左側にチェックシートを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を教科書から調べ記載してゆくこと(予習)。授業で自分の事前の作業の妥当性を確認し、不明点、誤っていた点は授業中に修正する。授業後、チェックシートを点検したのち、該当範囲の国家試験問題を行う(復習)。

■オフィスアワー

木曜日の授業終了後

■評価方法

筆記試験による期末試験(前期講義の全範囲)で、60%以上の得点を得る事が、成績評価の前提条件である。その上で、学期中に5回行なう小テストの点数を50%(20点×1回+10点×4回=合計50点)、期末テストの点数に50%(50点)の配分をした点数をもって、成績評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しない。欠席の場合は、如何なる理由でも0点となる。期末の再試験においても、小テストの再試験は実施せず、前期講義の全範囲の内容の100点満点の再試験で、単位修得の可否のみ判定(CまたはD評価のみとなる)する。日頃の健康管理も重要であり、医療人となる者にとっては必須の事項である。各テストは、空欄補充形式の問題と指定範囲内の過去の国家試験問題からなる。

■教科書

- ① JJN ブックス 絵で見る脳と神経 しくみと障害のメカニズム第3版 馬場元毅 著 医学書院
(1年次の解剖学実習で使用したテキストである)
- ② ベッドサイド神経の診かた 第17版 田崎義昭 著 南山堂

■参考書

授業中に適宜紹介する。

科目名	神経内科学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	栗原 卓也	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」			
キーワード	脳腫瘍、外傷性脳損傷、変性疾患、脱髄疾患、Parkinson症候群、末梢神経障害、てんかん、筋疾患、神経感染症、脳性麻痺、廃用症候群、誤用症候群、排尿障害、性機能障害、失認、失行、注意障害、遂行機能障害、認知症、脳血管障害				

■授業の目的・到達目標

神経系の障害による、運動、知覚を代表とする諸機能の障害を訴える患者の異常を的確に把握し、その現象(病態生理)を説明できることをまず目的とする。そのためには、中枢神経、末梢神経、脳循環、脳脊髄液循環の構造としくみをしっかり理解していることが基礎となる。その上で、その障害を改善するためには、どのような方法をとればよいか説明できるようになることを最終目標とする。

■授業の概要

リハビリテーションの中心分野である神経疾患の知識は、理学、作業療法を行うものにとっては、必須である。まず中枢神経のしくみ(解剖学、生理学の復習となる)を理解し、そのうえで各種障害のメカニズムを学習してゆく。後期では、各種神経疾患を順次学習する。前期に学習した内容、整形外科学ならびに小児科学で学習する内容を繰り返し学習することで、知識の確実な定着をはかる。そして繰り返し行なう小テストと各自が行う問題演習により、知識は更に確実なものになる。将来諸君が現場に出た時に、目の前で生じている障害を的確に判断し、何が生じているかの病態生理を説明でき、自信を持って動く事ができる実用的な知識を伝える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、小児神経疾患
第2回	てんかん
第3回	筋疾患
第4回	脳腫瘍、外傷性脳損傷
第5回	小テスト ①(第1回から4回までの内容)、脳血管障害①
第6回	脳血管障害②
第7回	小テスト ②(第5,6回の内容)、認知症
第8回	変性疾患、脱髄疾患
第9回	小テスト ③(第7,8回の内容) 感染性疾患、中毒性疾患、栄養欠乏による神経疾患
第10回	脊髄疾患、末梢神経疾患
第11回	小テスト ④(第9,10回の内容) 廃用症候群と誤用症候群、排尿障害、性機能障害
第12回	高次脳機能障害(失認、失行、注意障害、遂行機能障害)
第13回	脳神経外科領域の疾患(頭蓋内圧亢進、脳浮腫、脳ヘルニア、髄膜刺激症状)、構音障害、嚥下障害
第14回	小テスト ⑤(第11,12,13回の内容) 総復習① 神経診断技術から診る神経疾患①
第15回	総復習② 神経診断技術から診る神経疾患②

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。チェックシートを傍らに置き、予習でわからなかったチェックシートの項目を、授業中に明らかにすること。膨大なテキストの内容をこなすには、授業に集中することが必須である。

■授業時間外学習にかかわる情報

膨大な内容を短時間で理解するために、授業前にテキストの該当範囲を一読することが必要である。その上で、配布されたチェックシートに従って、学習する。A4のノートの左側にチェックシートを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を教科書から調べ記載してゆくこと(予習)。授業で自分の事前の作業の妥当性を確認し、不明点、誤っていた点は授業中に修正する。授業後、チェックシートを点検したのち、該当範囲の国家試験問題を行う(復習)。

■オフィスパワー

木曜日の授業終了後

■評価方法

筆記試験による期末試験(前期講義の全範囲)で、60%以上の得点を得る事が、成績評価の前提条件である。その上で、学期中に5回行なう小テストの点数を50%(10点x5回)、期末テストの点数に50%(50点)の配分をした点数をもって、成績評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しない。欠席の場合は、如何なる理由でも0点となる。期末の再試験においても、小テストの再試験は実施せず、後期講義の全範囲の内容の100点満点の再試験で、単位修得の可否のみ判定(CまたはD評価のみとなる)する。日頃の健康管理も重要であり、医療人となる者にとっては必須の事項である。各テストは、空欄補充形式の問題と指定範囲内の過去の国家試験問題からなる。

■教科書

- ① 標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 第3版 川平 和美 編集 医学書院
- ② ベッドサイド神経の診かた 第17版 田崎 義昭 著 南山堂

■参考書

授業中に適宜紹介する。

科目名	精神医学	担当教員 (単位認定者)	諸川由実代・石関 圭	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」			
キーワード	精神障害 ライフサイクル メンタルヘルス 自殺 脆弱性-ストレスモデル ICD-10 DSM-IV-TR インフォームド・コンセント 薬物療法 精神療法 リエゾン精神医学 多職種連携 リハビリテーション				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

精神障害リハビリテーションに関わる基本的な疾病の知識や評価・診断の方法、治療・援助の方法を理解・説明できることを目的とする。

〔達成目標〕

- ①精神医学の歴史と精神障害者の処遇について理解・説明することができる。
- ②現代社会とストレス・メンタルヘルスの関係性について理解・説明することができる。
- ③“脆弱性-ストレスモデル”に基づいた精神障害の成因について理解・説明することができる。
- ④精神医学において用いられる診断・評価方法の概要について理解・説明することができる。
- ⑤薬物療法や精神療法、リハビリテーションなどの治療法の一般的枠組みについて理解・説明することができる。
- ⑥精神障害リハビリテーションにおける多職種連携の重要性を理解・説明することができる。
- ⑦各疾患における成因や症状、治療を理解・説明することができる。
- ⑧精神障害者が地域生活を送るためのポイントと課題について理解・説明することができる。

■授業の概要

理学・作業療法士は対象者の身体・精神機能を十分把握した上でリハビリテーションを進めなければならない。本授業では、リハビリテーションに必要となる、精神疾患の成因や症状、診断・評価について学ぶ。また、入院から地域生活に移行するためのおおまかな治療・援助の流れと精神障害領域に関わる職種の連携、障害を持つ人が地域生活を送るためのポイントや課題を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション/精神医学とは/精神障害の成因と分類
第2回	精神機能の障害と精神症状(1)
第3回	精神機能の障害と精神症状(2)
第4回	精神障害の診断と評価
第5回	脳器質性精神障害/てんかん
第6回	症状性精神障害/精神作用物質による精神および行動の障害
第7回	統合失調症およびその関連障害
第8回	気分(感情)障害(1)
第9回	気分(感情)障害(2)
第10回	気分(感情)障害(3)/神経症性障害(1)
第11回	神経症性障害(2)
第12回	神経症性障害(3)/生理的障害および身体要因に関連した障害/成人のパーソナリティ・行動・性・障害
第13回	精神遅滞/心理的発達障害/リエゾン精神医学
第14回	精神機能の治療とリハビリテーション
第15回	心身医学/ライフサイクルにおける精神医学/精神科保健医療と福祉/職業リハビリテーション/社会・文化とメンタルヘルス

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

極力欠席のないようにし、質問は積極的に授業内で行うようにしてください。

〔受講のルール〕

携帯電話はマナーモードもしくは電源を切り、鞆にしまっておくこと。集中して講義に参加してください。

■授業時間外学習にかかわる情報

より効率的に授業を進めるため、事前に十分予習を行ってこよう。また、授業終了後に復習をすること。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

出席率 2/3 以上を試験受験資格とし、筆記試験 100%で判断。

■教科書

上野武治 編:標準理学療法・作業療法学 精神医学 (第4版). 医学書院, 2015

■参考書

上島国利 立山萬里 編:精神医学テキスト 改訂第3版. 南江堂, 2012

科目名	小児科学	担当教員 (単位認定者)	栗原 卓也	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」			
キーワード	成長、発育、発達、新生児、未熟児、先天異常、小児の神経筋疾患				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

出生から成人になるまで、常に成長、発達を遂げる（はずのものが大多数であるが、例外もある）ヒトの、成長、発育、発達の過程をまず理解する。その過程で生じる様々な障害を、リハビリテーション領域に関連の深い、神経、筋骨格系、精神系の疾患を重点的に学習する。そして小児の内科的疾患、外科的疾患、先天異常、遺伝病を学習し、小児におこる様々な問題を理解し、解決できる方法を思考できることを目的とする。

〔到達目標〕

①成長、発育、発達の状態が、正確に評価できる事。②先天異常と遺伝病の概要と各疾患の特徴が説明できること。③神経、筋、骨格系、精神科領域の小児疾患の概要、特徴が説明できること。④小児の内科的疾患の概要が説明できること。

■授業の概要

物言わぬ新生児、乳児、障害を持つ幼児、親の期待に応えようとしてつぶれる学童など、将来の諸君の前には、様々な子供たちが、助けを求めて現われる。そして、その背後には、子供の将来に大いなる不安を抱えた親がいる。目の前の子供に起こっている事を把握し、現状を正確に評価、その子の将来の為に何をなすべきか、さらにはその計画を、子供として親に、的確に説明し、了解を得る能力が必要とされる。これらのテクニックを中心に、授業を進めてゆく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、小児科学 概論Ⅰ：小児の成長・発育・発達
第2回	小児科学 概論Ⅱ：栄養と摂食、小児保健、小児の診断と治療の概要
第3回	新生児・未熟児疾患 Ⅰ
第4回	新生児・未熟児疾患 Ⅱ
第5回	先天異常と遺伝病
第6回	神経・筋・骨系疾患 Ⅰ 中枢神経疾患
第7回	小テスト①（第1回から第5回までの範囲） 神経・筋・骨系疾患 Ⅱ てんかん
第8回	神経・筋・骨系疾患 Ⅲ 脳性麻痺
第9回	神経・筋・骨系疾患 Ⅳ 知的障害・児童精神障害・脊髄疾患・筋疾患・骨関節疾患
第10回	循環器疾患
第11回	小テスト②（第6階から第9回までの範囲） 呼吸器疾患、感染症
第12回	消化器疾患、代謝内分泌疾患
第13回	血液疾患・免疫・アレルギー・膠原病
第14回	腎・泌尿器系、生殖器疾患、腫瘍性疾患
第15回	心身医学的疾患・虐待・重症心身障害児・眼科・耳鼻科的疾患

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。
チェックシート以外の重要点も、随時強調するので、神経を研ぎ澄ませ、聞き漏らさないこと。1時間半の集中！

■授業時間外学習にかかわる情報

授業で配布するチェックシートに従って、要点を整理してゆくこと。A4のノートの左側にチェックシートを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を教科書から調べ記載してゆくこと。これが予習である。授業で自分の作業の妥当性を確認し復習を行う。

■オフィスアワー

木曜日の授業終了後

■評価方法

筆記試験による期末試験で、60%以上の得点を得る事が、成績評価の前提条件である。その上で、学期中に2回行なう小テストの点数を50%（25点×2回）、期末テストの点数に50%（50点）の配分をした点数をもって、成績評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しない。欠席の場合は、如何なる理由でも0点となる。期末の再試験においても、小テストの再試験は実施せず、後期講義の全範囲の内容の100点満点の再試験で、単位修得の可否のみ判定（CまたはD評価のみとなる）する。日頃の健康管理も重要であり、医療人となる者にとっては必須の事項である。各テストは、空欄補充形式の問題と指定範囲内の過去の国家試験問題からなる。

■教科書

標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第4版 編集 富田 豊 医学書院
(第8および9講 神経、筋、骨格系疾患ⅢおよびⅣにおいては、1年次で使用したリハビリテーション医学のテキストも使用する。)

■参考書

授業中に適宜紹介する。

科目名	リハビリテーション入門	担当教員 (単位認定者)	北爪 浩美	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「保健医療とリハビリテーションの理念」			
キーワード	リハビリテーション、ICF、QOL、ノーマライゼーション				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

医療分野でのリハビリテーションの理念を学び、現代社会におけるリハビリテーションのニーズ、WHO分類に基づいた障害の考え方を身につけ、チーム医療の中での作業療法士の役割を理解する。

〔到達目標〕

- ①リハビリテーションについて簡潔に説明することが出来る。
- ②リハビリテーションの諸段階について説明できる。
- ③WHO分類について理解し、説明することが出来る。
- ④リハビリテーションにおけるチーム医療の必要性と概要を説明することが出来る。
- ⑤地域リハビリテーション、QOLについて理解し、説明することが出来る。

■授業の概要

高齢化社会を迎え、地域に根ざしたリハビリテーションは医療と保健、福祉サービスをつなぐ重要な役割を担っている。本講義ではWHO分類に基づく障害の考え方、現代社会におけるリハビリテーション医療の目的と目標を学び、チーム医療における作業療法士の役割を確認する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	リハビリテーションの歴史と理念、目的
第2回	リハビリテーションにおけるノーマライゼーションの考え方
第3回	ICF、ICIDHとは、グループワーク発表
第4回	医学的リハビリテーション、リハの諸段階
第5回	病院見学、班に分かれて県内の病院見学を実施する
第6回	病院見学発表
第7回	リハビリテーションにおける評価と治療
第8回	ライフステージにおける障害特性とリハビリテーション、作業療法

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・授業で配布する資料の予備は保管しないため、欠席した場合は出席者からコピーすること。
- ・授業の流れや雰囲気を乱す行為、常識を欠く行為（私語、携帯電話の使用など）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

病院見学があります。見学する病院について、調べておくこと。

■オフィスアワー

月～水曜日 午前中 時間については事前に申し出ること。

■評価方法

筆記試験 100%

■教科書

栢森良二著：学生のためのリハビリテーション医学概論。第2版。医歯薬出版株式会社。2015
世界保健機関（WHO）：ICF国際生活機能分類。中央法規。2002

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	保健医療福祉論	担当教員 (単位認定者)	大竹 勤	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	作業療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「保健医療とリハビリテーションの理念」			
キーワード	対人援助技術、コミュニケーションスキル、ライフサイクル、社会保障				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

医療福祉従事者に必要なソーシャルワークについて学び、実践できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①ソーシャルワークの意義と目的について理解する。
- ②援助技術の原理原則について理解する。
- ③基本的な援助技法を身につける。

■授業の概要

講義や演習を通して、医療従事者に必要な社会福祉の知識や援助技術の実際について学ぶ。援助技術は「人の生活を支える」重要な技術であり、そのために必要な支援の方法を考える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、自己紹介カード
第2回	障害者の理解、ある筋ジス患者の自立
第3回	対人援助技術の原則
第4回	コミュニケーションスキルを磨こう
第5回	情報を共有し合意すること
第6回	人の一生と社会福祉 各種法制度
第7回	人の一生と社会福祉 事例検討
第8回	援助の基本原則 まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

対人援助サービスに携わる者としての視点で授業に参加すること。
8回の授業なので、欠席が3回以上になると単位認定はできなくなるので注意すること。
演習には積極的に参加すること。授業の流れに反した行動を取る場合には履修しないこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業後

■評価方法

100%筆記試験(レポート試験)による。ただし、宿題や授業中に課すレポートやミニテストの提出状況で加点・減点することがある。

■教科書

授業中に指示する。

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	公衆衛生学	担当教員 (単位認定者)	大竹 一男	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「保健医療とリハビリテーションの理念」			
キーワード	生活単位、家族、ライフスタイル、疫学、母子保健、地球環境				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

公衆衛生の目的は、人々を疾病から守り、健康を保持・増進し、人々に十分な発育を遂げさせ、肉体的・精神的能力を完全に発揮させることである。臨床医学が病気になった個人を対象にしているのに対し、公衆衛生学は個人、家族、地域社会及び全国民の健康の総和を指標として、疾病のみならずすべての健康からの偏りの予防、コントロール、治療のみでなく、積極的な意味での健康の達成を目的としている。従って、単なる治療医学ではなく、予防医学さらには社会における医療制度施設など社会の健康水準を保持・増進するのに必要な社会医学も含まれる。

〔到達目標〕

- ①人々の基本的な生活と人間のあり方、健康と公衆衛生、健康指標と予防、生活環境の保全について学習するとともに、最新データを自らが読み解き、日本が抱える課題・問題等を発見することができる。
- ②専門医療職に従事することを念頭に、クライアントに対して公衆衛生学の領域に関して適切なアドバイスをすることができる。

■授業の概要

人々の基本的な生活と人間のあり方、健康と公衆衛生、健康指標と予防、生活環境の保全について学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	生活単位、家庭生活の基本機能、生活の場と健康について学ぶ
第2回	家族の機能と役割、ライフスタイルの変化、生活習慣の確立、人間の集団としての働きを学ぶ
第3回	公衆衛生の概念、健康と環境について学ぶ
第4回	疫学的方法による健康の理解について学ぶ
第5回	人口静態と人口動態、疾病統計について学ぶ
第6回	母子保健統計について学ぶ
第7回	地球環境、水・空気・土壌、食品管理及び家庭用品について学ぶ
第8回	ごみ、廃棄物、住環境について学ぶ

■受講生に関わる情報および受講のルール

配布プリントに最新の政府発表のデータのURLを紹介するので、予習・復習に役立ててください。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業後

■評価方法

筆記試験 100%

■教科書

みるみるナーシング最新版

■参考書

授業内で適宜紹介する。

3) 專門科目

科目名	作業療法入門	担当教員 (単位認定者)	牛込 祐樹	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「基礎作業療法学」			
キーワード	作業療法、作業、作業療法過程、病院見学				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

作業療法を学ぶにあたり、知っておかなければならない基礎知識を学び、簡潔に説明できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①作業療法がどのような専門職か説明することができる。
- ②作業療法の歴史、原理、理論、対象、領域、病期、圏域について説明することができる。
- ③作業療法過程について述べるができる。
- ④基本的な発表方法を身につける。
- ⑤レポートをまとめることができる。

■授業の概要

本科目は、すべての作業療法専門科目の基礎に位置づけられる。本科目は、専門性の核となる「作業 (occupation)」の定義や範疇を正しく理解し、「作業療法とはどのような専門職か」を学ぶ。前半は、教科書に沿って、作業療法の定義や歴史、原理・理論、対象、領域、病期、作業療法過程、教育について体系的に学習する。後半は、病院見学を通して基本的な作業療法実践を説明できるように取り組む。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション／作業療法とは／作業療法士の養成課程について
第2回	作業療法士の歴史
第3回	作業療法の原理・理論／領域／病期／圏域
第4回	作業療法過程／病院見学に向けて
第5回	病院見学
第6回	病院見学
第7回	病院見学 発表
第8回	作業療法の現状と課題／職能組織・専門職組織

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・発表や見学は出席が前提となるので、体調管理をしっかりすること。

〔受講のルール〕

- ・シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。
- ・授業資料の再発行はしない。授業を休んだ場合は、クラスメートからコピーを取ること。

■授業時間外学習にかかわる情報

グループによる発表を行うため、時間外での情報収集や資料作成などの準備に積極的にかかわること。
学習内容については科目オリエンテーションにて説明する。

■オフィスアワー

金曜日以外

■評価方法

□筆記試験 60% □発表 20% □レポート 20%

■教科書

- ①杉原素子編：作業療法学全書 改訂第3版 第1巻 作業療法概論。協同医書出版
- ②大野義一朗：感染症対策マニュアル第2版。医学書院

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	作業療法入門実習	担当教員 (単位認定者)	山口 智晴	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目 作業療法入門、リハビリテーション医学の知識を必要とする。	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「基礎作業療法学」			
キーワード	作業療法実践過程、コミュニケーション、医療従事者				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

作業療法入門で学んだ作業療法士として必要な知識や技能について、実際の現場を通してそれらを学ぶ。

〔到達目標〕

- ①作業療法士に必要な職業人・医療職としての基本的態度を実践することができる。
- ②見学を通して作業療法に興味を持ち、その実践過程を見学してくる。
- ③実際の臨床現場の見学を通し、作業療法の実践過程、業務内容、対象の特性などをまとめて報告することができる。

■授業の概要

作業療法士が働いている医療機関（身体機能障害領域を中心とした病院）での3日間の見学を通して、作業療法の実践過程や作業療法士の業務内容、作業療法士の対象者などについて学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	事前オリエンテーション、リスク管理（感染予防管理、情報管理など）
第2回	事前オリエンテーション、リスク管理（転倒、コミュニケーション、バイタル確認など）
第3回	学生は県内の各病院施設へ配置される。3日間の見学実習。
第4回	学生は県内の各病院施設へ配置される。3日間の見学実習。
第5回	学生は県内の各病院施設へ配置される。3日間の見学実習。
第6回	学生は県内の各病院施設へ配置される。3日間の見学実習。
第7回	学生は県内の各病院施設へ配置される。3日間の見学実習。
第8回	学生は県内の各病院施設へ配置される。3日間の見学実習。
第9回	学生は県内の各病院施設へ配置される。3日間の見学実習。
第10回	学生は県内の各病院施設へ配置される。3日間の見学実習。
第11回	学生は県内の各病院施設へ配置される。3日間の見学実習。
第12回	学生は県内の各病院施設へ配置される。3日間の見学実習。
第13回	学生は県内の各病院施設へ配置される。3日間の見学実習。
第14回	学生は県内の各病院施設へ配置される。3日間の見学実習。
第15回	実習のまとめ・発表

■受講生に関わる情報および受講のルール

見学先の病院や日時については、決定次第連絡する。OTSとしての立場をよく理解し、それにふさわしい身だしなみや態度で参加すること。実習に不適切な身だしなみや態度で望む場合は、その場で実習を取りやめさせるため、十分注意すること。

見学後、個別にセミナー発表を行う。

■授業時間外学習にかかわる情報

実習前にオリエンテーションを行う。実習の手引きをよく確認しておくこと。見学前に、見学先の病院について十分に事前学習を行っておくこと。また、実習中は日々の見学内容のまとめなども行う。

■オフィスアワー

水曜日16時半～17時半は随時 その他、実習期間の前後は随時受け付け。

■評価方法

課題レポート50%、セミナー発表40%、振り返りシート10%。

■教科書

大野義一郎 監修：感染対策マニュアル第2版、医学書院

■参考書

実習の手引きと配付資料。

科目名	作業療法管理論	担当教員 (単位認定者)	北爪 浩美	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	作業療法専攻4年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「基礎作業療法学」			
キーワード	組織、リスク管理、情報管理、教育、倫理				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

医療従事者としての管理運営の基本的な考え方、組織の在り方、組織の目的などの基本を身につける。

〔到達目標〕

- ・医療分野における作業療法部門の管理運営方法の基本を説明できる。
- ・作業療法士の役割と地域貢献の必要性について説明できる。
- ・職業人として必要な倫理、責任について説明できる。

■授業の概要

多くの作業療法士は、その役割を果たすために他の専門職とともに一つの部門として組織に所属する。組織を形成する一員としての基本的な考え方を学び、作業療法士として地域貢献する意味について理解する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション／組織とは
第2回	部門管理：リスク管理
第3回	部門管理：情報管理
第4回	部門管理：情報管理
第5回	部門管理：教育
第6回	医療倫理
第7回	医療倫理・職業倫理
第8回	作業療法士の職業人としての責任・倫理

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講のルール〕

- ・シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・医療専門職及び対人サービス職として、出席時間の厳守と対象者が好感を持てる態度を身につけることは基本である。そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めないことがあるので注意すること。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

月～水曜日の午前中。時間については事前に申し出ること。

■評価方法

レポート100%

■教科書

杉原素子編：作業療法学全書 改訂第3版 第1巻 作業療法概論. 協同医書出版

亀田メディカルセンター：リハビリテーションリスク管理ハンドブック改訂第2版. メジカルビュー社

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	ひとと作業	担当教員 (単位認定者)	高坂 駿	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目 作業療法入門・運動学の知識が必要となる。	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「基礎作業療法学」			
キーワード	作業 作業活動 作業分析 適応 段階づけ				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

作業療法の基礎となる「作業」の意味の理解とそれを治療的に用いるための基本的な理論と実践方法を学ぶ。

〔到達目標〕

- ①ひとの生活を構成する「作業」について理解・説明することができる。
- ②作業・作業活動の治療的意味を理解・説明することができる。
- ③作業分析の概要を理解・説明することができる。
- ④適応・段階づけの方法を理解・説明することができる。

■授業の概要

「作業」に対する作業療法の基本的視点と理論、作業分析について学ぶ。
また、実際に体験した作業活動を分析することを体験しながら学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション/生活の中の作業
第2回	作業の主観的意味
第3回	作業の文脈
第4回	作業による成長と回復：レポート
第5回	作業療法の視点
第6回	作業分析とは
第7回	作業分析について体験する・考える(マクラメ体験)
第8回	学んだことの振り返り

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

作業療法の基礎となる授業のため、予習復習をしっかりとすること。授業で作成する作品の材料費は各々の負担となる。
成績評価に関する詳細はシラバスを参照すること。

〔受講のルール〕

授業の構成は全ての出席を前提とするため休まないこと。
グループ学習や課題作成があるため、積極的に参加すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

シラバスの内容を基に教科書や配布資料で予習復習すること。分からない箇所はそのままにせず、次回の授業で解決するよう質問や自分で調べたことなどをまとめておく。

■オフィスアワー

金曜日16～17時は随時(変更時は掲示する)。その他の曜日においては要予約。

■評価方法

- 筆記試験 60% (再試験あり。) 60点未満の場合、総合評価の対象としない。
- レポート 20% (再提出あり。期限内に提出されないものは総合評価に含めない。)
- 授業内提示課題 20%

■教科書

吉川ひろみ：「作業」って何だろう，医歯薬出版株式会社，2008

■参考書

- ①中村隆一他：基礎運動学 第6版。医歯薬出版，2003
- ②山根寛(著)：ひとと作業・作業活動 第2版。三輪書店，2006

科目名	ひとと作業活動I	担当教員 (単位認定者)	高坂 駿	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目 ひとと作業、運動学の知識が必要となる。	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「基礎作業療法学」			
キーワード	作業活動 作業分析 適応 段階づけ				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

各種作業を通じて使用物品や作業の特性、作業療法への適応について学び、実践する。

〔到達目標〕

- ①各具体的作業活動についてその工程や使用する道具の正式名称、使用方法などを説明することができる。
- ②基本的な作業分析の視点について理解・説明することができる。
- ③各作業活動について、作品の自由度や段階づけについて説明することができる。

■授業の概要

作業療法入門やひとと作業で学んだ治療手段としての作業・作業活動の意味を実際の作業体験を通して学ぶ。実際に各自で作業活動を体験し、それぞれの作業活動を分析していくことで理解を深める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション/革細工
第2回	革細工
第3回	革細工
第4回	革細工
第5回	革細工
第6回	革細工
第7回	作業特性を分析する
第8回	作業特性を分析する
第9回	織物
第10回	織物
第11回	織物
第12回	織物
第13回	作業特性を分析する
第14回	調理計画
第15回	調理活動

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・各種作業における作業工程や特性、治療的適応等について予習復習しておく。
- ・授業で作成する作品の材料費は各々の負担となる。
- ・成績評価に関する詳細はシラバスを参照すること。

〔受講のルール〕

- ・授業の構成は全ての出席を前提とするため休まないこと。
- ・グループ学習や課題作成があるため、積極的に参加すること。
- ・木工陶芸室を使用し、使用後は掃除・道具の整理・管理を必ず行うこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

シラバスの内容を基に教科書や配布資料で予習復習すること。分からない箇所はそのままにせず、次回の授業で解決するよう質問や自分で調べたことなどをまとめておく。

■オフィスアワー

金曜日 16～17時は随時(変更時は掲示する)。 その他の曜日においては要予約。

■評価方法

筆記試験(論述・客観)60%、包括的作業分析チェックリスト20%、レポート20%。
総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提。

■教科書

古川宏：つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル。医歯薬出版株式会社，2012

■参考書

伊東元(編)：標準理学療法作業療法学 運動学。医学書院，2012

科目名	ひとと作業活動I	担当教員 (単位認定者)	高坂 駿	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目 ひとと作業、運動学の知識が必要となる。	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「基礎作業療法学」			
キーワード	作業活動 作業分析 適応 段階づけ				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

各種作業を通じて使用物品や作業の特性、作業療法への適応について学び、実践する。

〔到達目標〕

- ①各具体的作業活動についてその工程や使用する道具の正式名称、使用方法などを説明することができる。
- ②基本的な作業分析の視点について理解・説明することができる。
- ③各作業活動について、作品の自由度や段階づけについて説明することができる。

■授業の概要

作業療法入門やひとと作業で学んだ治療手段としての作業・作業活動の意味を実際の作業体験を通して学ぶ。実際に各自で作業活動を体験し、それぞれの作業活動を分析していくことで理解を深める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	調理活動：レポート
第17回	エコクラフト
第18回	エコクラフト
第19回	エコクラフト
第20回	エコクラフト
第21回	作業特性を分析する
第22回	モザイク
第23回	モザイク
第24回	モザイク
第25回	モザイク
第26回	作業特性を分析する
第27回	張り子
第28回	張り子
第29回	作業特性を分析する
第30回	学んだことの振り返り

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・各種作業における作業工程や特性、治療的適応等について予習復習しておく。
- ・授業で作成する作品の材料費は各々の負担となる。
- ・成績評価に関する詳細はシラバスを参照すること。

〔受講のルール〕

- ・授業の構成は全ての出席を前提とするため休まないこと。
- ・グループ学習や課題作成があるため、積極的に参加すること。
- ・木工陶芸室を使用し、使用後は掃除・道具の整理・管理を必ず行うこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

シラバスの内容を基に教科書や配布資料で予習復習すること。分からない箇所はそのままにせず、次回の授業で解決するよう質問や自分で調べたことなどをまとめておく。

■オフィスアワー

金曜日16～17時は随時(変更時は掲示する)。その他の曜日においては要予約。

■評価方法

筆記試験(論述・客観)60%、包括的作業分析チェックリスト20%、レポート20%。
総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提。

■教科書

古川宏：つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル。医歯薬出版株式会社，2012

■参考書

伊東元(編)：標準理学療法作業療法学 運動学。医学書院，2012

科目名	ひとと作業活動Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	高坂 駿	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目 ひとと作業・運動学の知識が必要となる。	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「基礎作業療法学」			
キーワード	作業分析 適応 段階づけ 集団活動				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

各種作業を通じて使用物品や作業の特性、作業療法への適応について学び、実践する。

〔到達目標〕

- ①能動的作業が持つ治療効果について、まとめ説明することができる。
- ②作業活動の工程や使用する道具の名称、使用方法などを説明することができる。
- ③作品の自由度や段階づけについて説明することができる。
- ④各作業活動における治療的適応について理解し、説明することができる。
- ⑤治療的観点から作業計画の立案および振り返りを行うことができる。

■授業の概要

ひとと作業活動Ⅰに引き続き、作業療法の治療的手段となる基礎的な作業・作業活動について学習する。実際に作業・作業活動を体験し、作業工程や作業の持つ特性について理解を深める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション/文献抄読
第2回	文献抄読
第3回	文献抄読：レポート
第4回	木工
第5回	木工
第6回	木工
第7回	木工
第8回	木工
第9回	木工
第10回	作業特性を分析する
第11回	陶芸
第12回	陶芸
第13回	陶芸
第14回	陶芸
第15回	陶芸

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・各種作業における作業工程や特性、治療的適応等について予習復習しておく。
- ・授業で作成する作品の材料費は各々の負担となる。
- ・成績評価に関する詳細はシラバスを参照にすること。

〔受講のルール〕

- ・授業の構成は全ての出席を前提とするため休まないこと。
- ・グループ学習や課題作成があるため、積極的に参加すること。
- ・木工陶芸室を使用し、使用後は掃除・道具の整理・管理を必ず行うこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

シラバスの内容を基に教科書や配布資料で予習復習すること。分からない箇所はそのままにせず、次回の授業で解決するよう質問や自分で調べたことなどをまとめておく。

■オフィスアワー

金曜日16～17時は随時(変更時は掲示する)。その他の曜日においては要予約。

■評価方法

筆記試験(論述・客観)60%、包括的作業分析チェックリスト20%、レポート20%。
総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提。

■教科書

古川宏：つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル。医歯薬出版株式会社，2012

■参考書

伊東元(編)：標準理学療法作業療法学 運動学。医学書院，2012

科目名	ひとと作業活動Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	高坂 駿	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目 ひとと作業・運動学の知識が必要となる。	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「基礎作業療法学」			
キーワード	作業分析 適応 段階づけ 集団活動				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

各種作業を通じて使用物品や作業の特性、作業療法への適応について学び、実践する。

〔到達目標〕

- ①能動的作業が持つ治療効果について、まとめ説明することができる。
- ②作業活動の工程や使用する道具の名称、使用方法などを説明することができる。
- ③作品の自由度や段階づけについて説明することができる。
- ④各作業活動における治療的適応について理解し、説明することができる。
- ⑤治療的観点から作業計画の立案および振り返りを行うことができる。

■授業の概要

ひとと作業活動Ⅰに引き続き、作業療法の治療的手段となる基礎的な作業・作業活動について学習する。
実際に作業・作業活動を体験し、作業工程や作業の持つ特性について理解を深める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	作業特性を分析する
第17回	木版画
第18回	木版画
第19回	木版画
第20回	木版画
第21回	木版画
第22回	作業特性を分析する
第23回	個別作業予定表作り
第24回	個別作業予定表作り
第25回	個別作業
第26回	個別作業
第27回	個別作業
第28回	個別作業
第29回	計画の振り返り
第30回	学んだことの振り返り

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・各種作業における作業工程や特性、治療的適応等について予習復習しておく。
- ・授業で作成する作品の材料費は各々の負担となる。
- ・成績評価に関する詳細はシラバスを参照にすること。

〔受講のルール〕

- ・授業の構成は全ての出席を前提とするため休まないこと。
- ・グループ学習や課題作成があるため、積極的に参加すること。
- ・木工陶芸室を使用し、使用後は掃除・道具の整理・管理を必ず行うこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

シラバスの内容を基に教科書や配布資料で予習復習すること。分からない箇所はそのままにせず、次回の授業で解決するよう質問や自分で調べたことなどをまとめておく。

■オフィスアワー

金曜日16～17時は随時(変更時は掲示する)。その他の曜日においては要予約。

■評価方法

筆記試験(論述・客観)60%、包括的作業分析チェックリスト20%、レポート20%。
総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提。

■教科書

古川宏：つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル。医歯薬出版株式会社，2012

■参考書

伊東元(編)：標準理学療法作業療法学 運動学。医学書院，2012

科目名	作業療法研究法	担当教員 (単位認定者)	山口 智晴	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	作業療法専攻3年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「基礎作業療法学」			
キーワード	質的研究・量的研究、統計学、研究計画、倫理				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

研究に関する基本的な知識を習得し、作業療法における学術研究の必要性を理解する。また、医学領域の研究論文を読解する際に必要となる統計学の基本事項について、理解することができる。

〔到達目標〕

- ①研究の種類（手法や目的）の違いと、それぞれの特性を理解できる。
- ②研究の一連の流れを理解するとともに、文献レビューを行うことができる。
- ③研究論文で用いられる基本的な統計手法について理解することができる。

■授業の概要

作業療法の実践には、対象者が生活を送るために必要な課題や目標を見いだすことが必要となる。その過程が作業療法評価である。本科目では、その基本的な枠組みや検査項目を学ぶとともに、実践できる技能を修得する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション。作業療法における研究とは
第2回	作業療法における研究の種類
第3回	研究の一連の流れと研究者の倫理的義務や管理義務について学ぶ
第4回	文献レビュー
第5回	創設論文とメタ・アナリシス
第6回	統計学の基本①
第7回	統計学の基本②
第8回	学会発表、論文執筆について、まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

OTSとしてふさわしい受講態度で臨むこと。
主体的に参加するとともに、休まずに参加すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

各講義は予習を前提に進める。また、受講だけでは技術の修得は難しい。時間外で学生同士の実技練習を行うこと。詳細については、講義の中で説明を行う。

■オフィスアワー

水曜日 16:30～17:30（その他、必要があれば受け付ける。但し、事前に確認をとること）

■評価方法

■期末レポート 70% ■授業内発表課題 30%

■教科書

鎌倉矩子ほか 著 『作業療法士のための研究法入門』 三輪書店 第1版

■参考書

授業内で随時紹介。

科目名	作業療法セミナーⅠ	担当教員 (単位認定者)	作業療法専攻教員 分担	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻3年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「基礎作業療法学」			
キーワード	文献講読、ディスカッション、発表、ポートフォリオ				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

作業療法に関する文献を基に、ディスカッションを重ね理解を深めるとともに、卒業研究における研究テーマ立案のヒントとなることを目的とする。

〔到達目標〕

- ・論文を読むことができるようになる。
- ・自分の意見を論理立てて発言できるようになる。
- ・他人の意見を受け入れ自分の考えを再構築できるようになる。

■授業の概要

A～Eの5班に分かれ、各教員の指導の下で、各自が選んだ文献を読み深めてまとめる。それらをプレゼンテーションすると共に、教員のファシリテーションの基に、そこからディスカッション(問いと応答)を行う。最後に、班ごとにディスカッションで得られた考え・発見を言語化し発表するとともに、作業療法の学問における研究や文献の位置づけについて理解を深める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	文献検索の方法、学術論文の分類、文献抄読について
第3回	目標の確認1 (古田A班/山口B班/悴田C班/牛込D班/高坂E班)
第4回	発表1-① (古田A班/山口B班/悴田C班/牛込D班/高坂E班)
第5回	発表1-② (古田A班/山口B班/悴田C班/牛込D班/高坂E班)
第6回	発表1-③ (古田A班/山口B班/悴田C班/牛込D班/高坂E班)
第7回	中間まとめ
第8回	目標の確認2 (古田A班/山口B班/悴田C班/牛込D班/高坂E班)
第9回	発表2-① (古田A班/山口B班/悴田C班/牛込D班/高坂E班)
第10回	発表2-② (古田A班/山口B班/悴田C班/牛込D班/高坂E班)
第11回	発表2-③ (古田A班/山口B班/悴田C班/牛込D班/高坂E班)
第12回	発表
第13回	発表
第14回	発表
第15回	科目のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

教室指定をするので確認しておくこと。資料を整理するためのA4クリアファイル(厚めの物)を用意しておくこと。

〔受講のルール〕

間違っている、正しくなくても発言すること。他者の発言を糾弾し否定することは許されない。

■授業時間外学習にかかわる情報

ディスカッションには十分な準備が必要である。そのため、必ず配布された文献を読み、関連する資料を集めておくこと。それらはすべてポートフォリオに収める。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

■レポート 40% ■ポートフォリオ 60%

■教科書

授業内で適宜紹介する。

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	作業療法セミナーⅡ	担当教員 (単位認定者)	作業療法専攻教員 分担	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻4年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「基礎作業療法学」			
キーワード	臨床実習、ディスカッション、発表、ポートフォリオ				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

臨床評価実習での経験を基にテーマを選定し、ディスカッションを重ね理解を深めるとともに、臨床総合実習での課題解決のヒントとなることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①臨床評価実習での経験を基に、興味・課題であるテーマを見つけだすことができる。
- ②自分の意見を論理立てて発言できるようになる。
- ③他人の意見を受け入れ自分の考えを再構築できるようになる。
- ④ファシリテーターとしてディスカッションを運営できるようになる。

■授業の概要

A～Eの5班に分かれ、各教員の指導の下で、臨床評価実習での経験を基にテーマを選定し、文献を読み深めてまとめる。それらをプレゼンテーションすると共に、教員のファシリテーションの基に、そこからディスカッション(問いと応答)を行う。最後に、班ごとにディスカッションで得られた考え・発見を言語化し発表するとともに、臨床総合実習での具体的な課題解決につながるように理解を深める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	文献検索の方法、学術論文の分類、文献抄読について
第3回	目標の確認1 (古田A班/山口B班/悴田C班/牛込D班/高坂E班)
第4回	発表1-① (古田A班/山口B班/悴田C班/牛込D班/高坂E班)
第5回	発表1-② (古田A班/山口B班/悴田C班/牛込D班/高坂E班)
第6回	発表1-③ (古田A班/山口B班/悴田C班/牛込D班/高坂E班)
第7回	中間まとめ
第8回	目標の確認2 (古田A班/山口B班/悴田C班/牛込D班/高坂E班)
第9回	発表2-① (古田A班/山口B班/悴田C班/牛込D班/高坂E班)
第10回	発表2-② (古田A班/山口B班/悴田C班/牛込D班/高坂E班)
第11回	発表2-③ (古田A班/山口B班/悴田C班/牛込D班/高坂E班)
第12回	個別発表①
第13回	個別発表②
第14回	個別発表③
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

教室指定をするので確認しておくこと。

〔受講のルール〕

間違っている、正しくなくても発言すること。他者の発言を糾弾し否定することは許されない。

■授業時間外学習にかかわる情報

間違っている、正しくなくても発言すること。他者の発言を糾弾し否定することは許されない。
ディスカッションには十分な準備が必要である。そのため、関連する資料を集めておくこと。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

■レポート 40% ■発表 60%

■教科書

授業内で適宜紹介する。

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	作業療法評価法Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	古田常人・牛込祐樹	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法評価学」			
キーワード	作業療法評価、観察、検査、測定、妥当性、信頼性				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

作業療法の実践にあたって、対象者の利点・問題点・ニーズを探るために行われる作業療法評価の概要を理解し、身体機能の評価について各検査項目の意義と目的・基礎知識・方法を学び、実践できる技能を身につけることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①作業療法過程における評価の意義と目的、位置づけを理解し、評価の時期や手段、記録の管理を理解することができる。
- ②評価の妥当性・信頼性について説明することができる。
- ③身体機能の評価について検査項目とその意義と目的を挙げるができる。
- ④各検査項目の基礎的な知識と方法について説明することができる。
- ⑤各検査項目を自己学習により正確に行う事ができる。

■授業の概要

作業療法の実践には、対象者が生活を送るために必要な課題や目標を見出すことが必要となる。その過程が作業療法評価である。本科目では、生活の基盤となる身体機能の評価について各検査項目の意義と目的・基礎知識・方法を学び、実践できる技能を修得する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション/ 評価概論
第2回	意識の評価/バイタルサインの測定/形態計測/反射検査
第3回	関節可動域測定①: 関節可動域測定について
第4回	関節可動域測定②: 上肢
第5回	関節可動域測定③: 下肢・頸部・体幹
第6回	関節可動域測定 実技テスト
第7回	筋力検査①: 徒手筋力検査 (MMT) について
第8回	筋力検査②: 徒手筋力検査 (MMT) 上肢
第9回	筋力検査③: 徒手筋力検査 (MMT) 下肢
第10回	筋力検査④: 徒手筋力検査 (MMT) 頸部・体幹
第11回	徒手筋力検査 (MMT) 実技テスト
第12回	知覚検査①: 知覚検査について/簡易知覚検査
第13回	知覚検査②: 識別知覚検査/識別能検査
第14回	知覚検査 実技テスト
第15回	筋緊張検査/バランス機能検査/リーチ機能検査/まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

実技を行うので、Tシャツ・ハーフパンツ・学校ジャージを用意しておくこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

測定、検査の実技テストがあるので各自実技練習を実施しておくこと。

■オフィスアワー

金曜日以外

■評価方法

- 筆記試験 60%
- 関節可動域測定 実技テスト 15%
- 徒手筋力検査 (MMT) 実技テスト 15%
- 知覚検査 実技テスト 10%

■教科書

- ①標準理学療法学・作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第2版、医学書院、2011
- ②新・徒手筋力検査法 原著第9版、協同医書出版社、2014

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	作業療法評価法Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	山口 智晴	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目 作業療法入門、解剖学、リハビリテーション医学の知識を必要とする。	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法評価学」			
キーワード	観察、トップダウン、ボトムアップ、評価、STEF、MFT、SIAS、TUG、GOPM、AMPS、JCS				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

作業療法士として必要な、基本的評価技法の知識を習得するとともに、様々な対象者に実践するための基本的技能が修得できる。

〔到達目標〕

- ①作業療法評価の基本的な基本的な考え方・枠組み、基本的な検査項目を学ぶ。
- ②各検査法の目的や利用方法についての基本的知識を得る。
- ③各検査手技を自己学習により正確に行うことができるようになる。

■授業の概要

作業療法の実践には、対象者が生活を送るために必要な課題や目標を見いだすことが必要となる。その過程が作業療法評価である。本科目では、その基本的な枠組みや検査項目を学ぶとともに、実践できる技能を修得する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション。作業療法における評価とは何か。
第2回	情報収集、面接
第3回	観察について
第4回	脳神経、協調性の検査
第5回	脳卒中機能評価法SIAS、脳卒中上肢機能検査MFT
第6回	簡易上肢機能検査：STEF
第7回	脊髄損傷者に対する検査法（ASIA－ISCSCI）
第8回	介護予防：TUG、片脚立位、ファンクショナルリーチなど
第9回	コース立方体組み合わせテスト
第10回	トップダウンアプローチとボトムアップアプローチ
第11回	GOPMやAMPSについて
第12回	うつ、活動性、意欲、セルフエフィカシー、QOLの尺度について。意識・覚醒レベルの評価。
第13回	精神機能の評価：意欲、思考、ICFで構造的にとらえる
第14回	作業療法評価計画、評価の流れ、検査結果の解釈
第15回	作業療法における評価・評価のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

OTSとしてふさわしい受講態度で臨むこと。

実習主体の講義であるため、主体的に参加するとともに、休まずに参加すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

各講義は予習を前提に進める。また、受講だけでは技術の修得は難しい。時間外で学生同士の実技練習などを行うこと。詳細については、講義の中で説明を行う。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

■筆記試験（■論述 ■客観）

評価配分：筆記試験 100%

■教科書

岩崎テル子ほか編：標準作業療法学・専門分野『作業療法評価学』医学書院

澤俊二編：作業療法ケースブック 作業療法評価のエッセンス。医歯薬出版

■参考書

日本作業療法士協会監修：作業療法学全書改訂第3版 作業療法評価学。協同医書出版

科目名	作業療法評価法Ⅲ	担当教員 (単位認定者)	山口 智晴	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻3年次必修科目 神経内科学、作業療法評価法Ⅰ・Ⅱの知識を必要とする。	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る選択		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法評価学」			
キーワード	認知機能検査、高次脳機能障害、認知症				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

作業療法士として必要となる作業療法評価について、ケーススタディーを通して理解を深めることができる。

〔到達目標〕

- ①高次脳機能障害の代表的な各症候に対する評価について理解を深めることができる。
- ②認知機能障害を有する患者の臨床的特徴を理解し、適切な評価方法を説明できる。
- ③認知症について、原因となる代表的な疾患ごとの特徴やその評価について理解することができる。

■授業の概要

高次脳機能障害や前頭側頭葉変性症などの進行性神経変性疾患による認知症など、認知機能低下に対する専門的な評価手法を学ぶ。また、認知機能低下に伴う生活障害を評価する際に重要な視点なども学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	注意障害に対する評価
第3回	Unilateral spatial Neglectのアセスメント
第4回	Agnosiaに対するアセスメント
第5回	Aphasiaに対するアセスメント
第6回	Aplasia、Gerstmann Syndromeに対するアセスメント
第7回	Memoryに対するアセスメント
第8回	executive functionに対するアセスメント
第9回	Social Behavior Disorders /Anosognosia に対するアセスメント
第10回	Wechsler Adult Intelligence Scale-III
第11回	認知症の評価
第12回	Alzheimer's diseaseの臨床像の特徴
第13回	DLB、FTLD、iNPHの評価
第14回	認知症の人の地域生活を支えるために必要なアセスメント
第15回	本科目のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

ふざけた態度や礼を欠く態度を取る者は受講を拒否することがある。
授業に関係ないもの、携帯電話やスマートフォンは机に出さない。
講義で配布した資料は基本的に再配布等を行わない。欠席した者はクラスメートからコピーをとらせてもらうこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

各科目において予習を前提としている。ポートフォリオは予習と復習を含むこと。

■オフィスアワー

水曜日16時半～17時半は随時 その他の曜日においては要予約

■評価方法

評価配分：期末レポート50%、授業内提出課題50%。

■教科書

澤俊二編：作業療法ケースブック 作業療法評価のエッセンス. 医歯薬出版
障害者福祉研究会：ICF 国際生活機能分類—国際障害分類改定版

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	作業療法評価法特論Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	山口 智晴	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻3年次選択科目 リハビリテーション入門、作業療法評価法Ⅰ・Ⅱの知識を必要とする。	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る選択		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法評価学」			
キーワード	ケーススタディー、ICF、COPM、AMPS				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

作業療法士として必要となる作業療法評価について、ケーススタディーなどを通して理解を深める。
また、得られた評価結果を作業療法計画の立案に役立てるための考え方の過程について理解を深める。

〔到達目標〕

- ① ICFを用いて障害を構造的に捉えることができる。
- ② 作業遂行技能を評価するCOPMやAMPSを通し、作業療法独自の視点を学び、理解することができる。
- ③ 作業療法士としての視点で「評価」を捉えることができる。

■授業の概要

作業療法における『作業療法評価』について、視点やその位置づけについてケーススタディーを通して学ぶ。
また、ICFを通して障害を構造的に捉える。COPMやAMPSを通して作業の遂行能力について客観的に捉える方法を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	作業療法評価計画と問題点の抽出/分析、ゴール設定、治療計画の立案について
第3回	作業療法における評価の視点
第4回	作業療法における評価の視点
第5回	ケーススタディー：身体機能に問題を抱えた事例①
第6回	ケーススタディー：身体機能に問題を抱えた事例②
第7回	ケーススタディー：課題のまとめ作業
第8回	ケーススタディー：課題のまとめ作業
第9回	ケーススタディー：課題のまとめ作業
第10回	ケーススタディー：発表
第11回	ケーススタディー：発表
第12回	ケーススタディー：発表
第13回	身体障害領域の評価（バランス・重心移動）
第14回	観察、工程分析
第15回	本科目のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

ふざけた態度や礼を欠く態度を取る者は受講を拒否することがある。
授業に関係ないもの、携帯電話やスマートフォンは机の上に出さない。
講義で配布した資料は基本的に再配布等を行わない。欠席した者はクラスメートからコピーをとらせてもらうこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

初回の科目オリエンテーションにて詳細を説明する。予習や課題の実施を前提に講義を進める。

■オフィスアワー

水曜日16時半～17時半は随時 その他の曜日においては要予約

■評価方法

評価配分：期末レポート50%、授業内提出課題50%。

■教科書

澤俊二編：作業療法ケースブック 作業療法評価のエッセンス. 医歯薬出版
障害者福祉研究会：ICF 国際生活機能分類—国際障害分類改定版

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	作業療法評価法特論Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	悴田 敦子	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻3年次選択科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る選択		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法評価学」			
キーワード	動作分析、ケーススタディ、記録				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

対象者の映像をもとに、動作観察、動作分析を行い、問題点を抽出し、記録できるようになることを目的とする。記録に関しては、専門用語を正しく使用し、自らが言いたいことを簡潔に表現できるようになることを目指す。

〔到達目標〕

- ①作業療法の過程を説明することができる。
- ②評価に必要な情報を列挙し、収集方法をあげることができる。
- ③動作観察から動作手順、動作の特徴を専門用語を使用し記録することができる。
- ④ICFを用いて対象者の問題点・利点を列挙し、目標を設定、プログラム立案を指定した形式のレポートにまとめることができる。

■授業の概要

ケーススタディを通して、作業療法評価の流れを確認し、評価項目の選択、評価計画の立案、問題点の抽出、作業療法目標の設定、作業療法プログラムの立案までを学びます。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、作業療法評価の流れについて
第2回	記録について
第3回	ケーススタディ：動作分析のポイント
第4回	ケーススタディ：動作分析
第5回	ケーススタディ：動作分析
第6回	ケーススタディ：動作分析
第7回	ケーススタディ：動作分析
第8回	ケーススタディ：面接、評価計画
第9回	ケーススタディ：情報収集
第10回	ケーススタディ
第11回	ケーススタディ：情報収集、動作分析、身体機能評価
第12回	ケーススタディ：情報収集、動作分析、身体機能評価
第13回	ケーススタディ：情報収集、動作分析、身体機能評価
第14回	ケーススタディ：動作分析
第15回	ケース発表、まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

ケーススタディでは各自ケースノートを作成し、授業終了後にまとめること。
問題点抽出はICFを使用するため、復習しておくこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

火曜日以外

■評価方法

レポート 100%

■教科書

- 1) 岩崎テル子他編：標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学. 第2版. 医学書院
- 2) 岩崎テル子編：標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学. 医学書院
- 3) 障害者福祉研究会編：ICF国際生活機能分類, 国際障害分類改訂版, 中央法規

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	身体機能作業療法学Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	山口 智晴	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目 運動学、解剖学、生理学、リハビリテーション医学、神経科学の知識を必要とする。	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	脳血管疾患、片麻痺、痙縮、連合反応、共同運動				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

作業療法士として必要な、脳血管疾患・頭部外傷に対する基本的な知識や技術について学ぶ。

〔到達目標〕

- ①脳血管疾患・頭部外傷に伴って生じる様々な臨床症状の知識を習得できる。
- ②脳血管疾患の対象者に対する作業療法の基本的な流れを理解できる。
- ③脳血管疾患と頭部外傷の違いを説明することができる。

■授業の概要

本科目では、複雑な運動障害、感覚障害、認知障害などの症状を呈する“脳血管疾患”に対する評価や治療方法を中心に、実技も交えながら学習する。また、基本的な作業療法評価から治療計画までの“流れ”と“考え方”についても学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション。学ぶべき事項の確認、学習課題の抽出。脳血管障害について、基本的事項の復習。
第2回	脳血管障害の各病期における作業療法の流れについて学ぶ
第3回	共同運動と連合反応について学ぶ。
第4回	中枢性運動麻痺の回復過程や、予後について学ぶとともに、片麻痺機能や回復段階を評価する方法を学ぶ。
第5回	中枢神経障害による運動麻痺の回復(前回の続き) 不随意運動、運動失調について
第6回	不随意運動、失調について、Br.Stageテストの小テスト
第7回	具体的介入法・急性期：リスク管理やポジショニングなど
第8回	具体的介入法・亜急性期～回復期：facilitationテクニック、特徴と適応
第9回	具体的介入法・回復期：麻痺の回復段階に応じた作業活動について、発表
第10回	具体的介入法・回復期：麻痺の回復段階に応じた作業活動、手指の基本的機能と書字訓練
第11回	具体的介入法・回復期：麻痺の回復段階に応じた作業活動、ADLに配慮したアプローチ
第12回	脳血管障害の各病期におけるOTの役割
第13回	外傷性脳損傷における作業療法
第14回	外傷性脳損傷の続き、OTの流れ(脳血管障害のモデルケースを通して学ぶ)
第15回	病期/重症度/ライフステージなど様々な要素に配慮した治療計画の立案について。 本科目のまとめ。

■受講生に関わる情報および受講のルール

OTSとしてふさわしい授業態度で参加すること。

実技も含まれるため、実技の含まれる講義では学校指定ジャージなどを用意しておくこと。

授業概要を確認し、積極的に授業に臨むこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

初回の科目オリエンテーションにて詳細を説明する。15回の講義で効率的に学習を進めるため、事前学習を前提としている。また、実技に関しては授業外の時間に各自で練習しておくこと。

■オフィスアワー

水曜日16時半～17時半は随時 その他の曜日においては要予約

■評価方法

■筆記試験(口論述 ■客観) ■レポート □口頭試験 □実地試験 ■その他
評価配分：筆記試験60%、授業内提出課題・小テスト40%。

■教科書

岩崎テル子 編 『標準作業療法学 身体機能作業療法学』 医学書院

■参考書

菅原洋子 編 『作業療法全書 作業療法治療学1 身体障害』 協同医書出版社

千田富義 編 『リハ実践テクニック 脳卒中』 メジカルビュー社

Ortrud Eggers 著 『エガース・片麻痺の作業療法』 協同医書出版

科目名	身体機能作業療法学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	山口 智晴	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目 運動学Ⅰ/Ⅱ、解剖学Ⅰ/Ⅱ、生理学Ⅰ/Ⅱ、 リハビリテーション医学、整形外科の知識を必要とする。	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	骨関節疾患、骨折、ROM、筋力増強練習、クリニカルパス				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

作業療法士として必要な、整形外科疾患に対する基本的な知識や技術について学ぶ。

〔到達目標〕

- ①整形外科疾患や内部障害に伴って生じる臨床症状や、生活上の支障についての知識を習得できる。
- ②治療上使用する物理療法の基本についての知識を習得できる。
- ③関節可動域練習や筋力増強練習などの基本的な手技について、知識と実技を身につけることができる。

■授業の概要

本講義では身体機能に対する作業療法を実施するために必要な知識・技術を学習する。特に、整形外科的疾患の中でも、比較的経験することの多い骨関節疾患を中心として、評価や治療計画立案、実際の介入方法について実技も交えながら概要を学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション／骨折に対するリハの流れと、OTの役割について学び／クリニカルパス
第2回	関節可動域訓練の治療原理
第3回	関節可動域練習の実際、筋力増強訓練の治療原理
第4回	筋力増強練習の治療原理とその実際
第5回	物理療法について①（ホットパック、パラフィン浴、過流浴、極超短波治療器、超音波治療器など）
第6回	物理療法について②（ホットパック、パラフィン浴、過流浴、極超短波治療器、超音波治療器など）
第7回	治療① 上腕骨折や下肢骨折者、THA後の介入の実際
第8回	治療② 上腕骨折や下肢骨折者、THA後の介入の実際
第9回	治療③ 熱傷や関節リウマチ
第10回	治療④ 内部障害のある人へのアプローチ
第11回	治療⑤ 内部障害のある人へのアプローチ
第12回	末梢神経損傷に対する作業療法①
第13回	末梢神経損傷に対する作業療法② 学習確認小テスト
第14回	肩関節周囲炎、腰痛、変形性関節症
第15回	身体機能に対する作業療法を実践するための基本的な手技などのまとめをする。本科目のまとめ。

■受講生に関わる情報および受講のルール

OTSとしてふさわしい授業態度で参加すること。
実技も含まれるため、実技の含まれる講義では学校指定ジャージなどを用意しておくこと。
授業概要を確認し、積極的に授業に臨むこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

初回の科目オリエンテーションにて詳細を説明する。15回の講義で効率的に学習を進めるため、事前学習を前提としている。また、実技に関しては授業外の時間に各自で練習をしておくこと。

■オフィスアワー

水曜日16時半～17時半は随時 その他の曜日においては要予約

■評価方法

■筆記試験（口論述 ■客観）、■その他
評価配分：筆記試験80%、授業内提出課題・小テスト20%。

■教科書

岩崎テル子 編 『標準作業療法学 身体機能作業療法学』 医学書院

■参考書

菅原洋子 編 『作業療法全書 作業療法治療学1 身体障害』 協同医書出版社 その他は、随時講義中に紹介。

科目名	精神機能作業療法学I	担当教員 (単位認定者)	高坂 駿・遠藤真史	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目 主に臨床心理学、精神医学の知識が必要となる。	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	モラルトリートメント 障害者総合支援法 リハビリ 評価 地域				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

精神障害リハビリテーションおよび作業療法の基本的な考え方や評価・治療・支援・フィードバックに関する基礎的な知識について理解・説明できることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①精神医療の歴史・精神保健医療福祉の流れと作業療法の関係について理解・説明することができる。
- ②精神科領域における作業活動の手段・目的としての活用について理解・説明できる。
- ③精神科領域における作業療法評価（観察・面接・集団・検査）やプログラム作成の原則について理解・説明することができる。
- ④精神科作業療法における治療・援助の構造や治療理論の基礎について理解・説明することができる。
- ⑤精神疾患の病期や領域に応じた作業療法の関わりを理解・説明することができる。
- ⑥地域移行・定着支援の概要について理解・説明することができる。

■授業の概要

精神科領域におけるリハビリテーションおよび作業療法についての基本的な視点、実際の作業療法評価や治療の原則など、対象者の治療に必要な基礎知識に関して学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション/こころの病と精神科
第2回	精神障害リハビリテーション及び作業療法の歴史と現状：レポート
第3回	精神保健/関連法規
第4回	対象理解と評価
第5回	作業療法の基本的な視点と方法（作業・作業活動を介した回復支援・生活支援）
第6回	作業療法の基本的実践論（治療構造と実践形態/実践のプロセス）
第7回	作業療法の基本的実践論（病期に応じた生活支援：急性期、回復期、生活期、予防期）
第8回	精神機能作業療法評価の基礎（情報収集・観察法）
第9回	精神機能作業療法評価の基礎（面接法）
第10回	精神機能作業療法評価の基礎（集団評価法）
第11回	精神機能作業療法評価の基礎（検査法）
第12回	精神障害者の自立支援とチーム医療・チームケア
第13回	障害福祉サービスとケアマネジメントの基礎
第14回	精神障害者の地域移行支援～退院支援の仕組みとコツ～
第15回	学んだことの振り返り

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・予習復習をしっかりとる。
- ・成績評価に関する詳細はシラバスを参照すること。

〔受講のルール〕

- ・講義は欠席のないようにする。
- ・授業内外問わず、積極的に自ら調べたり、質問をする。
- ・授業中の私語など他学生に迷惑となる行為は禁止。

■授業時間外学習にかかわる情報

シラバスの内容を基に教科書や配布資料で予習復習すること。分からない箇所はそのままにせず、次回の授業で解決するよう質問や自分で調べたことなどをまとめておく。

■オフィスアワー

水曜日16～17時は随時（変更時は掲示する）。その他の曜日においては要予約。

■評価方法

- 筆記試験 80%（再試験あり。）60点未満の場合、総合評価の対象としない。
- レポート 20%（再提出あり。期限内に提出されないものは総合評価に含めない。）

■教科書

- ①日本作業療法士協会 監修：作業療法学全書 改訂第3版 作業療法治療学2 精神障害, 2010
- ②岩崎テル子他 編：作業療法評価学. 医学書院, 2009

■参考書

香山明美他：生活を支援する 精神障害作業療法—急性期から地域実践まで—。医歯薬出版, 2008

科目名	精神機能作業療法学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	高坂 駿・遠藤真史	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目 主に臨床心理学、精神医学の知識が必要となる。	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	回復過程 作業療法評価 on the jobtraining ICF ケアマネジメント				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

精神科作業療法で対象となる各疾患の評価や目標の設定・治療・支援方法等、一般的な枠組みを理解・説明できることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①各疾患や障害のもつ医学的な特徴を理解・説明することができる。
- ②各疾患における精神機能作業療法評価、目標・治療計画の設定を理解・説明・実施できる。
- ③精神疾患を持つ方の生活障害を理解・説明することができる。
- ④精神科病院における長期入院者の現状と退院支援のあり方を理解・説明することができる。
- ⑤演習を通じて精神疾患を持つ方の地域生活支援・就労支援における作業療法の実践および、ケアマネジメントの展開について理解・説明することができる。

■授業の概要

ICFに基づいた精神疾患における評価～目標設定までを学び、演習を通して実践する。また、幅広いライフステージや回復過程に応じた精神科作業療法の実践および地域生活支援の視点・実践について学習をする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション/精神障害領域における作業療法評価
第2回	統合失調症、統合失調症様障害および妄想性障害
第3回	気分(感情)障害
第4回	精神作用物質使用による精神および行動の障害
第5回	神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害
第6回	成人の人格(パーソナリティ)及び行動障害
第7回	生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群
第8回	てんかん
第9回	事例を通じた作業療法評価・目標設定・計画立案
第10回	事例を通じた作業療法評価・目標設定・計画立案
第11回	事例を通じた作業療法評価・目標設定・計画立案：レポート
第12回	精神障害のOT評価グループワーク
第13回	精神障害のOT評価(野中式事例検討)
第14回	精神障害者のケアマネジメントの基礎
第15回	学んだことの振り返り

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・予習復習をしっかりとる。
- ・成績評価に関する詳細はシラバスを参照すること。

〔受講のルール〕

- ・講義は欠席のないようにする。
- ・授業内外問わず、積極的に自ら調べたり、質問をする。
- ・授業中の私語など他学生に迷惑となる行為は禁止。

■授業時間外学習にかかわる情報

シラバスの内容を基に教科書や配布資料で予習復習すること。分からない箇所はそのままにせず、次回の授業で解決するよう質問や自分で調べたことなどをまとめておく。

■オフィスアワー

水曜日16～17時は随時(変更時は掲示する)。その他の曜日においては要予約。

■評価方法

- 筆記試験 80% (再試験あり。) 60点未満の場合、総合評価の対象としない。
- レポート 20% (再提出あり。期限内に提出されないものは総合評価に含めない。)

■教科書

- ①小林夏子 編：標準作業療法学 精神機能作業療法学。医学書院，2009
- ②岩崎テル子他 編：作業療法評価学。医学書院，2009

■参考書

- ①香山明美他：生活を支援する 精神障害作業療法—急性期から地域実践まで—。医歯薬出版，2008

科目名	発達過程作業療法学Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	北爪 浩美	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻3年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	発達検査、評価、治療プログラム				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

発達検査について学び、作業療法評価への応用について考察する。また、作業療法で使用する検査について学び、実施と結果についての解釈の方法を学習し、児の全体像の把握および適切な治療目標を立てることが出来るようになる事を目的とする。

〔到達目標〕

- ①発達過程作業療法で使用する検査バッテリーについて理解し、実施することができる。
- ②各検査から得られた結果を評価し、作業療法で取り組む内容を抽出することができる。
- ③作業療法の目的を達成するための治療プログラムを立案することができる。
- ④対象児の将来像までを見据えた生活上の提案をすることができる。

■授業の概要

発達過程の作業療法対象者に対する評価について、検査バッテリーの紹介と実施方法について学び、対象者に対して実施できる力を身につける。また、各疾患への評価の適応や結果の解釈について考察し、治療プログラム立案までの道筋を考える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、発達過程における作業療法の理念と役割
第2回	発達過程作業療法における評価と治療の実践課程
第3回	発達過程の基礎知識と治療への応用
第4回	発達の評価・検査バッテリー
第5回	作業療法評価に必要な運動発達の視点(0～12か月)
第6回	作業療法評価に必要な運動発達の視点(1歳～6歳)
第7回	感覚統合理論と認知機能の発達
第8回	対応行動の発達と注意機能①
第9回	対応行動の発達と注意機能②
第10回	学習と社会性の発達と評価
第11回	地域における発達支援と特別支援教育①
第12回	地域における発達支援と特別支援教育②
第13回	疾患別作業療法の実際①脳性麻痺
第14回	疾患別作業療法の実際②神経筋疾患
第15回	疾患別作業療法の実際③発達障害

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・授業で配布する資料の予備は保管しないため、欠席した場合は出席者からコピーすること。
- ・シラバスを確認し授業に臨むこと。
- ・授業の流れや雰囲気を乱す行為、常識を欠く行為(私語、携帯電話の使用など)は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

月～水曜日の午前中。時間は事前に申し出ること。

■評価方法

筆記試験 100%

■教科書

日本作業療法協会監修：作業療法学全書改訂第3版 6. 発達障害. 協同医書出版社. 2010
日本作業療法協会監修：作業療法学全書改訂第3版 3. 作業療法評価学. 協同医書出版社. 2009

■参考書

シラバス参照のこと。

科目名	発達過程作業療法学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	北爪 浩美	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻3年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	発達過程、特別支援教育、感覚運動、感覚統合、あそび				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

発達過程における作業療法の対象疾患とその症状、作業療法の目的と方法について理解し、実施しうる能力を身につけることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①発達過程作業療法の対象疾患と対象児について理解し、発達過程における作業療法の目的を説明できる。
- ②発達過程作業療法の対象疾患の臨床像、評価、治療について説明できる。
- ③対象児者が地域社会で暮らすための方法や他職種との連携について説明できる。

■授業の概要

近年、特別支援教育については、教育あるいは医療、福祉領域において、その取り組みがめざましく発展し、対象児の可能性を広げるために取り組んでいる。本講義では乳児期から青年期までを対象とした作業療法について学び、発達途上にある児についての生物学的視点と心理・社会的視点を身につけ、家庭生活や教育環境などで生かすことの出来る適切な援助方法について考える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	発達障害領域での作業療法の理念と役割
第2回	発達過程作業療法における障害の概要①肢体不自由
第3回	発達過程作業療法における障害の概要②肢体不自由
第4回	発達過程作業療法における障害の概要③発達障害
第5回	発達過程作業療法における障害の概要④発達障害
第6回	地域における発達支援
第7回	発達過程作業療法の実際①小児病院での作業療法
第8回	発達過程作業療法の実際②小児病院での作業療法
第9回	発達過程作業療法の実際③在宅での作業療法
第10回	発達過程作業療法の実際④在宅での作業療法
第11回	発達過程作業療法の実際⑤地域クリニックでの作業療法
第12回	発達過程作業療法の実際⑥地域クリニックでの作業療法
第13回	発達過程作業療法の実際⑦地域での作業療法
第14回	発達過程作業療法の実際⑧地域での作業療法
第15回	発達過程作業療法の課題

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・授業で配布する資料の予備は保管しません。

〔受講のルール〕

- ・シラバスを必ず確認し授業に臨むこと。
- ・授業の流れや雰囲気等を乱す行為、常識を欠く行為（私語、携帯電話の使用など）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

月～水曜日の午前中。時間については事前に申し出ること。

■評価方法

レポート100%

■教科書

日本作業療法協会監修：作業療法学全書改訂第3版 6. 発達障害. 協同医書出版社. 2010

■参考書

シラバスを参照すること。

科目名	高齢期作業療法学I	担当教員 (単位認定者)	悴田 敦子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻3年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	高齢期特徴、生活、役割、作業療法過程、認知症、ターミナル				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

加齢とともに起こる身体的変化、精神的変化、生活の変化などを学び、様々な高齢者に対する作業療法について理解することを目的とする。

〔到達目標〕

- ①高齢者を取り巻く社会の現状を説明することができる。
- ②高齢期の身体的特徴や、特徴的な疾患について説明することができる。
- ③高齢期の作業療法実践の基本的枠組みを説明することができる。
- ④認知症および特徴的な疾患の作業療法アプローチを説明することができる。

■授業の概要

高齢者の身体・精神・生活などについて学び、老年期障害領域での作業療法の実際や、作業療法士が果たす役割を理解する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、高齢社会について
第2回	高齢期の一般的特徴、高齢期に多い疾患について
第3回	高齢期の一般的特徴、多い疾患について
第4回	高齢期作業療法の過程について
第5回	病期・場所に応じた治療・援助の違いについて
第6回	認知症の定義と分類について
第7回	認知症の症状と評価
第8回	アルツハイマー型認知症
第9回	認知症の評価と作業療法
第10回	認知症高齢者のOT
第11回	認知症高齢者の症例検討
第12回	虚弱高齢者、寝たきり高齢者の作業療法
第13回	終末期の作業療法
第14回	健康な高齢者のOT
第15回	健康な高齢者のOT、まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

グループでの症例検討では、積極的な意見交換に努めてください。
体操を行う時は動きやすい服装で受講してください。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

火曜日以外

■評価方法

筆記試験 100%

■教科書

松房利憲, 小川恵子編 : 標準作業療法 専門分野 高齢期作業療法学. 第3版, 医学書院

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	高齢期作業療法学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	古田常人・高坂 駿	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻3年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	地域包括ケアシステム、地域ケア会議、介護予防、生活行為向上マネジメント				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

高齢期領域に関連する医療保健福祉の現状を理解し、高齢者を地域で支援するための考え方や具体的手段を身に付ける。また、「生活行為向上マネジメント(MTDLP)」を活用できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①時代背景を踏まえた地域包括ケアシステムの役割について理解・説明することができる。
- ②健康高齢者に対する介護予防の考え方や具体的な方法に関して理解・説明することができる。
- ③地域ケア会議の概要およびその方法について理解し、実践することができる。
- ④MTDLPを用いて対象者のアセスメントを実施することができる。
- ⑤MTDLPを用いて対象者のプランを作成することができる。

■授業の概要

- ・超高齢化社会である日本の医療保健福祉の現状を理解した上で、高齢期作業療法に関連する評価・支援技術、多職種連携の方法等について学ぶ。
- ・「生活行為向上マネジメント」が開発された経緯、マネジメントの流れ、各書式の内容等について学び、実践的に活用できるよう自身でも一連のプロセスを経験する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、地域包括ケアシステムとは
第2回	総合支援事業/介護予防
第3回	介護予防演習
第4回	介護予防実践演習①
第5回	介護予防実践演習②
第6回	模擬地域ケア会議演習①
第7回	模擬地域ケア会議演習②
第8回	高齢者の生きてきた時代・高齢者の趣味・興味・生きがいを探る
第9回	生活行為向上マネジメント
第10回	マネジメントツールの使い方①
第11回	マネジメントツールの使い方②
第12回	生活行為向上マネジメント演習①
第13回	生活行為向上マネジメント演習②
第14回	生活行為向上マネジメント演習③
第15回	学んだことの振り返り

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・グループワークが中心となる。

〔受講のルール〕

- ・シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・医療専門職及び対人サービス職として、出席時間の厳守と対象者が好感を持てる態度を身につけることは基本である。そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めないことがあるので注意すること。
- ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時間外学習の内容については科目オリエンテーションにて説明します。

■オフィスアワー

水曜日16時～17時は随時(変更時は掲示する) その他の曜日においては要予約

■評価方法

評価配分：筆記試験60%、課題40%。総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提。詳細はシラバスを参照すること。

■教科書

(社)日本作業療法士協会：作業療法マニュアル57 生活行為向上マネジメント。(社)日本作業療法士協会 2014

■参考書

吉川ひろみ：「作業」ってなんだろう 作業科学入門。医歯薬出版

科目名	ひとと暮らしI	担当教員 (単位認定者)	悴田 敦子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	ADL、IADL、評価				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

作業療法士として必要なADL・IADLを評価する力と介入する手法を身につけることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①代表的なADL・IADL評価を説明することができる。
- ②ADL各項目の観察ポイントを挙げるができる。
- ③基本動作の観察ポイントを挙げるができる。
- ④評価結果をまとめることができる。

■授業の概要

ひとが暮らしていくとはどのようなものか。暮らし・生活の中で行われる様々な活動に目を向け、作業療法士としての視点で評価することを学びます。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション／ADL・IADLとは
第2回	ADLにおける自立について
第3回	基本動作①
第4回	基本動作②
第5回	ADL評価/Barthel Index,FIM①
第6回	ADL評価/Barthel Index,FIM②
第7回	ADL評価/IADL評価、老研式
第8回	ADL評価/AMPS①
第9回	ADL評価/AMPS②
第10回	ADL評価/AMPS③
第11回	ADL評価/AMPS④
第12回	ADL評価/食事動作
第13回	ADL評価/更衣動作
第14回	ADL評価/排泄動作
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・実習の際は動きやすい服装で受講すること。
- ・メモがしやすいように筆記用ボードを用意しておくこと。
- ・スマホ・タブレット・デジカメ等、静止画・動画が撮影できる機器を準備する。

〔受講のルール〕

- ・シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・医療専門職及び対人サービス職として、出席時間の厳守と対象者が好感を持てる態度を身につけることは基本である。そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めないことがあるので注意すること。
- ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時間外学習の内容については科目オリエンテーションにて説明する。

■オフィスアワー

火曜日以外

■評価方法

■筆記試験（■論述 ■客観） □レポート □口頭試験 □実地試験 □その他
評価配分：筆記試験 100%

■教科書

- ①濱口豊太編：標準作業療法専門分野 日常生活活動・社会生活行為学。医学書院，2014
- ②標準作業療法専門分野 作業療法評価学，医学書院

■参考書

伊藤利之編：新版 日常生活活動（ADL）－評価と支援の実際－。医歯薬出版，2010

科目名	ひとと暮らしⅡ	担当教員 (単位認定者)	悴田 敦子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	住宅改修、福祉用具、自助具、関節リウマチ、脊髄損傷、職業関連活動				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

ADLやIADLを改善・向上するために必要な評価と治療の知識を身につける。また、障害別の評価・介入の方法を学ぶ。

〔到達目標〕

- ・障害別ADLの評価から治療・介入までを説明することができる。
- ・福祉用具の特徴を説明できる。
- ・自助具を作成することができる。
- ・障害別ADL練習を説明することができる。

■授業の概要

ADLやIADLを改善・向上するためには、運動機能と動作・活動の關係に留意した評価が必要となり、その後機能の改善・回復または代償動作・手段の検討が必要となります。本講義では障害別の評価をもとに、対象者にとって必要な治療について学びます。また、介入方法の1つとして考えられる自助具について、実際に製作することで適応や応用について学びます。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション/ADLの評価と治療①
第2回	ADLの評価と治療②
第3回	障害別ADL：脳血管障害①
第4回	障害別ADL：脳血管障害②
第5回	障害別ADL：脳血管障害③
第6回	障害別ADL：脊髄損傷①
第7回	障害別ADL：脊髄損傷②
第8回	障害別ADL：関節リウマチ①
第9回	障害別ADL：関節リウマチ②
第10回	自助具①
第11回	福祉用具①
第12回	福祉用具②
第13回	自助具②
第14回	住宅改修
第15回	職業関連活動、まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・「ひとと暮らしⅠ」での内容をもとに進めるため、授業で使用した資料やノートを準備しておくこと。

〔受講のルール〕

- ・シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・医療専門職及び対人サービス職として、出席時間の厳守と対象者が好感を持てる態度を身につけることは基本である。そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めないことがあるので注意すること。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時間外学習の内容については科目オリエンテーションにて説明します。

■オフィスアワー

火曜日以外

■評価方法

■筆記試験（■論述 ■客観） □レポート □口頭試験 □実地試験 ■自助具作成&ポスター発表

評価配分：筆記試験 80%、自助具作成&ポスター発表 20%

総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提となる。

■教科書

濱口豊太編：標準作業療法専門分野 日常生活活動・社会生活行為学. 医学書院, 2014

■参考書

伊藤利之編：新版 日常生活活動（ADL）－評価と支援の実際－. 医歯薬出版, 2010

科目名	義肢装具学	担当教員 (単位認定者)	牛込 祐樹	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻3年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	義手、義足、スプリント				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

義肢装具の概念、対象となる疾患・障害、処方・製作までの流れを学び、義肢装具の基本的な目的と原理を学ぶ。また、主な義肢装具の分類・名称・構造を知り、対象者にとってどのような義肢装具が必要であるか考える。さらに、作業療法士が良肢位保持や変形防止などのために製作するスプリントについて学び、実際に製作する。

〔到達目標〕

- ①切断の種類とそれに合わせた義肢の種類を言うことができる。
- ②義肢の種類及び各パーツの名称を言うことができる。
- ③上肢・下肢・体幹の装具の種類と目的、対象疾患を言うことができる。
- ④スプリントの種類と対象疾患、治療目的を言うことができる。
- ⑤代表的なスプリントを製作し、対象者に合わせた修正を行うことができる。

■授業の概要

作業療法で対象となる各種装具・スプリントと、国家試験で出題される各種義肢・装具の名称及びその特徴と対象疾患について学ぶ。また、代表的なスプリントの製作から、その特徴や治療目的を理解し、フィッティングなどの技術も学んでいく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、義肢・装具・スプリントとは
第2回	義手の分類・名称・構造・機能について
第3回	義手のチェックアウト、筋電義手
第4回	下肢切断と義足
第5回	装具とは／上肢装具について
第6回	下肢装具について／体幹装具について／義肢、装具のまとめ
第7回	スプリント総論
第8回	スプリント製作の流れ
第9回	スプリント製作（短対立スプリント）
第10回	スプリント製作（掌側カックアップスプリント）
第11回	スプリント製作（背側カックアップスプリント）
第12回	スプリント製作（動的指伸展用スプリント）①
第13回	スプリント製作（動的指伸展用スプリント）②
第14回	スプリント製作（指用スプリント）
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・各種義肢・装具・スプリントを装着することが多く、また、後半はスプリント製作も行うため、作業のしやすい服装を心がけること。
- ・スプリント製作では各自タオルを用意すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

金曜日以外

■評価方法

筆記試験 100%

■教科書

日本整形外科学会・日本リハビリテーション医学会監：義肢装具のチェックポイント第8版，医学書院，2014

■参考書

リハ実践テクニック ハンドセラピー 齋藤慶一郎 編 メジカルビュー社

科目名	作業療法治療学I	担当教員 (単位認定者)	北爪 浩美	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	作業、作業療法原理、EBOT				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

作業療法の原理に基づく治療としての「作業」について学び、実践へ向けての考察ができるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①作業療法の原理について説明できる。
- ②治療としての「作業」の意味について説明できる。
- ③作業療法における理論について説明できる。
- ④領域別作業療法における目的と目標、方法について説明できる。

■授業の概要

ひとは日常生活や学習、趣味、仕事の場において「作業」を行う。個人の考えや主張は動作を実現する手や全身を使って表現され、その人らしさが社会における自らの存在を証明する。「作業」は生きることそのものであり、作業療法士はその対象となるひとが自己の望む作業に取り組めるように治療・指導・援助する専門職である。従って作業療法士は①作業は人間にとって不可欠である②作業は内的・外的要請に応じて変化する③作業療法士は健康と幸福増進のために作業を治療の手段として使用できる、という原則に基づく対応しなければならない。本講義ではこの原理に基づく治療について学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、作業療法の原理
第2回	作業療法の理論 人間作業モデル [MOHO]
第3回	人間作業モデル 作業療法における治療
第4回	神経発達理論 [NDT]
第5回	文献抄読 作業療法における治療、身体感覚認知と作業療法
第6回	「作業療法における治療、身体感覚認知と作業療法」発表
第7回	作業療法における治療理論① [生体力学的理論]
第8回	作業療法における治療理論② [神経発達理論]
第9回	作業療法における治療理論③ [感覚統合理論]
第10回	作業療法における姿勢・動作分析と作業の解釈について
第11回	動作分析による行動評価と作業療法プログラム①
第12回	動作分析による行動評価と作業療法プログラム②発表
第13回	動作分析による行動評価と作業療法プログラム③
第14回	動作分析による行動評価と作業療法プログラム④発表
第15回	まとめ 領域別作業療法の実際

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・白衣着用が必要な場合には事前に連絡する。
- ・授業で配布する資料の予備は保管しないため、欠席した場合は出席者からコピーすること。
- ・シラバスを確認し授業に臨むこと。
- ・授業の流れや雰囲気を乱す行為、常識を欠く行為（私語、携帯電話の使用など）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

月～水曜日の午前中。時間は事前に申し出ること。

■評価方法

筆記試験 100%

■教科書

日本作業療法協会監修：作業療法学全書 改訂第3版 1. 作業療法概論. 協同医書出版. 2008
中村隆一 他著：基礎運動学 第6版. 医歯薬出版株式会社. 2003

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	作業療法治療学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	牛込 祐樹	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻3年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	身体障害、情報収集、作業療法評価・治療・支援、リスクマネジメント				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕 身体障害領域の疾患について病態・症状・障害像を理解し、作業療法の特性を活かした評価・治療・支援を行えるようになることを目的とする。
〔到達目標〕 ①身体障害領域の各疾患の病態・症状・障害像を理解し、説明することができる。 ②各疾患の検査・評価を理解し、説明することができる。 ③障害像、病期などを考慮し、作業療法の特性を活かした治療・支援・指導を説明する事ができる。

■授業の概要

作業療法の対象となる身体障害領域の疾患について病態・症状・障害像について理解し、作業療法の特性を活かした評価・治療・支援方法について学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。	
第1回	科目オリエンテーション／脳血管障害・脳外傷における作業療法実践①
第2回	脳血管障害・脳外傷における作業療法実践②
第3回	骨・関節疾患における作業療法実践
第4回	腱損傷における作業療法実践
第5回	末梢神経損傷における作業療法実践
第6回	関節リウマチにおける作業療法実践
第7回	熱傷における作業療法実践
第8回	脊髄損傷における作業療法実践①
第9回	脊髄損傷における作業療法実践②
第10回	神経変性疾患における作業療法実践
第11回	神経・筋疾患における作業療法実践
第12回	内部障害における作業療法実践①循環器疾患
第13回	内部障害における作業療法実践②呼吸器疾患
第14回	内部障害における作業療法実践③腎疾患と糖尿病
第15回	がんにおける作業療法実践／まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

予習復習は欠かさないこと。 授業資料の再発行はしない。授業を休んだ場合は、クラスメートからコピーを取ること。 授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為を行う者は受講を拒否する可能性がある。
--

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

金曜日以外

■評価方法

筆記試験 100%

■教科書

①標準作業療法学専門分野 身体機能作業療法学 第2版. 医学書院, 2011
--

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	作業療法治療学Ⅲ	担当教員 (単位認定者)	高坂 駿・遠藤真史	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻3年次必修科目 主に臨床心理学、精神医学の知識が必要となる。	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	治療構造論 作業療法 地域生活移行(定着)支援 社会資源				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

これまでに学んだ精神障害リハビリテーションの基礎知識や各疾患の特徴、評価方法等を統合し、応用的に精神障害リハビリテーションを進めるための考え方や具体的方法を学ぶ。

〔到達目標〕

- ①各疾患における作業療法の課題と目的について理解・説明できる。
- ②各疾患における作業療法の基本的な援助方法を理解・説明できる。
- ③各疾患における作業療法実施上の留意点を理解・説明できる。
- ④治療場面での環境設定や適応・段階づけについて説明・実施できる。
- ⑤精神障害者に対する地域生活移行(定着)支援の仕組みと実際を理解・説明することができる。

■授業の概要

ICFに基づいた実践的なりハビリテーションの考え方と治療・支援の実際を学ぶ。その人にとっての生活障害とは何か、地域で生活が続けるための方法を事例をもとに考え、評価、治療・支援計画を立てる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション/精神科作業療法に関する理論・モデル・技法
第2回	精神科作業療法に関する理論・モデル・技法
第3回	統合失調症、統合失調症様障害および妄想性障害
第4回	気分(感情)障害
第5回	精神作用物質使用による精神および行動の障害
第6回	神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害
第7回	成人の人格(パーソナリティ)及び行動障害
第8回	生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群/てんかん
第9回	司法精神医療における作業療法
第10回	実践事例を通じた評価・治療・援助①
第11回	実践事例を通じた評価・治療・援助②: レポート
第12回	精神障害者の地域移行支援、定着支援①
第13回	精神障害者の地域移行支援、定着支援②
第14回	精神障害者のケアマネジメント
第15回	学んだことの振り返り

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・予習復習をしっかりとる。
- ・成績評価に関する詳細はシラバスを参照すること。

〔受講のルール〕

- ・講義は欠席のないようにする。
- ・授業内外問わず、積極的に自ら調べたり、質問をする。
- ・授業中の私語など他学生に迷惑となる行為は禁止。

■授業時間外学習にかかわる情報

シラバスの内容を基に教科書や配布資料で予習復習すること。分からない箇所はそのままにせず、次回の授業で解決するよう質問や自分で調べたことなどをまとめておく。

■オフィスアワー

水曜日16～17時は随時(変更時は掲示する)。その他の曜日においては要予約。

■評価方法

- 筆記試験 80% (再試験あり。) 60点未満の場合、総合評価の対象としない。
レポート 20% (再提出あり。期限内に提出されないものは総合評価に含めない。)

■教科書

- ①小林夏子 編：標準作業療法学 精神機能作業療法学. 医学書院, 2009
- ②日本作業療法士協会 監修：作業療法学全書 改訂第3版 作業療法治療学2 精神障害. 協同医書出版社, 2010
- ③障害者福祉研究会著：ICF 国際生活機能分類—国際障害分類改定版.. 中央法規出版, 2002

■参考書

- ①香山明美他：生活を支援する 精神障害作業療法—急性期から地域実践まで—。医歯薬出版, 2008

科目名	作業療法技術論Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	北爪 浩美	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻3年次選択科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る選択		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	動作、行為、作業、動作分析、上肢機能、日常生活動作、ICF				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

作業療法士が対象者の行為を理解するために用いる動作分析および作業分析について、行為（作業）工程ごとに実施し、対象者の治療の方向性を説明できるようになることを目的とする。

〔到達目〕

- ①観察から対象者の姿勢や行為について運動学的に分析できる。
- ②分析した内容を他者にわかりやすく説明することができる。
- ③対象者の日常生活動作上の問題点と分析内容を照らし合わせて治療の方向性を説明することができる。

■授業の概要

ひとの意志は動作として表現され、目的に応じた動作の連続が作業となる。作業療法士は作業を実現する専門職であるため、意志の表現としての動作を正確に解釈する必要がある。本講義では、ひとの動作の過程を分析し、対象者の評価および治療に生かす観察力を身につける。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	姿勢と動作、姿勢分析、動作分析
第2回	動作・作業分析（机上動作）①
第3回	動作・作業分析（机上動作）②
第4回	動作・作業分析（机上動作）③
第5回	動作・作業分析（粗大動作）①
第6回	動作・作業分析（粗大動作）②
第7回	動作・作業分析（粗大動作）③
第8回	動作・作業分析（巧緻動作）①
第9回	動作・作業分析（巧緻動作）②
第10回	動作・作業分析（巧緻動作）③
第11回	動作・作業分析（事例）①
第12回	動作・作業分析（事例）②
第13回	動作・作業分析（事例）③
第14回	行動、動作分析から作業療法を考える①
第15回	行動、動作分析から作業療法を考える②

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・授業で配布する資料の予備は保管しません。

〔受講のルール〕

- ・アプリを利用して動作分析を進めます。情報収集しておくこと。
- ・シラバスを必ず確認し授業に臨むこと。
- ・授業の流れや雰囲気を乱す行為、常識を欠く行為（私語、携帯電話の使用など）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

月～水曜日の午前中。時間は事前に申し出ること。

■評価方法

レポート100%

■教科書

中村隆一 他著：基礎運動学 第6版. 医歯薬出版株式会社. 2003

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	作業療法技術論Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	牛込 祐樹	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻3年次選択科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る選択		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	作業療法技術論Ⅱ				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

作業療法を行う上で、臨床的に求められる画像の見方や安全な離床方法、褥瘡対策などの基本的な知識・技術を身につけることを目的とする。また、作業療法士が手をみる上での臨床的な知識・技術を身につけることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①作業療法士として画像を診る上でのポイントを述べることができる。
- ②作業療法士として安全に離床を進めるための方法を説明することができる。
- ③作業療法士として対象者が安全・安楽な姿勢をとるためのポジショニング・シーティングを実践できる。
- ④作業療法士として手をみるための臨床的な知識・技術を説明することができる。

■授業の概要

作業療法を行う上で、臨床的に求められる画像の見方や安全な離床方法、褥瘡対策などの基本的な知識・技術を学ぶ。また、作業療法士が手をみる上での臨床的な知識・技術を修得する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	作業療法での画像の診かた①：基礎知識、神経系
第3回	作業療法での画像の診かた②：筋骨格系
第4回	作業療法における早期離床①：フィジカルアセスメント
第5回	作業療法における早期離床②：離床のための基礎知識
第6回	作業療法における早期離床③：離床の安全な進め方
第7回	作業療法におけるポジショニング①
第8回	作業療法におけるポジショニング②
第9回	作業療法におけるシーティング①
第10回	作業療法におけるシーティング②
第11回	ハンドセラピー①：基礎知識
第12回	ハンドセラピー②：評価
第13回	ハンドセラピー③：プログラム
第14回	ハンドセラピー④：疾患別各論
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・予習復習は欠かさないこと。
- ・授業資料の再発行はしない。授業を休んだ場合は、クラスメートからコピーを取ること。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業内で適宜紹介する。

■オフィスアワー

金曜日以外

■評価方法

レポート 100%

■教科書

授業内で適宜紹介する。

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	作業療法技術論Ⅲ	担当教員 (単位認定者)	牛込 祐樹	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻3年次選択科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	臨床実践、評価、介助、リスク管理				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

臨床場面で評価、介助を具体的な方法・手順に沿って、適切な準備・説明を行い、リスク管理に配慮しながら適切かつ安全に実施できることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①評価、介助に必要な準備を知り、実際に準備を整えることができる。
- ②評価、介助で起こりうるリスクを把握し、適切に対応することができる。
- ③評価、介助を行うにあたり、適切なオリエンテーション・フィードバック、声かけを実施できる。
- ④臨床場면을想定し、評価、介助をより具体的な方法・手順で実践的に行うことができる。

■授業の概要

作業療法士として必要な知識・技術を有していることに併せて、それを臨床場面で実際の対象者へ活用できる事も重要である。臨床場면을想定して、必要な準備や具体的な方法・手順、それに伴う説明、リスク管理の配慮等について知り、評価、介助を実践的に行えるように学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション/臨床に立つ上での準備・心構えについて
第2回	臨床でのリスクマネジメント①:コミュニケーション・基本的態度、感染対策、情報管理
第3回	臨床でのリスクマネジメント②:健康状態の管理、転倒・外傷の予防、誤用・過用症候群の予防
第4回	臨床実践:バイタルサイン測定
第5回	臨床実践:面接
第6回	臨床実践:起居・移乗動作介助
第7回	臨床実践:関節可動域測定
第8回	臨床実践:MMT
第9回	臨床実践:簡易知覚検査
第10回	臨床実践:片麻痺機能検査
第11回	臨床実践:精神機能・高次脳機能評価
第12回	臨床実践:ADL評価・介助(更衣)
第13回	臨床実践:ADL評価・介助(トイレ動作)
第14回	臨床実践:複数課題
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

実際に身体を動かすことが多いため、Tシャツ・ハーフパンツ・学校ジャージなどを用意しておくこと。

メモがしやすいように筆記用ボードを用意しておくこと。

予習復習は欠かさないこと。

授業資料の再発行はしない。授業を休んだ場合は、クラスメートからコピーを取ること。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業内で適宜紹介する。

■オフィスアワー

金曜日以外

■評価方法

ポートフォリオ 100%

■教科書

授業内で適宜紹介する。

■参考書

①標準作業療法学専門分野 作業療法評価学. 第2版. 医学書院. 2011

②才籾栄一 監:PT・OTのためのOSCE 臨床力が身につく実践テキスト. 第1版. 金原出版株式会社. 2011

③大野義一郎:感染症対策マニュアル. 第2版. 医学書院

④里宇明元 監:自身が持てる!リハビリテーション臨床実習. 第1版. 医歯薬出版株式会社. 2015

科目名	作業療法特論Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	北爪 浩美	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻3年次選択科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る選択		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	ライフサイクル、生活機能、集団、プログラム				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

ひとの集団の構造や機能について学ぶことにより、集団が個人に与える影響について理解する。また、集団が子に与える影響を知ることで、作業療法における集団活用を考え、作業療法プログラムを作成し活用できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①ひとの集まりとしての社会の成り立ちを理解する。
- ②作業療法における集団活用について説明することができる。
- ③集団プログラムについて計画、実施、評価ができる。

■授業の概要

ひとの集まりは個人の成長や生き方に大きな影響を与え、また個人の存在も集団に影響を与える。ひとは集団のなかでひととのかかわりを学び、社会生活を営み、様々な集団が社会を構成する。個人の作業活動が他者にどのように受け止められているのかにより、個人の生活は影響を受けるが、それは作業療法対象者においても同様である。本講義ではひとと集団について学び、作業療法における集団活用について考える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、作業療法における集団と場
第2回	作業療法における集団と場
第3回	集団の治療的活用①
第4回	集団の治療的活用②
第5回	集団の治療的活用③
第6回	集団の治療的活用④
第7回	集団作業療法プログラム立案
第8回	集団作業療法プログラム立案
第9回	集団作業療法プログラム実施準備
第10回	作業療法における集団プログラムの実際
第11回	作業療法における集団プログラムの実際
第12回	作業療法における集団プログラムの実際
第13回	作業療法における集団プログラムの実際
第14回	集団作業療法プログラム活用の考察
第15回	まとめ 作業療法における集団活用とは

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・授業で配布する資料の予備は保管しません。

〔受講のルール〕

- ・シラバスを必ず確認し授業に臨むこと。
- ・授業の流れや雰囲気等を乱す行為、常識を欠く行為（私語、携帯電話の使用など）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

月～水曜日の午前中。時間については事前に申し出ること。

■評価方法

レポート100%

■教科書

山根寛他著：ひとと集団・場-ひとの集まりと場を利用する- 第2版。三輪書店。2007

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	作業療法特論Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	山口 智晴	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻3年次選択科目 リハビリテーション医学、解剖学、生理学、神経内科学の 知識を必要とする。作業療法評価法Ⅲの授業内容と対応。	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に 係る選択		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	高次脳機能障害、認知症、社会資源、成年後見制度				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

作業療法士として必要な、認知機能障害に対する基本的な介入手法について学ぶ。

〔到達目標〕

- ①高次脳機能障害の代表的な各症候への基本的な介入手法について説明できる。
- ②認知機能障害を有する患者の臨床的特徴を理解し、適切な対応法について説明できる。
- ③高次脳機能障害をはじめとする認知機能障害患者に対する社会社会復帰支援について、社会資源とともに理解することができる。

■授業の概要

認知機能障害に伴う生活障害を学ぶ。具体的には高次脳機能障害の各症候や認知症に対する作業療法について学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション。 高次脳機能障害者の暮らしぶり。 認知機能障害をどの様に捉えるか (DSM-5など)
第2回	高次脳機能障害に対するリハビリテーションの考え方①: 注意・記憶について
第3回	高次脳機能障害に対するリハビリテーションの考え方②: 失認・半側空間無視について
第4回	高次脳機能障害に対するリハビリテーションの考え方③: 失語・失書など言語障害について
第5回	課題作成に向けた指導
第6回	高次脳機能障害に対するリハビリテーションの考え方④: 失行・行為の障害について
第7回	高次脳機能障害に対するリハビリテーションの考え方⑤: 前頭葉症状、行動と感情の障害について
第8回	認知症患者の暮らしぶり。認知症の非薬物療法(リハビリテーション含む)について
第9回	認知症に対するリハビリテーション: 基本的考え方① 認知症状と認知症の行動・心理症状への介入
第10回	認知症に対するリハビリテーション: 基本的考え方② 認知症の行動・心理症状への介入、家族指導
第11回	認知機能障害のある方への社会資源① 基本的な制度 各自調べてまとめる
第12回	認知機能障害のある方への社会資源② 就労関係
第13回	認知機能障害のある方への社会資源③ 成年後見制度 権利擁護に関わる制度
第14回	認知機能障害のある方への社会資源④ 群馬県内の実情 支援拠点機関・認知症疾患医療センターなど
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業概要を確認し、講義を受けるにあたり、最低限必要となる知識(2年次までの知識)は、各自復習しておくこと。特に解剖学(脳と神経15回)を通しての理解が必要である。積極的に授業に臨むこと。神経内科学と作業療法評価法Ⅲとを関連づけて学ぶこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

初回の科目オリエンテーションにて詳細を説明する。予習と復習を前提に進める。

■オフィスアワー

水曜日16時半～17時半は随時 その他の曜日においては要予約。

■評価方法

ポートフォリオ 50%、 授業内発表課題 50%。

■教科書

- ① 瀧雅子 編 作業療法学全書 作業治療学5 『高次脳機能障害障害』 第3版. 協同医書出版
- ② 小川敬之編 認知症の作業療法—エビデンスとナラティブの接点に向けて. 第2版. 医歯薬出版

■参考書

石合純夫 著 『高次脳機能障害』 (医歯薬出版株式会社)
 本田哲三 編 『高次脳機能障害のリハビリテーション -実践的アプローチ-』第2版 (医学書院)
 鈴木孝治ほか編 『高次脳機能障害マエストロシリーズ』①～④ (医歯薬出版社)
 『高次脳機能障害を有する人の暮らしを支える』作業療法ジャーナル増刊号 Vol.40 No.7 2006 (三輪書店)
 その他、随時講義の中で紹介する。

科目名	作業療法特論Ⅲ	担当教員 (単位認定者)	悴田 敦子	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻4年次選択科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る選択		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	ケーススタディ、基本動作、ADL 動作				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

ケーススタディを通し、様々な作業療法手段を考え、目標に合わせた治療計画を立案することを目的とする。

〔到達目標〕

- ①必要な評価項目を具体的に列挙することができる。
- ②ICFを使用し、対象者の利点・問題点を列挙し、関連性を説明することができる。
- ③作業療法目標を具体的にあげることができる。
- ④作業療法手段を対象者に合わせ、具体的にあげることができる。
- ⑤複数の作業療法手段から、作業療法目標にあったものを選択することができる。

■授業の概要

ケーススタディを通し、対象者の目標に合わせた様々な作業療法手段を学びます。また、具体的な設定、かかわり方も学びます。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、ケーススタディ：評価計画立案
第2回	ケーススタディ：評価
第3回	ケーススタディ：基本動作
第4回	ケーススタディ：基本動作
第5回	ケーススタディ：ADL 動作
第6回	ケーススタディ：ADL 動作
第7回	ケーススタディ：ADL 動作
第8回	ケーススタディ：ADL 動作
第9回	ケーススタディ：神経疾患
第10回	ケーススタディ：神経疾患
第11回	ケーススタディ：神経疾患
第12回	ケーススタディ：神経疾患
第13回	ケーススタディ：神経疾患
第14回	ケーススタディ：神経疾患
第15回	ケース発表、まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

作業療法手段を体験することが多いため、動きやすく、触診しやすい服装で参加してください。
ケーススタディをグループまたは個人で行います。ケースノートを用意し、毎回提出してください。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

火曜日以外

■評価方法

レポート100%

■教科書

障害者福祉研究会編：ICF 国際生活機能分類. 国際障害分類改訂版, 中央法規出版

■参考書

川平和美：標準 理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学. 第3版. 医学書院
岩崎テル子編：標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学. 医学書院

科目名	作業療法特論Ⅳ	担当教員 (単位認定者)	山口 智晴	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻4年次選択科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る選択		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	住宅改修、プランニング、パワーポイント、建築関連法規				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

住宅改修のプランニングができるようになる、また建築に関連する知識を深めることができることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①住宅改修の手順を示すことができる。
- ②家屋を計測し、図示できる。
- ③基本的な改修方法を示すことができる。
- ④基本的な改修プランを立案することができる。
- ⑤建築関連の基本的な知識を身につけることができる。

■授業の概要

障害を持って住み慣れた地域や家で暮らす、ということはノーマライゼーションの観点から言っても実現されなければならない事項である。その具体的施策の一つが「住宅改修」であり、作業療法士にとって極めて重要な事項でもある。その住宅改修に必要な建築関連の基礎知識を学ぶとともに、具体的なプランを立案できるようになる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション/環境整備
第2回	発表に向けた学習と指導
第3回	介護保険制度における住環境整備
第4回	住環境整備の進め方と留意点
第5回	建築知識の基本と住環境整備の基本的配慮①
第6回	建築知識の基本と住環境整備の基本的配慮②
第7回	住環境整備と建築関連法規
第8回	住宅改修提案書_説明
第9回	住宅改修提案書_作成
第10回	住宅改修提案書_作成
第11回	住宅改修提案書_作成
第12回	住宅改修提案書_作成
第13回	住宅改修提案プレゼンテーション
第14回	住宅改修提案プレゼンテーション
第15回	住宅改修提案プレゼンテーション、本科目のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・デジカメやスマホよりパソコンにデータを取り込める環境、電子メールのやり取りができる環境を準備すること。

〔受講のルール〕

- ・シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・医療専門職及び対人サービス職として、出席時間の厳守と対象者が好感を持てる態度を身につけることは基本である。そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めないことがあるので注意すること。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時間外学習の内容については科目オリエンテーションにて説明する。

■オフィスアワー

水曜日16時～17時は随時（変更時は掲示する） その他の曜日においては要予約

■評価方法

発表課題 50%、提出課題 50%。

■教科書

野村歡・橋本美芽：OT・PTのための住環境整備論。第2版。三輪書店

■参考書

木之瀬隆編：作業療法学全書改訂第3版 第10巻 作業療法技術学2 福祉用具の使い方・住環境整備
岡村英樹：OT・PT・ケアマネにおける建築知識なんかなくても住宅改修を成功させる本。三輪書店

科目名	地域作業療法入門I	担当教員 (単位認定者)	悴田 敦子	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「地域作業療法学」			
キーワード	社会保障制度、医療保険制度、障害者総合支援法				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

作業療法にかかわる社会保障制度について、各法律の定義、内容を理解することを目的とする。

〔授業の到達目標〕

- ①地域リハビリテーションの定義を説明することができる。
- ②社会保障制度の仕組みについて説明することができる。
- ③作業療法に係わる関連法規の概要と規定施設について説明することができる。

■授業の概要

地域リハビリテーションにかかわる様々な制度、支援、他職種との連携について学ぶ。地域作業療法の実線に必要な基礎知識、主に社会保障制度と社会福祉関連を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、地域リハビリテーションとは、日本の社会保障制度について
第2回	医療保険制度について
第3回	診療報酬(リハビリ関連)
第4回	高齢者医療
第5回	社会保障
第6回	障害者雇用制度
第7回	精神障害分野における地域作業療法
第8回	小テスト、まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

関連法規を学ぶ上で、難しい専門用語が多く出てくるため、自己学習を積極的に行うこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

グループ発表では指定時間、レジュメの提出を厳守し、わかりやすい工夫を行うこと。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

筆記試験 100%

■教科書

特に指定しない。

■参考書

中村隆一、佐直信彦編：入門 リハビリテーション概論、第7版増補、医歯薬出版

科目名	地域作業療法入門Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	悴田 敦子	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「地域作業療法学」			
キーワード	介護保険・連携・介護老人保健施設				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

作業療法にかかわる介護保険制度、介護保険サービスについて理解し、地域で生活する対象者や取り巻く環境、その中で行われる作業療法士の仕事、作業療法の可能性を理解する。

〔達成目標〕

- ①介護保険制度の概要、対象者を説明することができる。
- ②介護保険制度のサービス内容を説明することができる。
- ③地域リハビリテーションの現状を説明することができる。

■授業の概要

高齢者に対する地域リハビリテーション、地域作業療法にかかわる制度や支援、他職種との連携について学ぶ。また、介護保険関連施設や病院に勤務する作業療法士を講師に迎え、対象者を取り巻く環境の変化や作業療法士ができることについてご講義いただく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、介護保険導入の背景、保険者・被保険者について
第2回	介護保険の財源構成について
第3回	介護認定について
第4回	介護保険サービス利用について
第5回	介護保険サービスについて
第6回	介護保険サービスについて
第7回	地域リハビリテーションの実際①
第8回	地域リハビリテーションの実際②

■受講生に関わる情報および受講のルール

グループで調べ、発表する課題があるため、提出期限を厳守すること。また、聞く人にわかりやすい発表を心がけ、質問に答えられるよう準備しておくこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

火曜日以外

■評価方法

筆記試験 100%

■教科書

特に指定しない。

■参考書

随時紹介。

科目名	地域作業療法実習Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	高坂 駿	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「地域作業療法学」			
キーワード	社会資源 病院-地域の連携 退院支援				

■授業の目的・到達目標

精神障害リハビリテーションに関わる病院・施設を見学し、地域との関わりにおける専門職の役割、業務内容などを学ぶ。
 ①病院や施設を利用している患者様や職員とコミュニケーションを取ることができる。
 ②病院や施設的环境等に応じたリスク管理に留意することができる。
 ③病院や施設が地域でどのような役割を担っているか理解・説明できる。
 ④病院や施設が他機関とどのように連携し、患者様の地域生活を支えているかを理解・説明することができる。

■授業の概要

精神科病院・クリニックへの見学実習を行う。主に精神科病院のリハビリテーション部門、デイケアを見学させていただく。見学後は各々の視点から興味・関心の高かった事柄に対し考察し、発表を行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション
第2回	病院・施設見学(1日目)
第3回	病院・施設見学(1日目)
第4回	病院・施設見学(1日目)
第5回	病院・施設見学(1日目)
第6回	病院・施設見学(2日目)
第7回	病院・施設見学(2日目)
第8回	病院・施設見学(2日目)
第9回	病院・施設見学(2日目)
第10回	病院・施設見学(3日目)
第11回	病院・施設見学(3日目)
第12回	病院・施設見学(3日目)
第13回	病院・施設見学(3日目)
第14回	実習の振り返り
第15回	実習の振り返り

■受講生に関わる情報および受講のルール

実習中は動きやすい服装と上履きを用意する(実習先の指定により変更する場合もある)。
 実習前・実習中は各自、体調管理をしっかり行い、欠席のないようする。
 ご協力いただいている患者様や病院・施設のスタッフに失礼がないよう、一人ひとりが服装・態度などに十分注意を払うこと。
 個人情報保護や鍵の管理などリスク管理に十分に配慮すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

シラバスの内容を基に教科書や配布資料で予習復習すること。分からない箇所はそのままにせず、次回の授業で解決するよう質問や自分で調べたことなどをまとめておく。

■オフィスアワー

なし。質問等に関しては随時受ける。

■評価方法

レポート・レジュメ 40% (提出されない場合は総合評価の対象とならない。)
デイリーノート 30% (提出されない場合は総合評価の対象とならない。)
授業内発表 30% (参加しなかった場合は総合評価の対象とならない。)
 ※評価方法の詳細に関してはシラバスを参照すること。

■教科書

なし

■参考書

精神医学・精神機能作業療法学・心理学等で扱った教科書を参考とすること。また、不足があれば自己で購入すること。

科目名	地域作業療法実習Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	悴田 敦子	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「地域作業療法学」			
キーワード	介護老人保健施設、コミュニケーション				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

介護老人保健施設を見学し、施設・対象者・作業療法士を含む施設職員の役割を学び、病院における対象者、作業療法との違いについて各自考察し、学内発表において理解を深めることを目的とします。また、実習を通して自己のコミュニケーションに対して考えることを目的とします。

〔到達目標〕

- ①介護老人保健施設の概要、リハビリテーションの概要・目的を説明することができる。
- ②作業療法士および施設職員の役割、対象者について説明することができる。
- ③施設職員・対象者と積極的なコミュニケーションをはかり、自己のコミュニケーションについて考えることができる。
- ④実習内容を指定の書式に沿って記録し、報告することができる。

■授業の概要

作業療法士が勤務している介護老人保健施設において、3日間の見学実習を行います。見学、体験を通して介護老人保健施設を理解し、利用者や勤務する他職種について学び、介護老人保健施設の作業療法について理解します。また、病院における対象者、作業療法との違いについて各自考察し、学内にて発表を行います。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、実習オリエンテーション、リスク管理、守秘義務
第2回	介護老人保健施設における3日間の実習を行います。
第3回	介護老人保健施設における3日間の実習を行います。
第4回	介護老人保健施設における3日間の実習を行います。
第5回	介護老人保健施設における3日間の実習を行います。
第6回	介護老人保健施設における3日間の実習を行います。
第7回	介護老人保健施設における3日間の実習を行います。
第8回	介護老人保健施設における3日間の実習を行います。
第9回	介護老人保健施設における3日間の実習を行います。
第10回	介護老人保健施設における3日間の実習を行います。
第11回	介護老人保健施設における3日間の実習を行います。
第12回	介護老人保健施設における3日間の実習を行います。
第13回	介護老人保健施設における3日間の実習を行います。
第14回	実習のまとめ、発表
第15回	実習のまとめ、発表

■受講生に関わる情報および受講のルール

実習中は各施設指定の服装をする。
交通手段については決定次第、各自手続きをとること。

■授業時間外学習にかかわる情報

実習前セミナー（オリエンテーション）にて説明します。

■オフィスアワー

火曜日以外。

■評価方法

実習への参加が評価の前提となる。
実習先評価 10%、実習ノート 20%、レポート 40%、学内での発表 30%。

■教科書

特に指定しない。

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	臨床評価実習指導	担当教員 (単位認定者)	作業療法専攻教員 分担	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻3年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「臨床実習」			
キーワード	守秘義務、リスク管理、感染症対策、実習報告会				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

臨床で必要となる守秘義務・リスク管理の理解の徹底をはかる。実習後担当したケースの発表・報告を行い、疾患・ケースに対する理解を深めることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①守秘義務について説明することができ、実行できる。
- ②リスク管理について説明することができ、実行できる。
- ③評価における統合と解釈が行える。

■授業の概要

臨床で求められる守秘義務（情報管理）やリスク管理（感染症対策など）について確認し、実行に移せるように知識と技術を体得する。また、事例の統合と解釈を通して、評価プロセスの理解を深めることができる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション／守秘義務について
第2回	リスク管理（感染症対策など）
第3回	守秘義務、感染症対策に関するテスト
第4回	統合と解釈
第5回	統合と解釈
第6回	統合と解釈
第7回	統合と解釈
第8回	臨床評価実習指導の心構え
第9回	臨床評価実習Ⅰの課題整理
第10回	臨床評価実習Ⅰの課題整理
第11回	臨床評価実習Ⅰの課題整理
第12回	臨床評価実習Ⅰの課題整理
第13回	臨床評価実習Ⅰの課題整理
第14回	臨床評価実習Ⅰの課題整理
第15回	臨床評価実習を振り返る実習報告

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

報告では発表用レジュメを用意しておくこと。

〔受講のルール〕

報告では有益なディスカッションが行えるよう発表者・聞き手ともに準備を十分にしておくこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

ポートフォリオ 100%

■教科書

授業内で適宜紹介する。

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	臨床評価実習Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	作業療法専攻教員 分担	単位数 (時間数)	3 (135)
履修要件	作業療法専攻3年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「臨床実習」			
キーワード	臨床、評価				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

作業療法士が関与する医療機関や福祉施設等において、臨床実習指導者のもとでその指導と作業療法対象者の協力を受けながら必要とされる評価を実施し、その結果を整理する一連の技能の習得を目指す。

〔到達目標〕

- ①作業療法士を目指す上で必要な基本的態度を身につける。
- ②臨床実習施設職員並びに対象者と良好な関係を築くことができる。
- ③臨床実習施設や他部門ならびに作業療法部門の組織を理解する。
- ④臨床実習施設における作業療法士と他職種の役割を理解する。
- ⑤各種活動に参加し活動の意義を理解する。
- ⑥担当事例に必要な基本的評価項目を選択することができる。
- ⑦対象者や家族に評価に必要な説明と指導を行うことができる。
- ⑧選択した評価を正しい順序で適切に実施できる。
- ⑨評価実施の際、安全性を考慮することができる。
- ⑩評価結果を整理できる。
- ⑪評価結果を統合し作業療法計画を立案できる。
- ⑫与えられた課題を責任をもって遂行することができる。
- ⑬実習報告会で使用するレジュメを作成し、発表することができる。
- ⑭実習報告会で積極的な質問をすることができる。
- ⑮症例報告としてまとめることができる。

■実習履修資格者

3年次臨床評価実習Ⅰ開始までに1年～3年後期までに開講されるすべての科目（選択科目は選択の範囲において）の単位修得が必要となる。

■実習時期及び実習日数・時間

11月下旬～3週間

■実習上の注意

臨床実習の手引きを熟読すること。

■評価方法

- ◆出席（出席時間数要件：4/5以上）
- ◆臨床実習評価（臨床実習の手引き参照）：70%
 - ※臨床実習評価は①欠席が1/5以上②無断欠席・遅刻③はっきりと注意しても重大なミスを繰り返す④その他、がみられる場合は、評価対象外または実習を中止とすることがある。
- ◆学内セミナー発表：15%
- ◆レポート：15%

再受験の取り扱い：無

科目名	臨床評価実習Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	作業療法専攻教員 分担	単位数 (時間数)	3 (135)
履修要件	作業療法専攻3年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「臨床実習」			
キーワード	臨床、評価				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

作業療法士が関与する医療機関や福祉施設等において、臨床実習指導者のもとでその指導と作業療法対象者の協力を受けながら必要とされる評価を実施し、その結果を整理する一連の技能の習得を目指す。

〔到達目標〕

- ①作業療法士を目指す上で必要な基本的態度を身につける。
- ②臨床実習施設職員並びに対象者と良好な関係を築くことができる。
- ③臨床実習施設や他部門ならびに作業療法部門の組織を理解する。
- ④臨床実習施設における作業療法士と他職種の役割を理解する。
- ⑤各種活動に参加し活動の意義を理解する。
- ⑥担当事例に必要な基本的評価項目を選択することができる。
- ⑦対象者や家族に評価に必要な説明と指導を行うことができる。
- ⑧選択した評価を正しい順序で適切に実施できる。
- ⑨評価実施の際、安全性を考慮することができる。
- ⑩評価結果を整理できる。
- ⑪評価結果を統合し作業療法計画を立案できる。
- ⑫与えられた課題を責任をもって遂行することができる。
- ⑬実習報告会で使用するレジュメを作成し、発表することができる。
- ⑭実習報告会で積極的な質問をすることができる。
- ⑮症例報告としてまとめることができる。

■実習履修資格者

3年次臨床評価実習Ⅰ開始までに1年～3年後期までに開講されるすべての科目（選択科目は選択の範囲において）の単位修得が必要となる。

■実習時期及び実習日数・時間

1月初旬～3週間

■実習上の注意

臨床実習の手引きを熟読すること。

■評価方法

- ◆臨床実習評価（臨床実習の手引き参照）：70%
※臨床実習評価は①欠席が1/5以上②無断欠席・遅刻③はっきりと注意しても重大なミスを繰り返す④その他、がみられる場合は、評価対象外または実習を中止とすることがある。
- ◆学内セミナー発表：15%
- ◆レポート：15%

再受験の取り扱い：無

科目名	臨床総合実習指導	担当教員 (単位認定者)	作業療法専攻教員 分担	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻4年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「臨床実習」			
キーワード	守秘義務、リスク管理、治療プログラムの選択				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

臨床で必要となる守秘義務・リスク管理の理解の徹底をはかる。適切な治療プログラムの選択ができるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①守秘義務について説明することができ、実行できる。
- ②リスク管理について説明することができ、実行できる。
- ③適切な治療プログラムを選択できるようになる。

■授業の概要

臨床で求められる守秘義務（情報管理）やリスク管理（感染症対策など）について再確認し、実行に移せるように知識と技術を体得する。事例を通して、治療プログラムの立案・実施について検討する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション／守秘義務について、リスク管理（感染症対策など）、小テスト
第2回	事例を通じた治療プログラムの選択
第3回	事例を通じた治療プログラムの選択
第4回	事例を通じた治療プログラムの選択
第5回	事例を通じた治療プログラムの選択
第6回	事例を通じた治療プログラムの選択
第7回	事例を通じた治療プログラムの選択
第8回	臨床総合実習の心構え
第9回	臨床総合実習Ⅰの課題整理
第10回	臨床総合実習Ⅰの課題整理
第11回	臨床総合実習Ⅰの課題整理
第12回	臨床総合実習Ⅱの課題整理
第13回	臨床総合実習Ⅱの課題整理
第14回	臨床総合実習Ⅲの課題整理
第15回	臨床総合実習の振り返り

■受講生に関わる情報および受講のルール

積極的に参加し、自ら情報を収集すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

ポートフォリオ 100%

■教科書

大野義一郎：感染症対策マニュアル第2版. 医学書院

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	臨床総合実習Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	作業療法専攻教員 分担	単位数 (時間数)	8 (360)
履修要件	作業療法専攻4年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「臨床実習」			
キーワード	臨床総合実習				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

以下の事項を経験し実行できるようになることを目的とする。

- (1) 施設全体の概要説明
組織、沿革、職員構成、関連施設、診療科目、急性期、回復期等の区別、病床数、病棟編成を理解する。
- (2) リハビリテーション部門についての概要・特徴・業務に関する説明
理学療法部門、言語聴覚部門といった関連職の位置付けや役割、また医師や看護師まで含めた業務連携などについての説明と見学（職員構成、対象者の疾患・年齢構成、入院から退院までの流れ、1日の業務の流れなど）を行う。
- (3) 作業療法部門の位置付けや役割、特徴などについての説明、紹介
職員構成、外来・入院の割合、対象者の疾患・年齢構成、入院から退院までの流れ、1日の業務の流れ、他部門との連携の方法などを学ぶ。
- (4) 各対象者に応じた評価の実施および作業療法プログラム立案、作業療法プログラム実施、再評価、という一連の臨床過程について事例を通して学ぶ。
- (5) 疾患や障害の特徴やさまざまな作業療法アプローチについて学ぶ。
- (6) ケース検討会議などへ見学・参加。
- (7) 各自の臨床にて経験した事項を記録し、書面・口頭で報告する。
- (8) 専門職として守るべき基本事項を学ぶ。
- (9) 実習担当者の指導のもと、家族との関わりについて学ぶ。
- (10) 担当症例についてA3のレジュメにまとめ提出し発表する。
- (11) 事例報告としてレポートにまとめ提出する。

〔到達目標〕

- ①職業人としての適性を身につける。
- ②担当事例に必要な基本的評価項目を選択することができる。
- ③対象者や家族に評価上必要な説明と指導を行うことができる。
- ④選択した評価を正しい順序で適切に実施できる。
- ⑤評価実施の際、安全性を考慮することができる。
- ⑥評価結果を整理できる。
- ⑦評価結果を統合し作業療法計画を立案できる。
- ⑧作業療法計画に基づき治療・指導・援助を実施することができる。
- ⑨再評価計画を立て実施することができる。
- ⑩再評価結果を整理できる。
- ⑪再評価によって作業療法計画を見直し実施することができる。
- ⑫治療・指導・援助に関する記録、報告をすることができる。
- ⑬作業療法部門の業務内容を把握し、一部を実行することができる。

■実習履修資格者

1年～3年次までに開講されるすべての科目（選択科目は選択の範囲において）の単位修得が必要となる。

■実習時期及び実習日数・時間

6月初旬～8週間

■実習上の注意

臨床実習手引きを熟読すること。

■評価方法

出席（出席時間数要件：4/5以上）

臨床実習指導者評価（臨床実習の手引き参照）70%

※臨床実習指導者評価は①欠席が1/5以上②無断欠席・遅刻③はつきりと注意しても重大なミスを繰り返す④その他、がみられる時、評価対象外となる。

学内評価：レポート15%、発表15%。

再受験の取り扱い：無

科目名	臨床総合実習Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	作業療法専攻教員 分担	単位数 (時間数)	8 (360)
履修要件	作業療法専攻4年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「臨床実習」			
キーワード	臨床総合実習				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

以下の事項を経験し実行できるようになることを目的とする。

- (1) 施設全体の概要説明
組織、沿革、職員構成、関連施設、診療科目、急性期、回復期等の区別、病床数、病棟編成を理解する。
- (2) リハビリテーション部門についての概要・特徴・業務に関する説明
理学療法部門、言語聴覚部門といった関連職の位置付けや役割、また医師や看護師まで含めた業務連携などについての説明と見学（職員構成、対象者の疾患・年齢構成、入院から退院までの流れ、1日の業務の流れなど）を行う。
- (3) 作業療法部門の位置付けや役割、特徴などについての説明、紹介
職員構成、外来・入院の割合、対象者の疾患・年齢構成、入院から退院までの流れ、1日の業務の流れ、他部門との連携の方法などを学ぶ。
- (4) 各対象者に応じた評価の実施および作業療法プログラム立案、作業療法プログラム実施、再評価、という一連の臨床過程について事例を通して学ぶ。
- (5) 疾患や障害の特徴やさまざまな作業療法アプローチについて学ぶ。
- (6) ケース検討会議などへ見学・参加。
- (7) 各自の臨床にて経験した事項を記録し、書面・口頭で報告する。
- (8) 専門職として守るべき基本事項を学ぶ。
- (9) 実習担当者の指導のもと、家族との関わりについて学ぶ。
- (10) 担当症例についてA3のレジュメにまとめ提出し発表する。
- (11) 事例報告としてレポートにまとめ提出する。

〔到達目標〕

- ①職業人としての適性を身につける。
- ②担当事例に必要な基本的評価項目を選択することができる。
- ③対象者や家族に評価上必要な説明と指導を行うことができる。
- ④選択した評価を正しい順序で適切に実施できる。
- ⑤評価実施の際、安全性を考慮することができる。
- ⑥評価結果を整理できる。
- ⑦評価結果を統合し作業療法計画を立案できる。
- ⑧作業療法計画に基づき治療・指導・援助を実施することができる。
- ⑨再評価計画を立て実施することができる。
- ⑩再評価結果を整理できる。
- ⑪再評価によって作業療法計画を見直し実施することができる。
- ⑫治療・指導・援助に関する記録、報告をすることができる。
- ⑬作業療法部門の業務内容を把握し、一部を実行することができる。

■実習履修資格者

1年～3年次までに開講されるすべての科目（選択科目は選択の範囲において）の単位修得が必要となる。

■実習時期及び実習日数・時間

9月～8週間

■実習上の注意

臨床実習手引きを熟読すること。

■評価方法

出席（出席時間数要件：4/5以上）

臨床実習指導者評価（臨床実習の手引き参照）70%

※臨床実習指導者評価は①欠席が1/5以上②無断欠席・遅刻③はつきりと注意しても重大なミスを繰り返す④その他、がみられる時、評価対象外となる。

学内評価：レポート15%、発表15%。

再受験の取り扱い：無

